

## <第3章 調査の集計結果>



## 第3章 調査の集計結果

### 1. 県の基本政策について

#### (1) 経済の活性化について

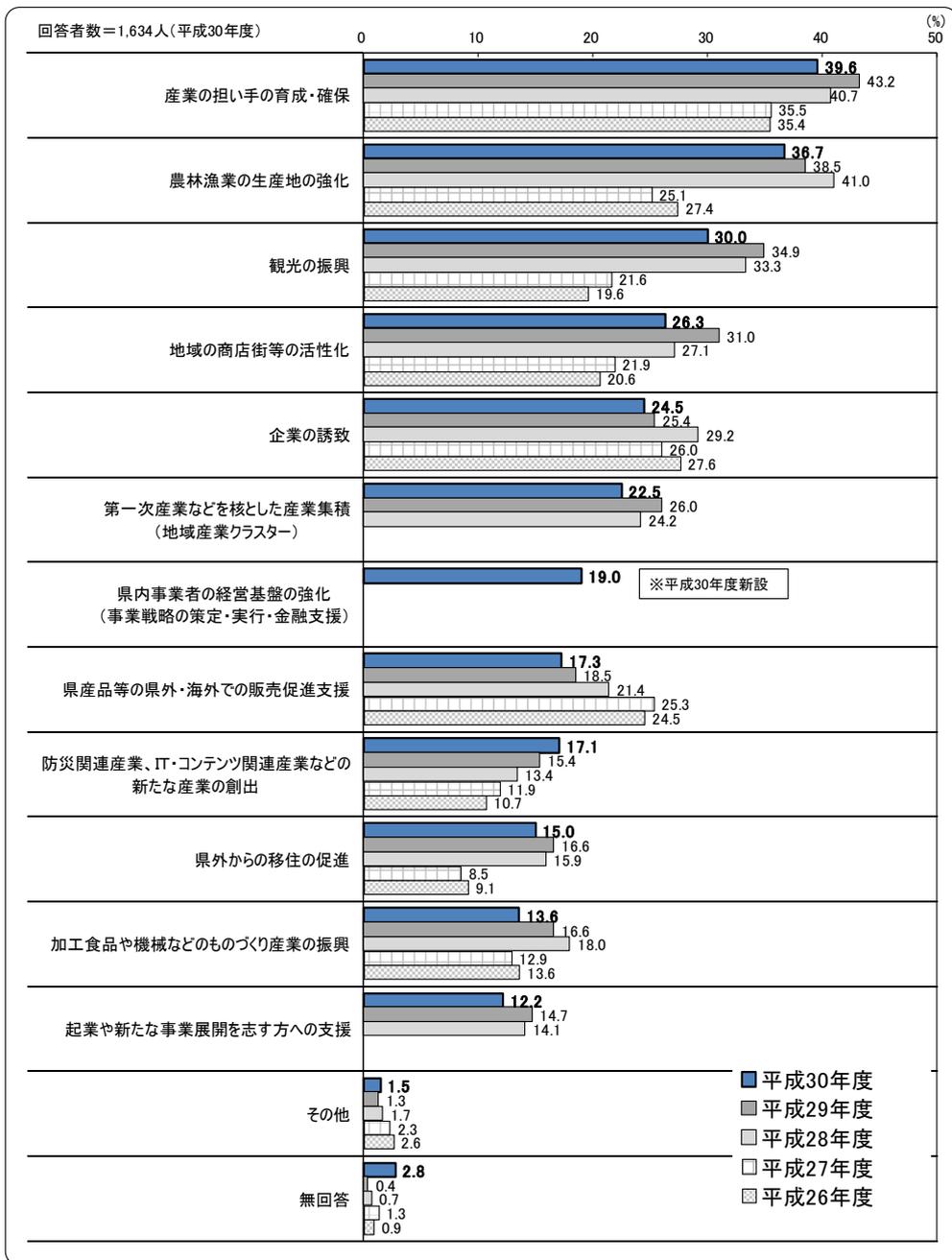
問1 「経済の活性化」について、第3期高知県産業振興計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○印）

【総合】 「産業の担い手の育成・確保」が39.6%と1位になっている。

次いで「農林漁業の生産地の強化」が36.7%、「観光の振興」が30.0%と続いている。

#### 【過去の調査との比較】

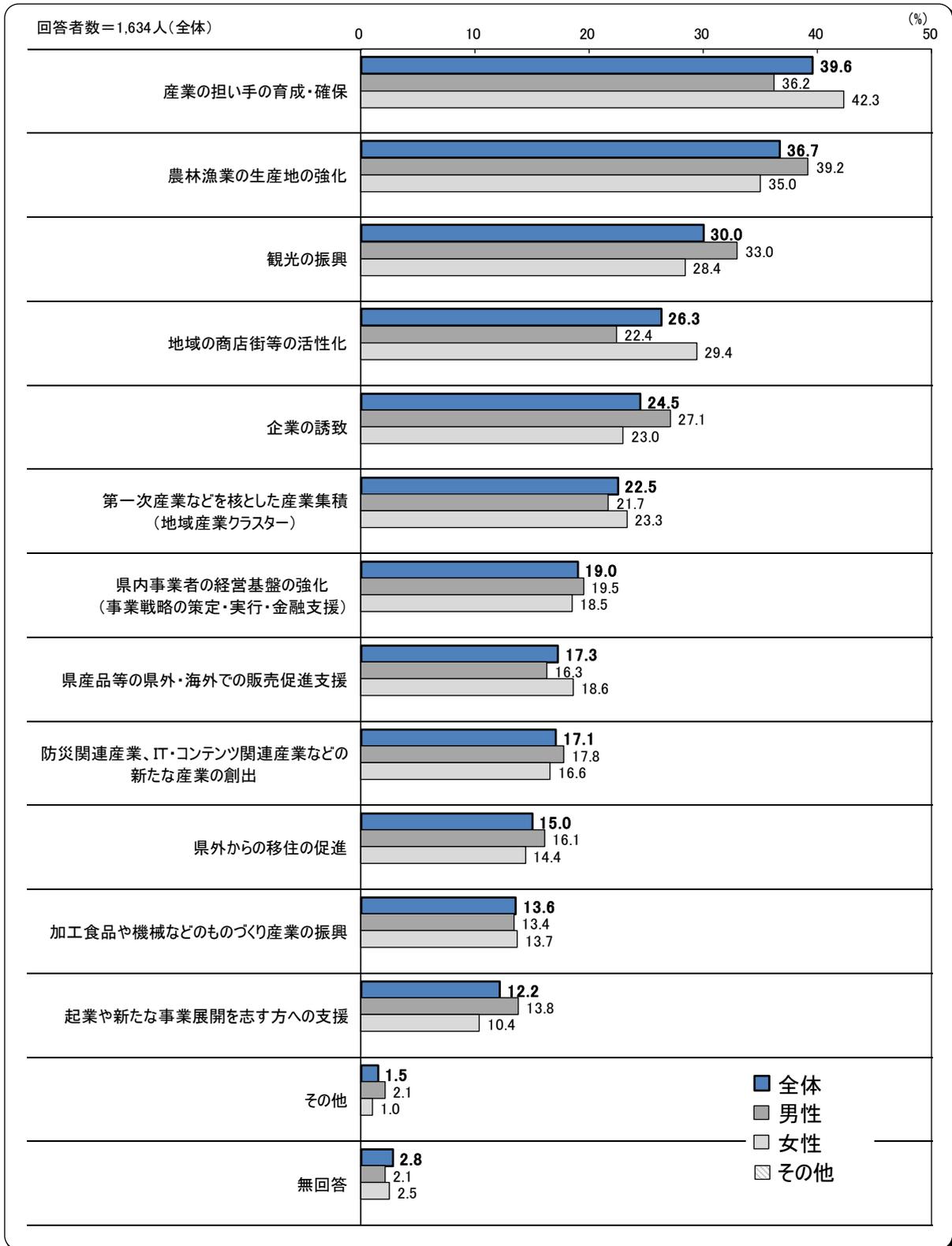
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、昨年度と変わらず「産業の担い手の育成・確保」が1位となっており、「農林漁業の生産地の強化」が続いている。



【性別】

男性では「農林漁業の生産地の強化」が、女性では「産業の担い手の育成・確保」が1位になっている。

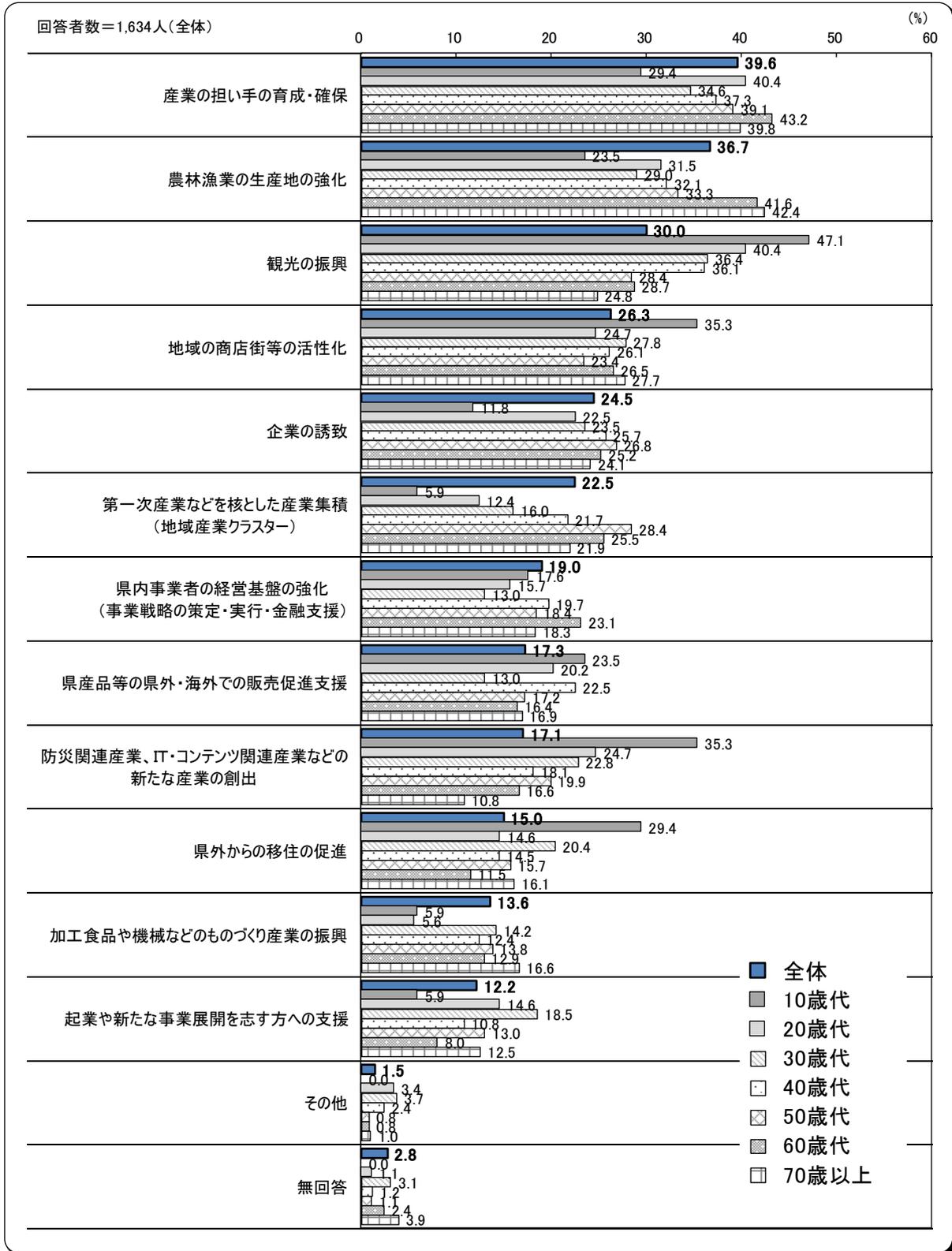
《性別》



【年代別】

10歳代から30歳代では「観光の振興」が、40歳代から70歳以上では「産業の担い手の育成・確保」の割合が高くなっている。

《年代別》



(2)「日本一の健康長寿県づくり」について

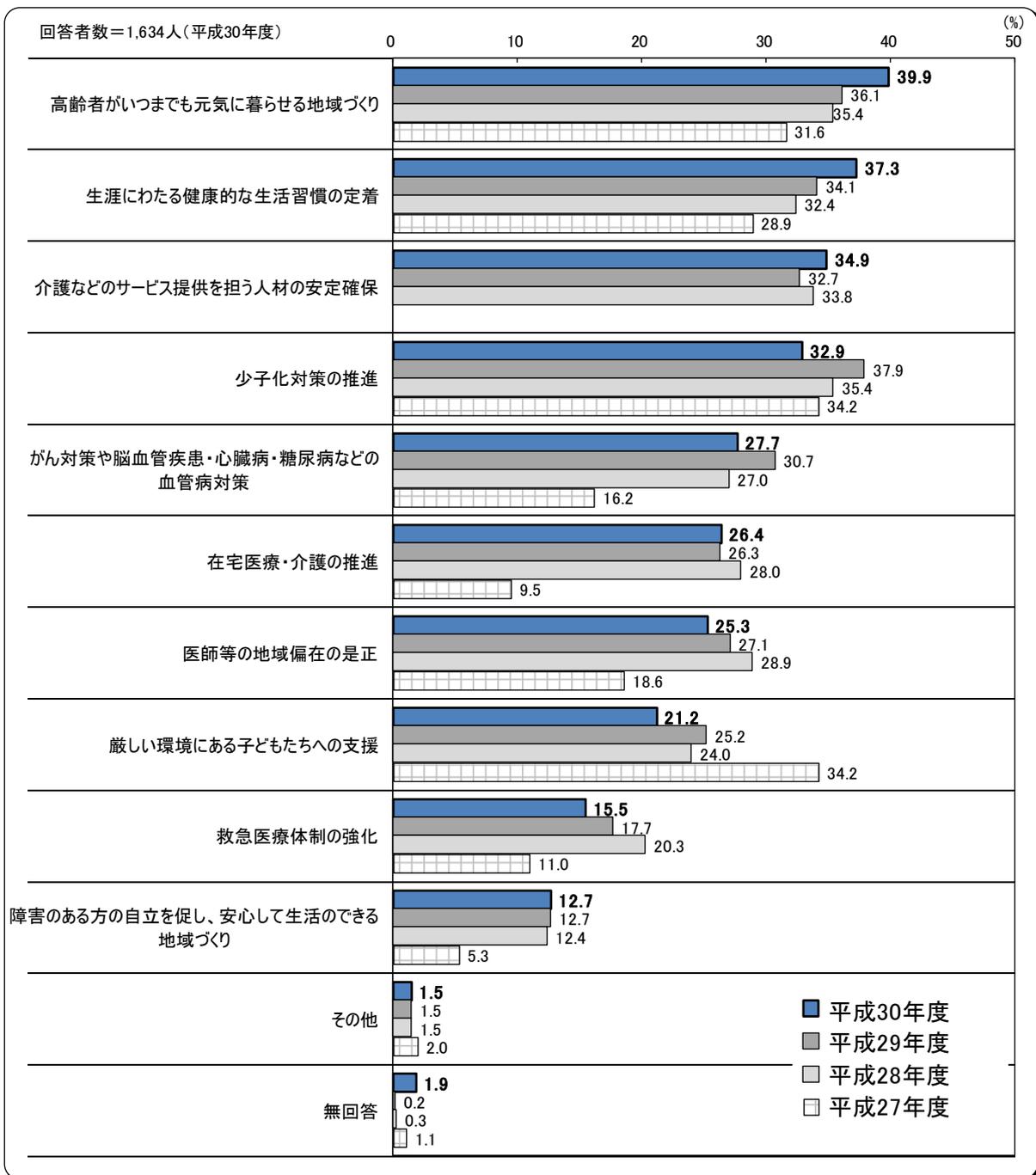
問2 「日本一の健康長寿県づくり」について、第3期日本一の健康長寿県構想に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○印)

【総合】 「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が39.9%と1位になっている。

次いで「生涯にわたる健康的な生活習慣の定着」が37.3%、「介護などのサービス提供を担う人材の安定確保」が34.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

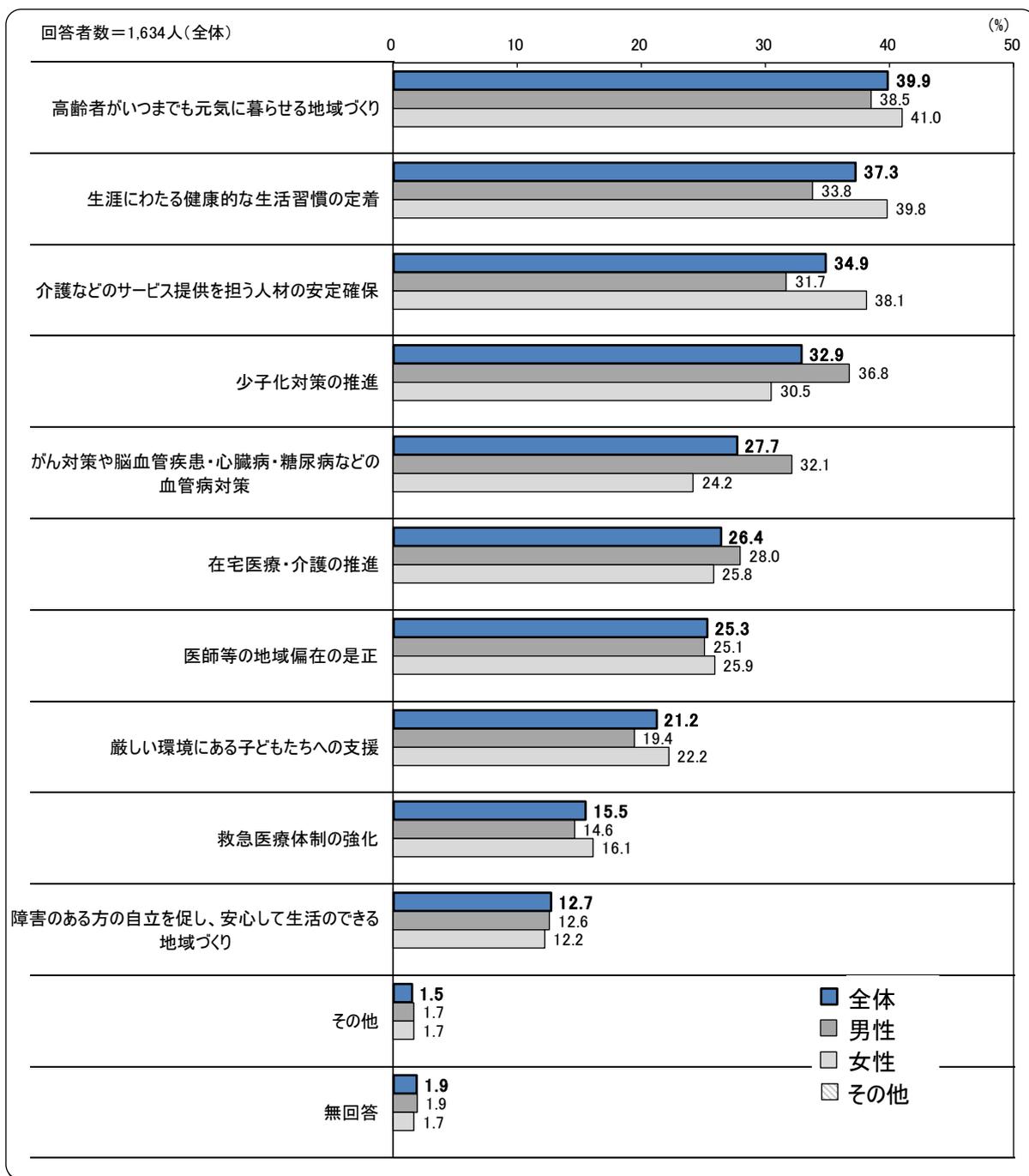
「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」が昨年度より3.8ポイント増加して1位になっており、昨年度1位であった「少子化対策の推進」が5ポイント減少し、4位になっている。



【性別】

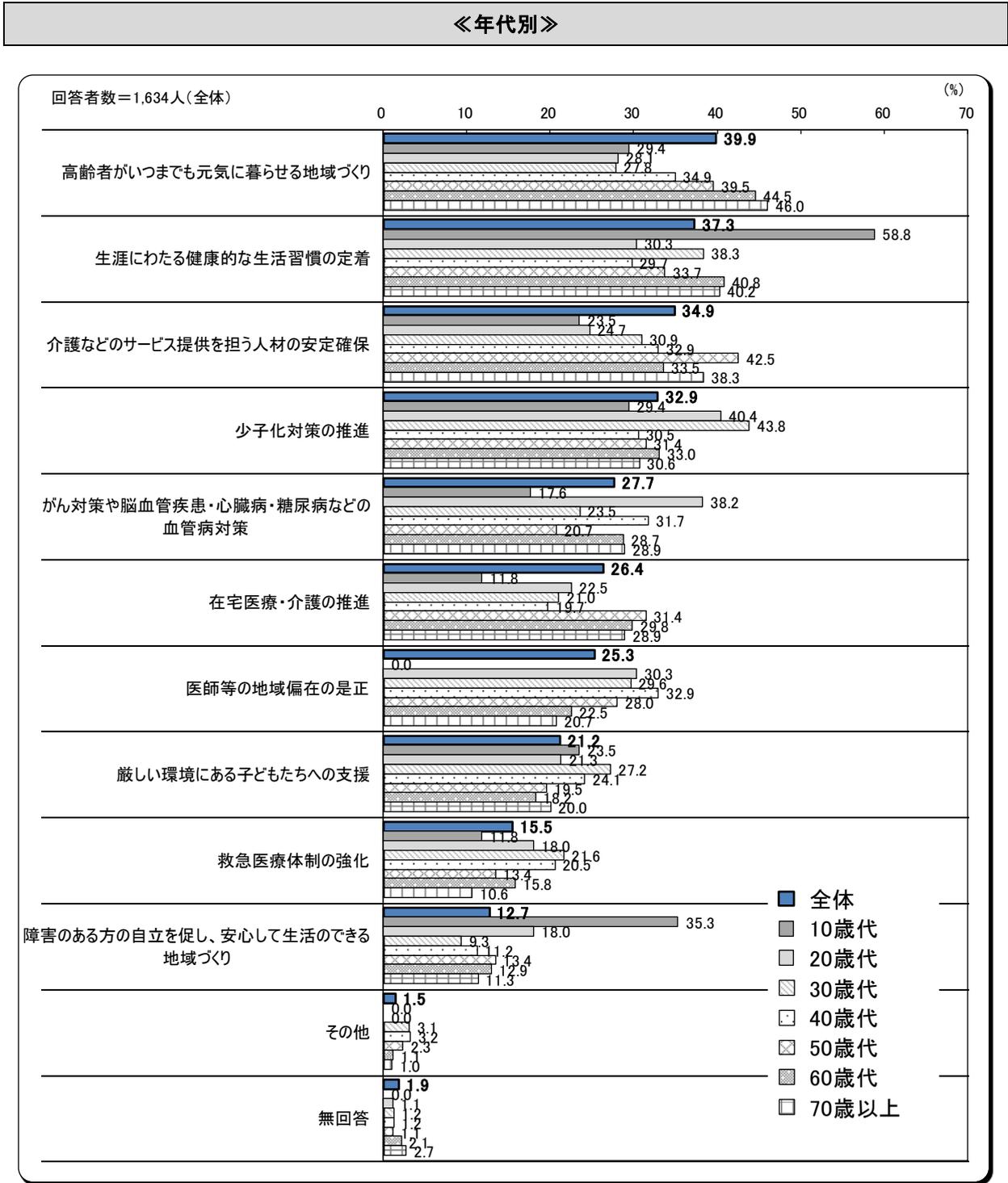
男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

《性別》



【年代別】

年代があがるにつれて「高齢者がいつまでも元気に暮らせる地域づくり」の割合が高くなる傾向になっている。



(3)「教育の充実と子育て支援」について

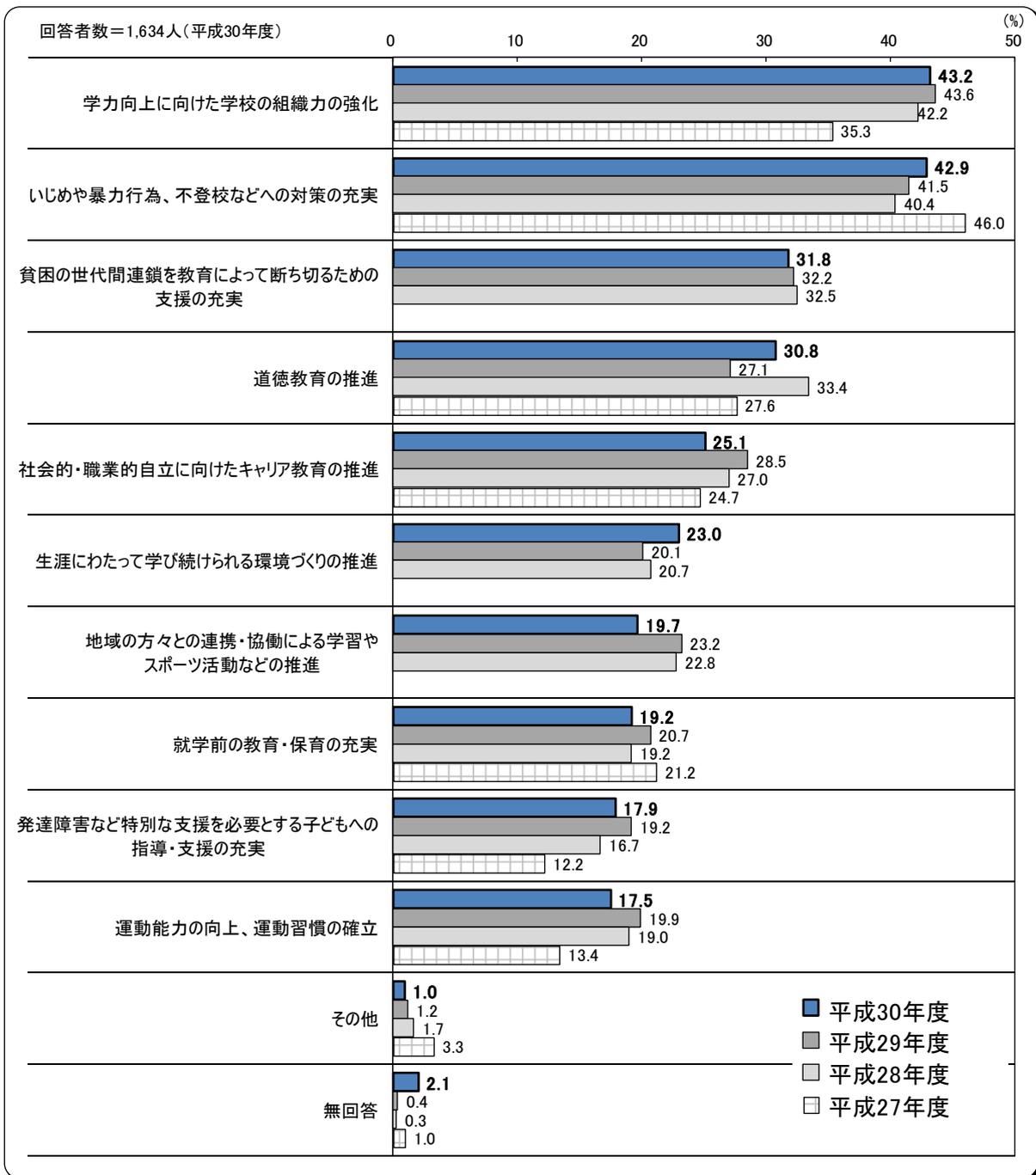
問3 「教育の充実と子育て支援」について、教育等の振興に関する施策の大綱に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○印）

【総合】 「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が43.2%と1位になっている。

次いで「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が42.9%、「貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切るための支援の充実」が31.8%と続いている。

【過去の調査との比較】

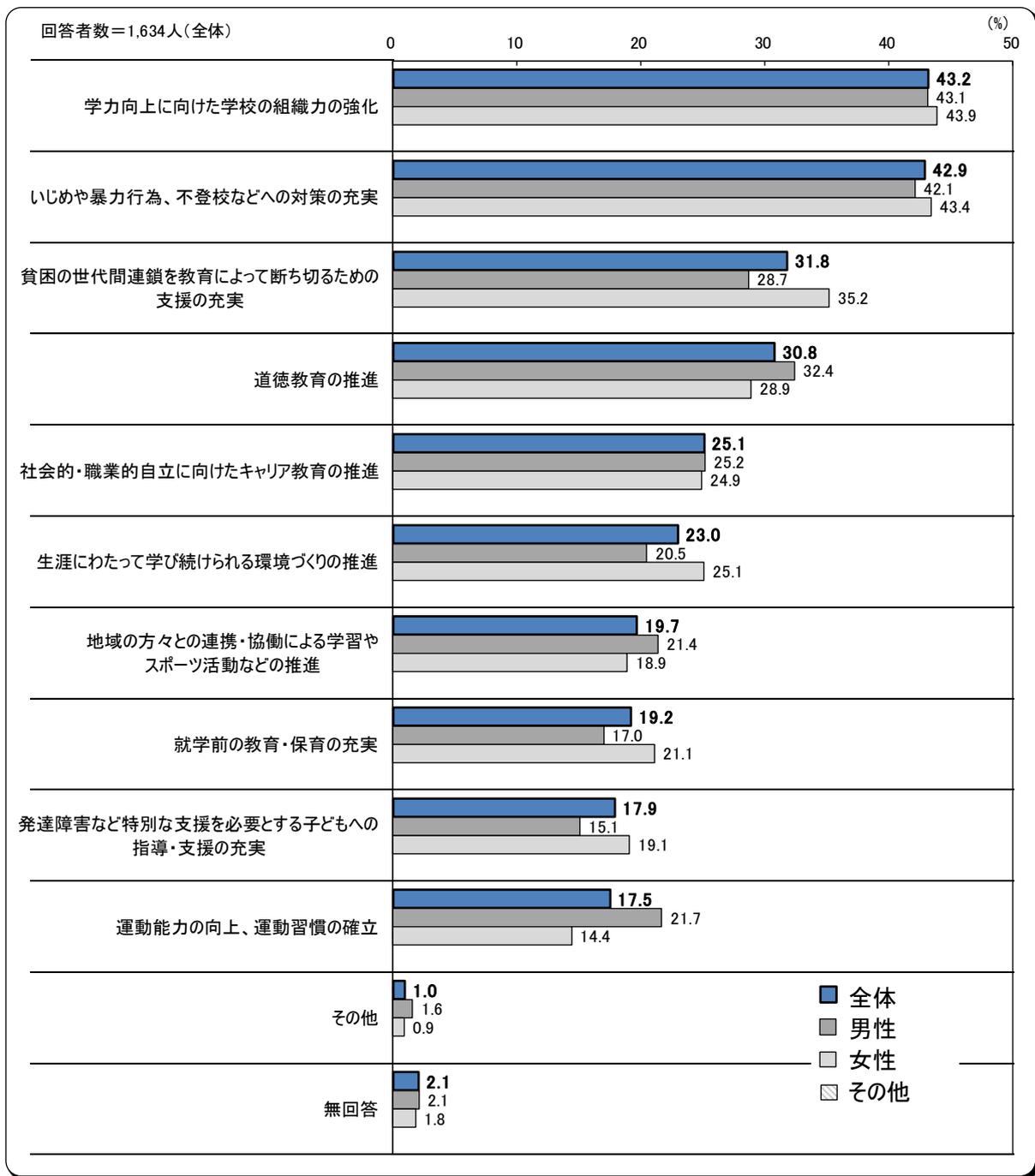
今年度も昨年度と同じく「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

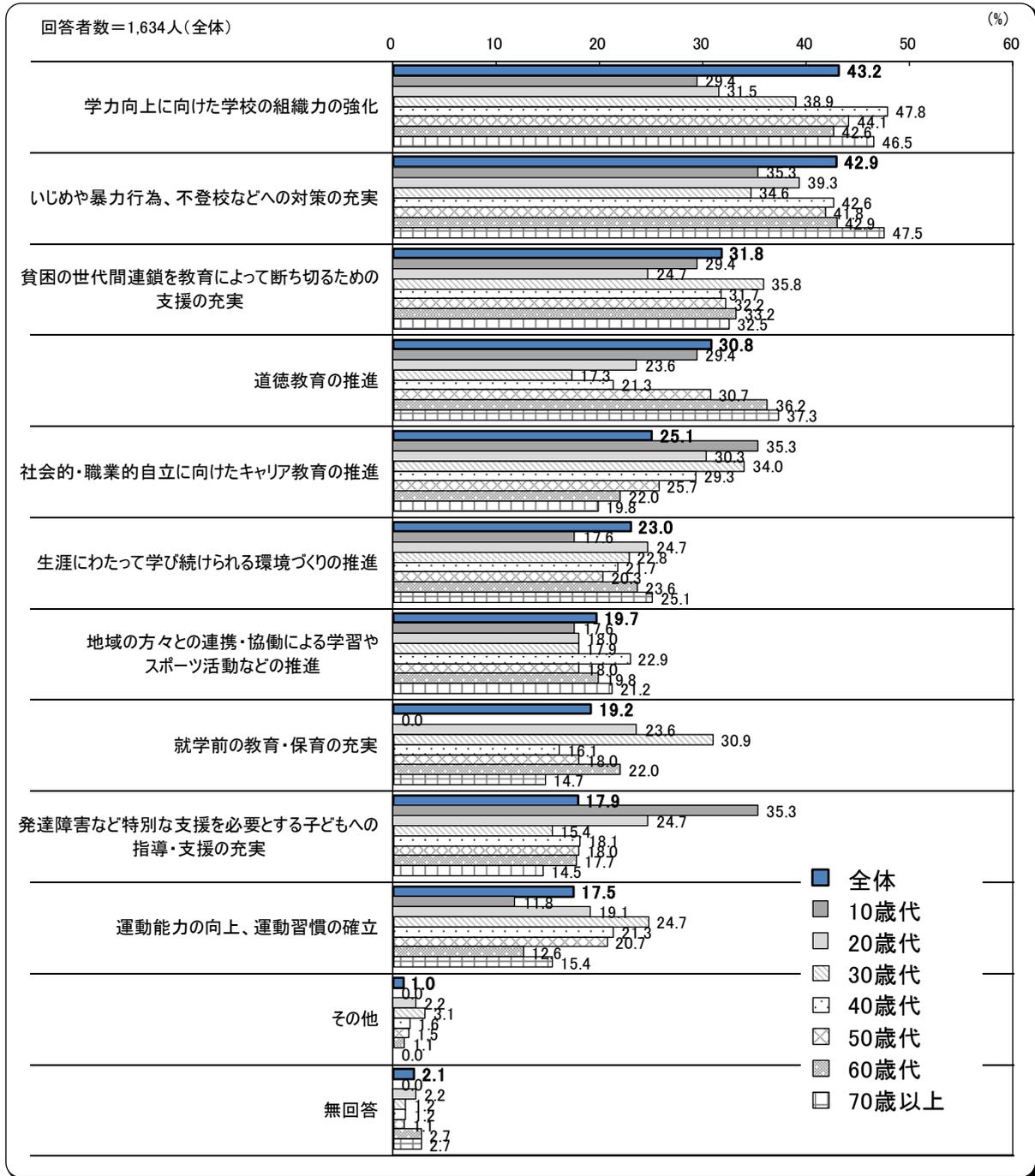
◀性別▶



【年代別】

30歳代から50歳代では「学力向上に向けた学校の組織力の強化」が、20歳代、60歳代、70歳以上では「いじめや暴力行為、不登校などへの対策の充実」が1位になっている。

《年代別》



(4)「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について

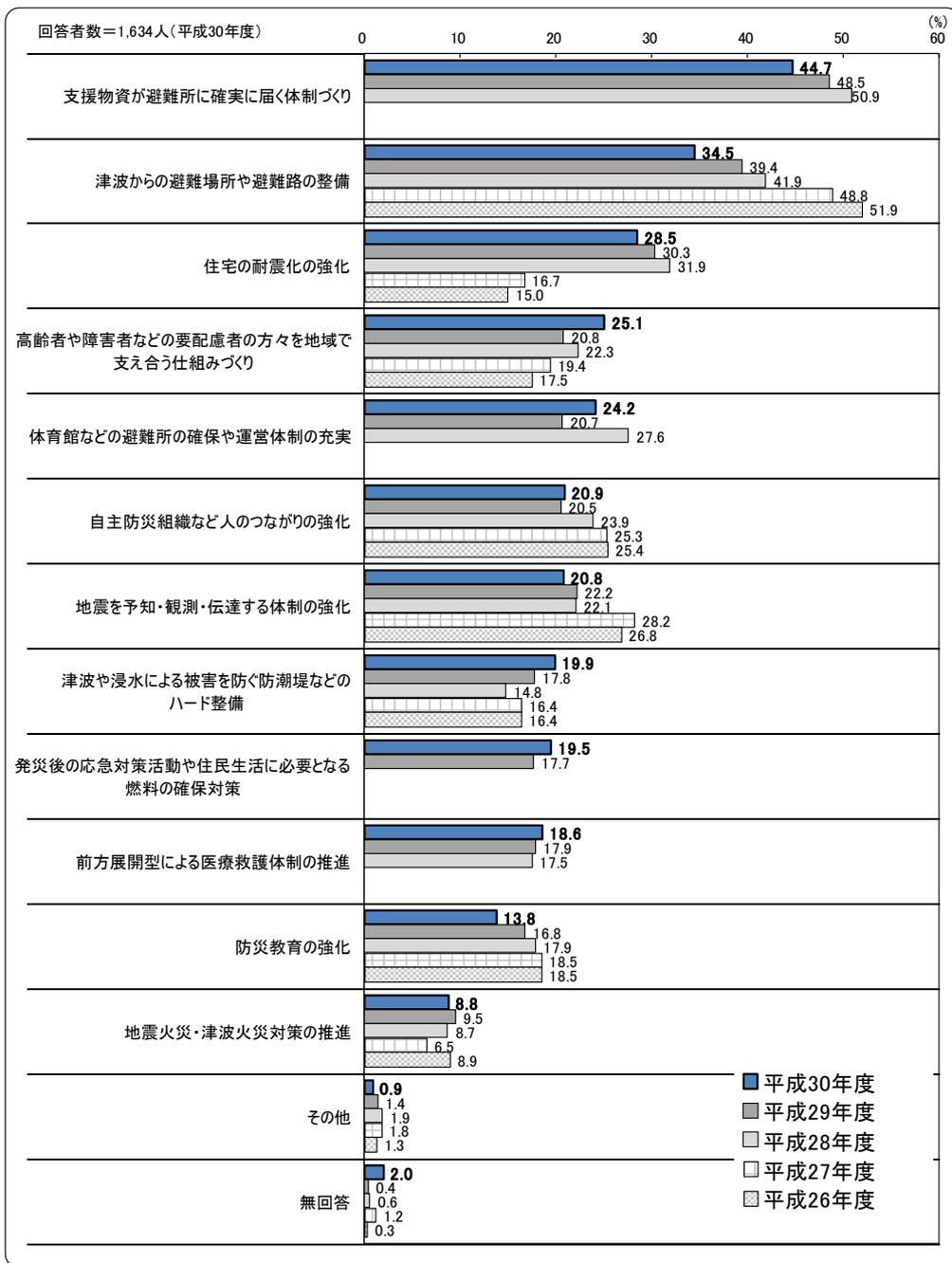
問4 「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」について、第3期南海トラフ地震対策行動計画に基づき、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。  
(3つまで○印)

【総合】 「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が44.7%と1位になっている。

次いで「津波からの避難場所や避難路の整備」が34.5%、「住宅の耐震化の強化」が28.5%と続いている。

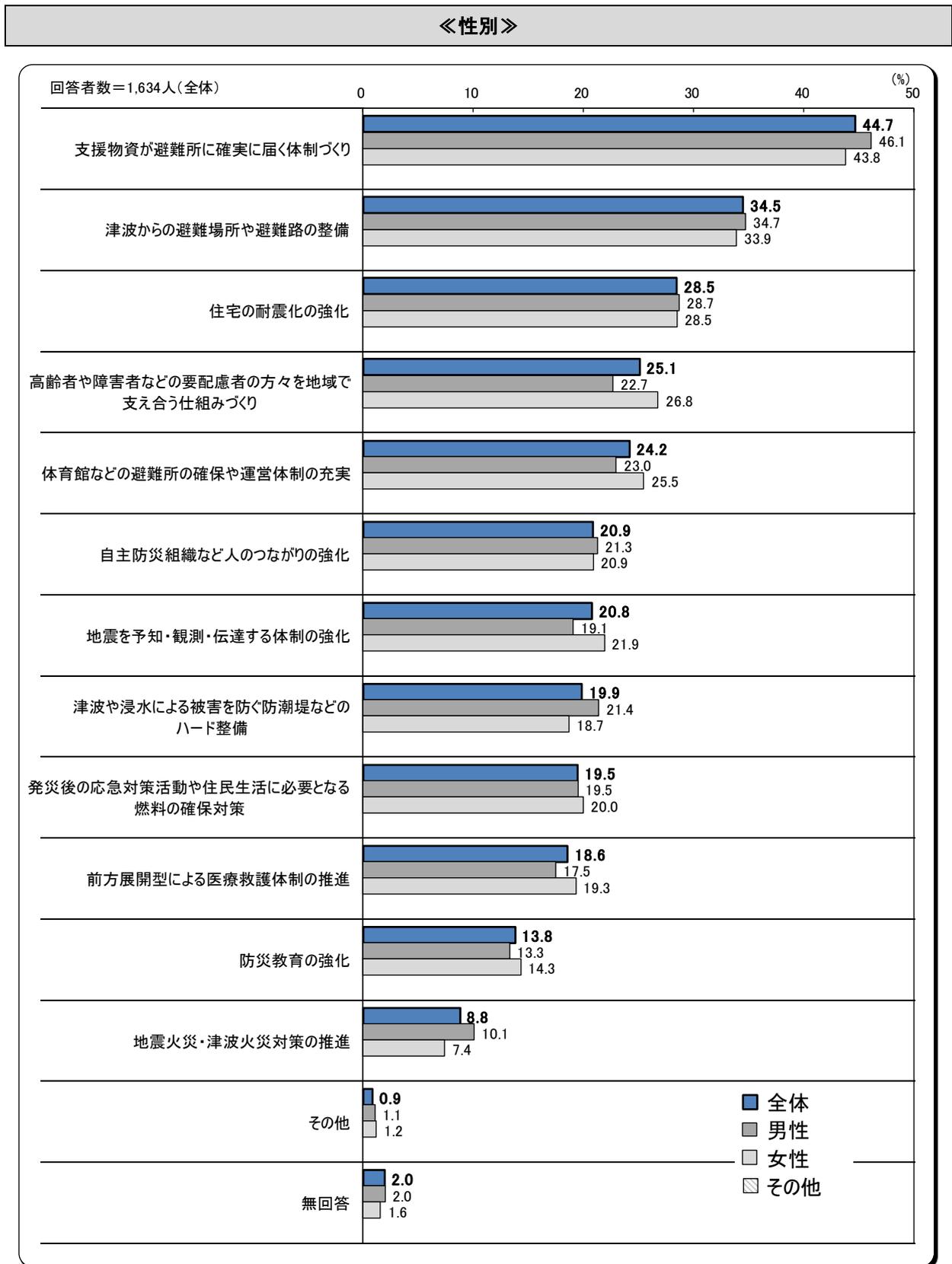
【過去の調査との比較】

選択数が増えられたため単純な比較はできないが、昨年度と同じく今年度も「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位になっている。



【性別】

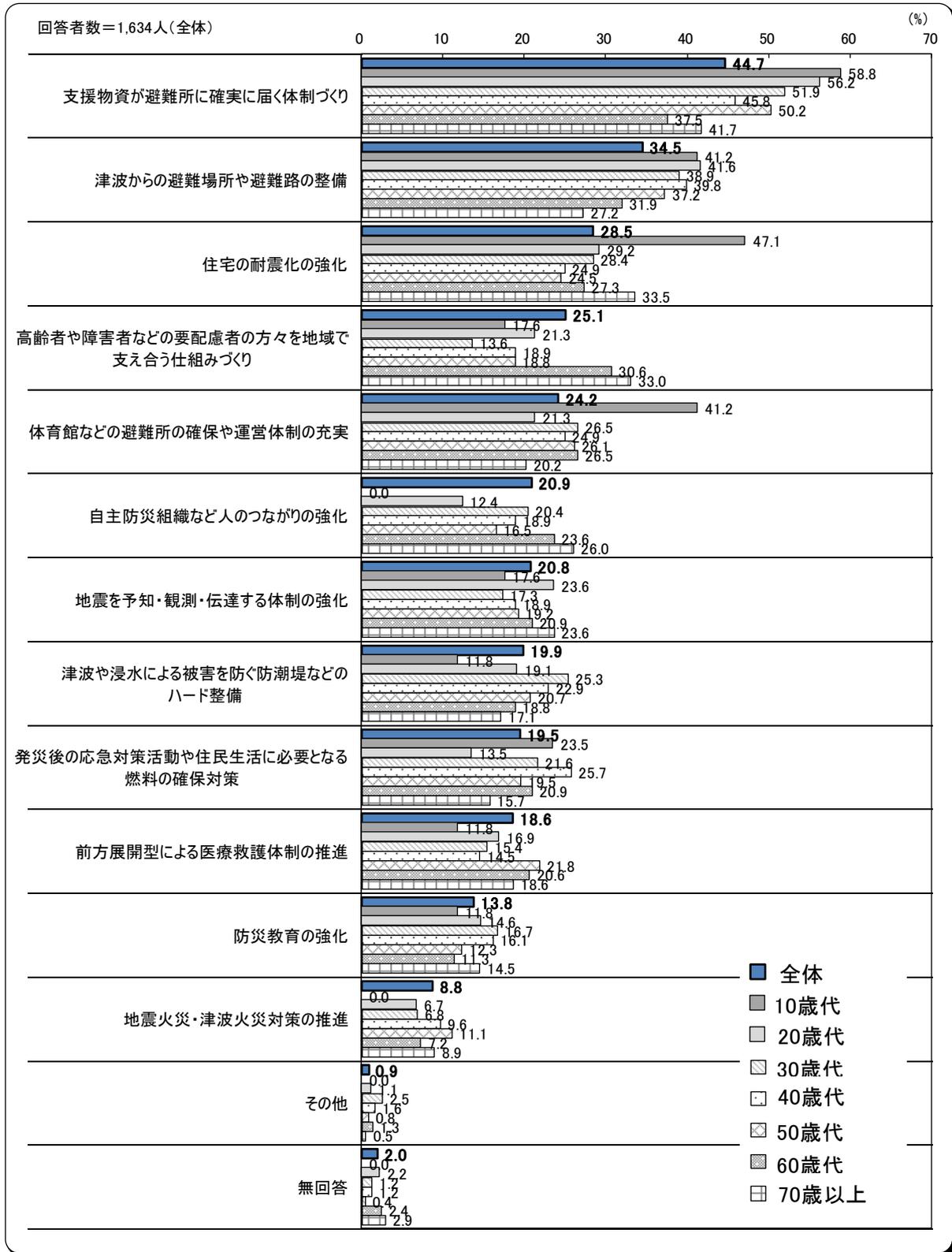
男女とも「総合」と同じ傾向になっている。



【年代別】

いずれも「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が1位になっている。

《年代別》



(5)「インフラの充実と有効活用」について

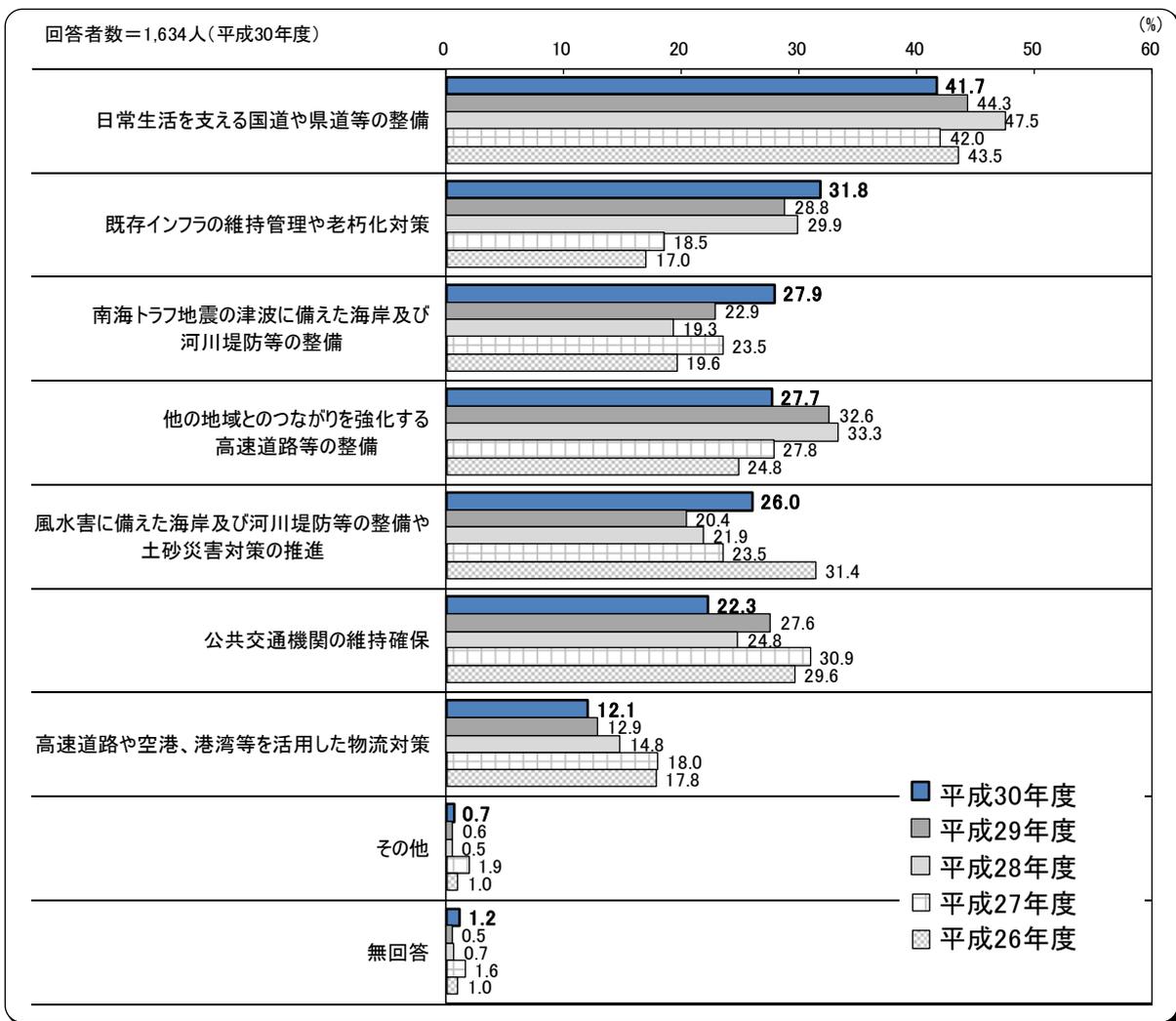
問5 「インフラの充実と有効活用」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。（2つまで○印）

【総合】 「日常生活を支える国道や県道等の整備」が41.7%と1位になっている。

次いで「既存インフラの維持管理や老朽化対策」が31.8%、「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が27.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

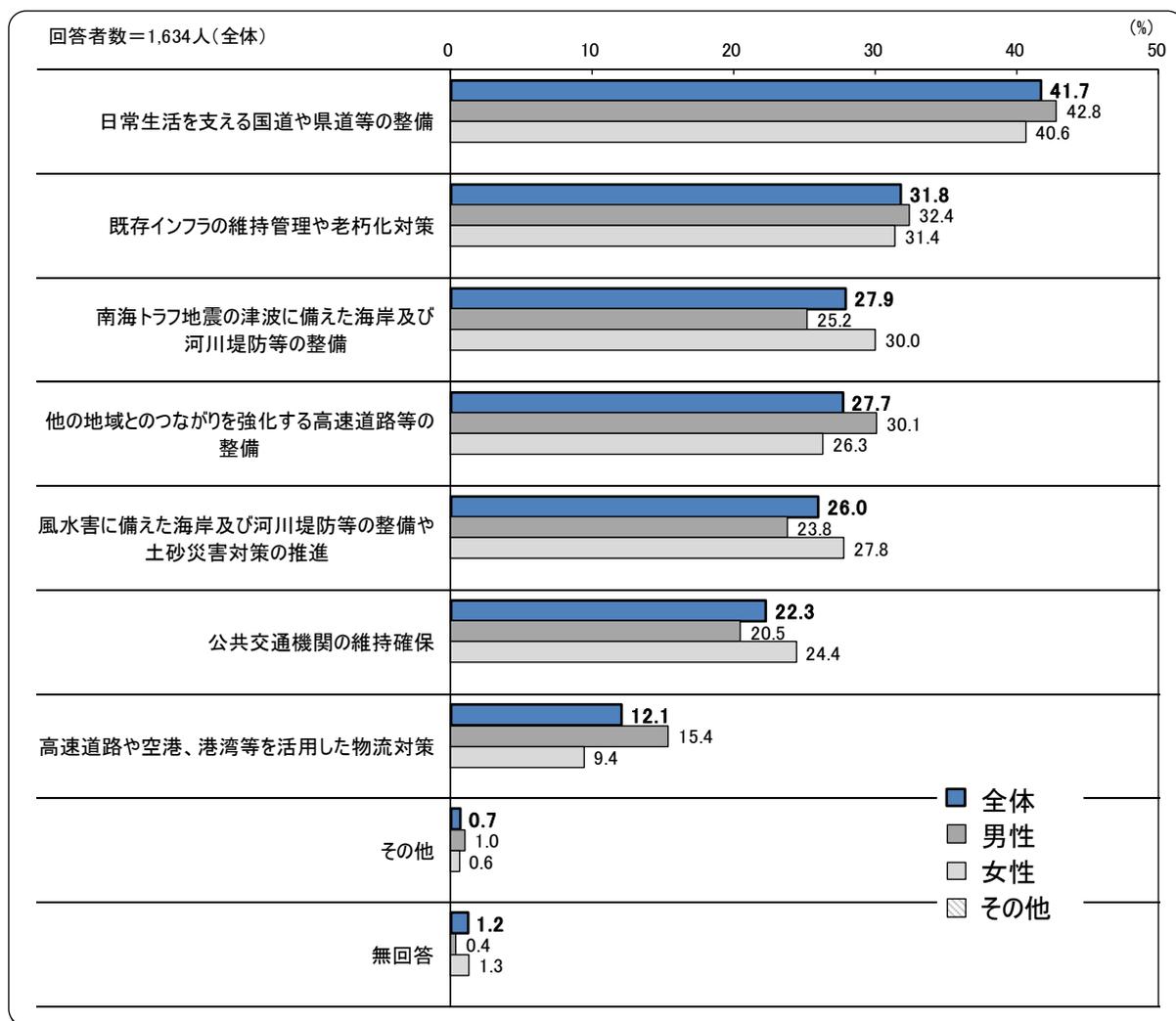
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も、昨年度と同じく「日常生活を支える国道や県道等の整備」が1位になっており、昨年度5位であった「南海トラフ地震の津波に備えた海岸及び河川堤防等の整備」が3位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

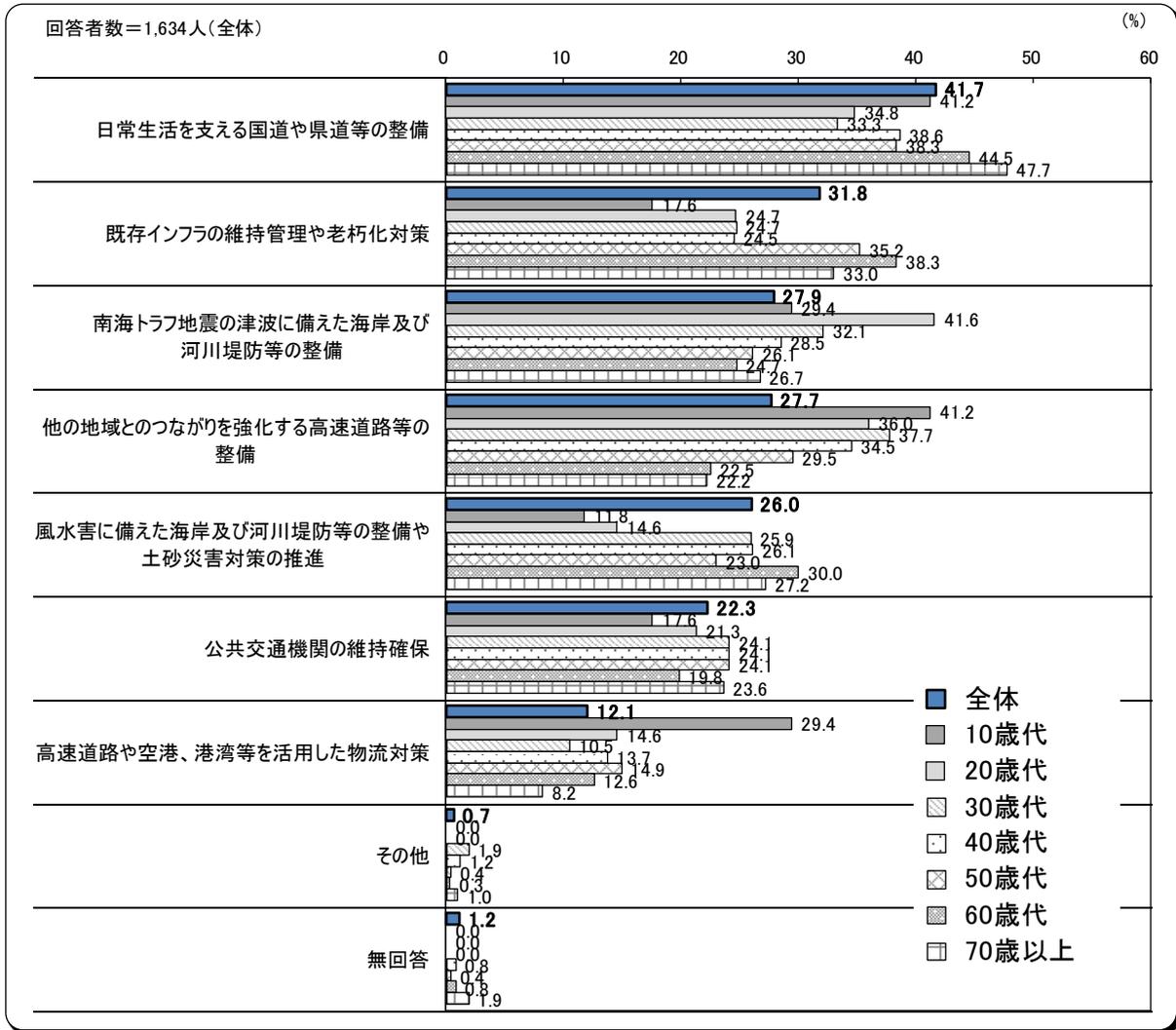
◀性別▶



【年代別】

いずれも「日常生活を支える国道や県道等の整備」の割合が高くなっている。

《年代別》



(6)「中山間対策の充実・強化」について

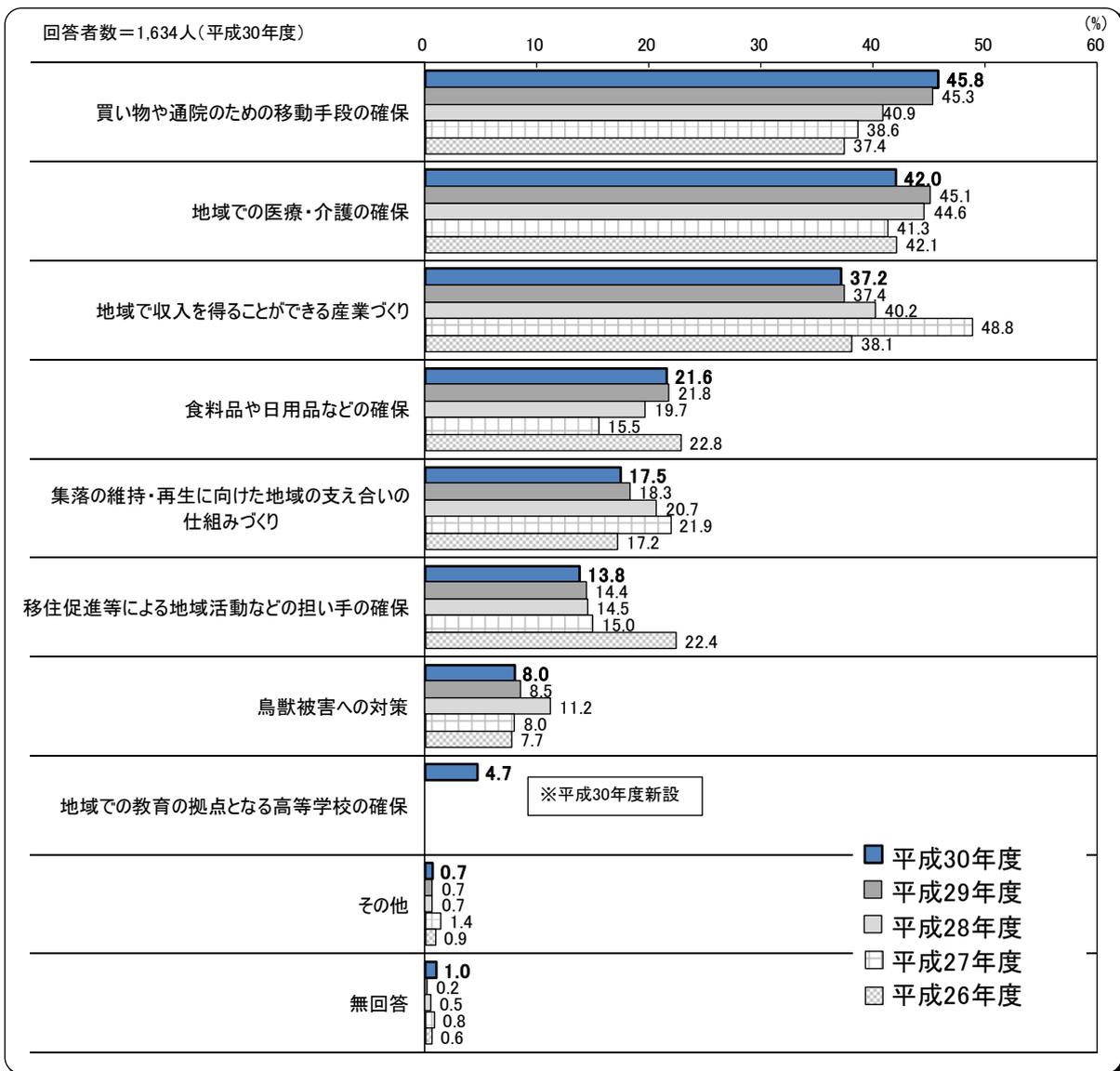
問6 「中山間対策の充実・強化」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】 「買い物や通院のための移動手段の確保」が45.8%と1位になっている。

次いで「地域での医療・介護の確保」が42.0%、「地域で収入を得ることができる産業づくり」が37.2%と続いている。

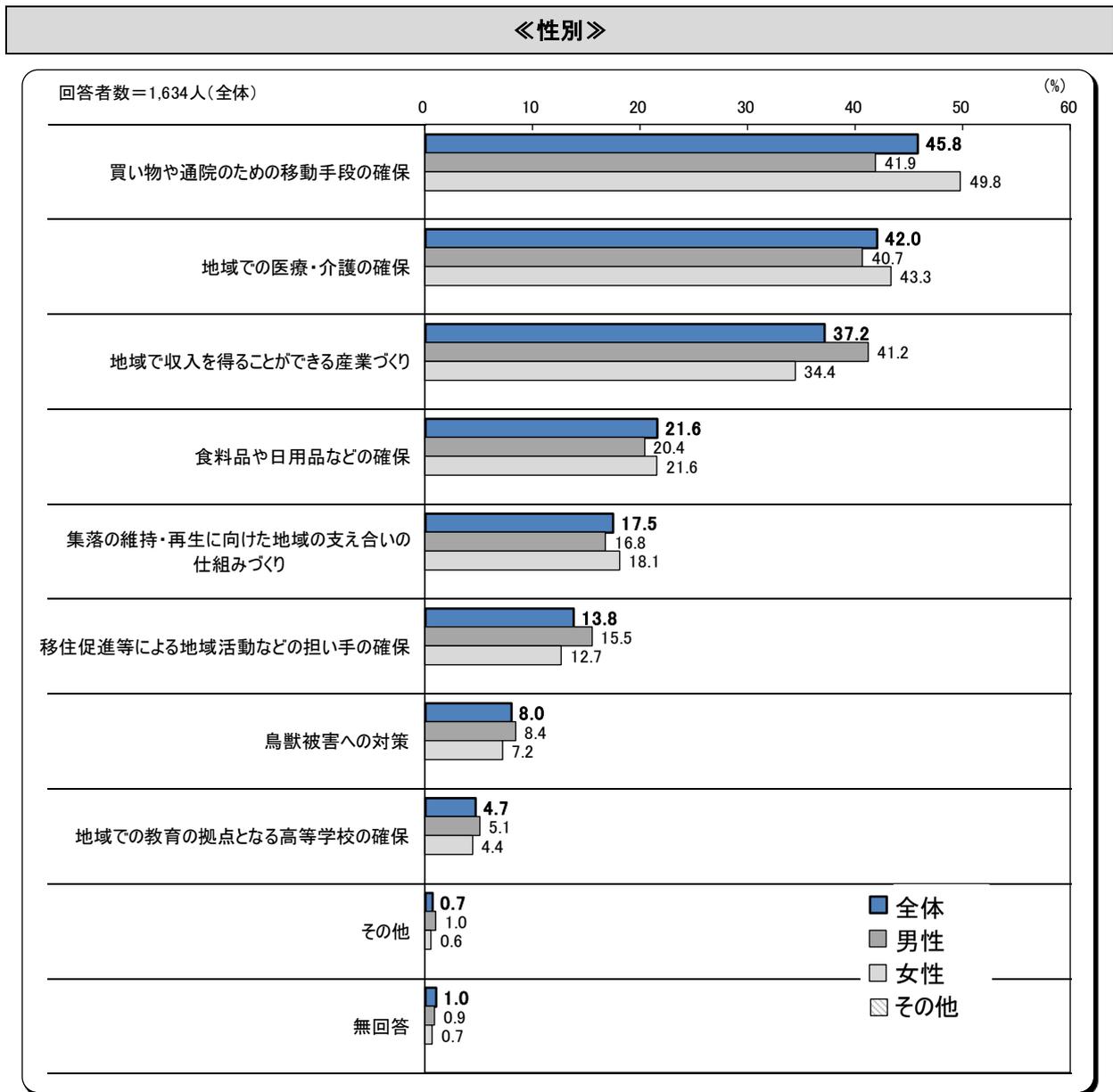
【過去の調査との比較】

選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も、昨年度と同じく「買い物や通院のための移動手段の確保」が1位になっており、以降の順位もほぼ同じとなっている。



【性別】

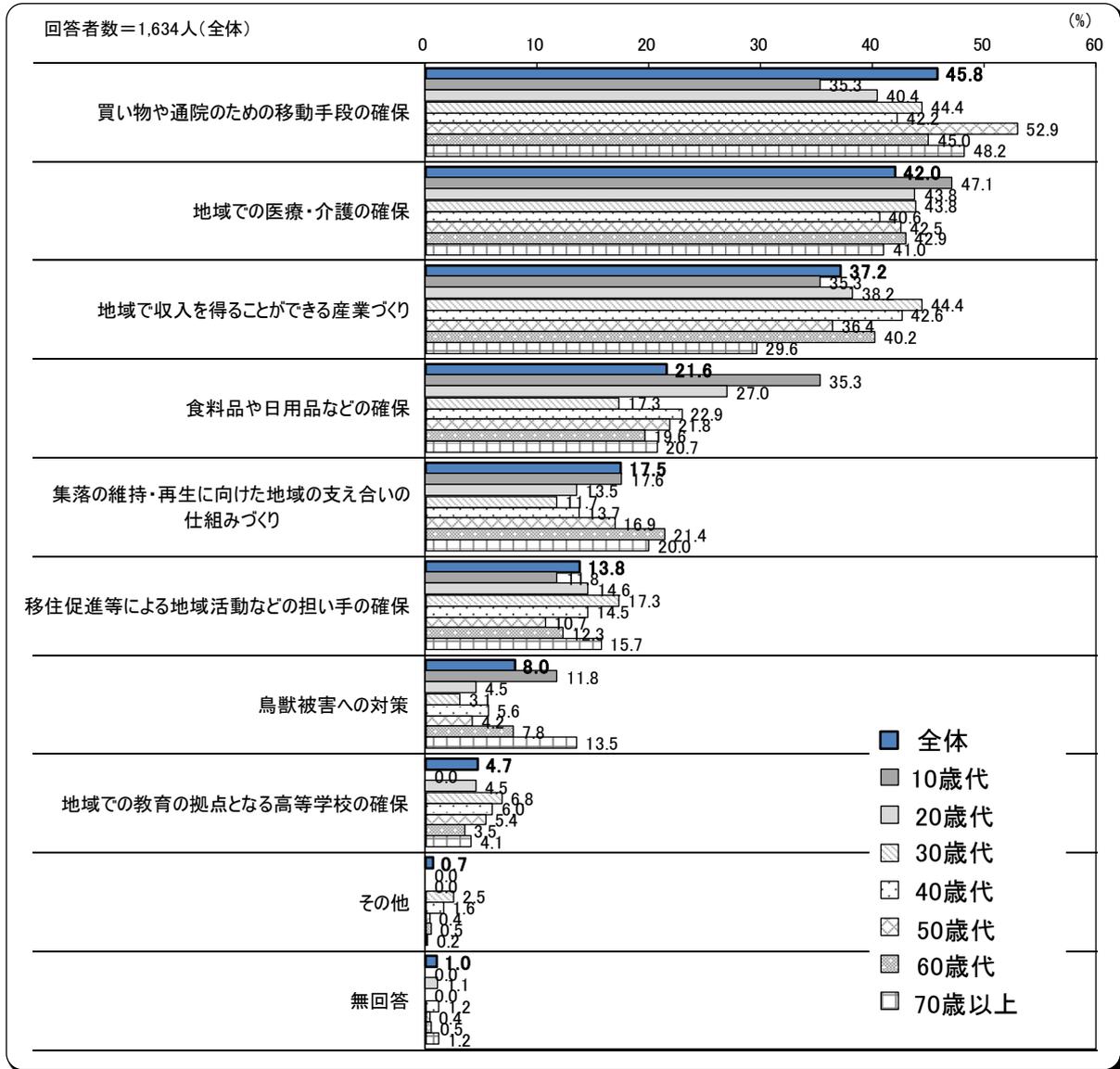
男女とも「総合」と同じ傾向になっている。



【年代別】

いずれも「買い物や通院のための移動手手段の確保」の割合が高くなっている。

《年代別》



(7)「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について

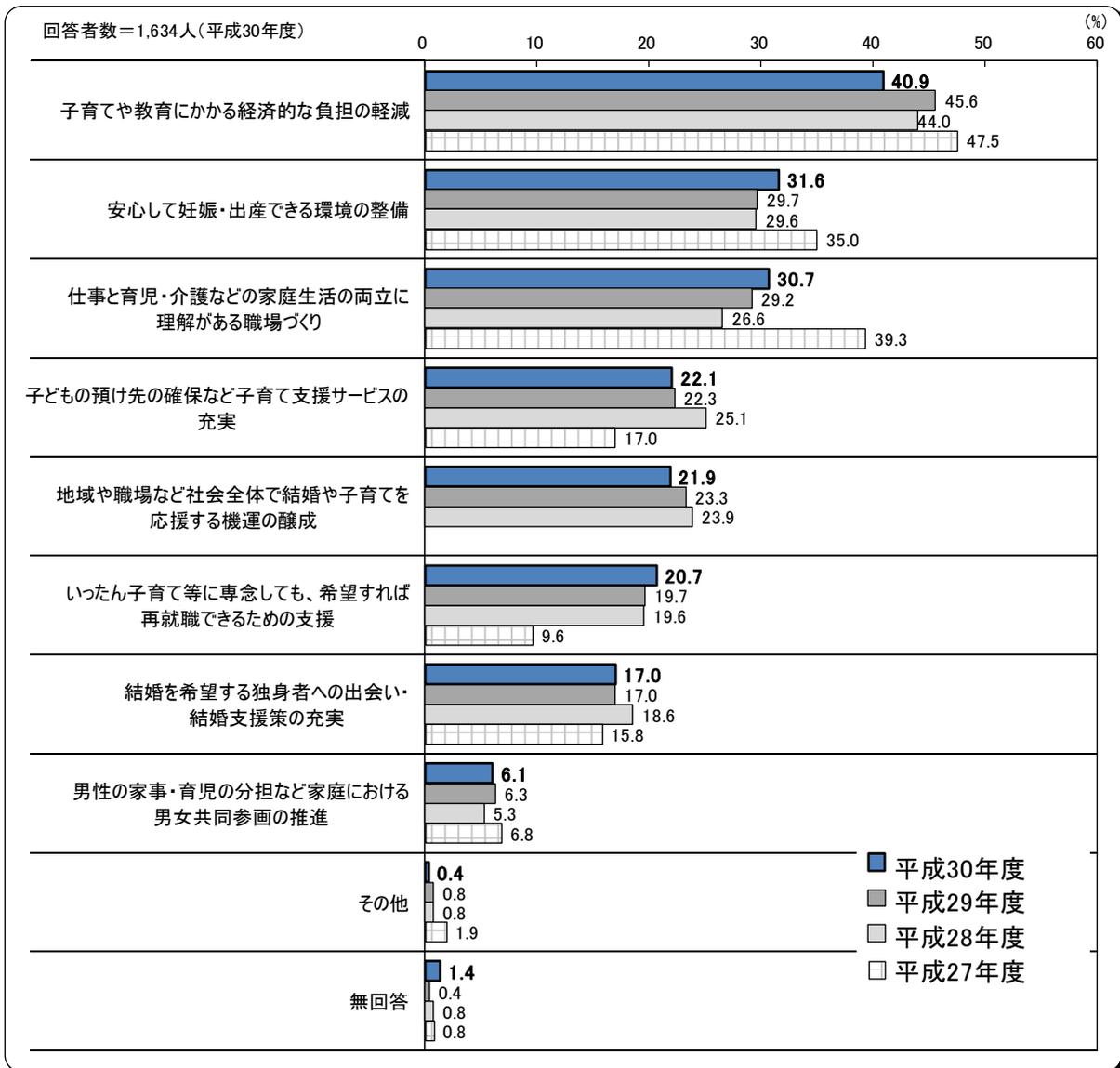
問7 「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」について、県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】 「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が40.9%と1位になっている。

次いで「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が31.6%、「仕事と育児・介護などの家庭生活の両立に理解がある職場づくり」が30.7%と続いている。

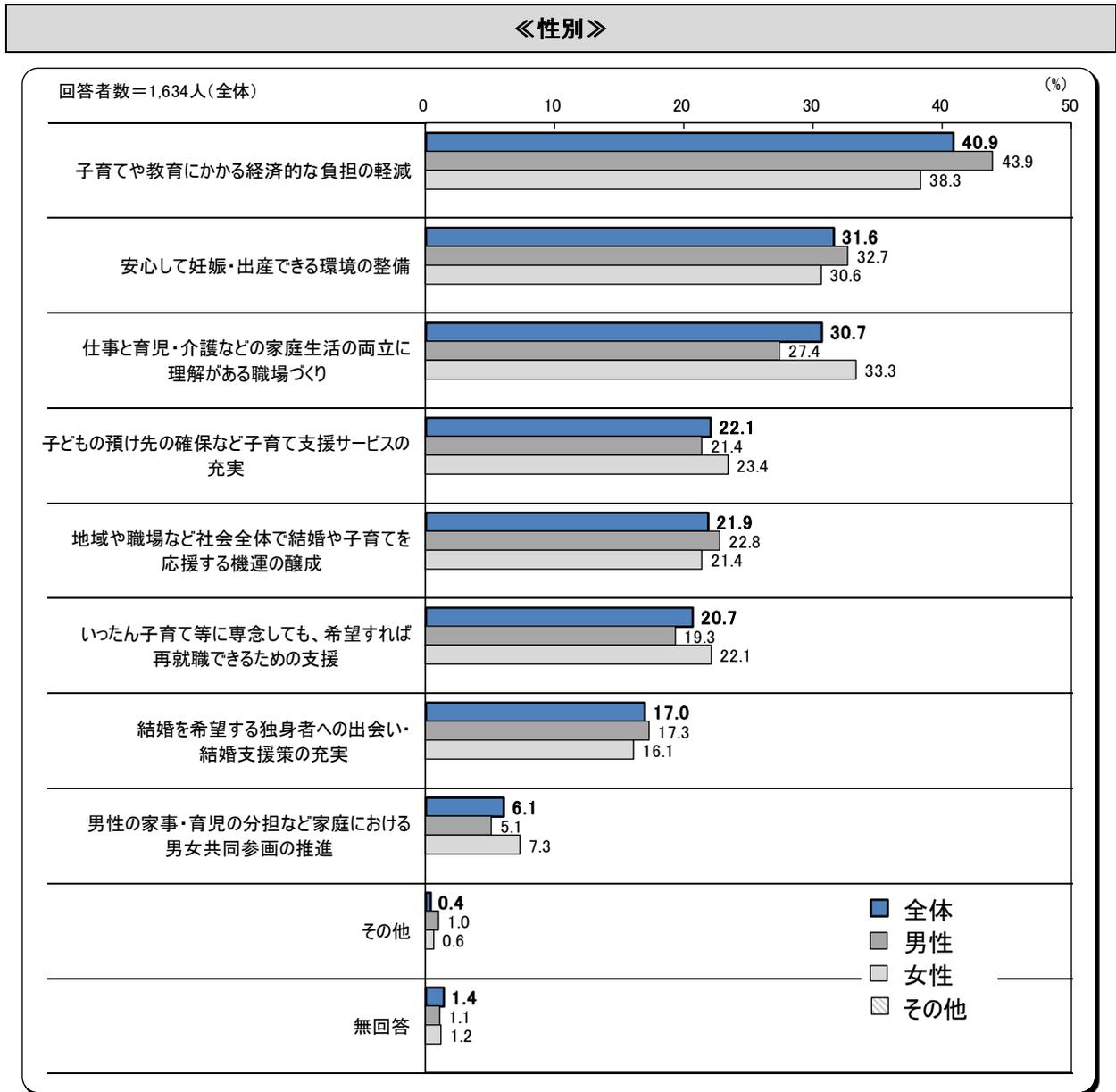
【過去の調査との比較】

今年度も、「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が1位になっており、「安心して妊娠・出産できる環境の整備」が昨年度から1.9ポイント増加し2位に続いている。



【性別】

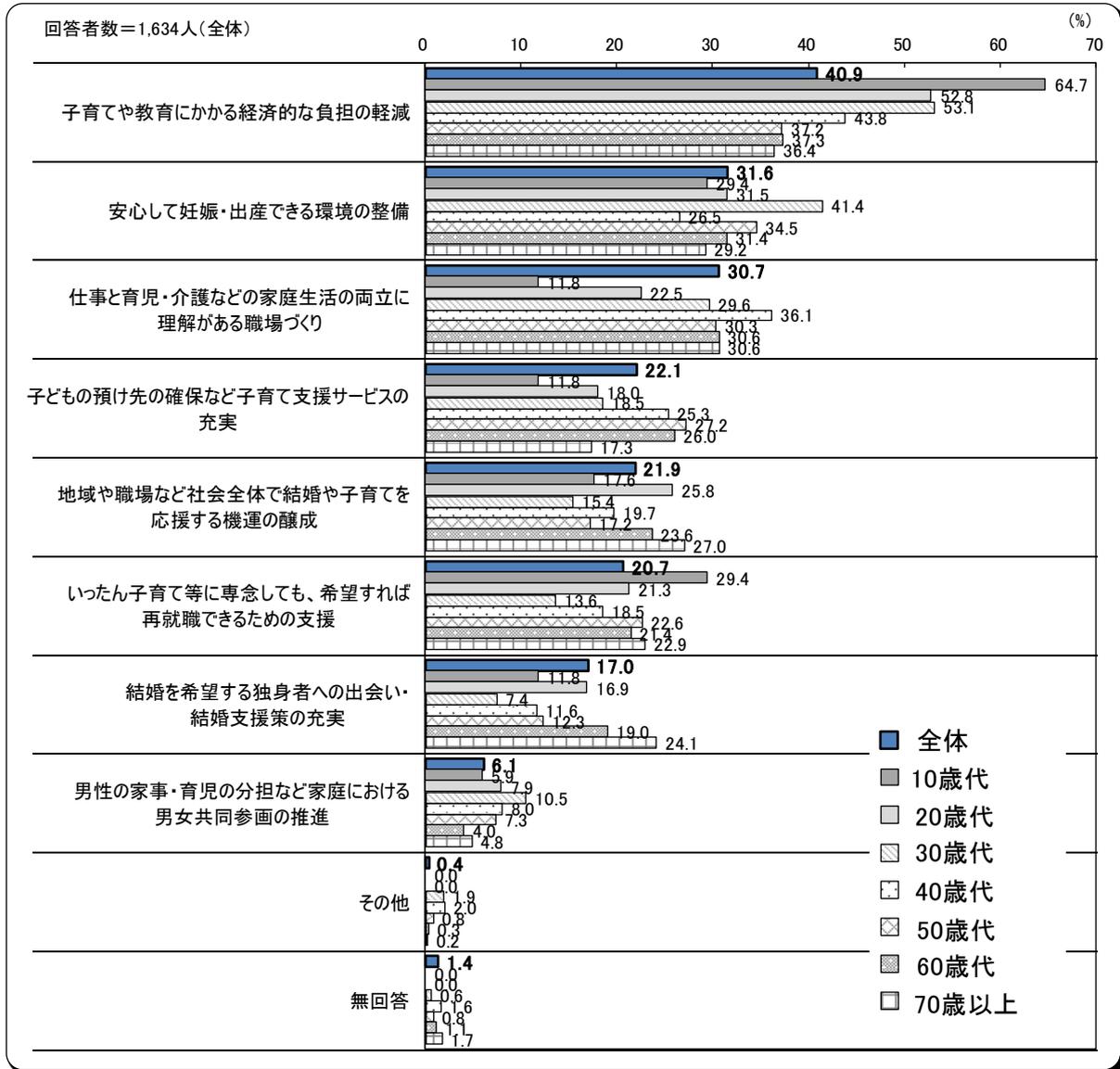
男女とも「総合」と同じ傾向になっている。



【年代別】

いずれも「子育てや教育にかかる経済的な負担の軽減」が1位になっている。

《年代別》



(8)「文化芸術の振興」について

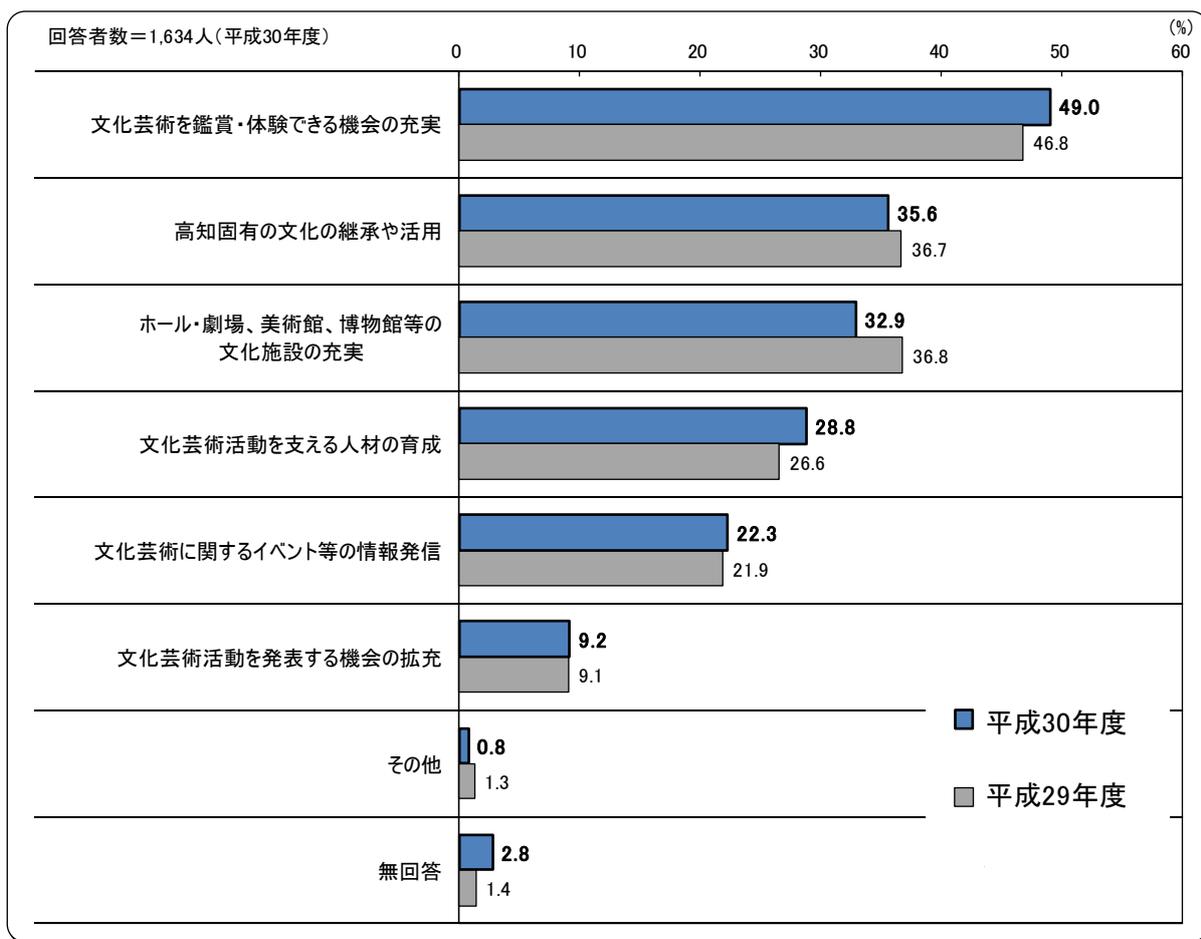
問8 文化芸術の振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】 「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が49.0%と1位になっている。

次いで「高知固有の文化の継承や活用」が35.6%、「ホール・劇場、美術館、博物館等の文化施設の充実」が32.9%と続いている。

【過去の調査との比較】

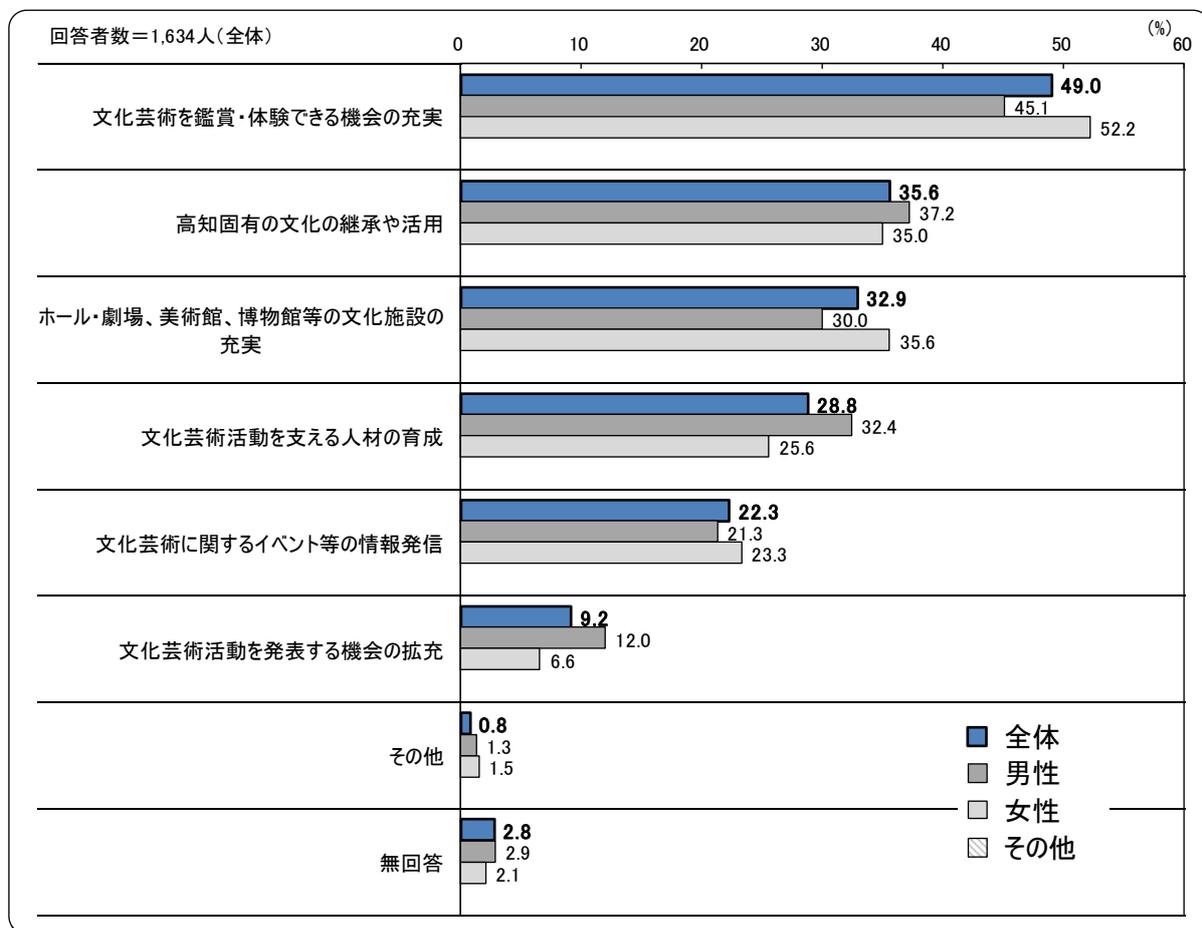
今年度も、昨年度と同じく「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

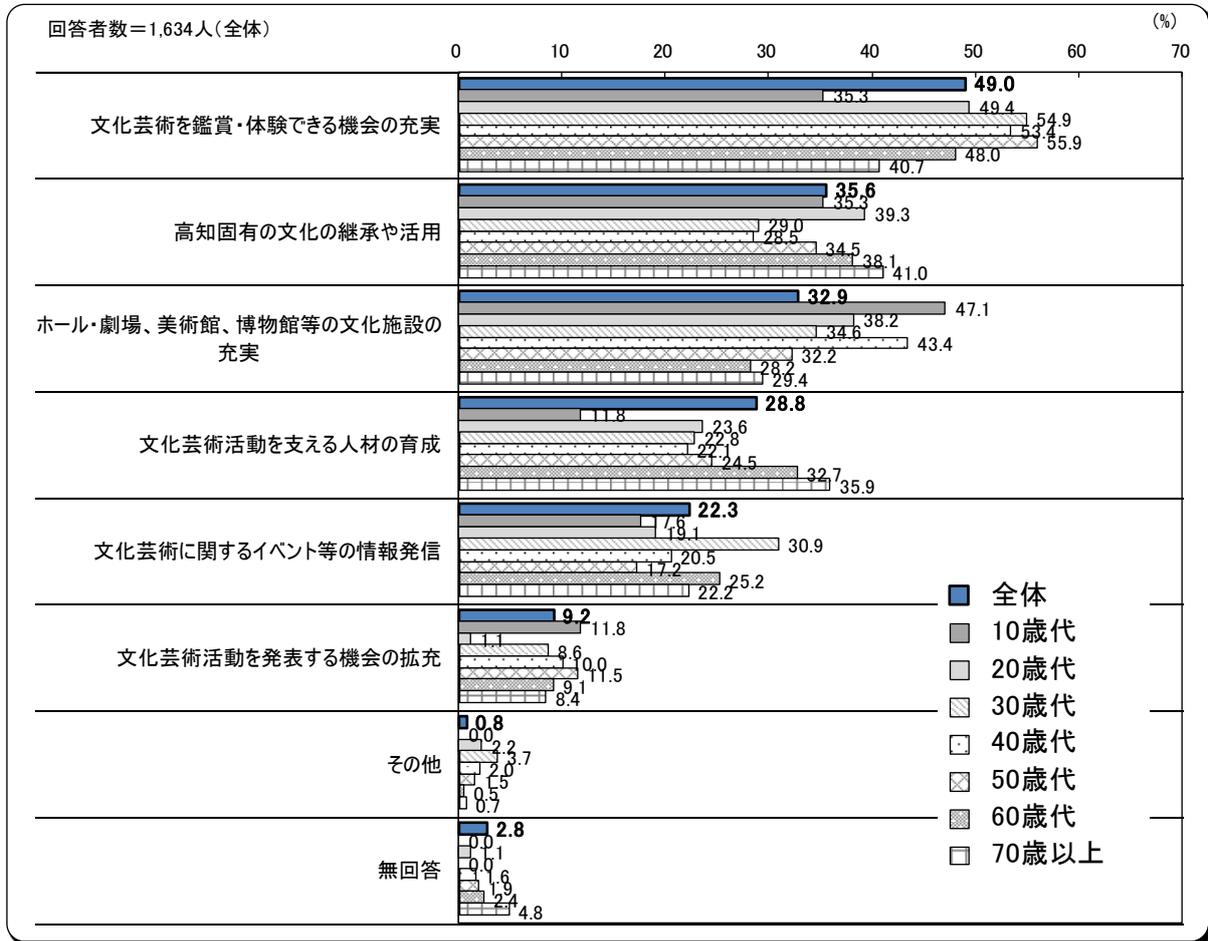
《性別》



【年代別】

いずれも「文化芸術を鑑賞・体験できる機会の充実」の割合が高くなっている。

《年代別》



(9)「スポーツの振興」について

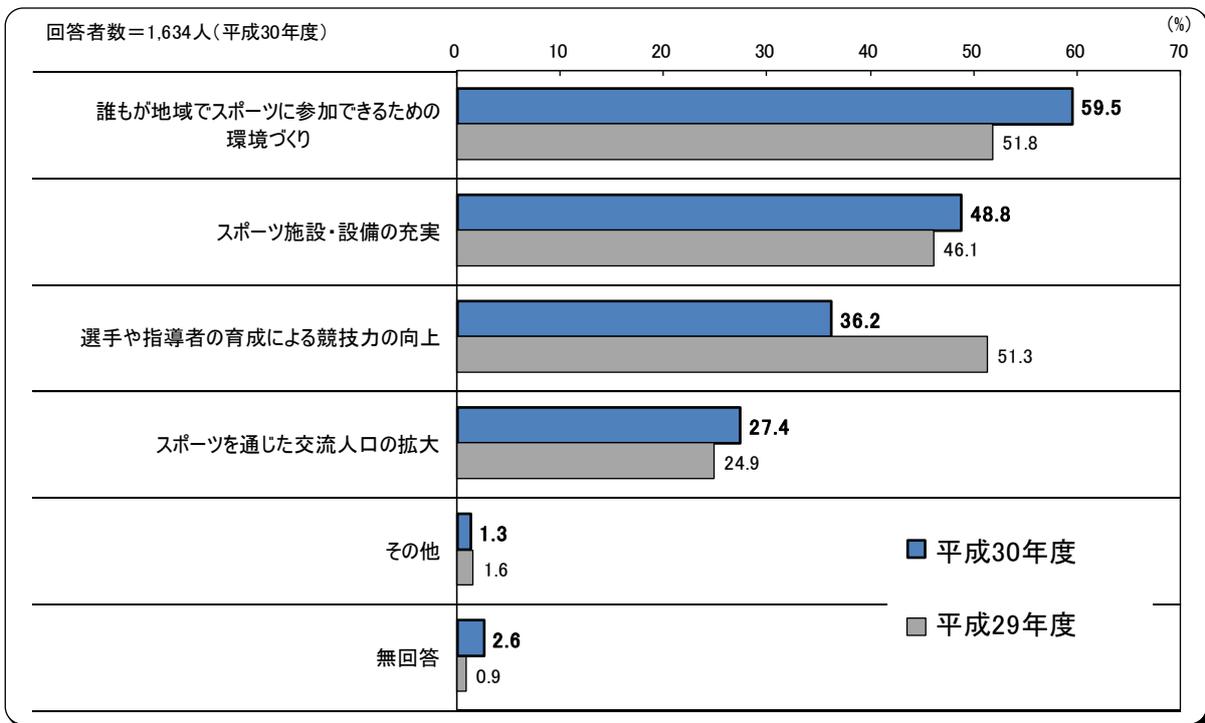
問9 スポーツの振興について、特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

【総合】 「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が59.5%と1位になっている。

次いで「スポーツ施設・設備の充実」が48.8%、「選手や指導者の育成による競技力の向上」が36.2%と続いている。

【過去の調査との比較】

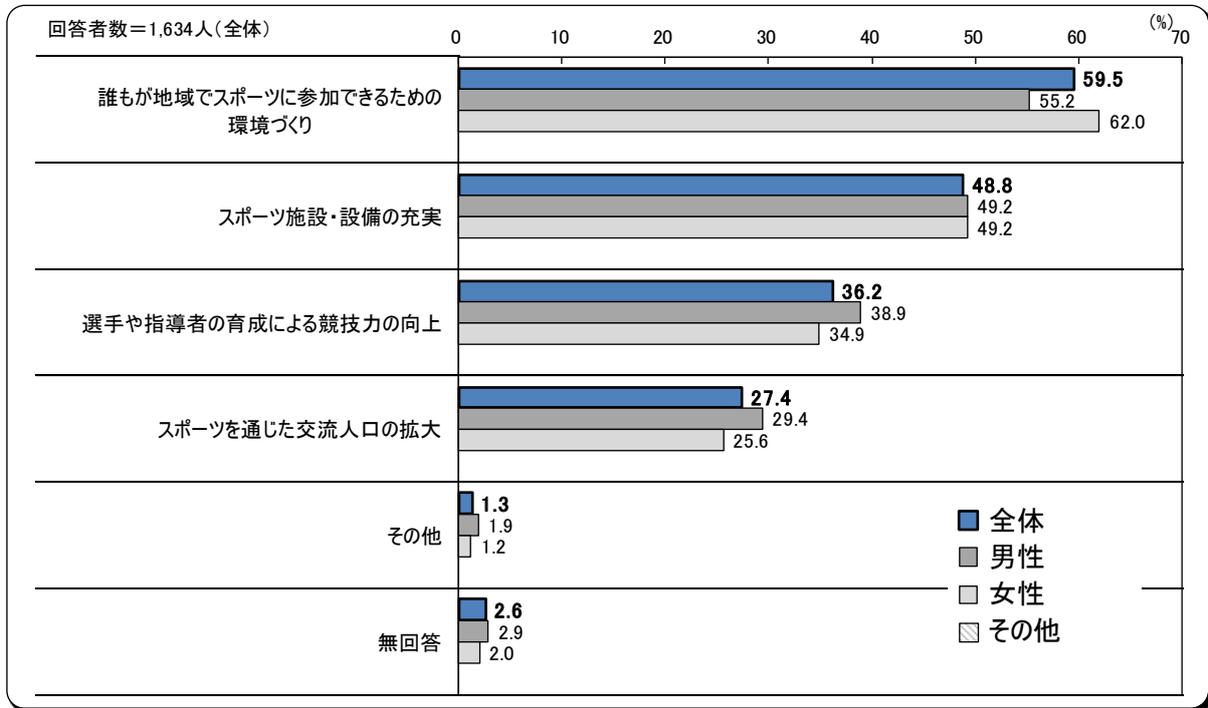
今年度も、「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」が昨年度から7.7ポイント増加し1位になっている。「選手や指導者の育成による競技力の向上」が昨年度から15.1ポイント減少し、2位から3位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

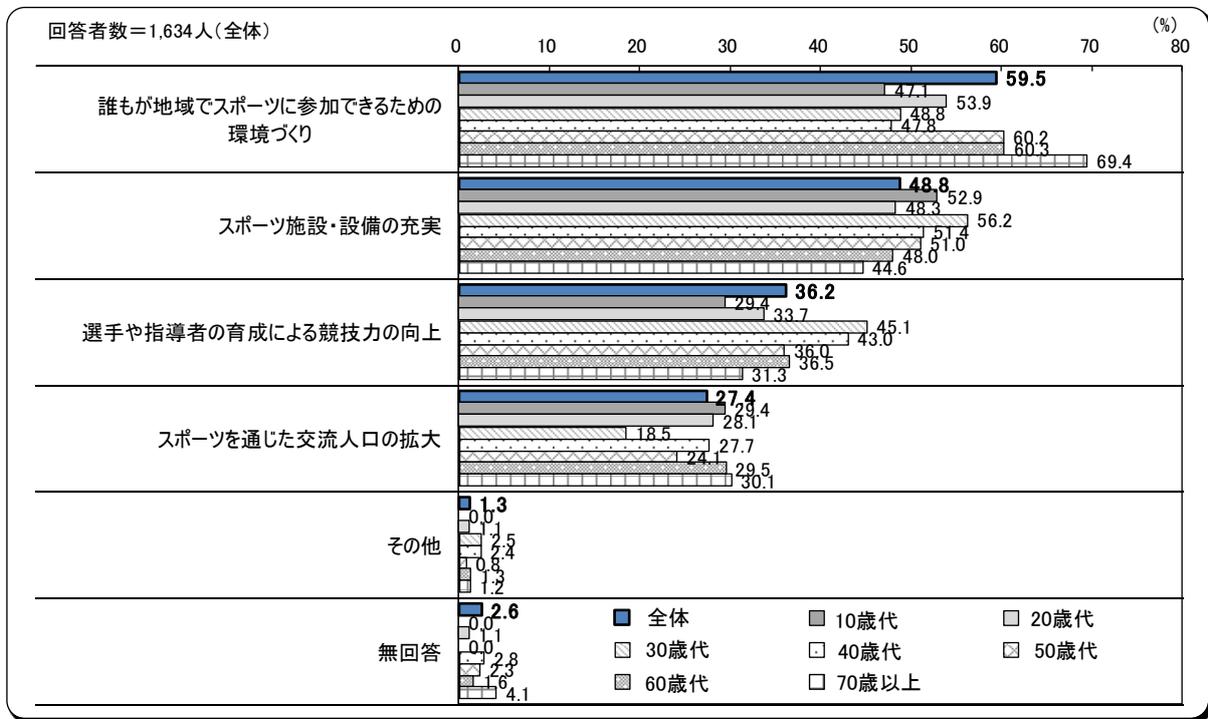
《性別》



【年代別】

いずれも「誰もが地域でスポーツに参加できるための環境づくり」、「スポーツ施設・設備の充実」の割合が高くなっている。

《年代別》



(10)「5つの基本政策と3つの横断的にかかわる政策」について

問10 県が行っている8つの政策のうち、より一層力を入れるべきものは何ですか。

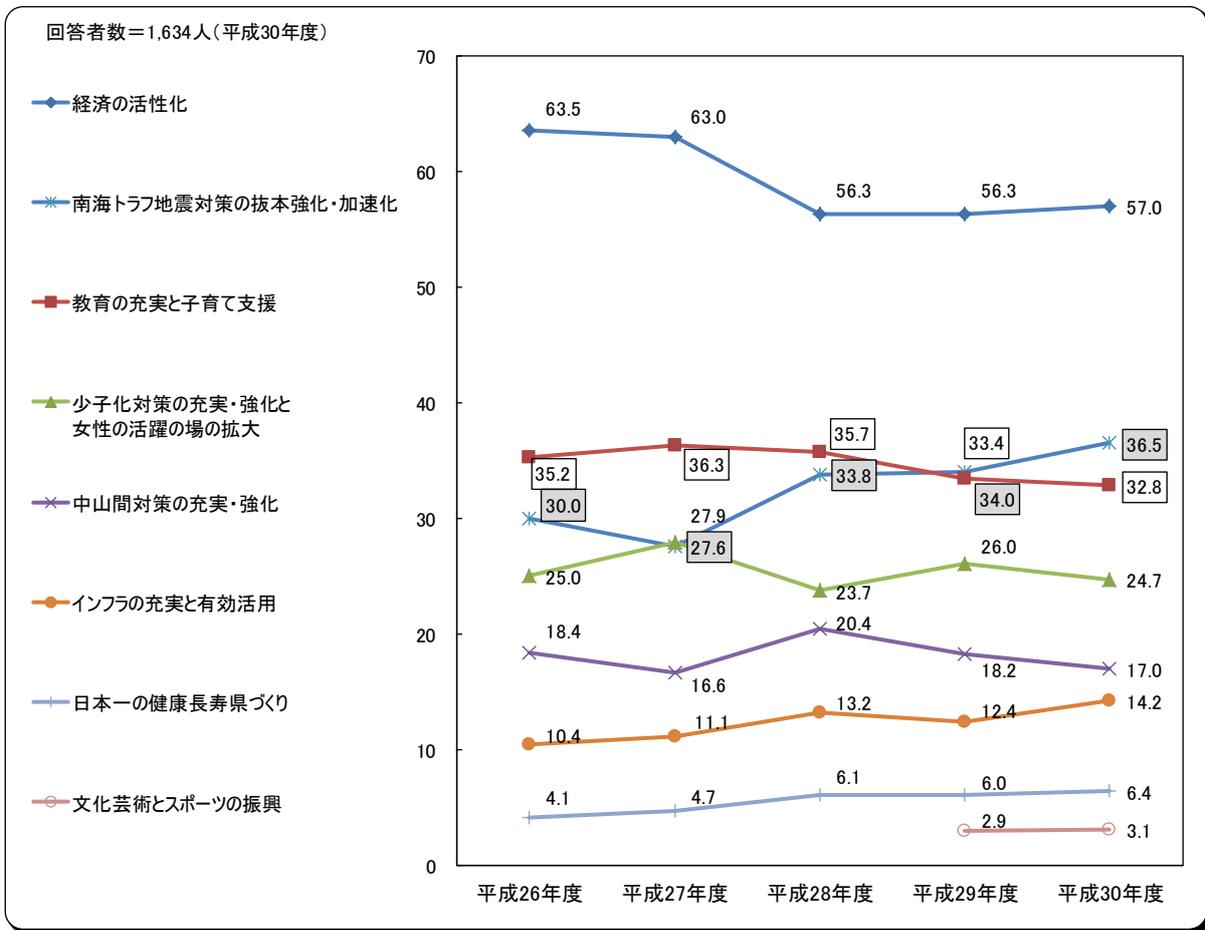
(2つまで○印)

【総合】 「経済の活性化」が57.0%と1位になっている。

次いで「南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化」が36.5%、「教育の充実と子育て支援」が32.8%と続いている。

【過去の調査との比較】

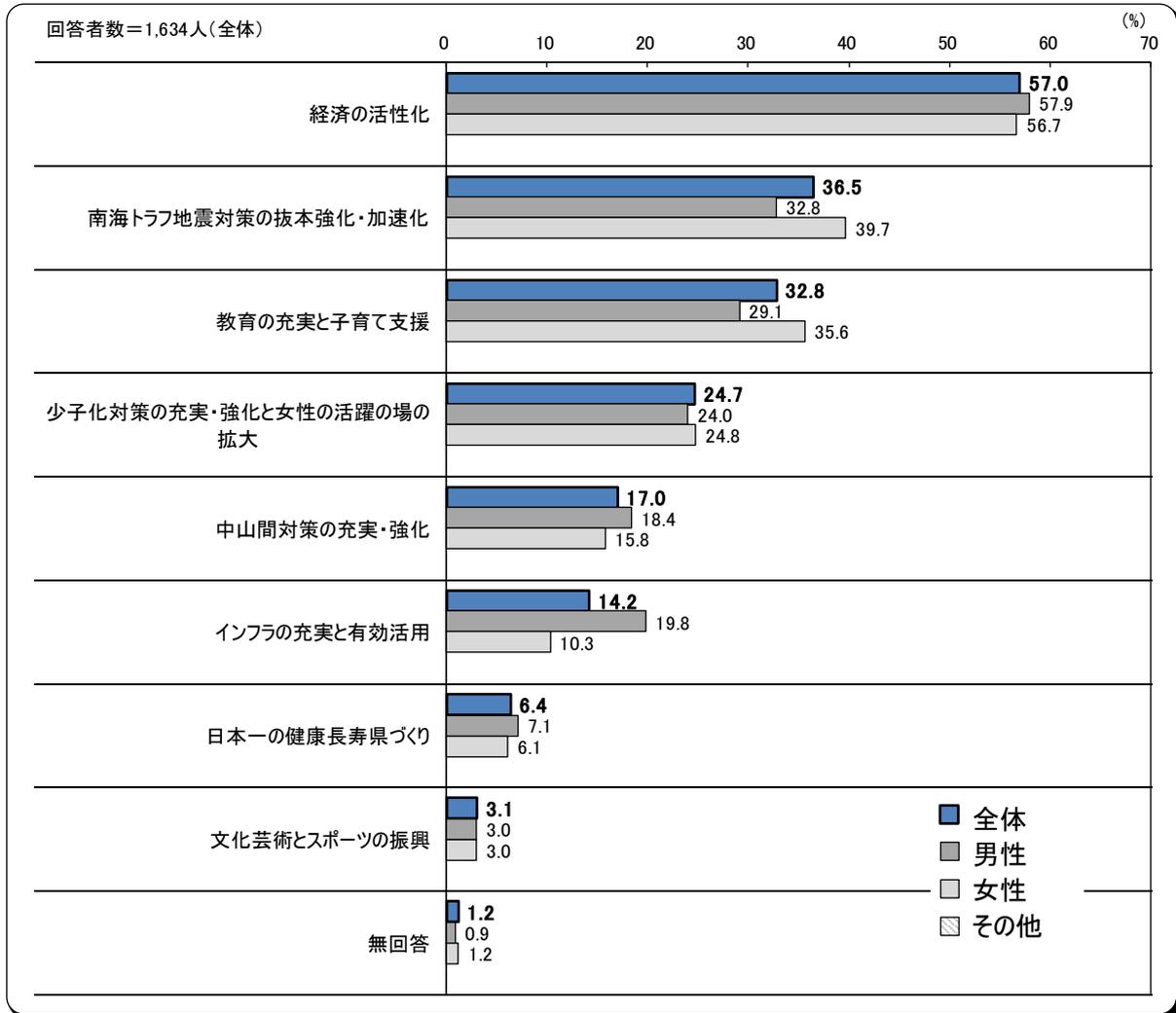
選択数が増えられたため単純な比較はできないが、今年度も「経済の活性化」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

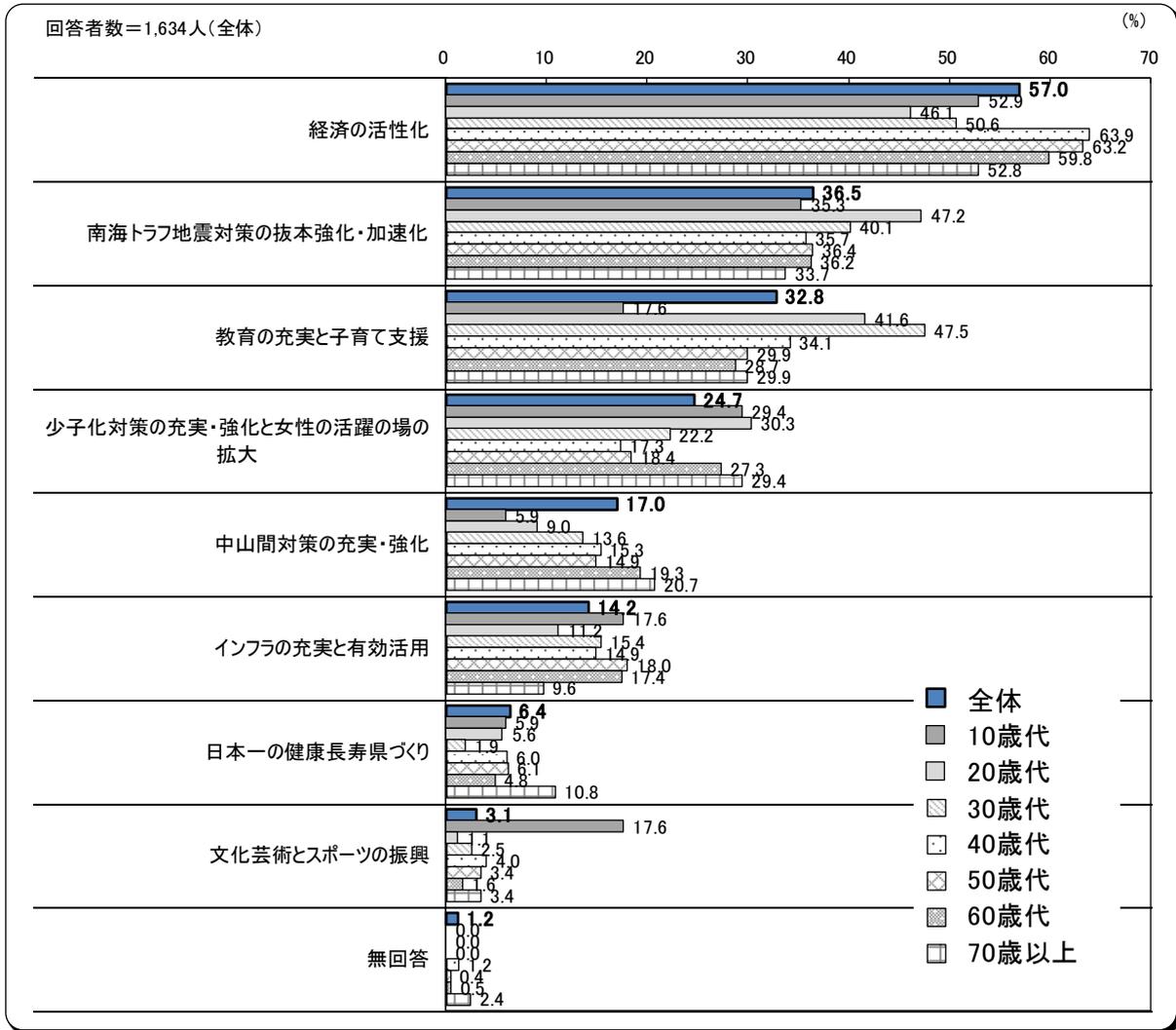
◀性別▶



【年代別】

20歳代を除くすべての年代で「経済の活性化」が半数を超えて1位になっている。

《年代別》



## 2. 第3期産業振興計画ver.3について

### (1) 人手不足の解消に向けて特に力を入れるべき取り組みについて

問 12 人手不足の解消に向けて、県が行っている次の取り組みのうち特に力を入れるべきものは何ですか。(2つまで○印)

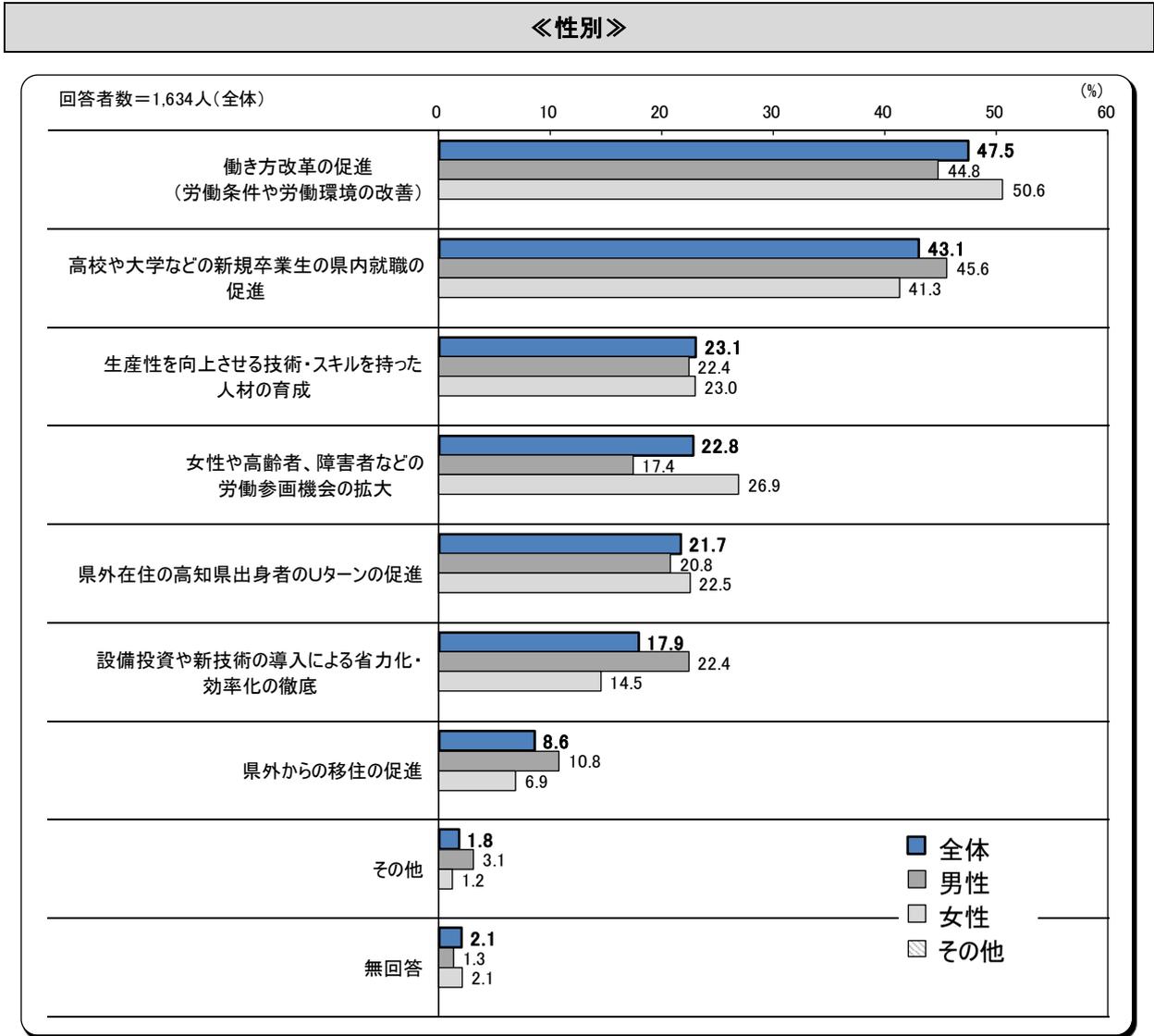
【総合】 「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」が47.5%と1位になっている。次いで「高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進」が43.1%、「生産性を向上させる技術・スキルを持った人材の育成」が23.1%と続いている。

《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,634 人
働き方改革の促進 (労働条件や労働環境の改善)	47.5	776 人
高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進	43.1	704 人
生産性を向上させる技術・スキルを持った人材の育成	23.1	377 人
女性や高齢者、障害者などの労働参画機会の拡大	22.8	372 人
県外在住の高知県出身者のUターンの促進	21.7	354 人
設備投資や新技術の導入による省力化・効率化の徹底	17.9	293 人
県外からの移住の促進	8.6	141 人
その他	1.8	30 人
無回答	2.1	34 人

グラフ単位：(%)

【性別】

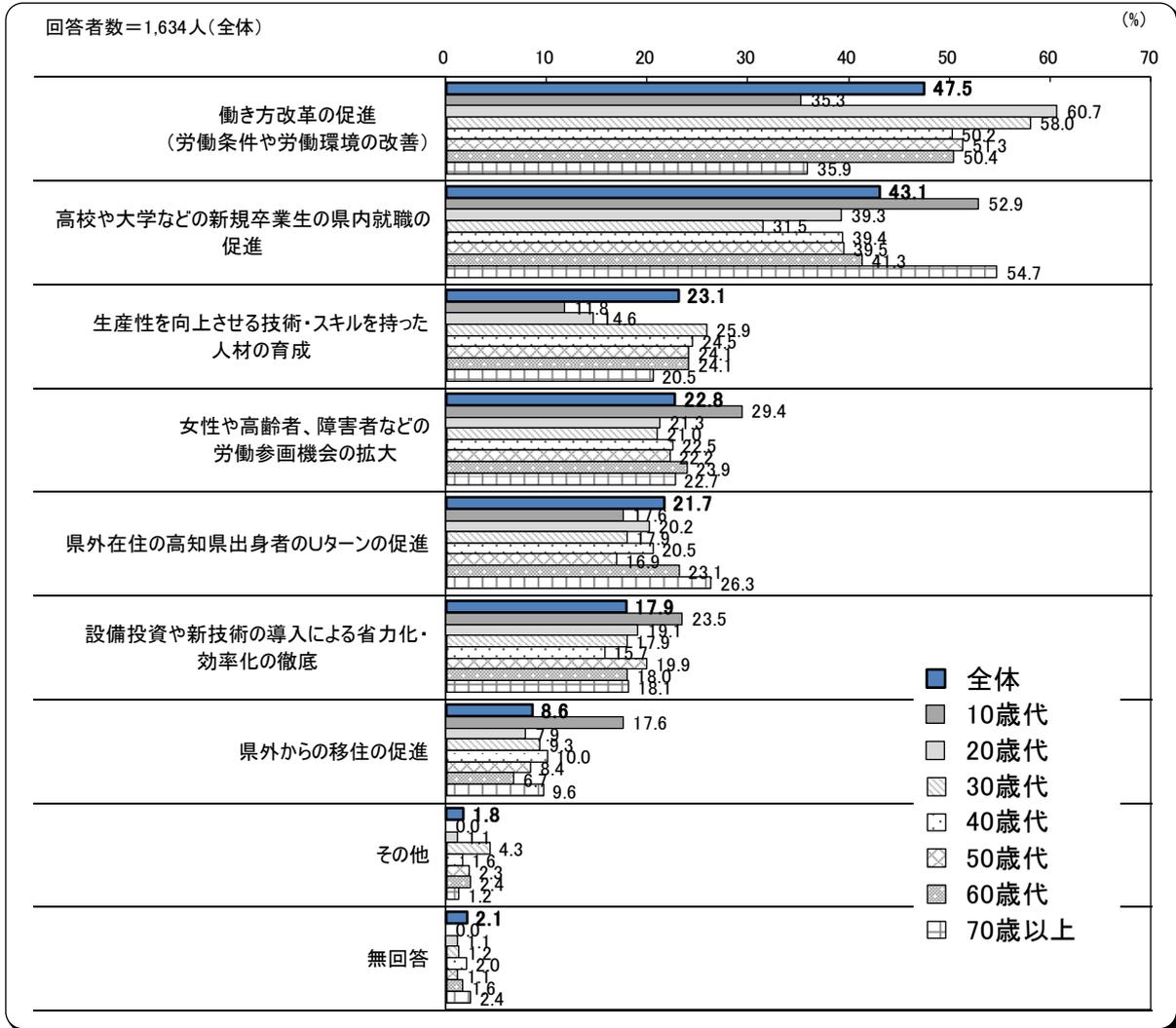
男性では「高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進」が、女性では「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」が1位になっている。



【年代別】

10歳代、70歳以上では「高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進」が、そのほかの年代では「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」が1位になっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」、「高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進」の割合が高くなっている。

《職業別》

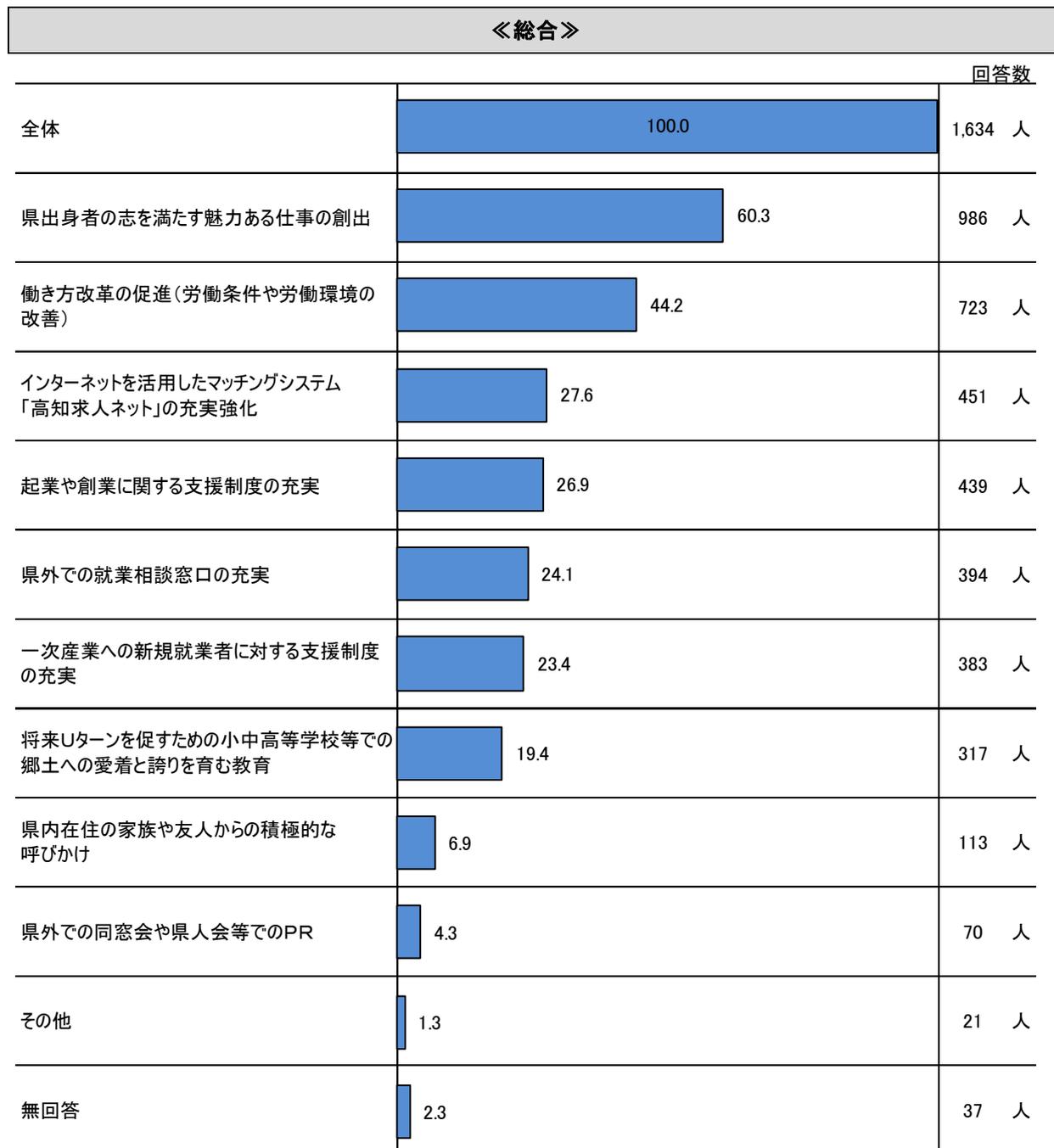
	全体	設備投資や新技術の導入による省力化・効率化の徹底	働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）	生産性を向上させる技術・スキルをを持った人材の育成	高校や大学などの新規卒業生の県内就職の促進	女性や高齢者、障害者などの労働参加の拡大	県外からの移住の促進	県外在住の高知県出身者のＵターンの促進	その他	無回答	
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体	1,634 100.0	293 17.9	776 47.5	377 23.1	704 43.1	372 22.8	141 8.6	354 21.7	30 1.8	34 2.1	
職業	農林業	85	31.8	44.7	21.2	44.7	14.1	7.1	22.4	3.5	1.2
	漁業	10	10.0	20.0	20.0	70.0	20.0	20.0	10.0	-	10.0
	商工サービス業自営	128	20.3	41.4	26.6	45.3	23.4	8.6	24.2	2.3	0.8
	事務職	160	15.0	50.0	30.0	37.5	23.1	8.8	18.8	1.3	2.5
	技術職	189	21.2	56.1	22.8	38.6	18.5	6.9	22.2	2.1	0.5
	労務職	165	17.6	57.6	26.1	34.5	18.2	10.9	19.4	0.6	1.2
	管理職	67	23.9	43.3	25.4	50.7	13.4	11.9	25.4	1.5	-
	自由業	26	19.2	50.0	23.1	19.2	23.1	15.4	11.5	11.5	-
	主婦・主夫	174	12.1	48.3	24.1	43.1	28.2	5.2	23.0	1.1	2.3
	学生	23	26.1	52.2	13.0	39.1	30.4	13.0	13.0	-	-
	無職	380	16.6	40.8	18.2	53.9	25.8	8.4	23.9	1.6	2.4
	その他	147	16.3	53.7	19.7	34.0	25.2	10.9	19.0	4.8	2.0

(2) 県外在住の県出身者のUターン対策について

問 13 県では、県外在住の県出身者のUターン対策を進めています。今後、このUターン対策を進めるにあたり、何に力を入れる必要があると思いますか。(3つまで○印)

【総合】 「県出身者の志を満たす魅力ある仕事の創出」が60.3%と1位になっている。

次いで「働き方改革の促進(労働条件や労働環境の改善)」が44.2%、「インターネットを活用したマッチングシステム「高知求人ネット」の充実強化」が27.6%と続いている。

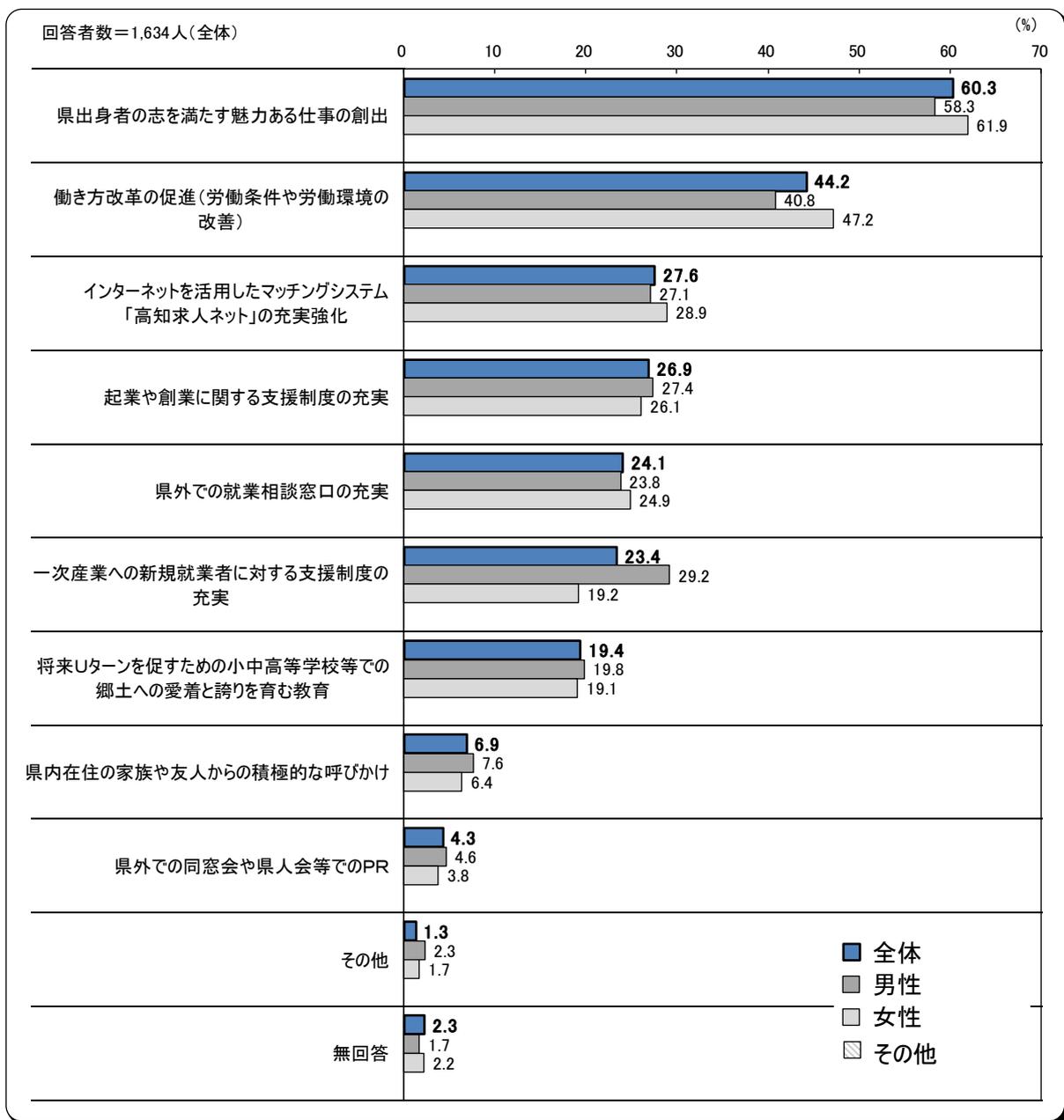


グラフ単位:(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

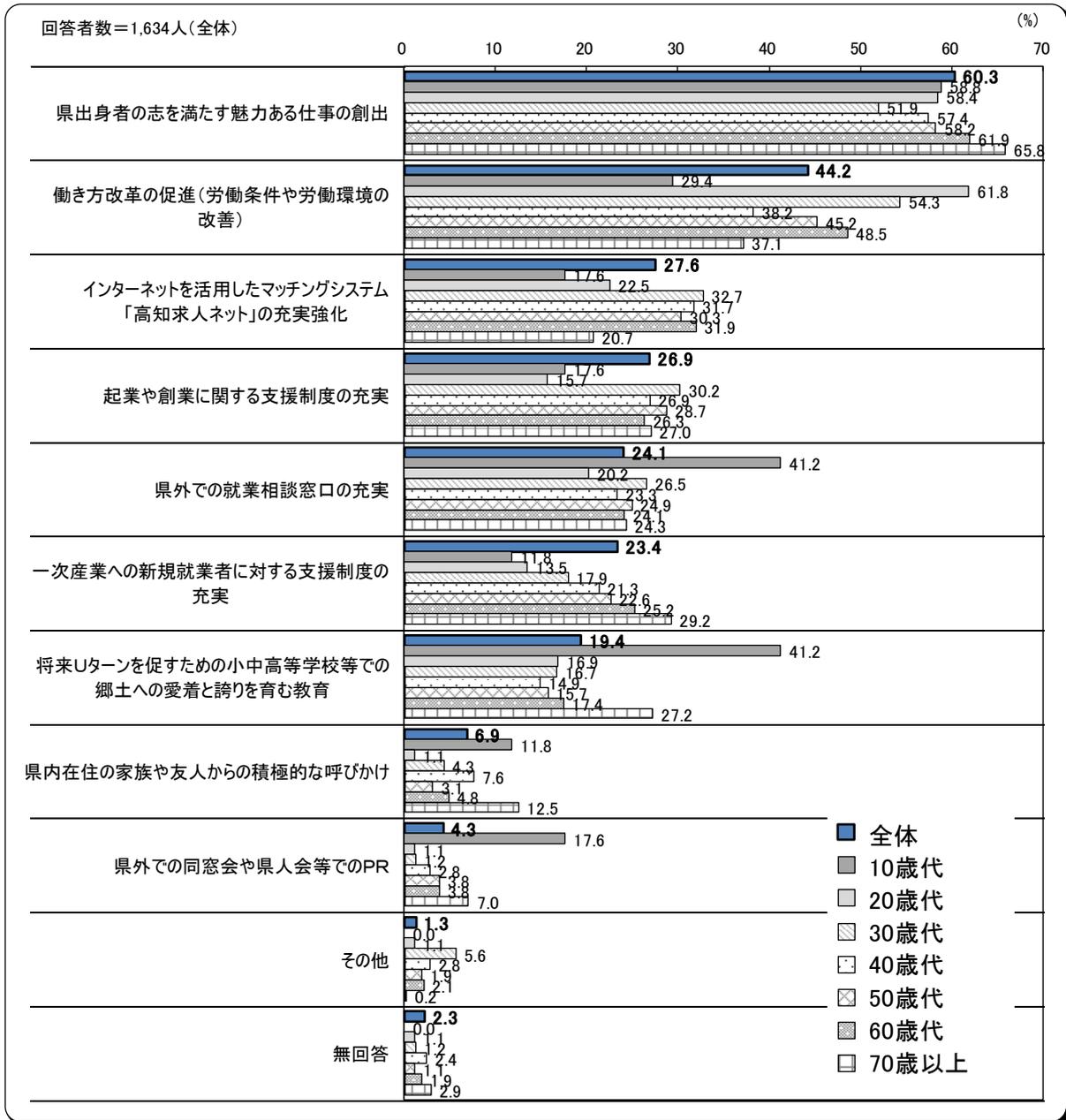
◀性別▶



【年代別】

20歳代、30歳代では「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」が、そのほかの年代では「県出身者の志を満たす魅力ある仕事の創出」が1位になっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「県出身者の志を満たす魅力ある仕事の創出」が1位になっている。次いで、漁業、商工サービス業自営を除くすべての職業で「働き方改革の促進（労働条件や労働環境の改善）」が続いている。

《職業別》

	全体	創出 県出身者の志を満たす魅力ある仕事の	呼びかけ 県内在住の家族や友人からの積極的な	県外での同窓会や県人会等でのPR	県外での就業相談窓口の充実	化 システム「高知求人ネット」の充実 強化	イン システム「高知求人ネット」の充実 強化	一 次産業への新規就業者に対する支援 制度の充実	起 業や創業に関する支援制度の充実	育 校等での郷土への愛着と誇りを育む教育	将 来Uターンを促すための小中高等学	境 働き方改革の促進（労働条件や労働環 境の改善）	そ 他	無 回 答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)														
全体	1,634 100.0	986 60.3	113 6.9	70 4.3	394 24.1	451 27.6	383 23.4	439 26.9	317 19.4	723 44.2	21 1.3	37 2.3		
職業	農林業	85 57.6	9.4	4.7	27.1	27.1	38.8	20.0	20.0	43.5	2.4	-		
	漁業	10 60.0	10.0	10.0	20.0	20.0	40.0	10.0	40.0	20.0	-	10.0		
	商工サービス業自営	128 57.0	6.3	3.9	23.4	37.5	25.8	24.2	24.2	35.2	4.7	0.8		
	事務職	160 56.3	3.1	1.9	26.3	32.5	20.6	29.4	13.1	45.6	3.1	1.9		
	技術職	189 59.3	2.6	1.6	26.5	27.5	20.6	25.4	21.2	52.9	2.6	1.1		
	労務職	165 60.0	7.3	4.8	20.6	31.5	16.4	27.3	18.2	52.1	-	1.2		
	管理職	67 61.2	7.5	4.5	25.4	26.9	29.9	26.9	16.4	40.3	-	-		
	自由業	26 65.4	7.7	3.8	11.5	23.1	23.1	26.9	11.5	38.5	15.4	-		
	主婦・主夫	174 67.2	6.9	4.6	23.0	26.4	20.7	29.3	17.2	41.4	1.1	2.9		
	学生	23 65.2	8.7	13.0	39.1	17.4	13.0	17.4	34.8	39.1	-	-		
	無職	380 62.9	10.0	5.0	23.7	22.9	27.6	29.2	22.4	41.3	0.8	2.9		
	その他	147 55.8	5.4	4.1	26.5	32.0	19.0	23.1	15.0	48.3	2.7	3.4		

### 3. がん検診について

#### (1) がんの知識について

問 14 あなたが、がんについて知っていることをお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が75.7%と1位になっている。

次いで「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法(化学療法含)がある」が74.1%、「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である」が71.2%と続いている。

#### 《総合》

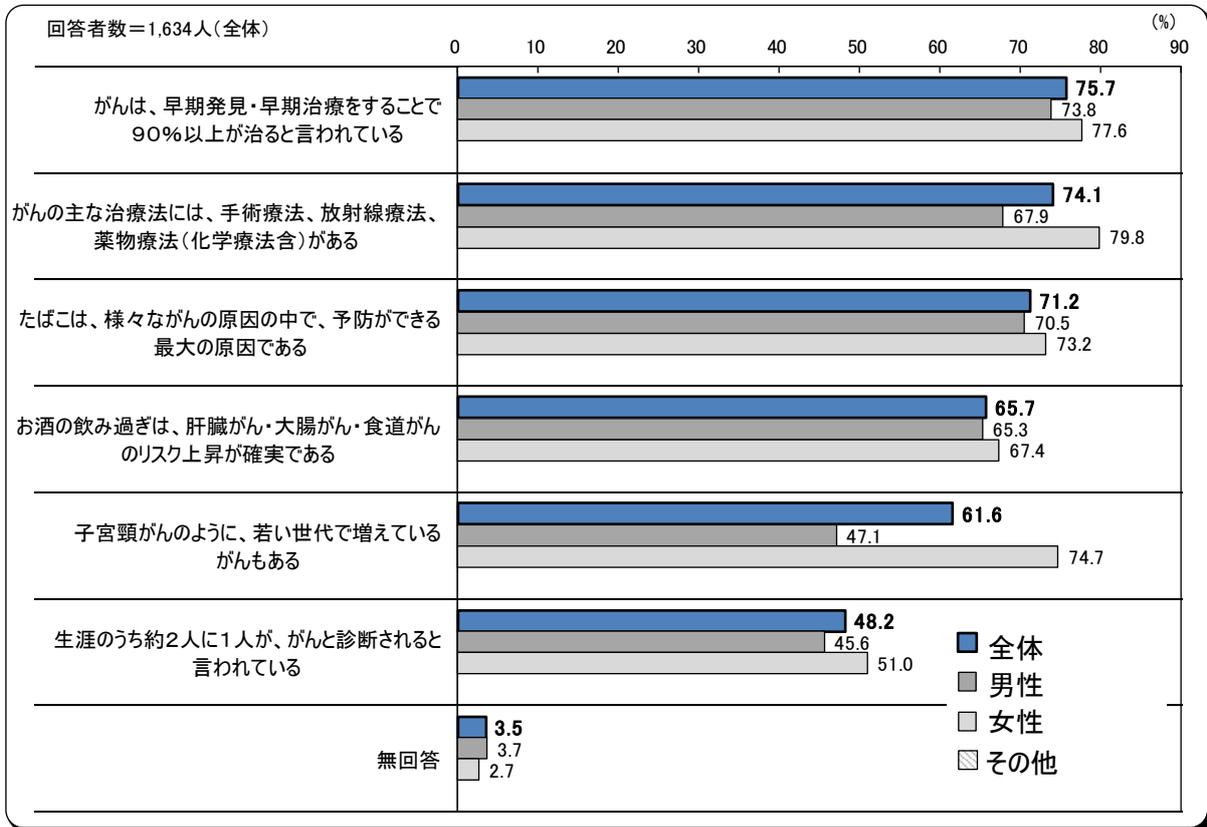
		回答数
全体	100.0	1,634 人
がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている	75.7	1,237 人
がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法(化学療法含)がある	74.1	1,211 人
たばこは、様々ながんの原因の中で、予防ができる最大の原因である	71.2	1,163 人
お酒の飲み過ぎは、肝臓がん・大腸がん・食道がんのリスク上昇が確実である	65.7	1,073 人
子宮頸がんのように、若い世代で増えているがんもある	61.6	1,006 人
生涯のうち約2人に1人が、がんと診断されると言われている	48.2	788 人
無回答	3.5	57 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男性では「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が、女性では「がんの主な治療法には、手術療法、放射線療法、薬物療法（化学療法含）がある」が1位になっている。

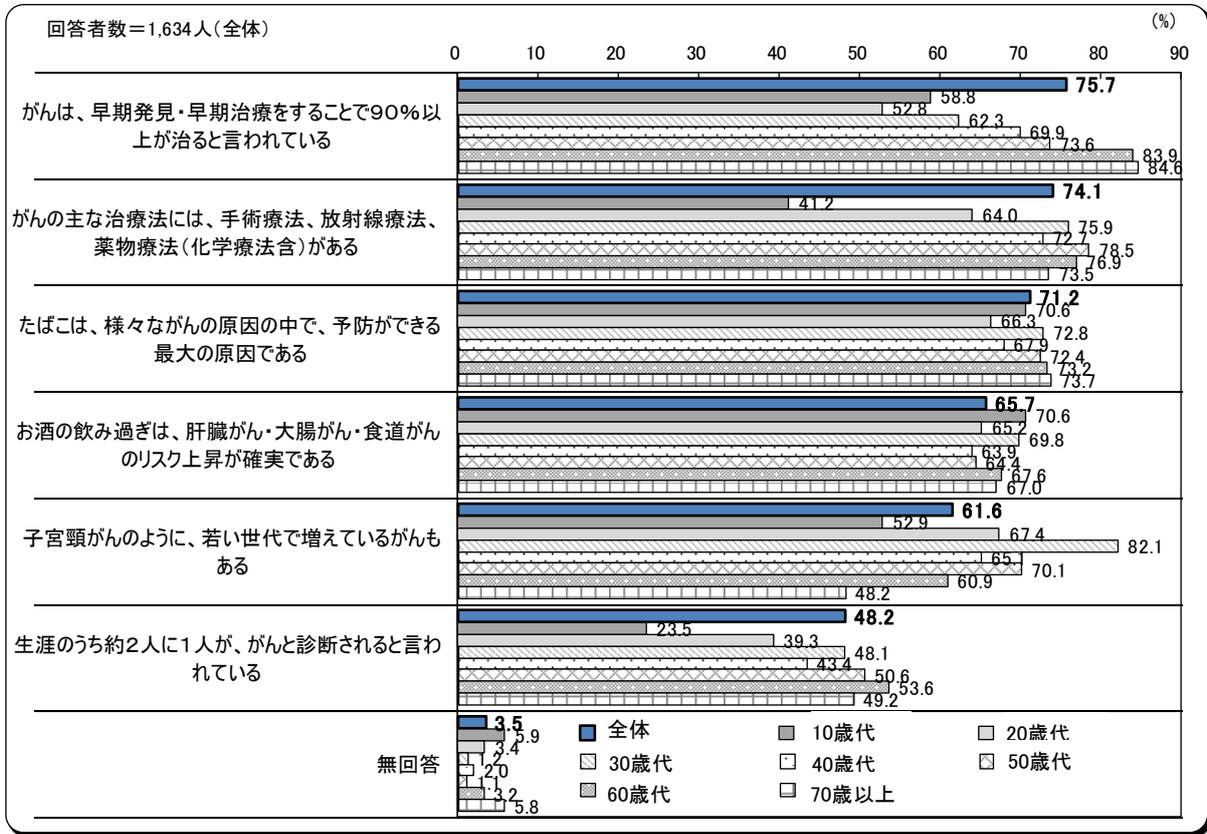
◀性別▶



【年代別】

いずれも「がんは、早期発見・早期治療をすることで90%以上が治ると言われている」が、半数を超えており、60歳代、70歳以上では8割を超えている。

《年代別》



(2)対象となるがん検診について

問 15 子宮頸がん検診は 20 歳以上の女性、乳がん検診は 40 歳以上の女性、肺がん・胃がん・大腸がん検診は 40 歳以上の全ての住民の方を対象に市町村が実施しなければならないこととなっています。また、職場健診や加入している医療保険者でがん検診が実施されている場合もあります。

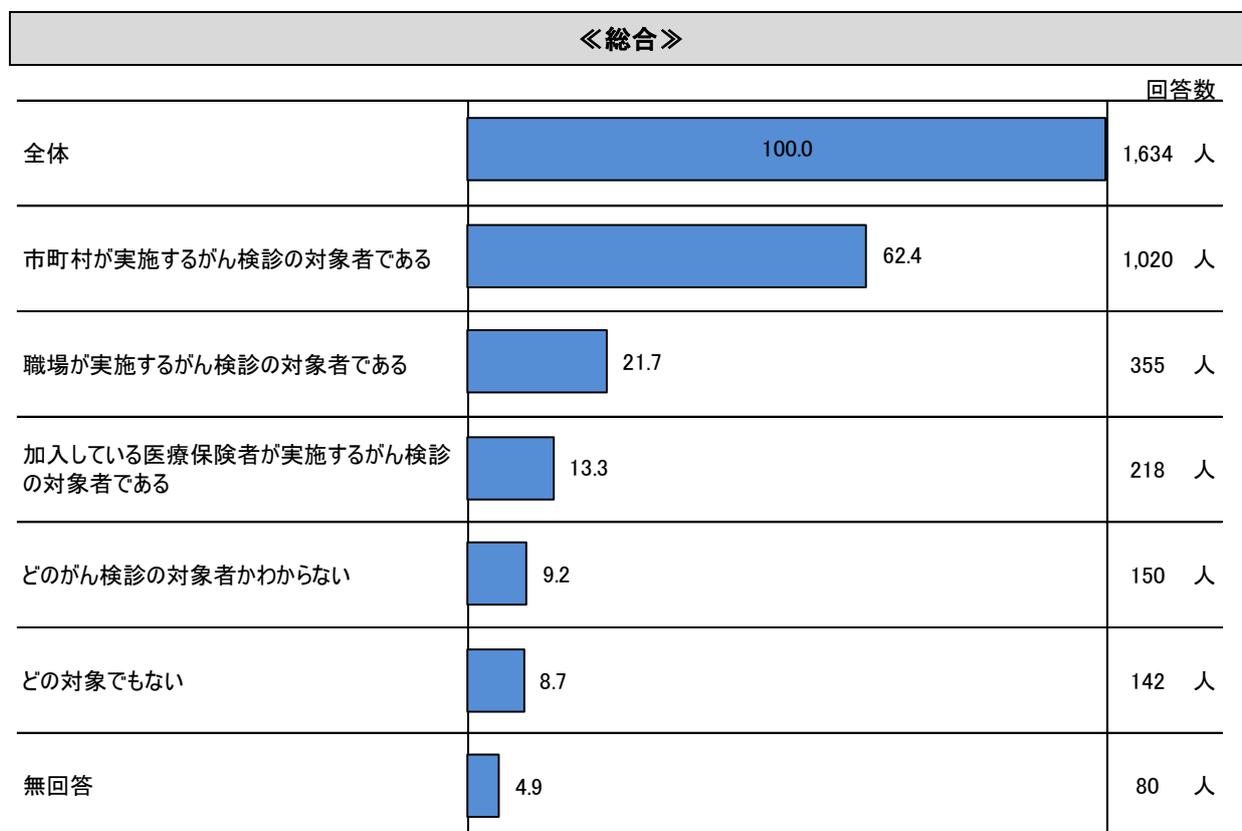
あなたは、次の「1～5」のうち、どれに該当しますか。

(19 歳以下の女性と 39 歳以下の男性は「5」を選んでください)

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「市町村が実施するがん検診の対象者である」が 62.4%と 1 位になっている。

次いで「職場が実施するがん検診の対象者である」が 21.7%、「加入している医療保険者が実施するがん検診の対象者である」が 13.3%と続いている。

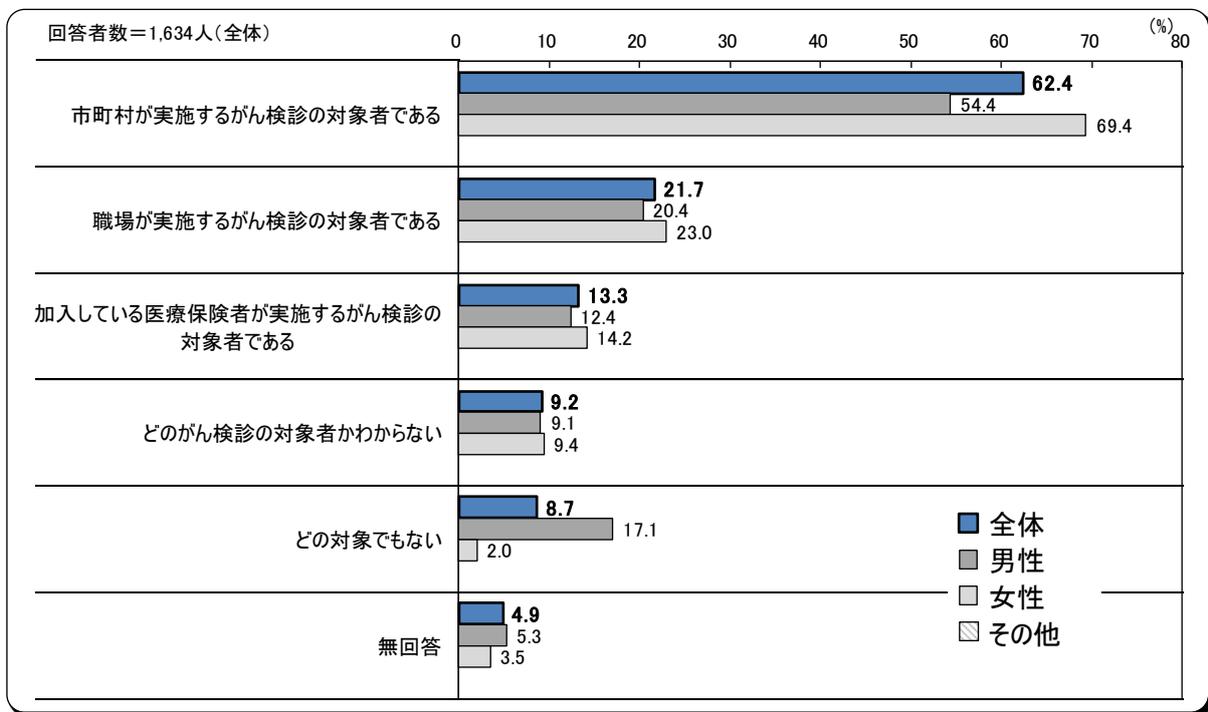


グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

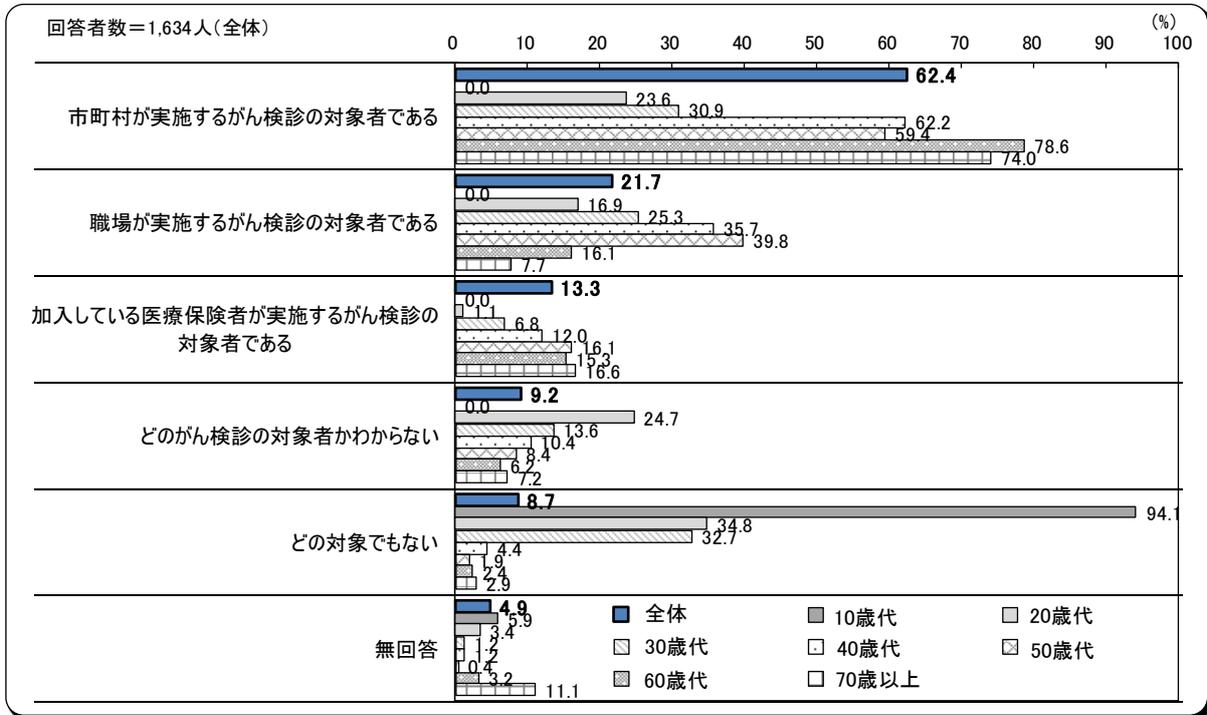
◀性別▶



【年代別】

がん検診の対象年齢が、女性は20歳、男性は40歳からということもあり、10歳代～30歳代では「どの対象でもない」が、40歳代～70歳以上では「市町村が実施するがん検診の対象者である」が1位になっている。

《年代別》



### (3)がん検診に関する情報の周知について

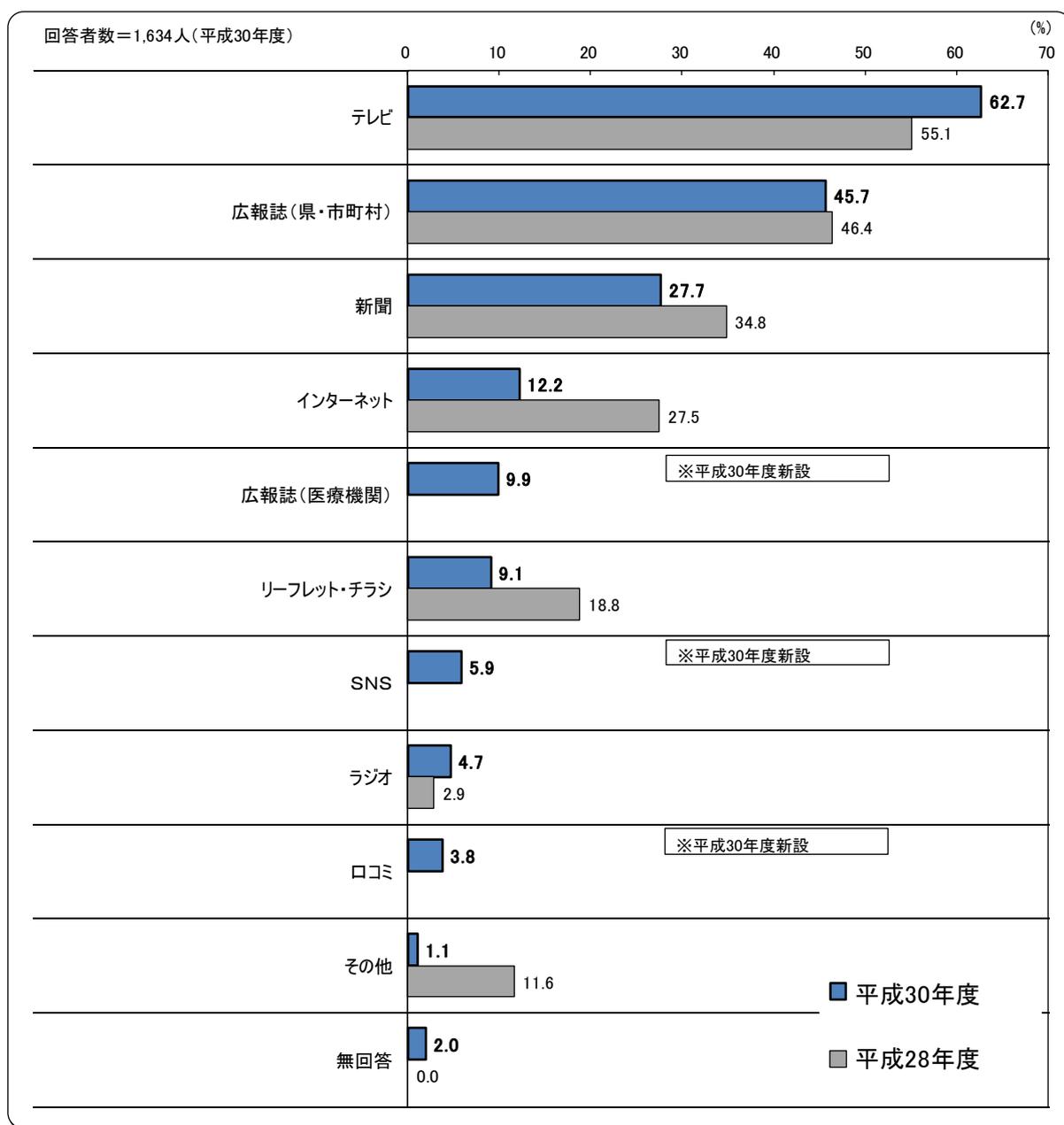
問 16 あなたは、がん検診に関する情報をどの媒体を活用して周知すればいいと思いますか。  
(2つまで○印)

【総合】 「テレビ」が62.7%と1位になっている。

次いで「広報誌（県・市町村）」が45.7%、「新聞」が27.7%と続いている。

#### 【過去の調査との比較】

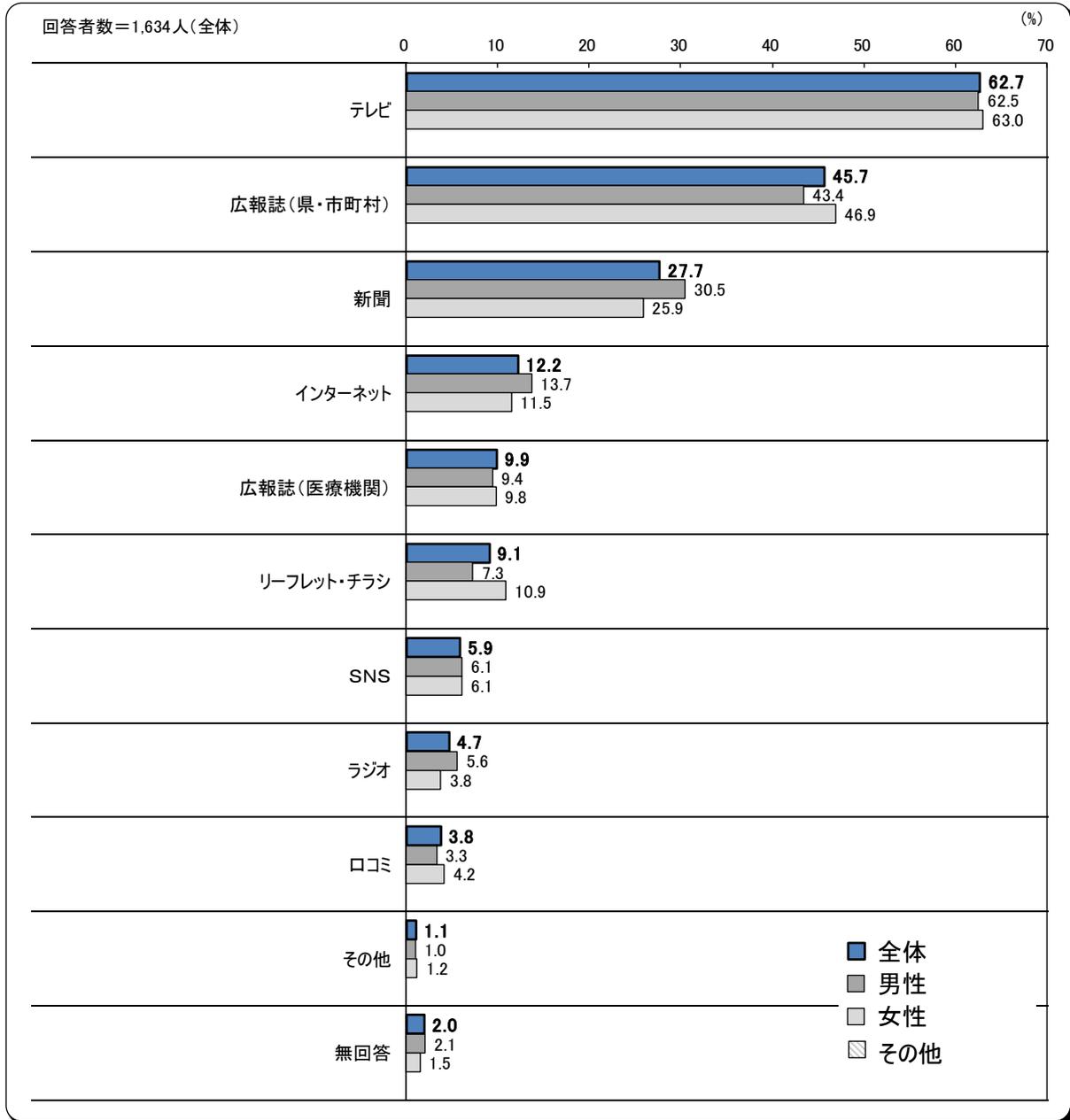
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、28年度と変わらず「テレビ」が1位となっている。



【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

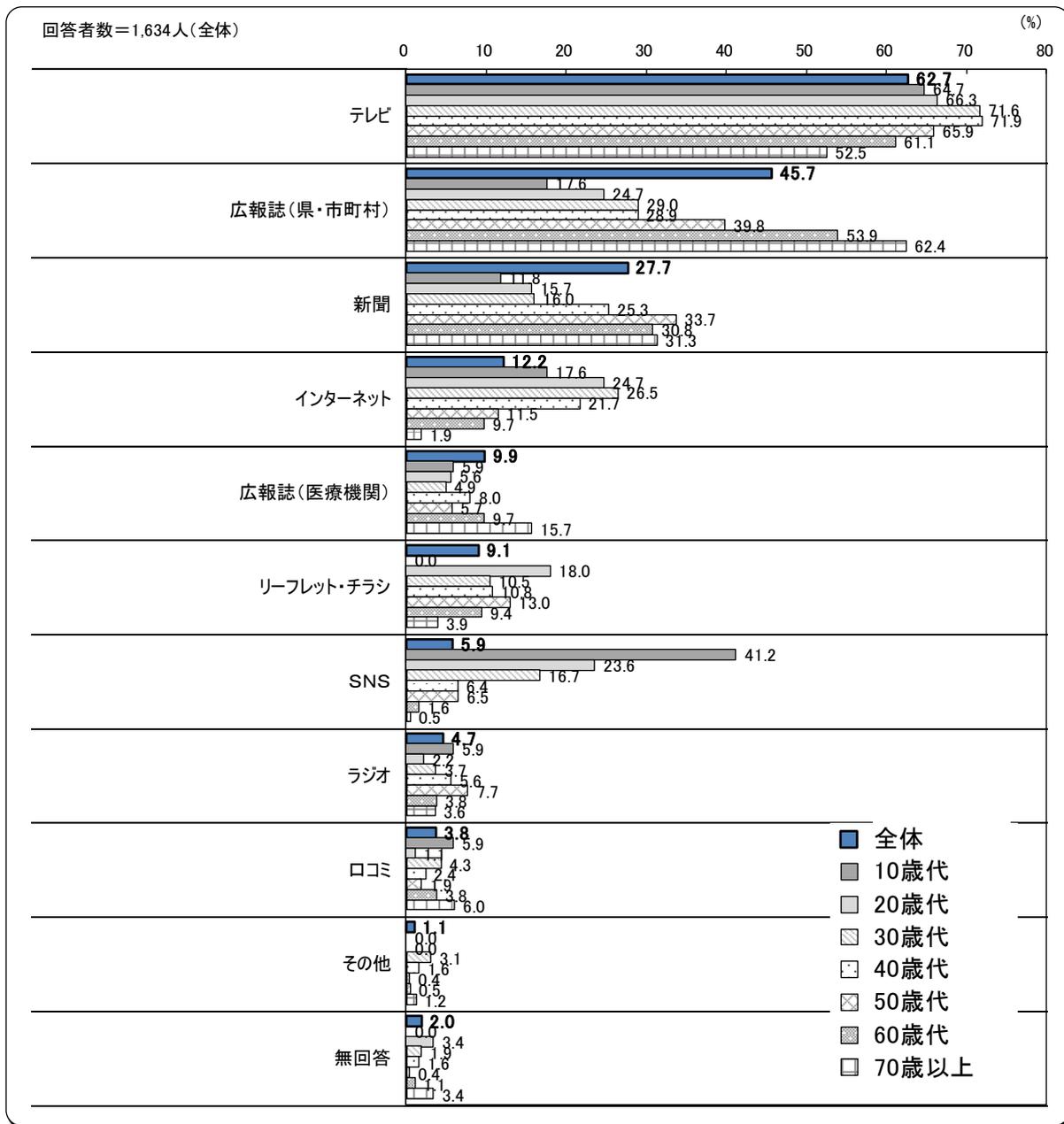
《性別》



【年代別】

10歳代～60歳代では「テレビ」が、70歳以上では「広報誌（県・市町村）」が1位になっている。

《年代別》



(4) 過去1年間に受診したがん検診の種類について

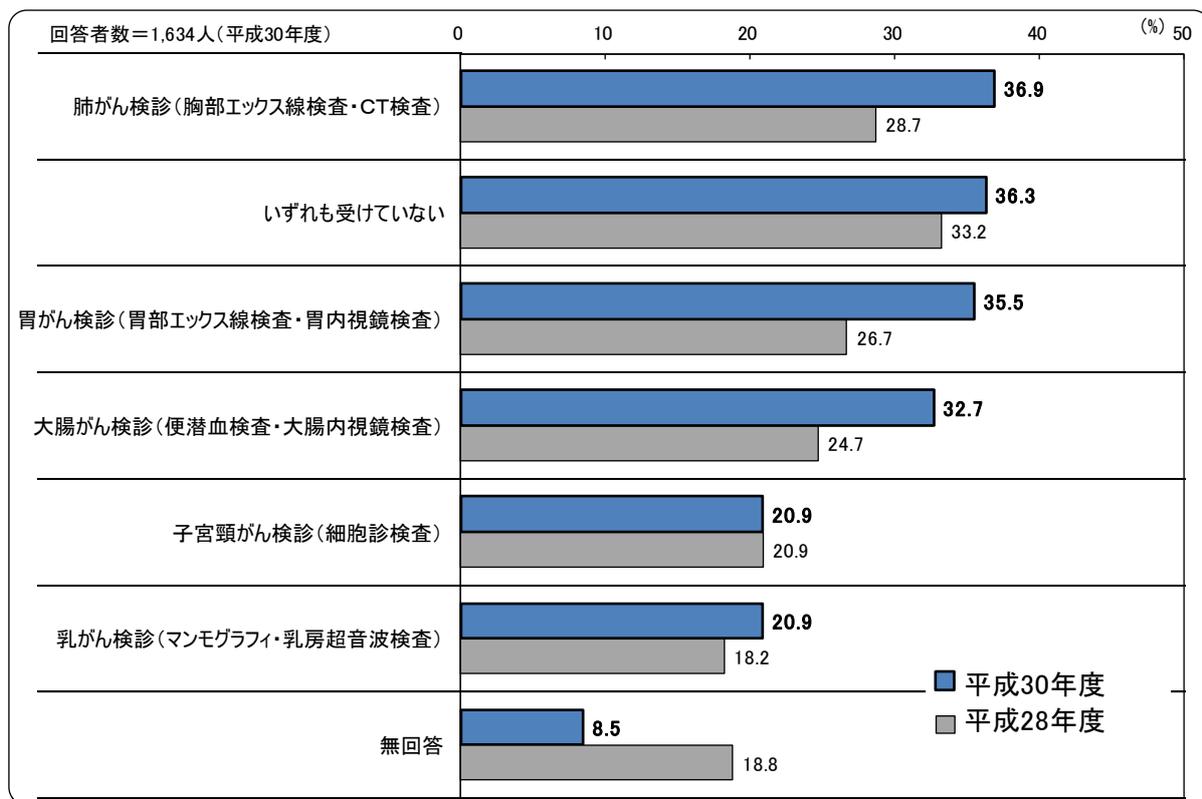
問 17 あなたが、過去1年間（子宮頸がん及び乳がん検診は過去2年間）に受診したがん検診の種類をお答えください。（健康診断や人間ドックで受診したものも含まれます。）

（当てはまるものすべてに○印）

【総合】 「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が36.9%と1位になっている。次いで「いずれも受けていない」が36.3%、「胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）」が35.5%と続いている。

【過去の調査との比較】

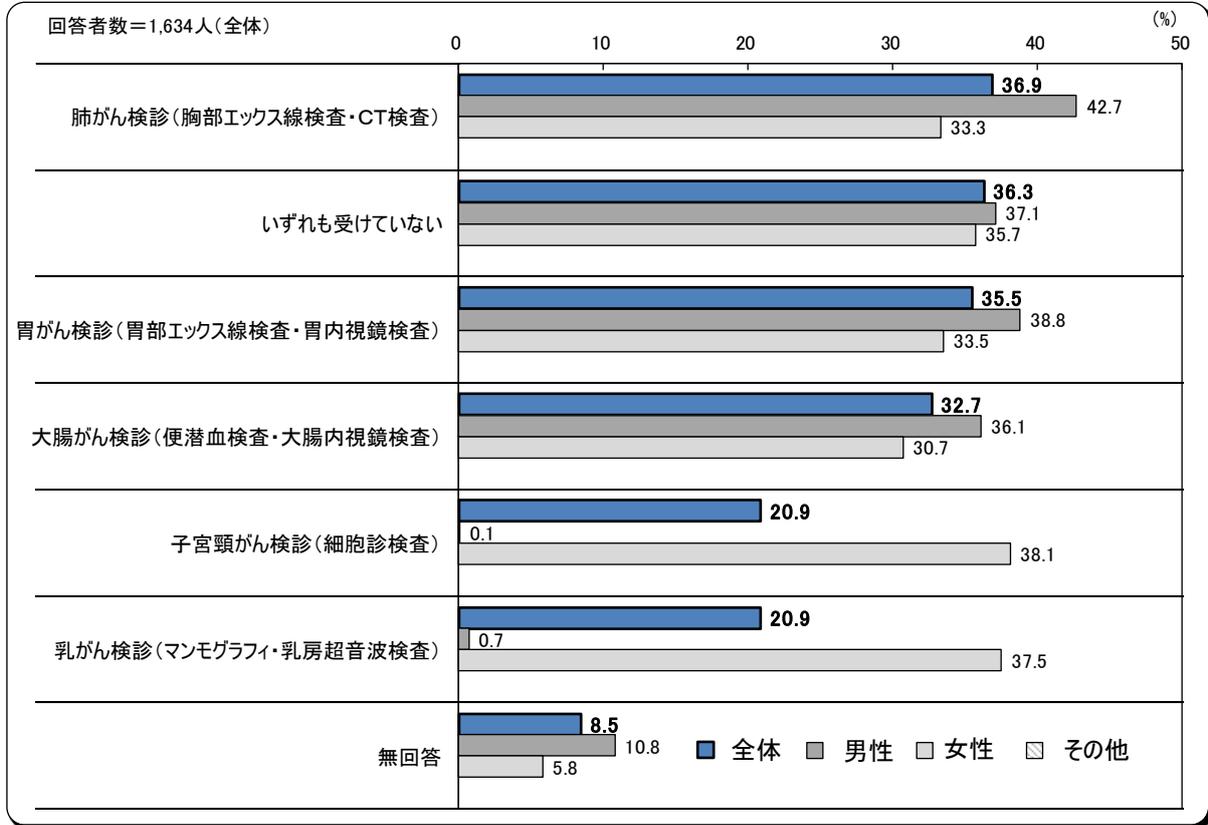
いずれの検診においても、28年度と比較するとほぼ維持、増加している。



【性別】

男性では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が、女性では「子宮頸がん検診（細胞診検査）」が1位になっている。

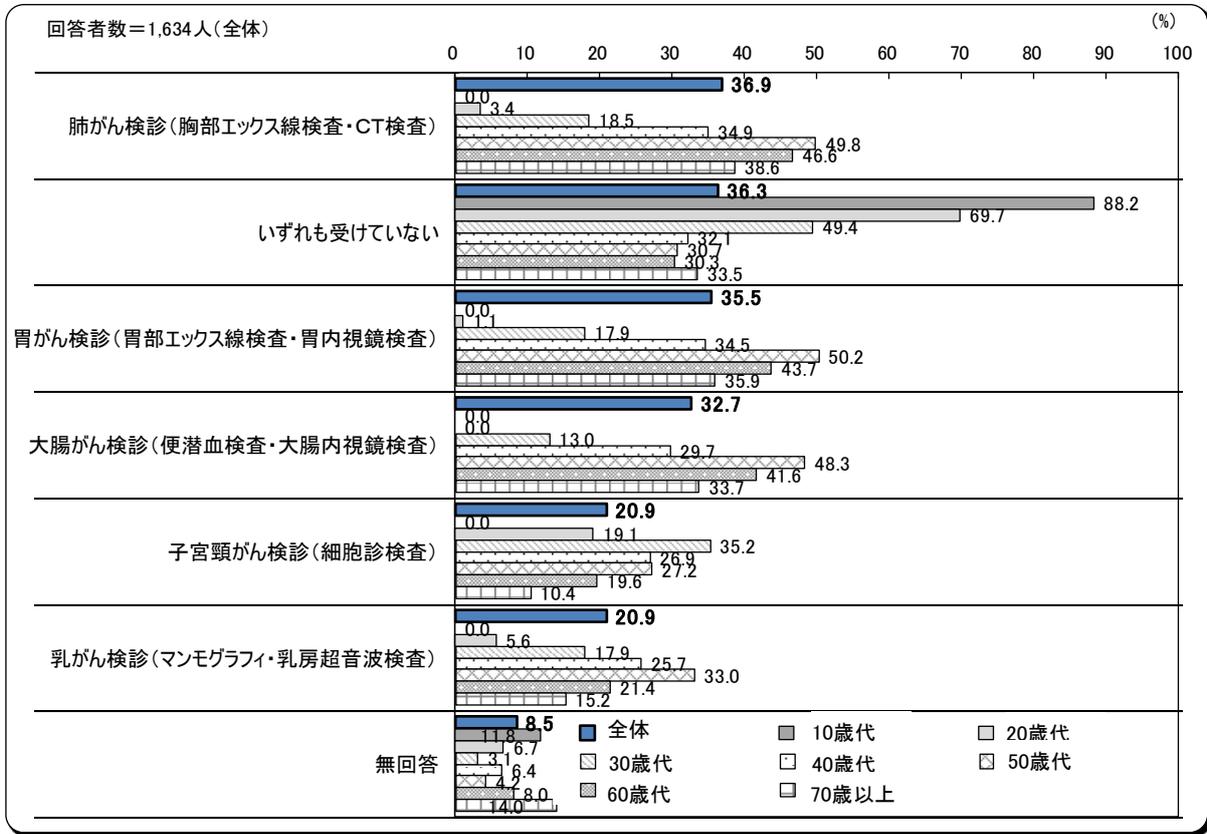
《性別》



【年代別】

50歳代では「胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）」が、40歳代、60歳代、70歳以上では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が1位になっている。

《年代別》



【世帯年収別】

0～100万円未満から300～400万円未満では「いずれも受けていない」が、400～600万円未満から800～1,000万円未満では「胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）」が、1,000万円以上では「肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）」が1位になっている。

＜世帯年収別＞

		全体	いずれも受けていない	肺がん検診（胸部エックス線検査・CT検査）	胃がん検診（胃部エックス線検査・胃内視鏡検査）	大腸がん検診（便潜血検査・大腸内視鏡検査）	子宮頸がん検診（細胞診検査）	乳がん検診（マンモグラフィ・乳房超音波検査）	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)									
全体		1,634 100.0	593 36.3	603 36.9	580 35.5	534 32.7	342 20.9	342 20.9	139 8.5
世帯年収	0～100万円未満	123	40.7	29.3	25.2	22.8	13.8	17.9	17.9
	100～200万円未満	256	39.8	33.6	31.6	29.7	17.2	18.8	10.5
	200～300万円未満	321	41.1	37.1	29.6	29.0	16.2	15.6	8.1
	300～400万円未満	223	36.8	35.4	36.3	36.3	22.4	23.8	6.7
	400～600万円未満	271	33.2	38.0	39.1	35.1	24.4	21.4	4.8
	600～800万円未満	162	27.8	45.1	47.5	44.4	30.2	27.8	4.3
	800～1,000万円未満	69	27.5	56.5	58.0	46.4	31.9	26.1	1.4
	1,000万円以上	92	32.6	43.5	42.4	34.8	27.2	26.1	6.5

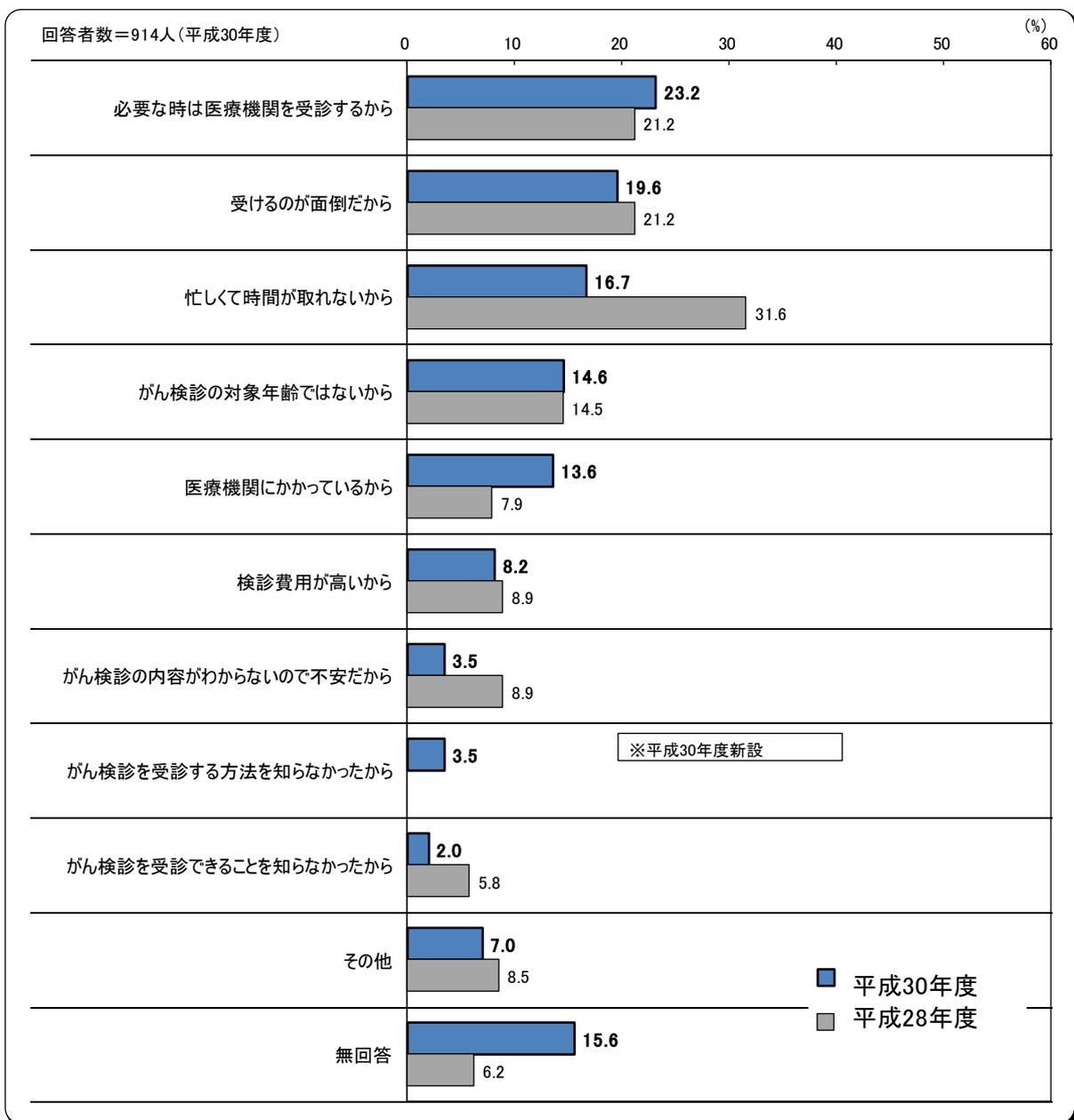
(5)がん検診を受けていない理由について

副問1 (問17で「1」を選んだ方と、女性の方で「5・6」のいずれか一方又は両方ともを選ばなかった方のみお答えください。)  
 がん検診を受けていない理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「必要な時は医療機関を受診するから」が23.2%と1位になっている。次いで「受けるのが面倒だから」が19.6%、「忙しくて時間が取れないから」が16.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

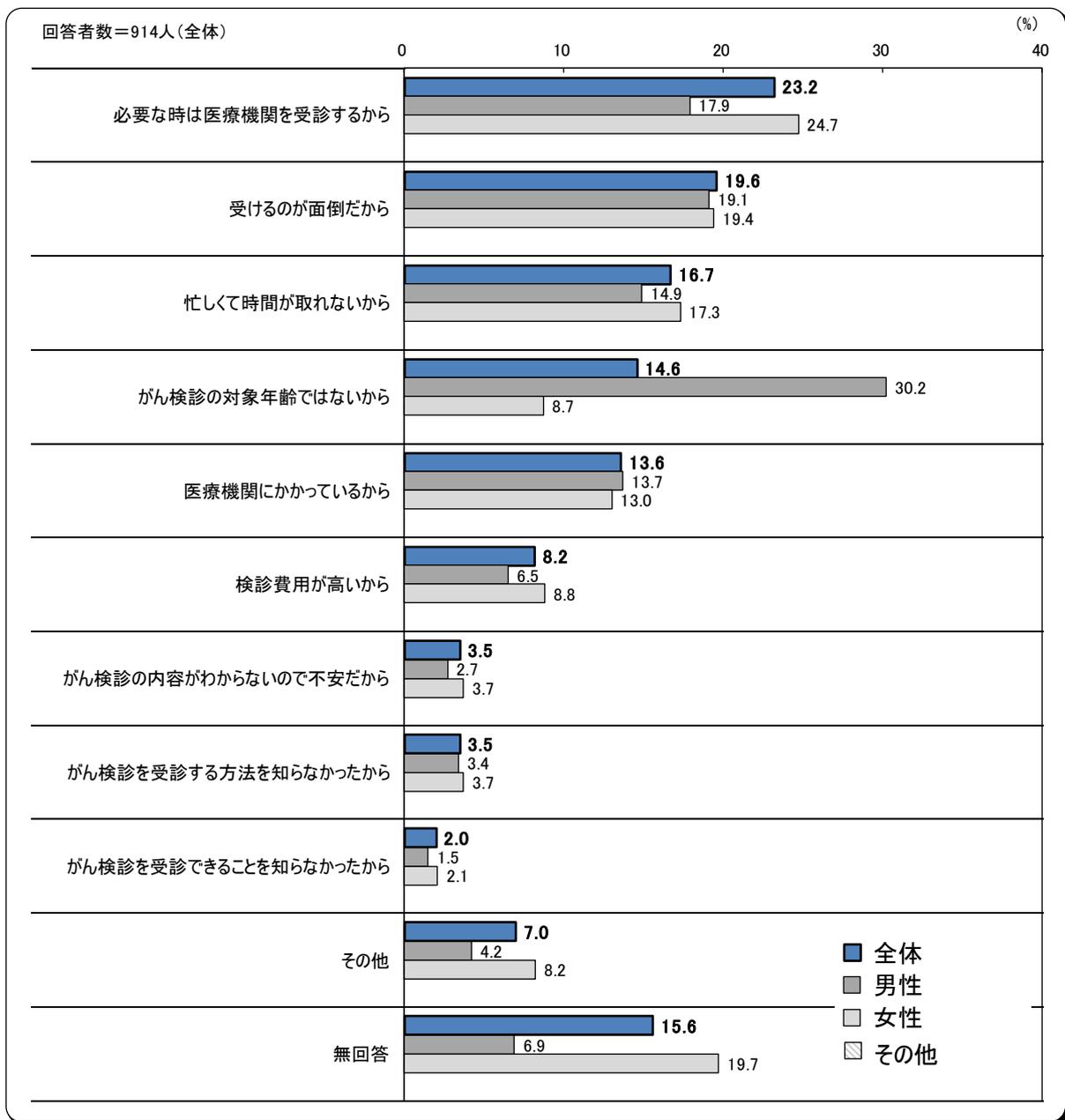
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、「必要な時は医療機関を受診するから」「受けるのが面倒だから」「忙しくて時間が取れないから」の割合が依然高くなっている。



【性別】

男性では「がん検診の対象年齢ではないから」が、女性では「必要な時は医療機関を受診するから」が1位になっている。

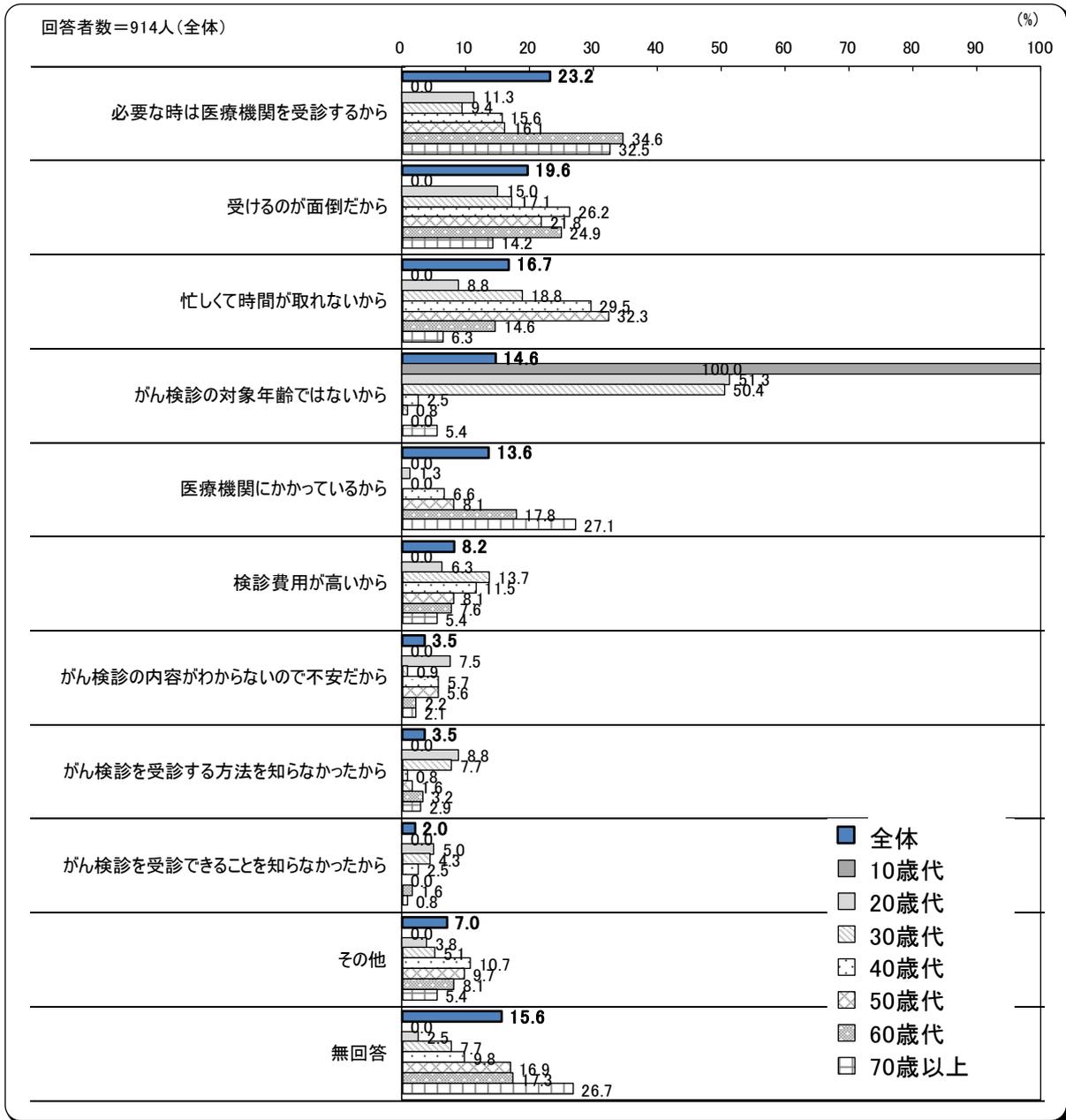
◀性別▶



【年代別】

40歳代、50歳代では「忙しくて時間が取れないから」が、60歳代、70歳以上では「必要な時は医療機関を受診するから」が1位になっている。

《年代別》



【世帯年収別】

0～100万円未満から400～600万円未満では「必要な時は医療機関を受診するから」が、600～800万円未満では「受けるのが面倒だから」が、800～1,000万円未満から1,000万円以上では「忙しくて時間が取れないから」が1位になっている。

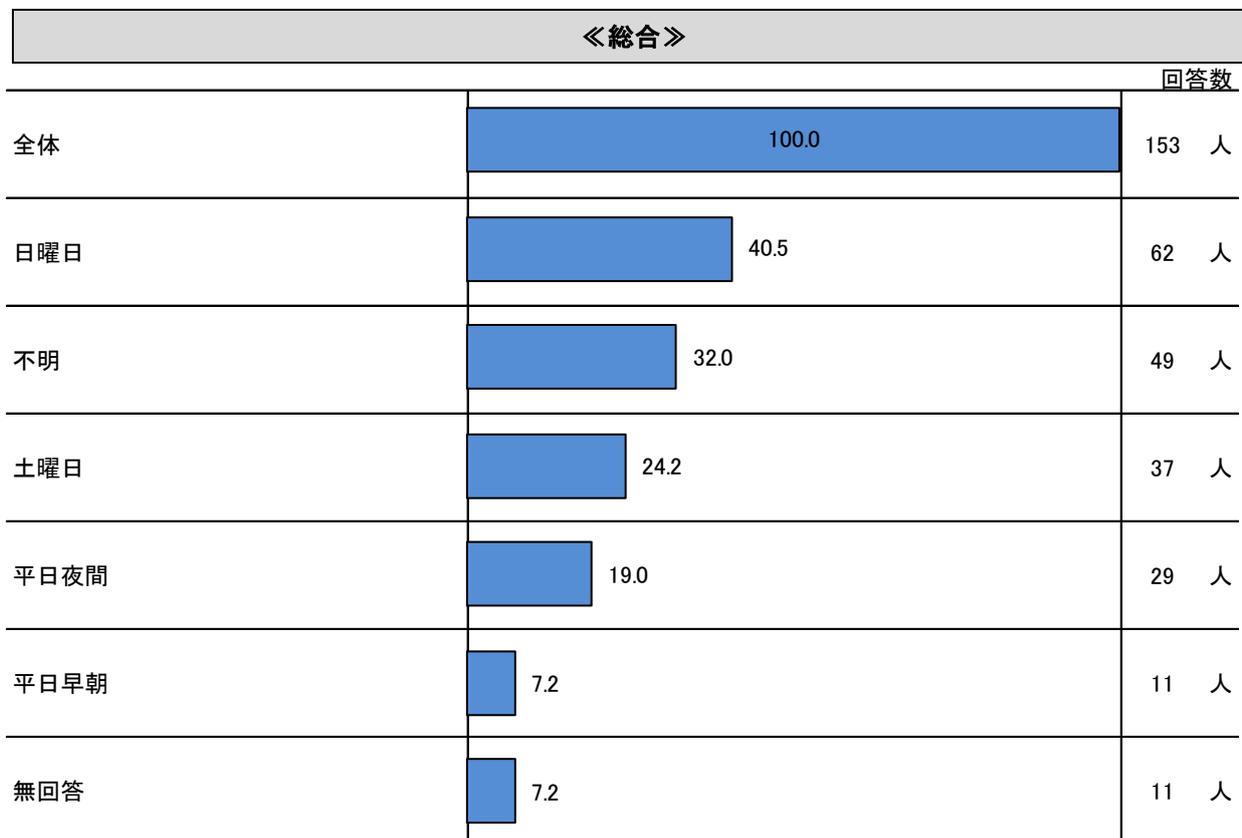
《世帯年収別》

	全体	忙しくて時間が取れないから	受けるのが面倒だから	必要な時は医療機関を受診するから	がん検診の内容がわからないので不安だから	検診費用が高いから	医療機関にかかっているから	がん検診を受診できることを知らなかったから	がん検診を受診する方法を知らなかったから	がん検診の対象年齢ではないから	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)												
全体	914 100.0	153 16.7	179 19.6	212 23.2	32 3.5	75 8.2	124 13.6	18 2.0	32 3.5	133 14.6	64 7.0	143 15.6
世帯年収	0～100万円未満	84 11.9	15.5 18.9	21.4 25.5	3.6 4.1	14.3 5.6	20.2 14.2	- 1.5	6.0 3.0	10.7 16.8	3.6 7.1	22.6 12.7
	100～200万円未満	165 15.2	24.2 18.9	25.5 18.9	3.6 3.3	7.3 7.4	15.8 9.8	1.2 3.3	3.6 5.7	9.7 18.0	4.8 6.6	18.8 16.4
	200～300万円未満	197 15.2	16.2 18.9	24.4 18.9	4.1 3.3	5.6 7.4	14.2 9.8	1.5 3.3	3.0 5.7	16.8 18.0	7.1 6.6	12.7 16.4
	300～400万円未満	122 17.2	18.9 23.7	18.9 23.7	3.3 4.3	7.4 8.6	9.8 9.4	3.3 2.9	5.7 2.2	18.0 15.8	6.6 9.4	16.4 15.8
	400～600万円未満	139 16.5	20.3 29.7	29.7 21.6	21.6 1.4	1.4 8.1	8.1 10.8	- -	2.7 2.7	17.6 17.6	8.1 8.1	14.9 14.9
	600～800万円未満	74 26.9	26.9 19.2	19.2 23.1	23.1 3.8	3.8 3.8	19.2 19.2	3.8 3.8	3.8 3.8	23.1 23.1	11.5 11.5	3.8 3.8
	800～1,000万円未満	26 29.3	29.3 19.5	19.5 17.1	17.1 2.4	2.4 12.2	12.2 9.8	2.4 2.4	- -	14.6 14.6	12.2 12.2	7.3 7.3
1,000万円以上	41											

(6)がん検診が受診可能な日時について

副問1-1 (副問1で「1」を選んだ方のみお答えください。)  
いつなら受診可能ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「日曜日」が40.5%と1位になっている。  
次いで「不明」が32.0%、「土曜日」が24.2%と続いている。

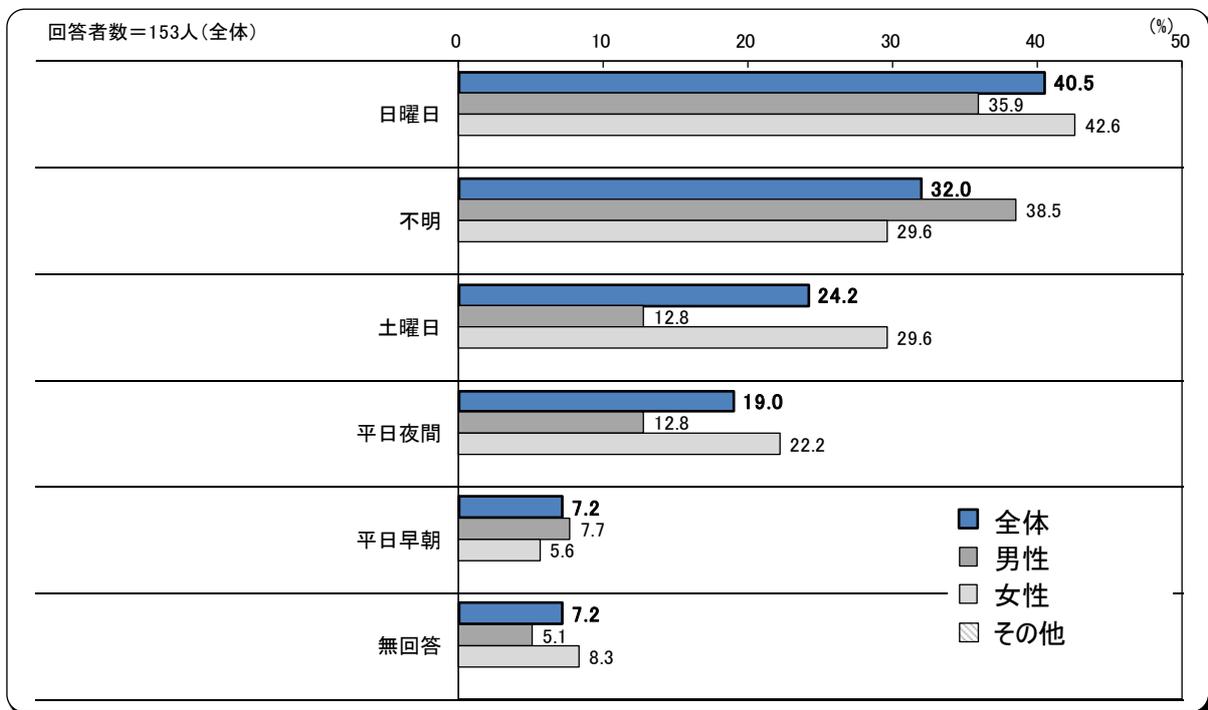


グラフ単位：(%)

【性別】

男性では「不明」が、女性では「日曜日」が1位になっている。

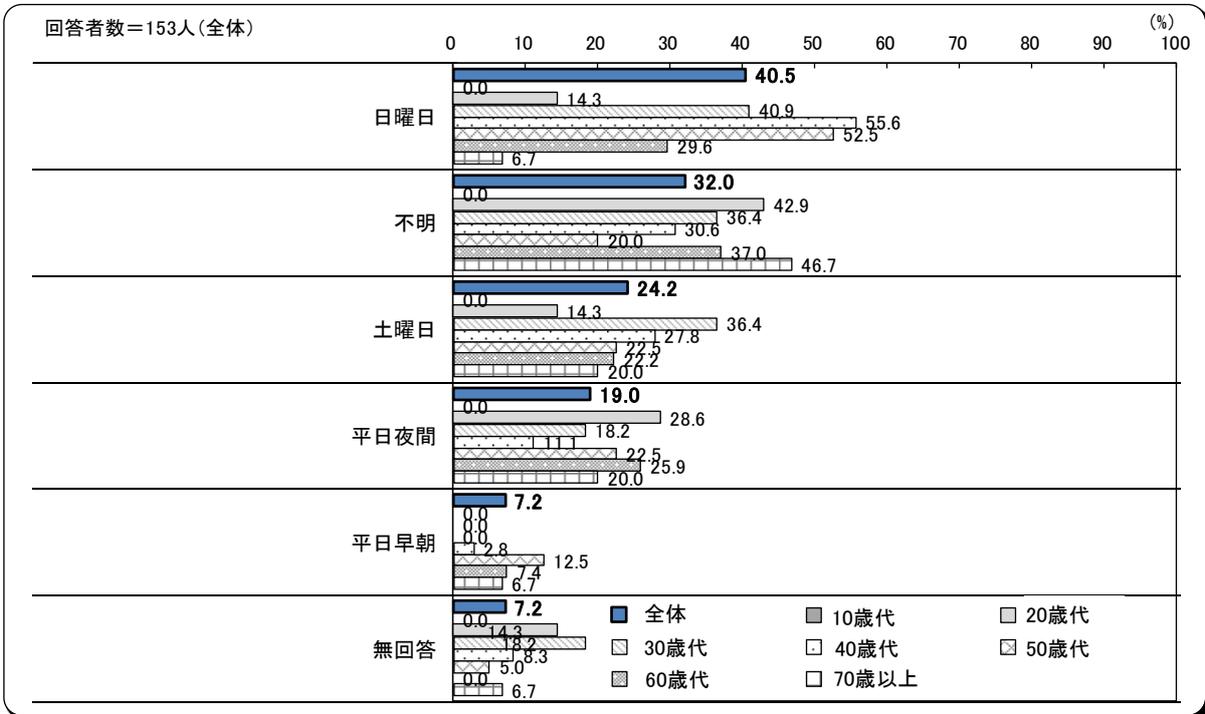
◀性別▶



【年代別】

「日曜日」もしくは「不明」の割合が高い傾向になっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「日曜日」の割合が高い傾向になっている。

【世帯年収別】

いずれも「日曜日」の割合が高い傾向になっている。

《職業別・世帯年収別》

		全体	土曜日	日曜日	平日夜間	平日早朝	不明	無回答
【表の見方】								
上段＝回答数(人)								
下段＝比率(%)								
全体		153 100.0	37 24.2	62 40.5	29 19.0	11 7.2	49 32.0	11 7.2
職業	農林業	7	42.9	57.1	28.6	14.3	-	14.3
	漁業	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	15	20.0	6.7	40.0	6.7	33.3	-
	事務職	19	52.6	78.9	21.1	5.3	10.5	10.5
	技術職	26	26.9	38.5	15.4	3.8	42.3	7.7
	労務職	26	19.2	42.3	15.4	7.7	26.9	11.5
	管理職	6	16.7	83.3	16.7	-	16.7	-
	自由業	3	-	33.3	-	33.3	33.3	-
	主婦・主夫	18	5.6	16.7	11.1	5.6	55.6	11.1
	学生	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-
	無職	7	28.6	14.3	-	-	42.9	14.3
その他	19	21.1	42.1	26.3	5.3	36.8	-	
世帯年収	0～100万円未満	10	10.0	20.0	20.0	-	60.0	10.0
	100～200万円未満	25	28.0	32.0	12.0	-	44.0	8.0
	200～300万円未満	30	20.0	30.0	33.3	6.7	36.7	3.3
	300～400万円未満	21	28.6	47.6	23.8	9.5	19.0	4.8
	400～600万円未満	23	30.4	65.2	17.4	8.7	8.7	13.0
	600～800万円未満	15	40.0	46.7	13.3	6.7	26.7	6.7
	800～1,000万円未満	7	28.6	57.1	28.6	14.3	14.3	-
	1,000万円以上	12	8.3	33.3	8.3	8.3	50.0	8.3

(7)がん検診を受けた理由について

副問2 (問17で「2～6」いずれかひとつ以上選んだ方のみお答えください。  
がん検診を受けた理由をお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから」が62.1%と1位になっている。次いで「職場の健診に含まれていたから」が33.3%、「がん検診の対象年齢だから」が30.4%と続いている。

《総合》

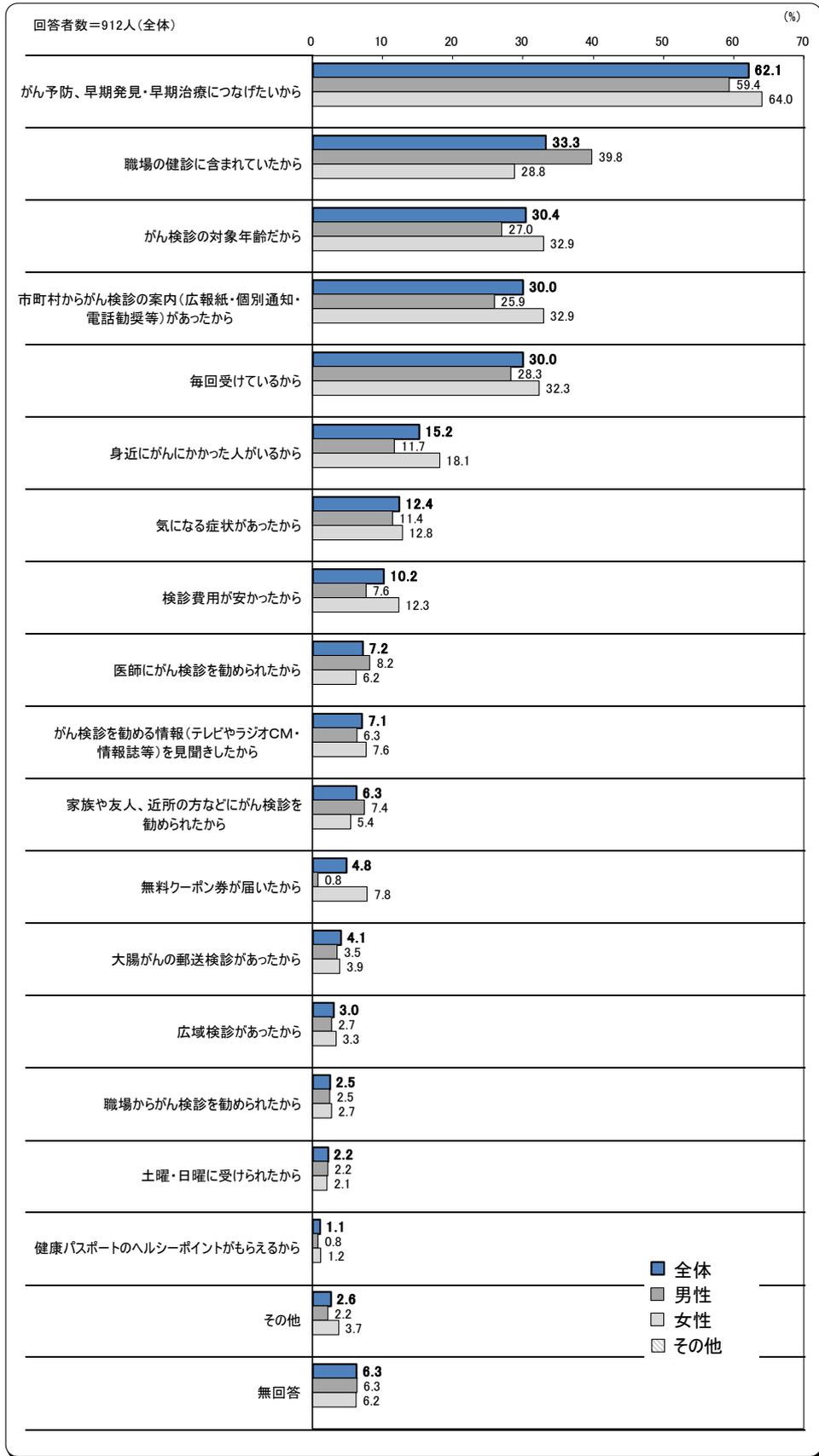
	割合 (%)	回答数
全体	100.0	912 人
がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから	62.1	566 人
職場の健診に含まれていたから	33.3	304 人
がん検診の対象年齢だから	30.4	277 人
市町村からがん検診の案内(広報紙・個別通知・電話勧奨等)があったから	30.0	274 人
毎回受けているから	30.0	274 人
身近にがんにかかった人がいるから	15.2	139 人
気になる症状があったから	12.4	113 人
検診費用が安かったから	10.2	93 人
医師にがん検診を勧められたから	7.2	66 人
がん検診を勧める情報(テレビやラジオCM・情報誌等)を見聞きしたから	7.1	65 人
家族や友人、近所の方などにがん検診を勧められたから	6.3	57 人
無料クーポン券が届いたから	4.8	44 人
大腸がんの郵送検診があったから	4.1	37 人
広域検診があったから	3.0	27 人
職場からがん検診を勧められたから	2.5	23 人
土曜・日曜に受けられたから	2.2	20 人
健康パスポートのヘルシーポイントがもらえるから	1.1	10 人
その他	2.6	24 人
無回答	6.3	57 人

グラフ単位:(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

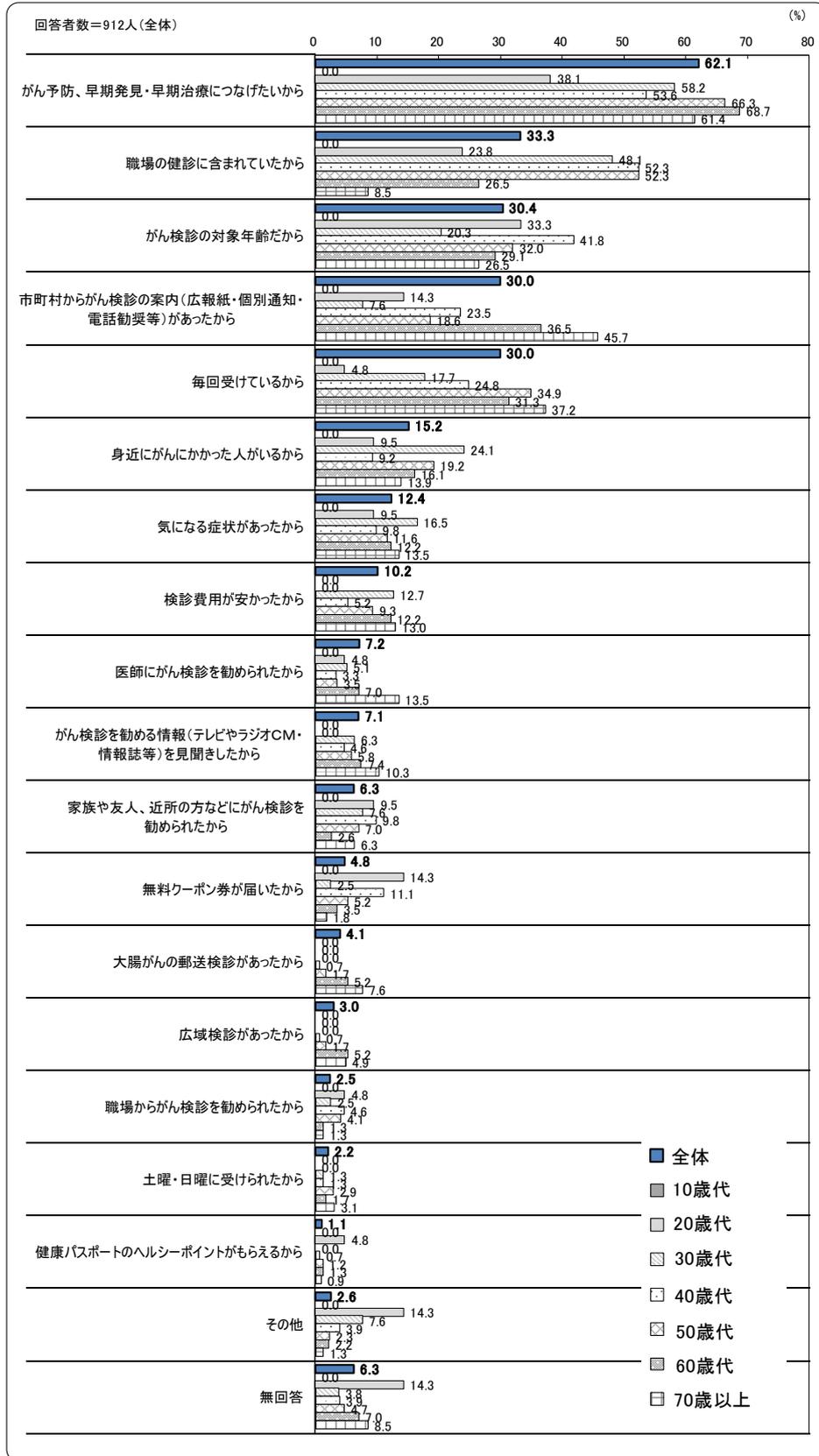
《性別》



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「がん予防、早期発見・早期治療につなげたいから」が1位になっている。

《年代別》



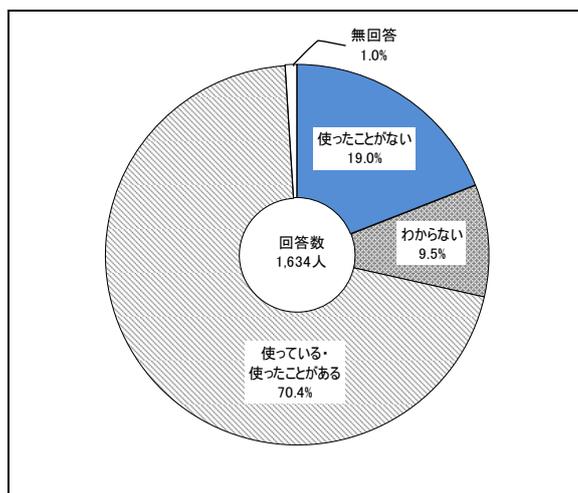
## 4. ジェネリック医薬品の使用促進について

### (1) ジェネリック医薬品の使用について

問 18 ジェネリック医薬品を使用したことがありますか。(1つだけ○印)

【総合】 「使っている・使ったことがある」が70.4%と1位になっている。  
次いで「使ったことがない」が19.0%、「わからない」が9.5%となっている。

#### 《総合》

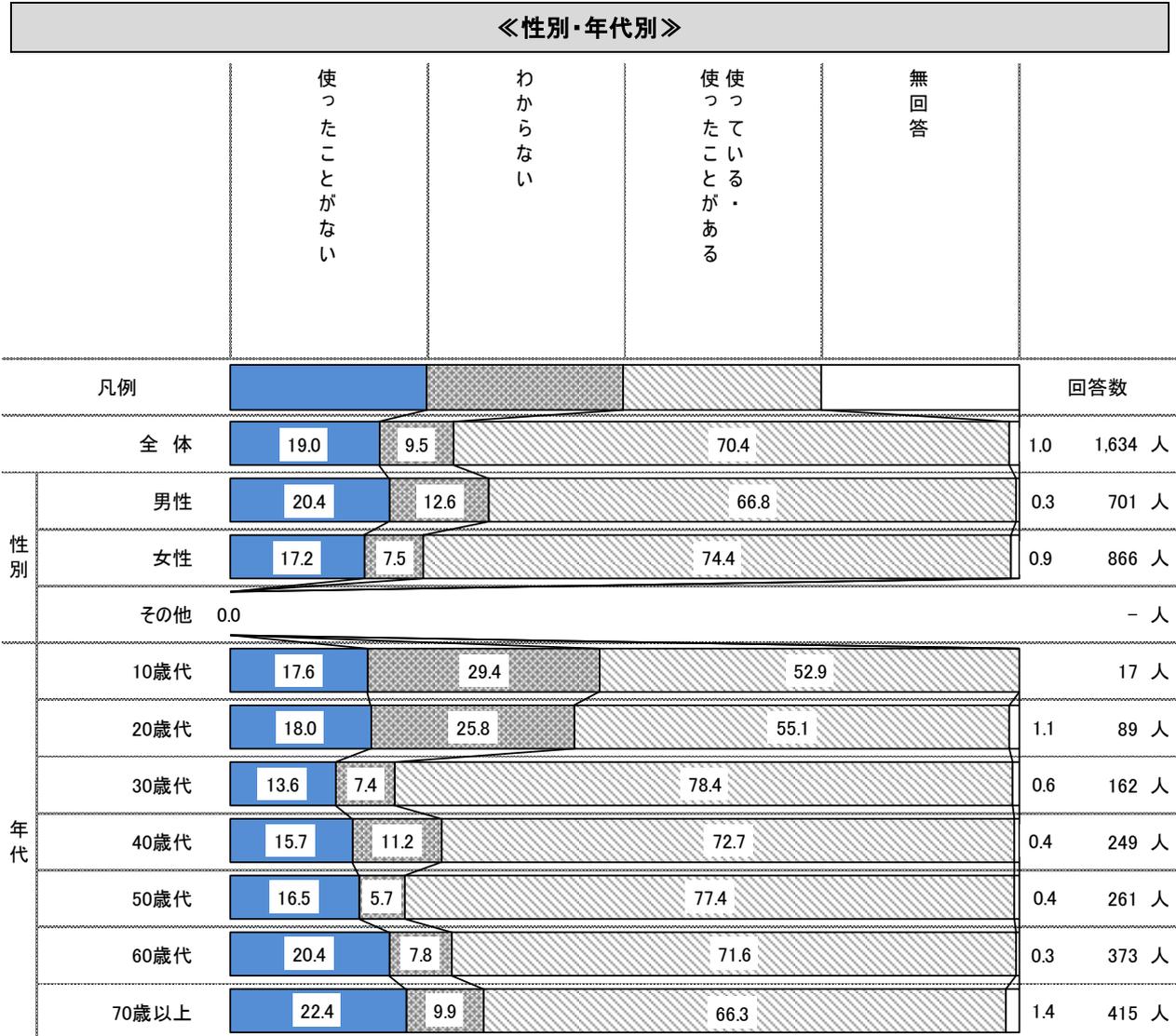


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

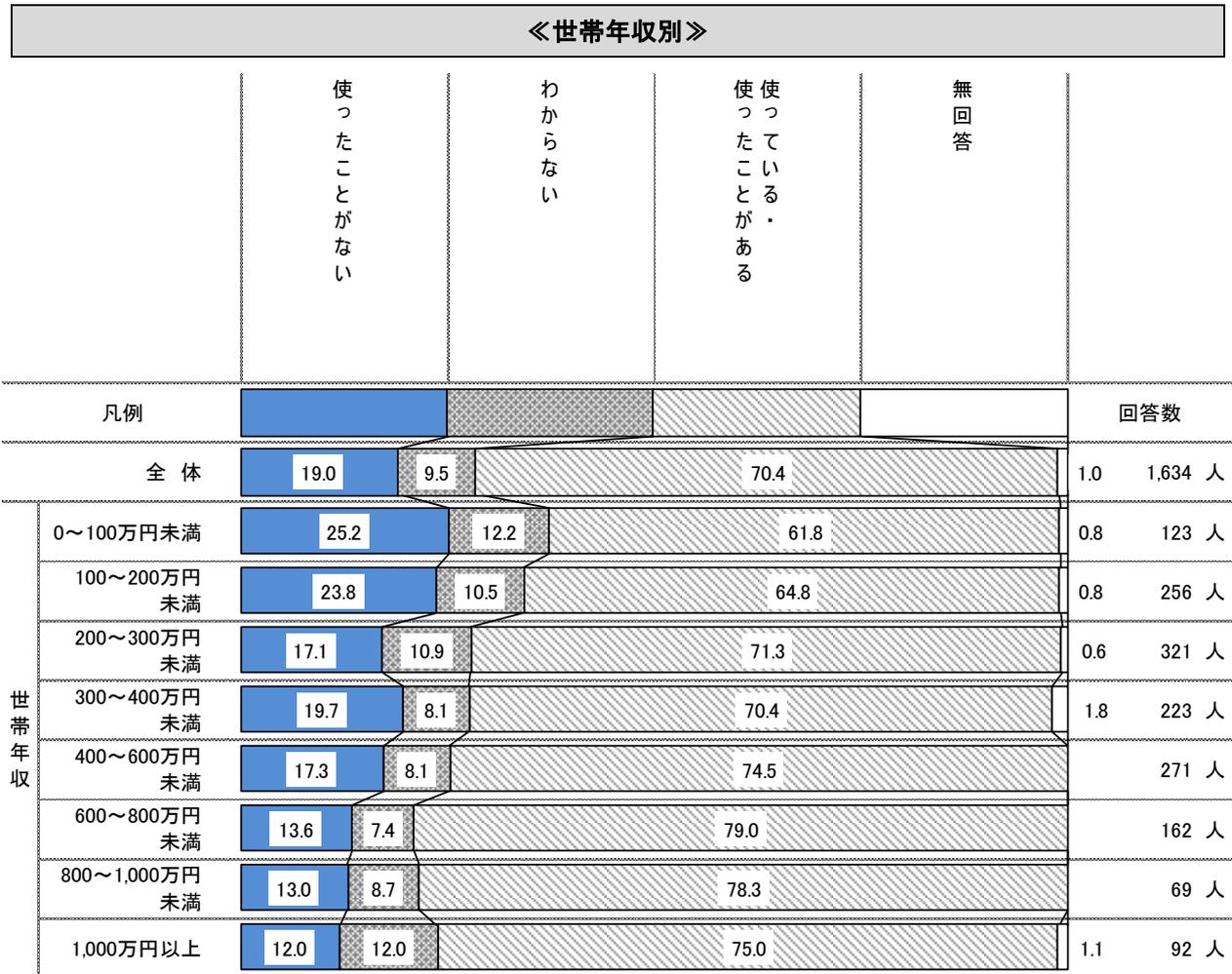
いずれも「使っている・使ったことがある」が、半数を超えて1位になっている。



グラフ単位：(%)

【世帯年収別】

いずれも「使っている・使ったことがある」が、6割を超えて1位になっている。



グラフ単位：(%)

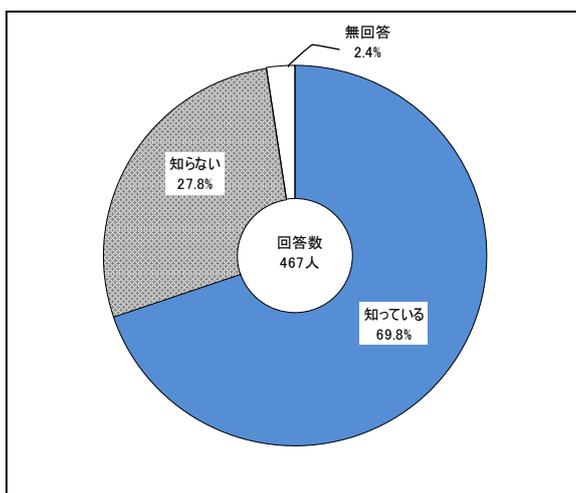
## (2) ジェネリック医薬品の安全性について

副問1 (問18で「1」又は「2」を選んだ方のみお答えください。)

ジェネリック医薬品は先発医薬品と同じ有効成分が同じ量含まれ、国が有効性や安全性を認めた薬ということをご存じですか。(1つだけ○印)

【総合】 「知っている」が69.8%、「知らない」が27.8%となっている。

### 《総合》

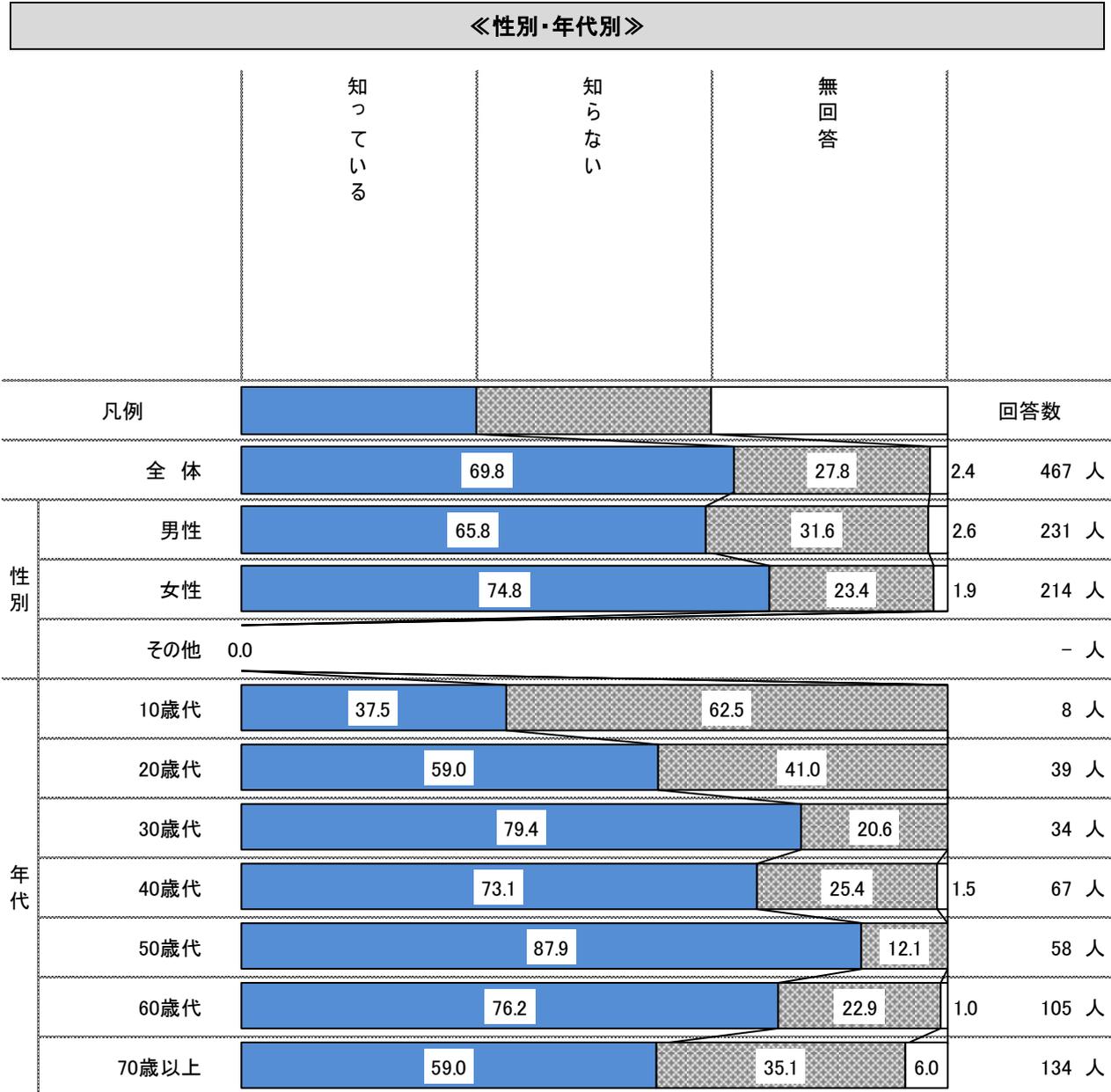


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代では「知らない」が、そのほかの年代では「知っている」が1位になっている。



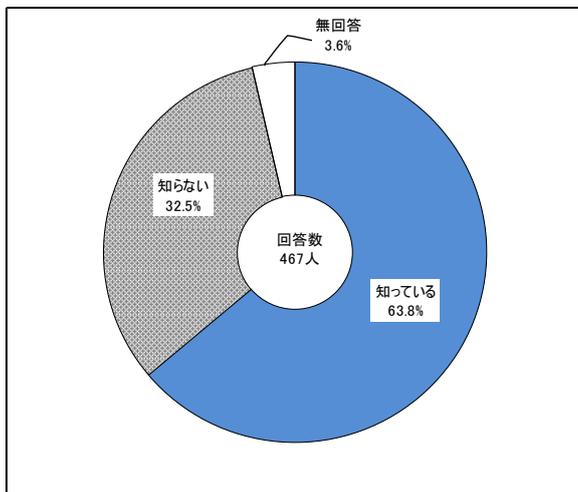
グラフ単位：(%)

(3) ジェネリック医薬品への変更について

副問2 (問18で「1」又は「2」を選んだ方のみお答えください。)  
ご自身の希望でジェネリック医薬品に変えられることをご存じですか。(1つだけ○印)

【総合】 「知っている」が63.8%、「知らない」が32.5%となっている。

＜総合＞

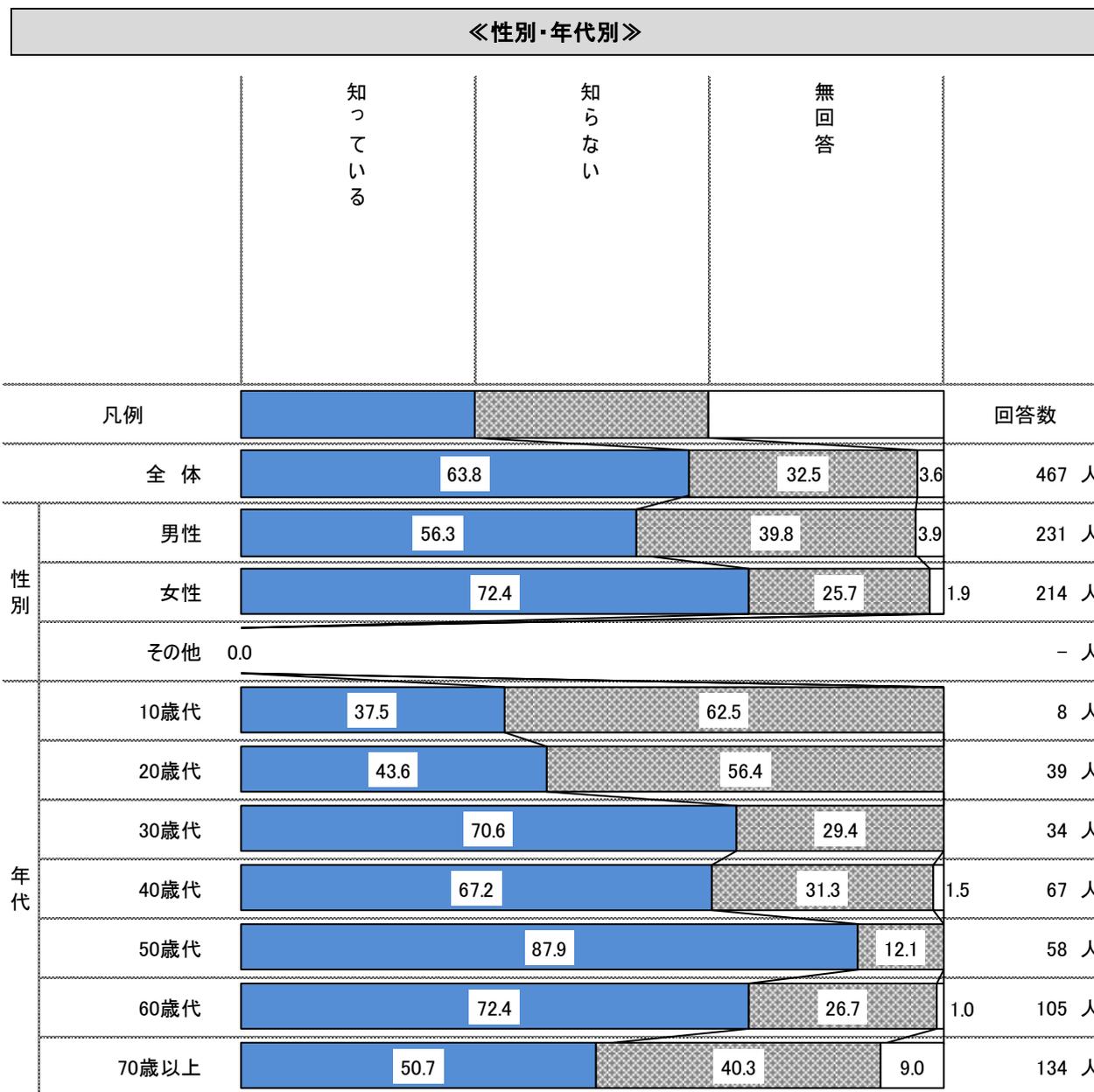


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代、20歳代「知らない」が、そのほかの年代では「知っている」が1位になっている。



グラフ単位：(%)

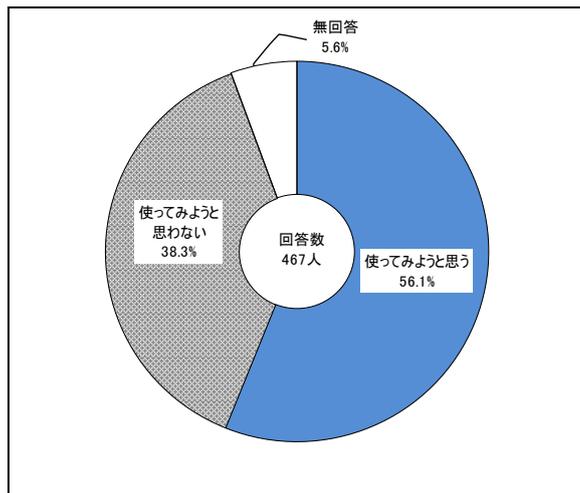
#### (4) ジェネリック医薬品を使用したいと思うかについて

副問3 (問18で「1」又は「2」を選んだ方のみお答えください。)

この県民世論調査をきっかけに、今後、医薬品を服用する場合は、ジェネリック医薬品を使ってみようと思いますか。(1つだけ○印)

【総合】 「使ってみようと思う」が56.1%、「使ってみようと思わない」が38.3%となっている。

#### 《総合》

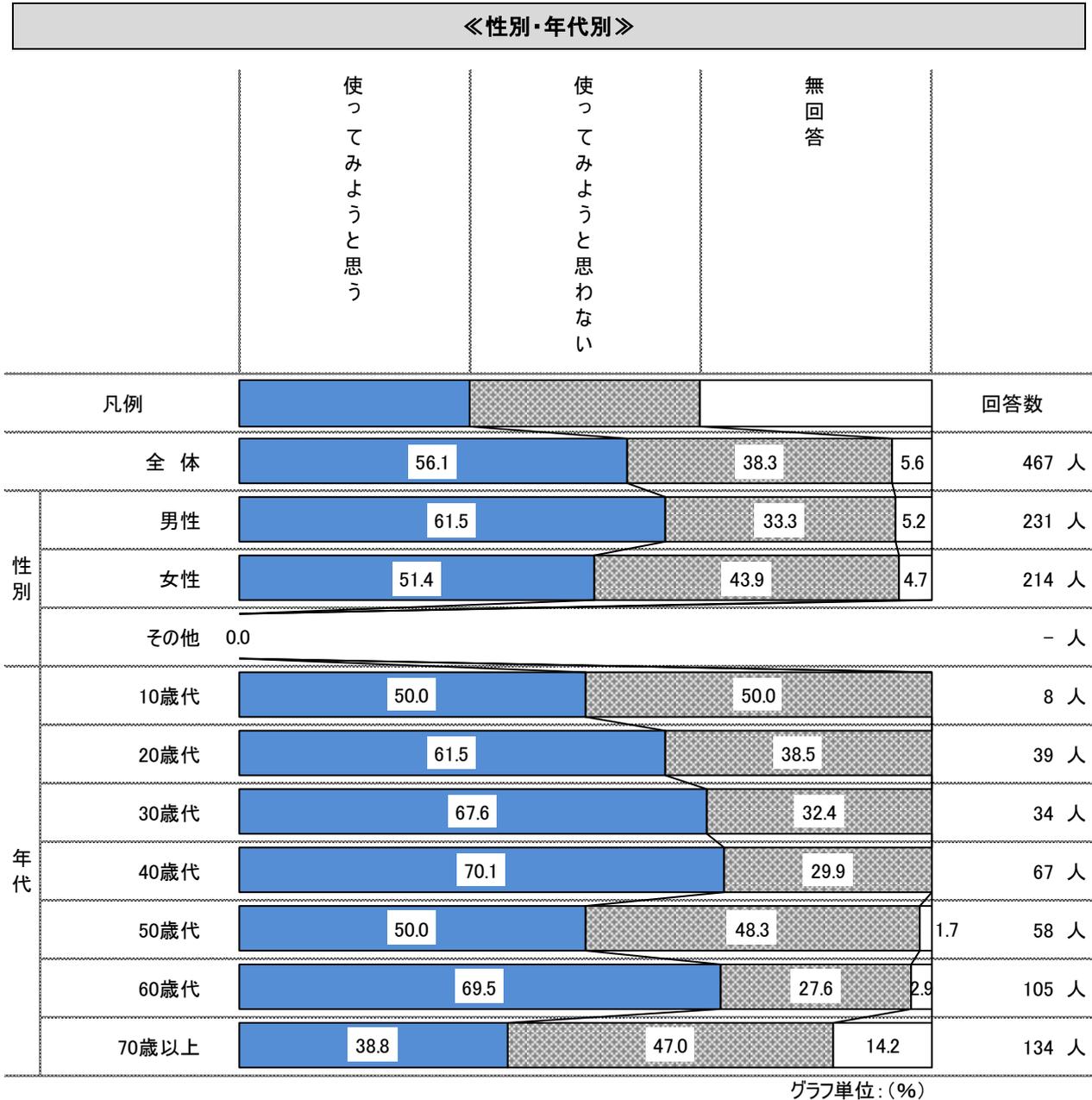


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

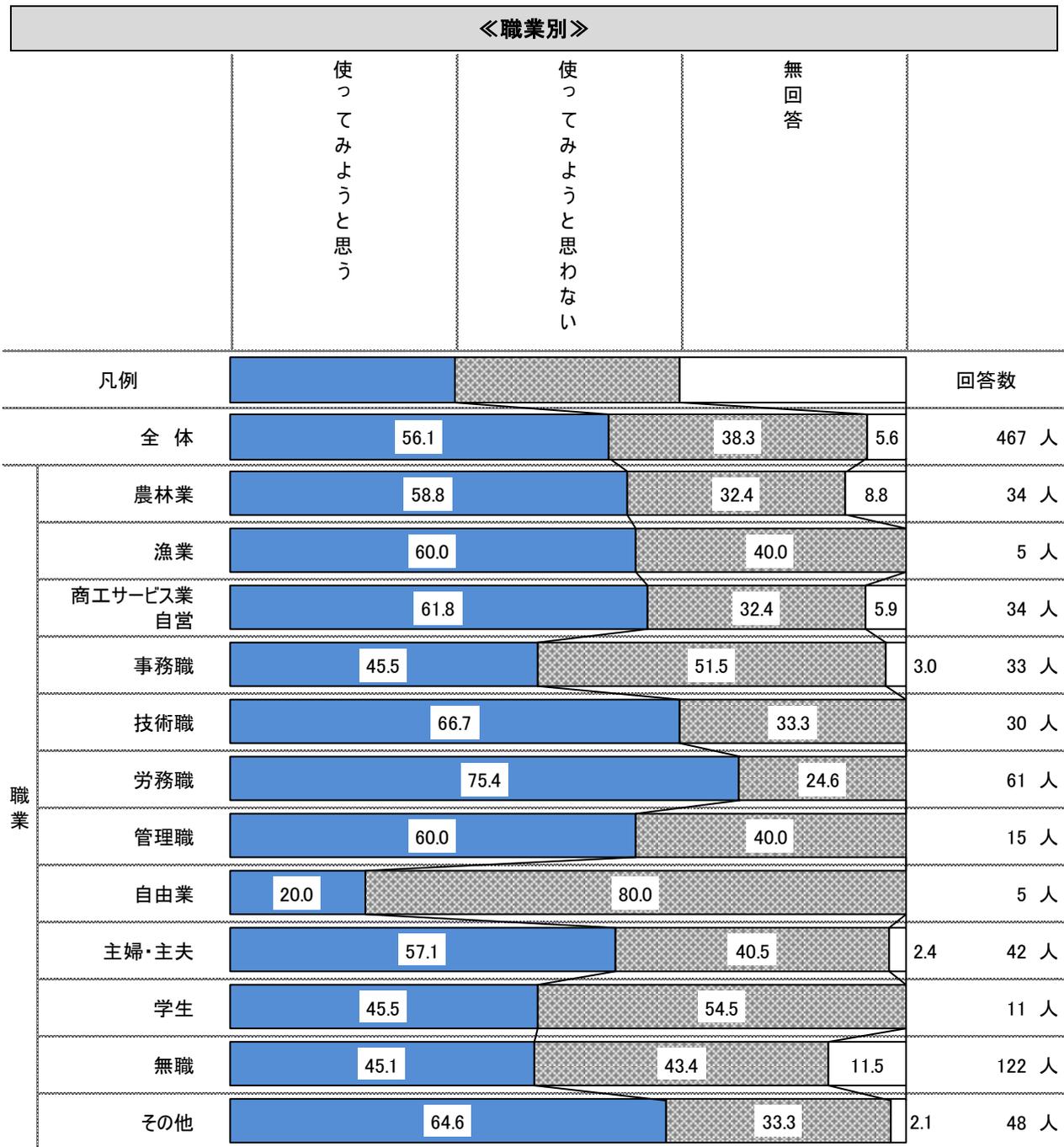
【年代別】

70歳以上では「使ってみようと思わない」が、20歳代から60歳代では「使ってみようと思う」が1位になっている。



【職業別】

事務職、自由業、学生を除くすべての職業で「使ってみようと思う」が1位になっている。



グラフ単位：(%)

(5) ジェネリック医薬品を使用したいと思わない理由について

副問3-1 (副問3で「2」を選んだ方のみお答えください。)

ジェネリック医薬品を使ってみようと思わない理由はどのようなものですか。

(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「飲み慣れた今の薬を変えたくない」が48.6%と1位になっている。

次いで「薬効に疑問がある」が29.1%、「副作用が気になる」が24.6%と続いている。

《総合》

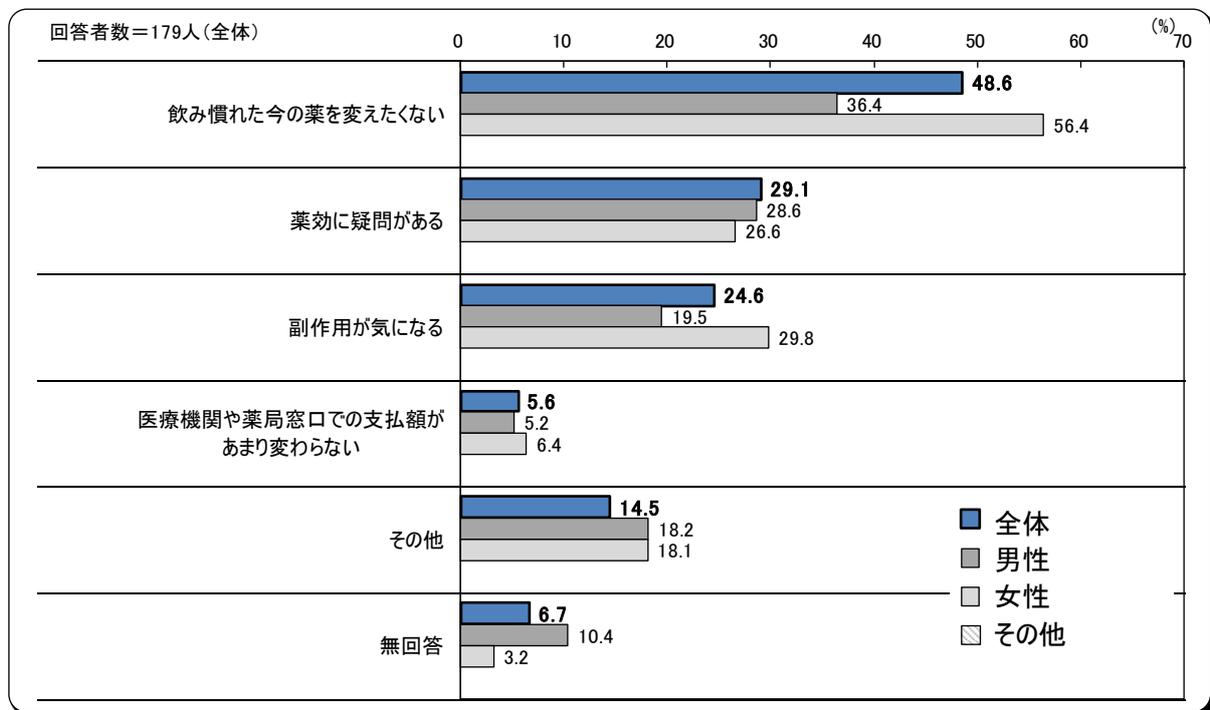
		回答数
全体	100.0	179 人
飲み慣れた今の薬を変えたくない	48.6	87 人
薬効に疑問がある	29.1	52 人
副作用が気になる	24.6	44 人
医療機関や薬局窓口での支払額があまり変わらない	5.6	10 人
その他	14.5	26 人
無回答	6.7	12 人

グラフ単位: (%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

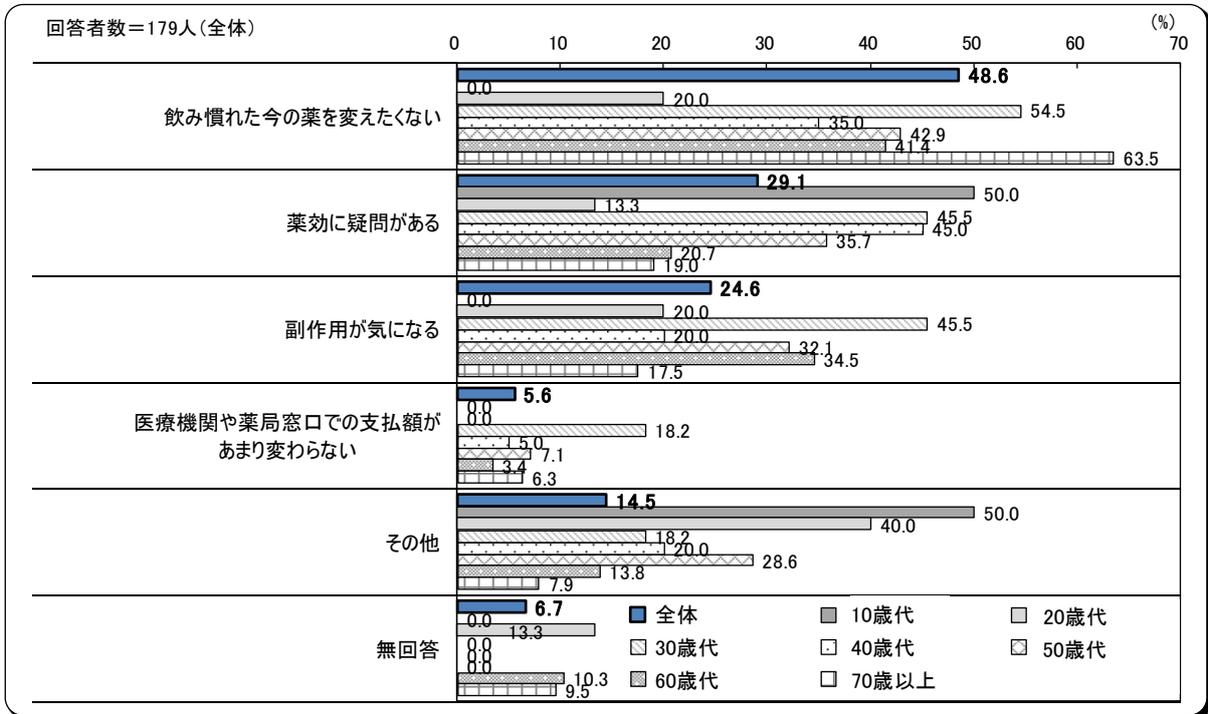
◀性別▶



【年代別】

年代があがるにつれて「飲み慣れた今の薬を変えたくない」の割合が高くなる傾向になっている。

《年代別》



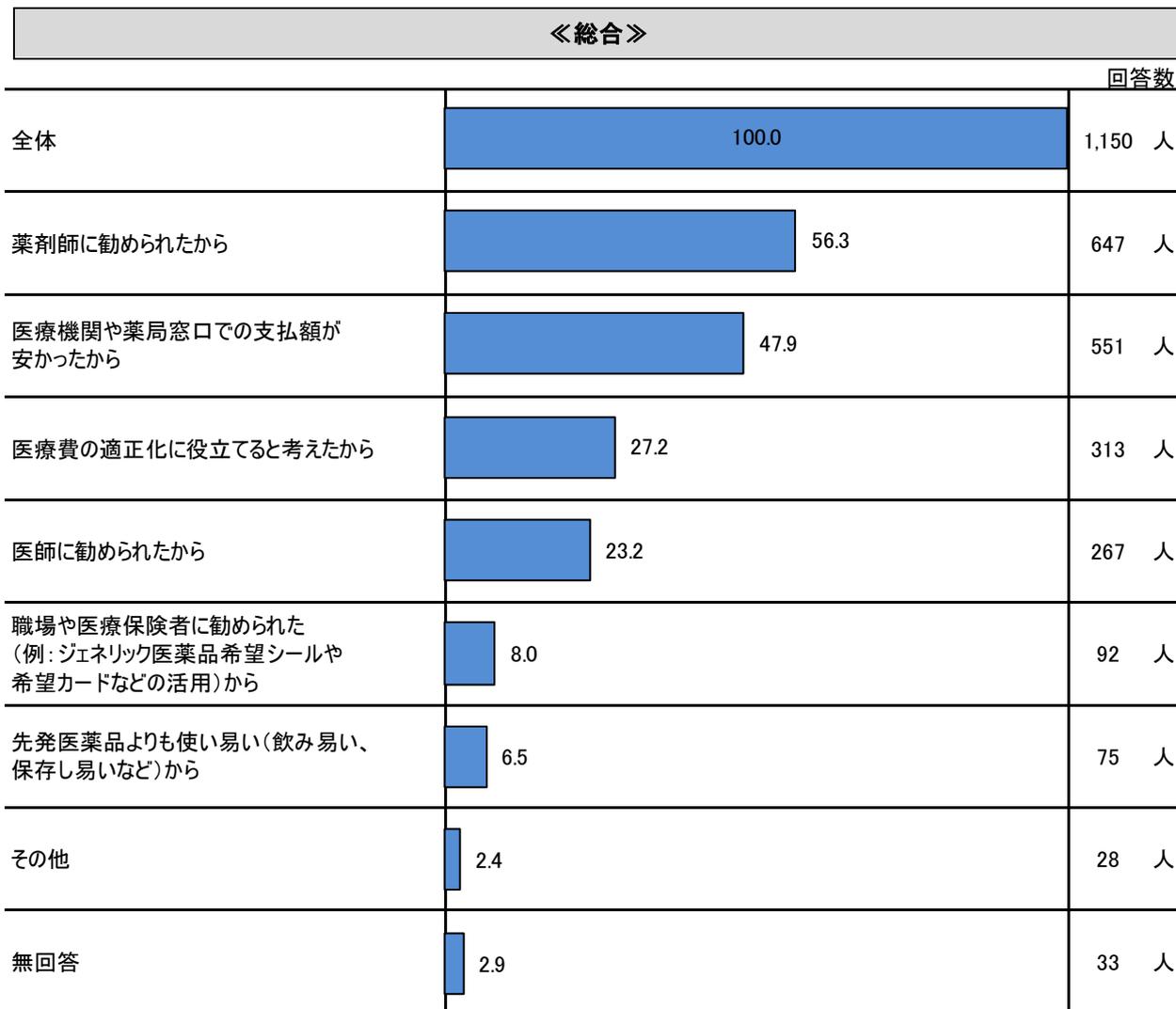
(6) ジェネリック医薬品を選んだ理由について

副問4 (問18で「3」を選んだ方のみお答えください。)

ジェネリック医薬品を選んだ理由はどのようなものですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「薬剤師に勧められたから」が56.3%と1位になっている。

次いで「医療機関や薬局窓口での支払額が安かったから」が47.9%、「医療費の適正化に役立  
ると考えたから」が27.2%と続いている。

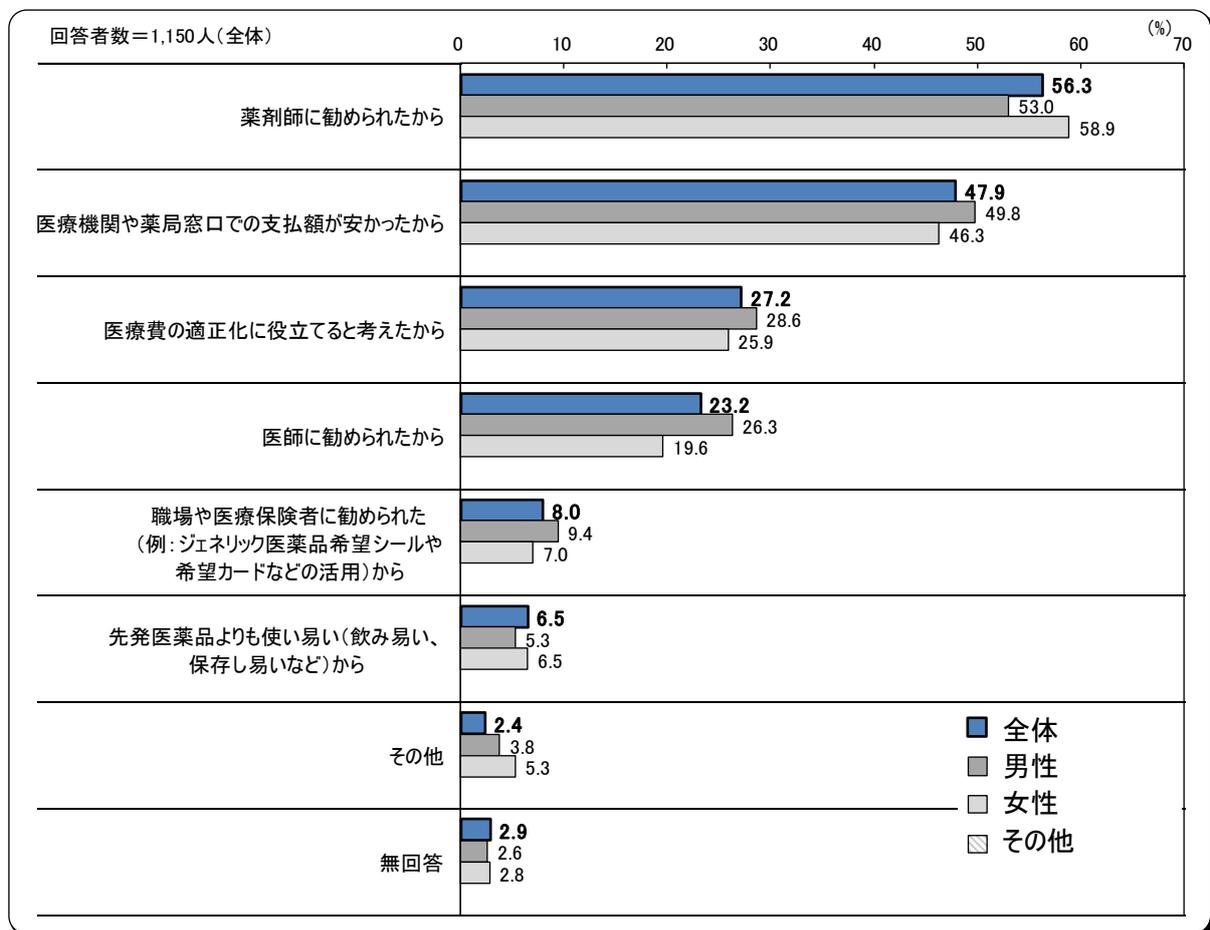


グラフ単位: (%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

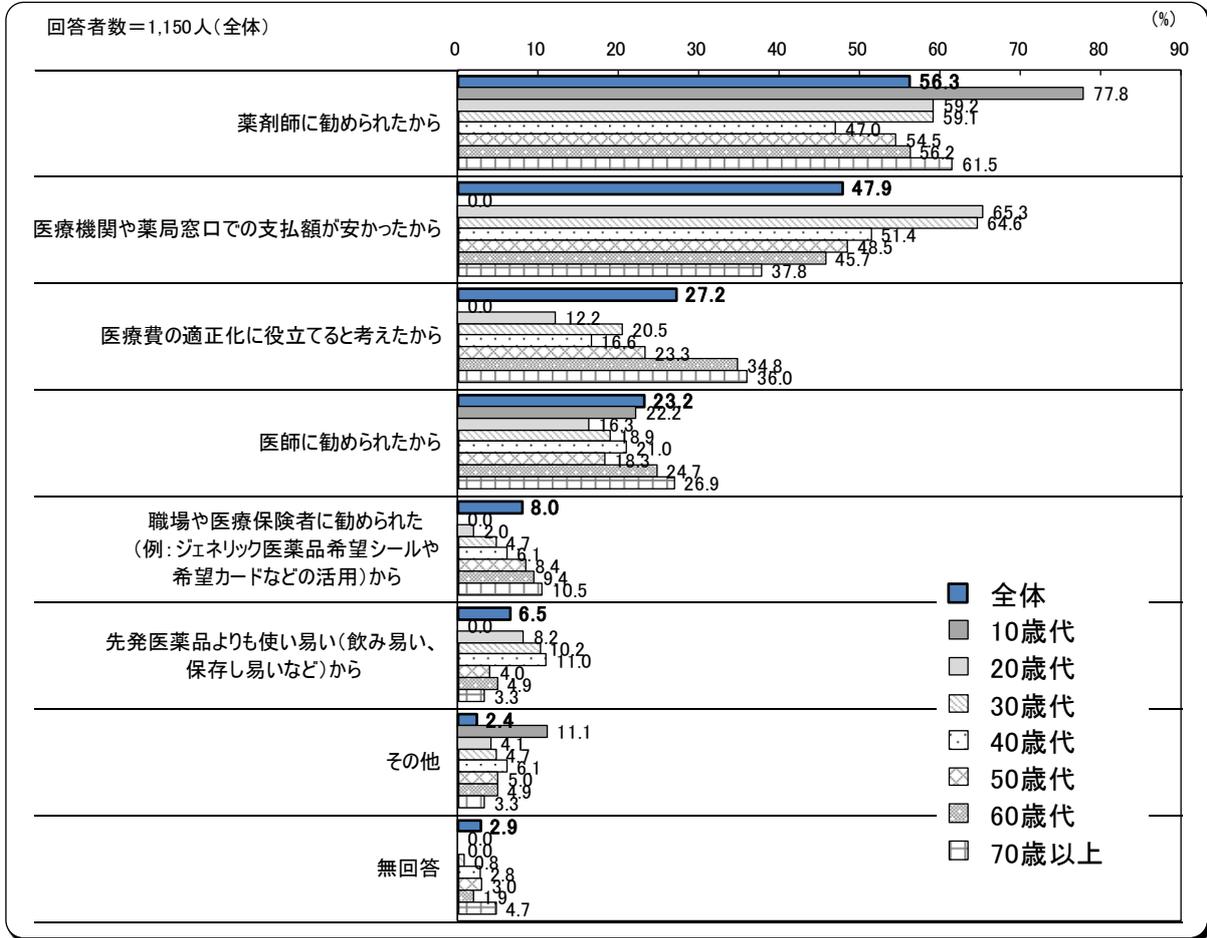
《性別》



【年代別】

20歳代から40歳代では「医療機関や薬局窓口での支払額が安かったから」が、そのほかの年代では「薬剤師に勧められたから」が1位になっている。

《年代別》



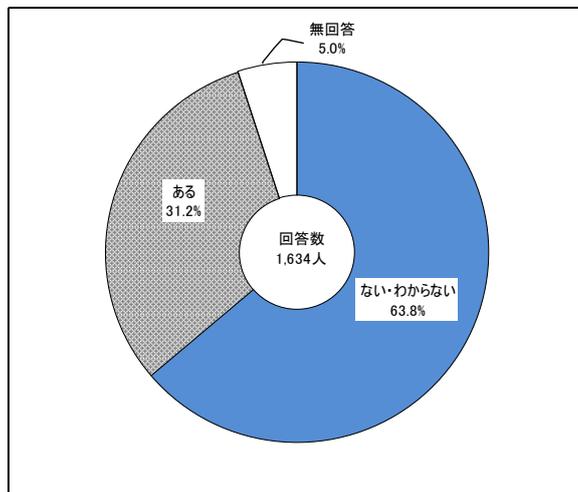
(7)ジェネリック医薬品差額通知について

問 19 家族を含め、ジェネリック医薬品差額通知をもらったことはありますか。

(1つだけ○印)

【総合】 「ない・わからない」が63.8%、「ある」が31.2%となっている。

《総合》

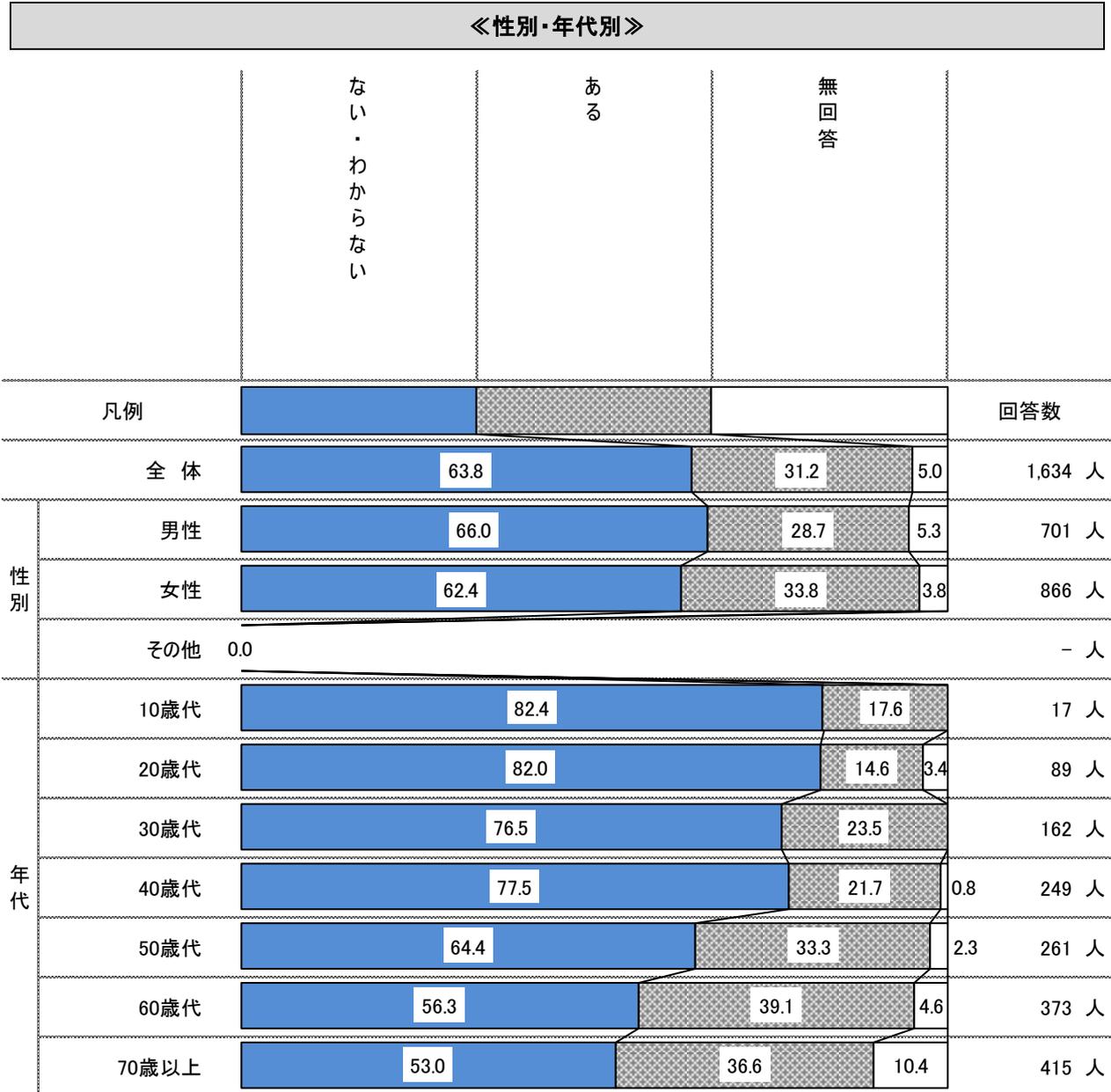


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

【年代別】

いずれも「ない・わからない」が、半数を超えている。



グラフ単位：(%)

**(8) 今後、ジェネリック医薬品差額通知を受け取った場合の対応について**

副問1 (問19で「1」を選んだ方のみお答えください。)

今後、ジェネリック医薬品差額通知を受け取った場合、どうされますか。

(当てはまるものすべてに○印)

**【総合】** 「ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談する」が38.0%と1位になっている。

次いで「差額によっては使用を検討する」が27.6%、「わからない」が23.7%と続いている。

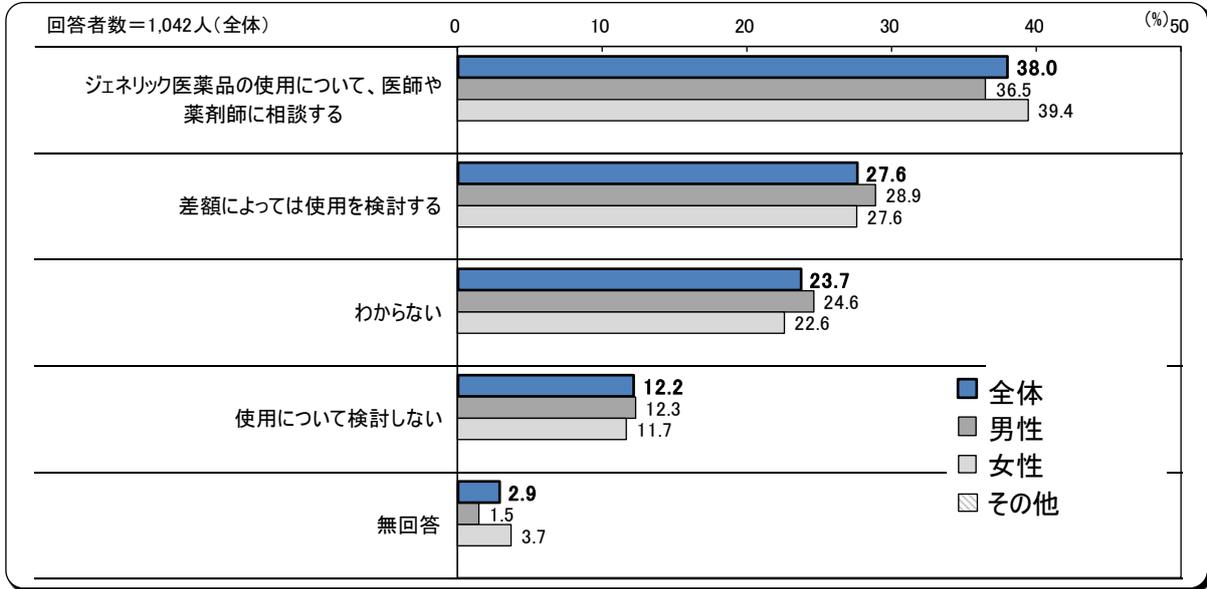
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,042 人
ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談する	38.0	396 人
差額によっては使用を検討する	27.6	288 人
わからない	23.7	247 人
使用について検討しない	12.2	127 人
無回答	2.9	30 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

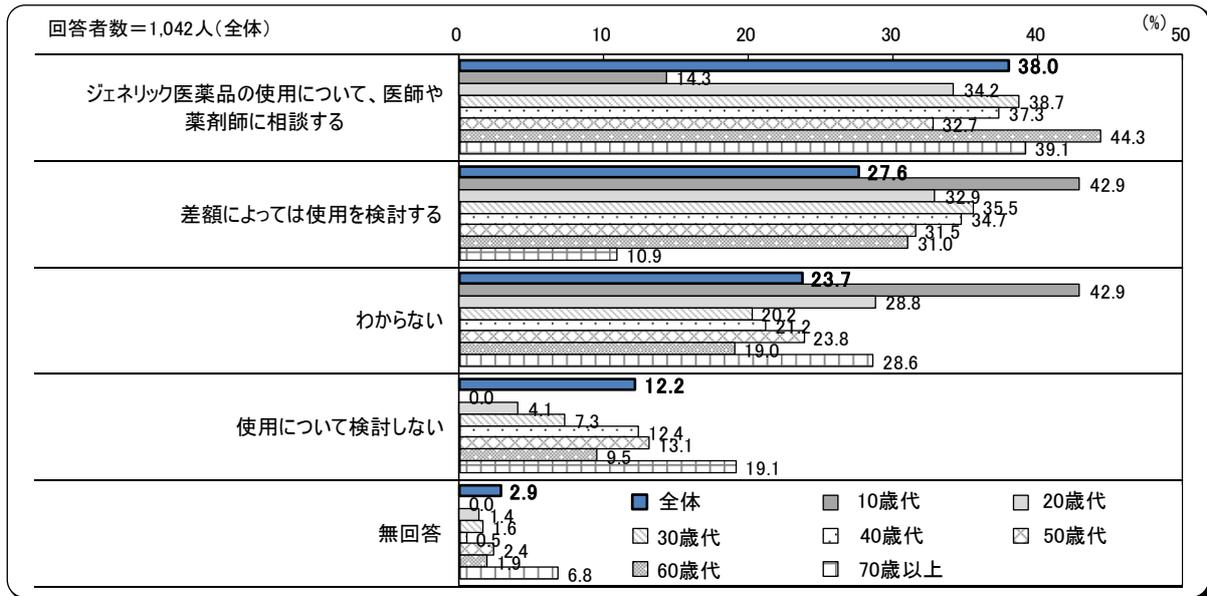
《性別》



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談する」の割合が高くなっている。

《年代別》



【世帯年収別】

1,000万円以上を除くすべての世帯年収で「ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談する」が1位になっている。1,000万円以上では「差額によっては使用を検討する」が1位になっている。

《世帯年収別》

		全体	ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談する	差額によっては使用を検討する	使用について検討しない	わからない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)							
全体		1,042 100.0	396 38.0	288 27.6	127 12.2	247 23.7	30 2.9
世帯年収	0～100万円未満	78	33.3	26.9	7.7	29.5	5.1
	100～200万円未満	149	32.9	22.8	16.1	27.5	4.0
	200～300万円未満	202	34.7	33.7	10.9	27.2	1.0
	300～400万円未満	145	42.1	24.8	15.2	20.7	2.8
	400～600万円未満	182	39.6	23.6	17.0	20.9	2.2
	600～800万円未満	113	45.1	31.9	3.5	18.6	2.7
	800～1,000万円未満	47	46.8	34.0	4.3	21.3	2.1
	1,000万円以上	62	33.9	41.9	11.3	16.1	1.6

(9) 差額がいくらであれば使用を検討するかについて

副問1-1 (副問1で「2」を選んだ方のみお答えください。)

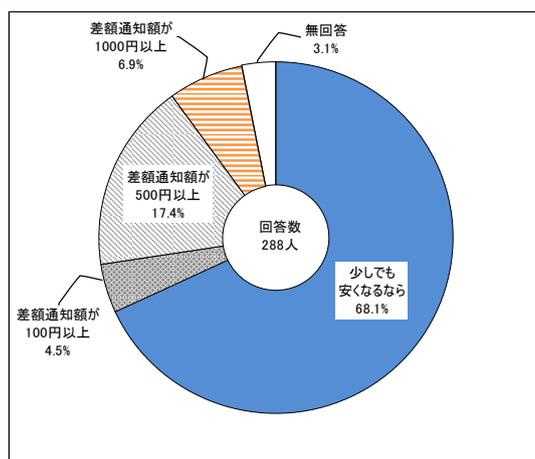
差額通知額がどれくらいであれば、ジェネリック医薬品の使用を検討されますか。

(1つだけ○印)

【総合】 「少しでも安くなるなら」が68.1%と1位になっている。

次いで「差額通知額が500円以上」が17.4%、「差額通知額が1000円以上」が6.9%と続いている。

《総合》

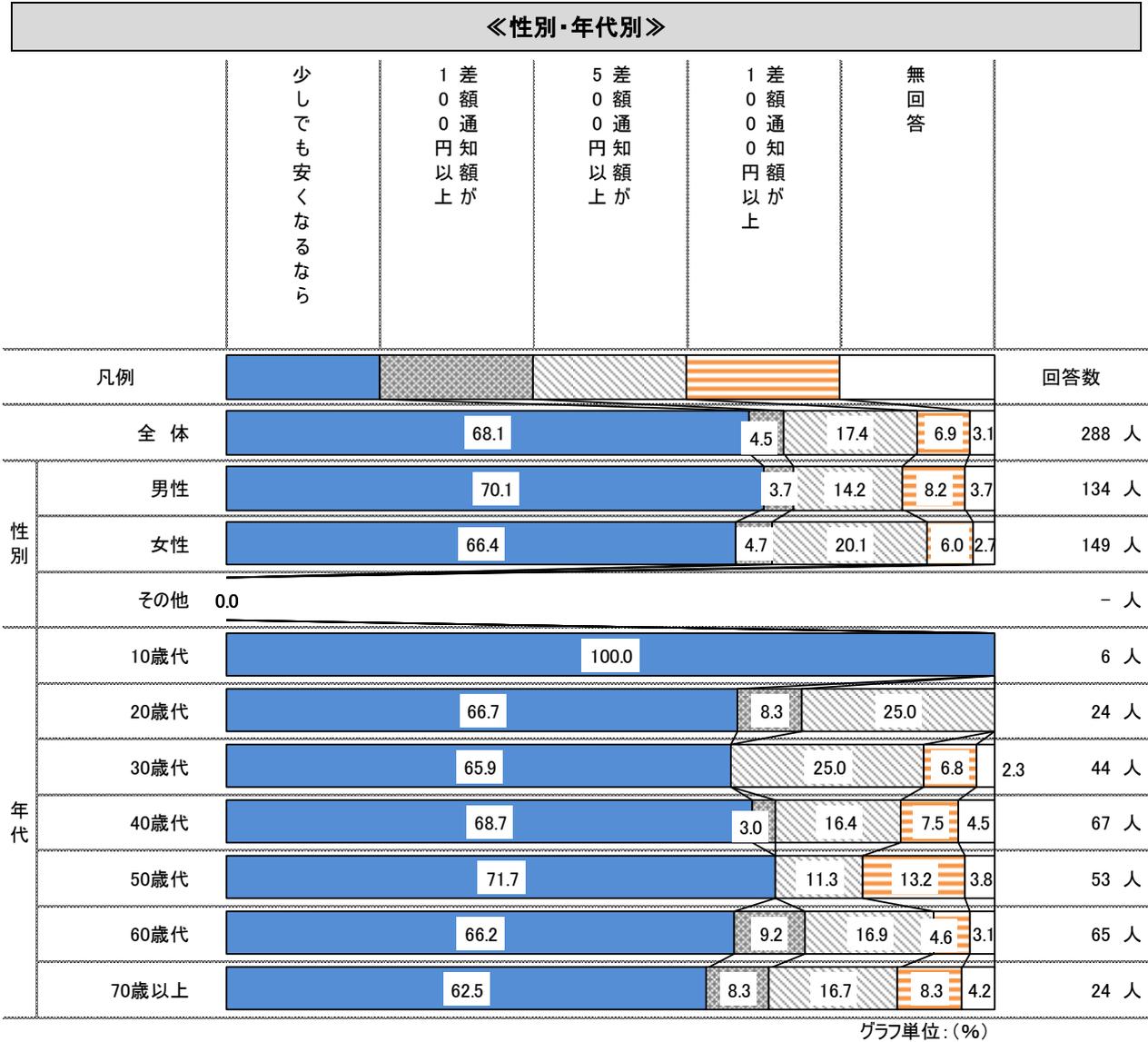


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

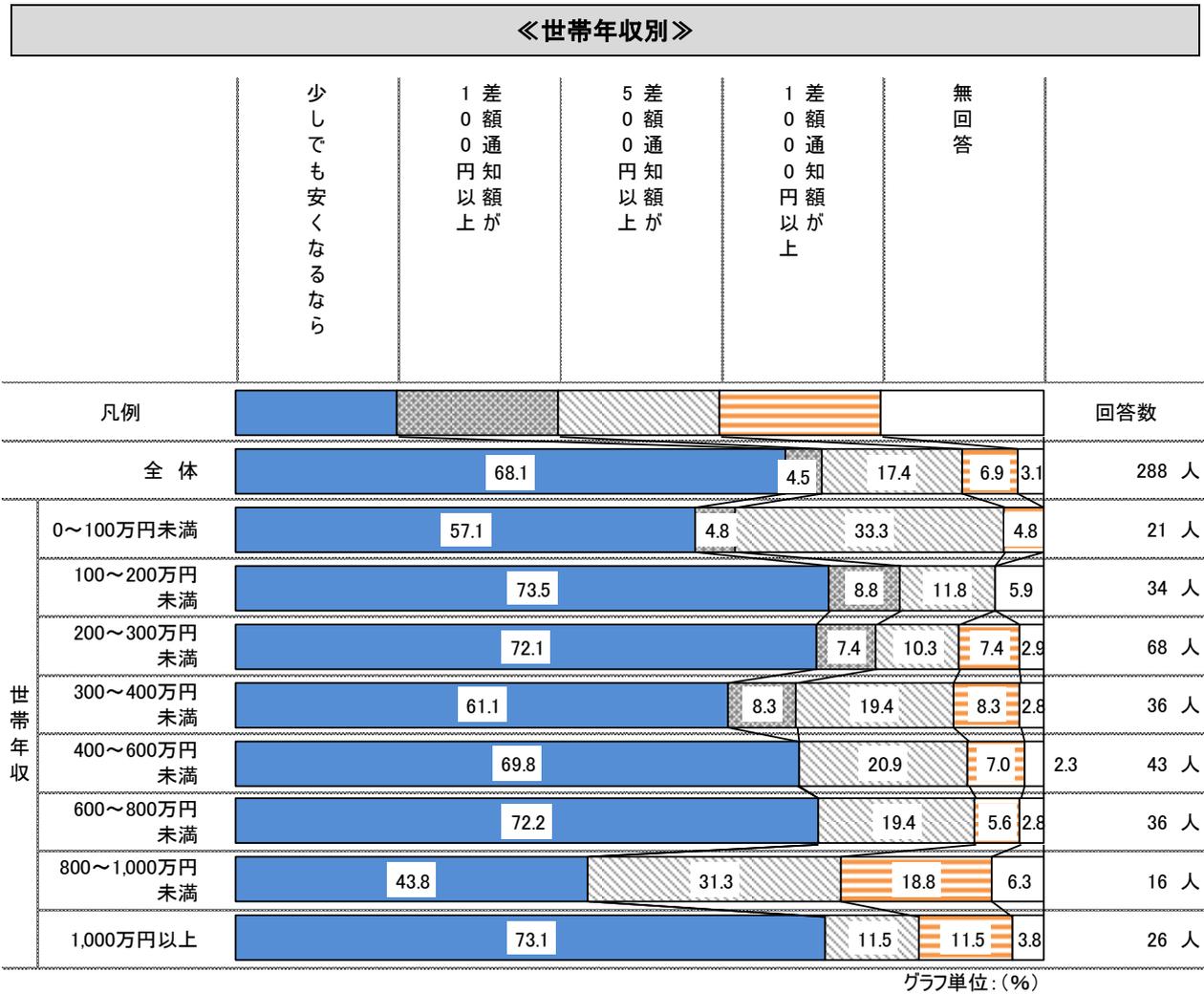
【年代別】

いずれも「少しでも安くなるなら」が、6割を超えている。



【世帯年収別】

いずれも「少しでも安くなるなら」が1位になっている。



(10)ジェネリック医薬品差額通知を受け取った際の対応について

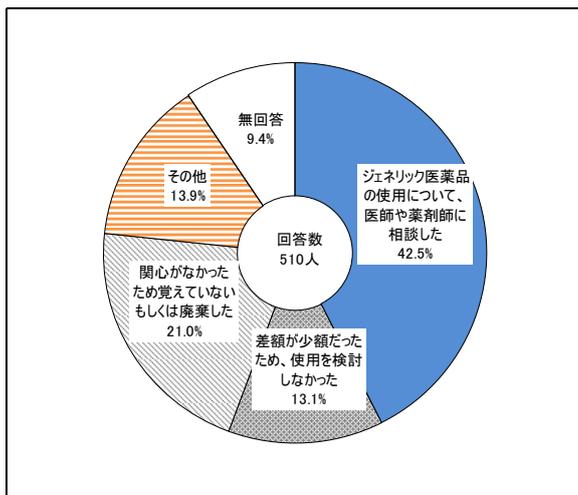
副問2 (問19で「2」を選んだ方のみお答えください。)

ジェネリック医薬品差額通知を受け取った際、どうされましたか。(1つだけ○印)

【総合】 「ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談した」が42.5%と1位になっている。

次いで「関心がなかったため覚えていないもしくは廃棄した」が21.0%、「その他」が13.9%と続いている。

《総合》

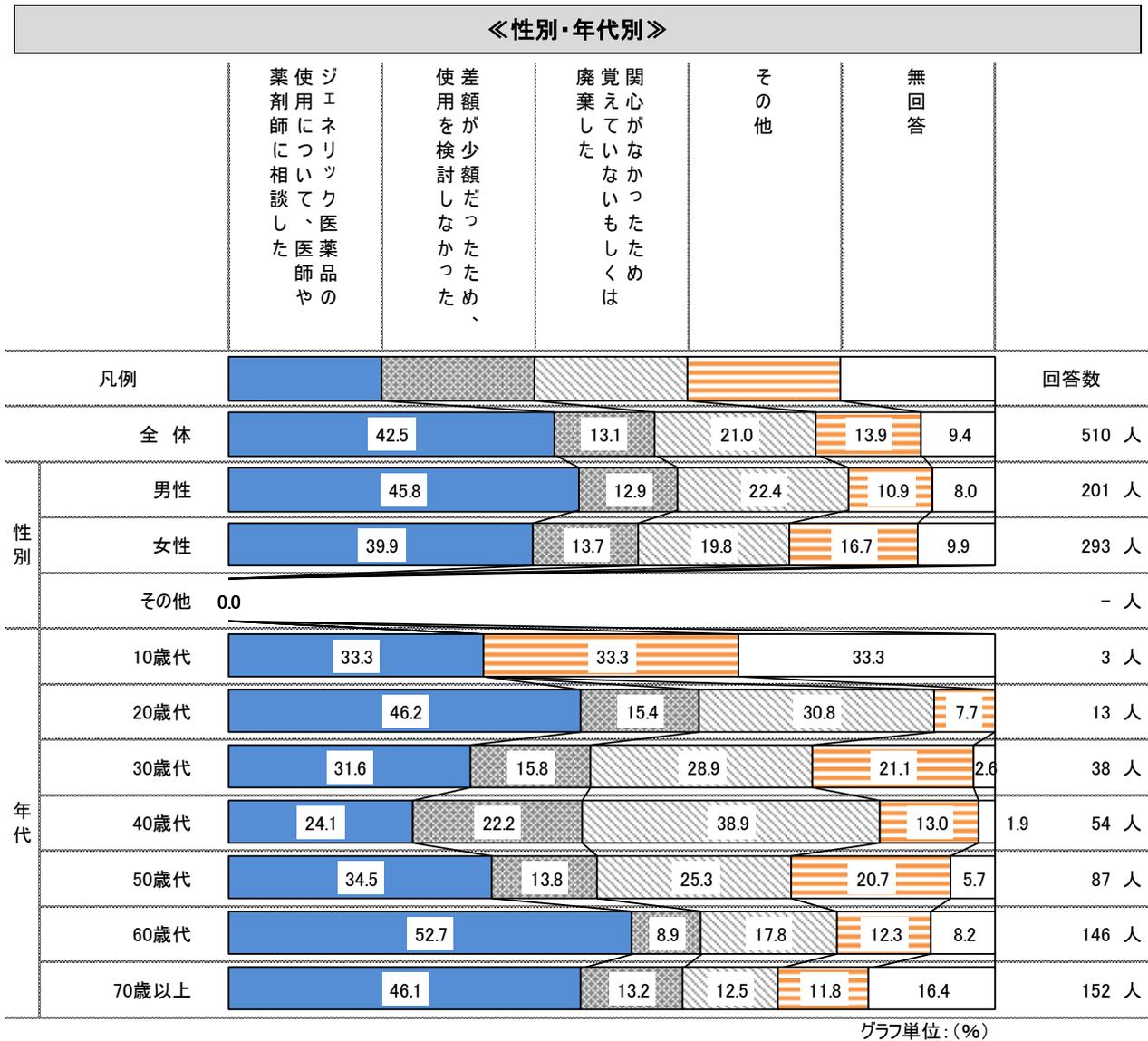


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

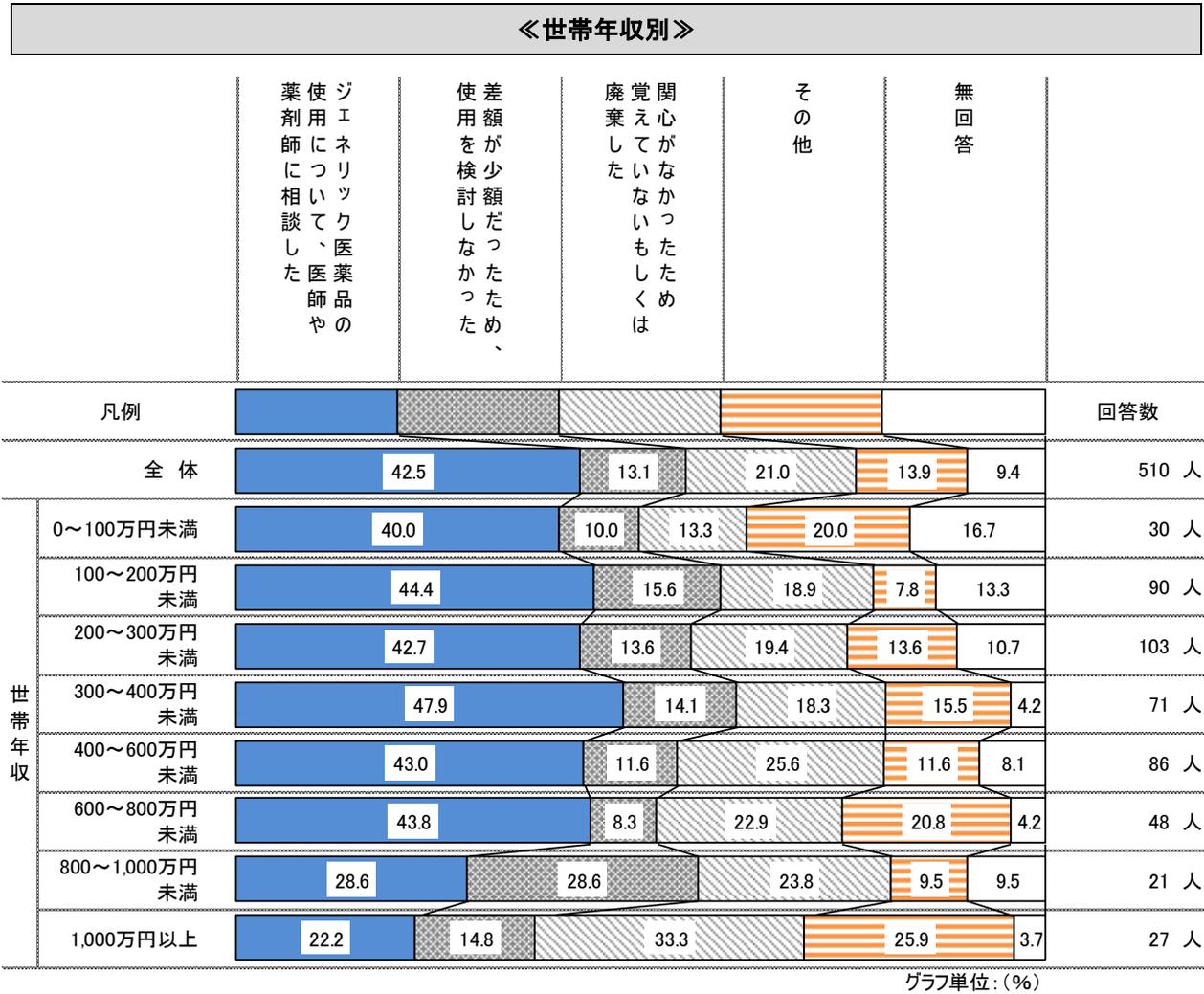
【年代別】

年代が高くなるにつれ「関心がなかったため覚えていないもしくは廃棄した」の割合が低くなる傾向になっている。



【世帯年収別】

1,000万円以上を除くすべての世帯年収で「ジェネリック医薬品の使用について、医師や薬剤師に相談した」が1位になっている。1,000万円以上では「関心がなかったため覚えていないもしくは廃棄した」が1位になっている。

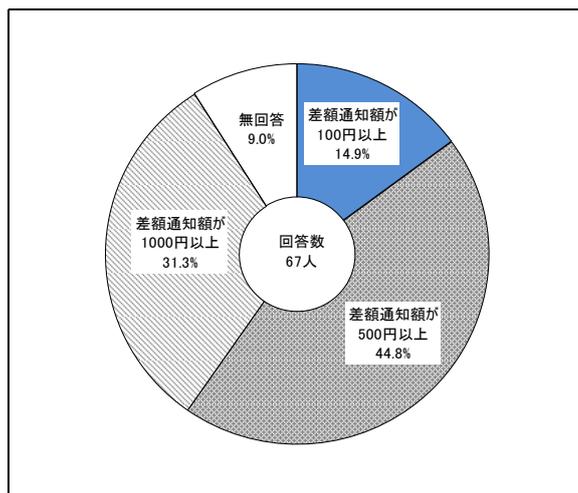


(11) 差額がいくらであれば使用を検討したかについて

副問2-1 (副問2で「2」を選んだ方のみお答えください。)  
差額がいくらであれば使用を検討しましたか。(1つだけ○印)

【総合】 「差額通知額が500円以上」が44.8%と1位になっている。  
次いで「差額通知額が1000円以上」が31.3%、「差額通知額が100円以上」が14.9%と続いている。

《総合》

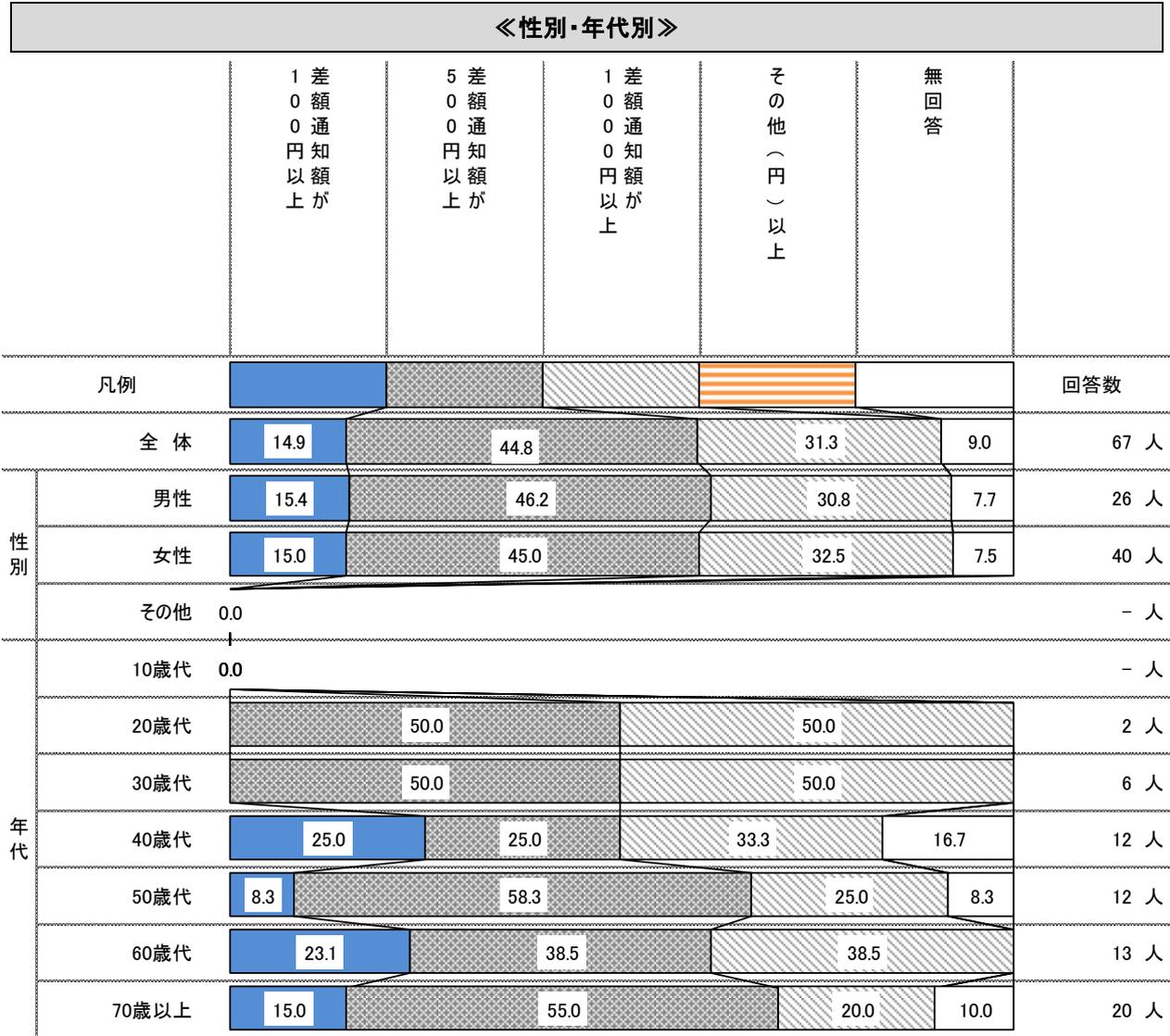


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

【年代別】

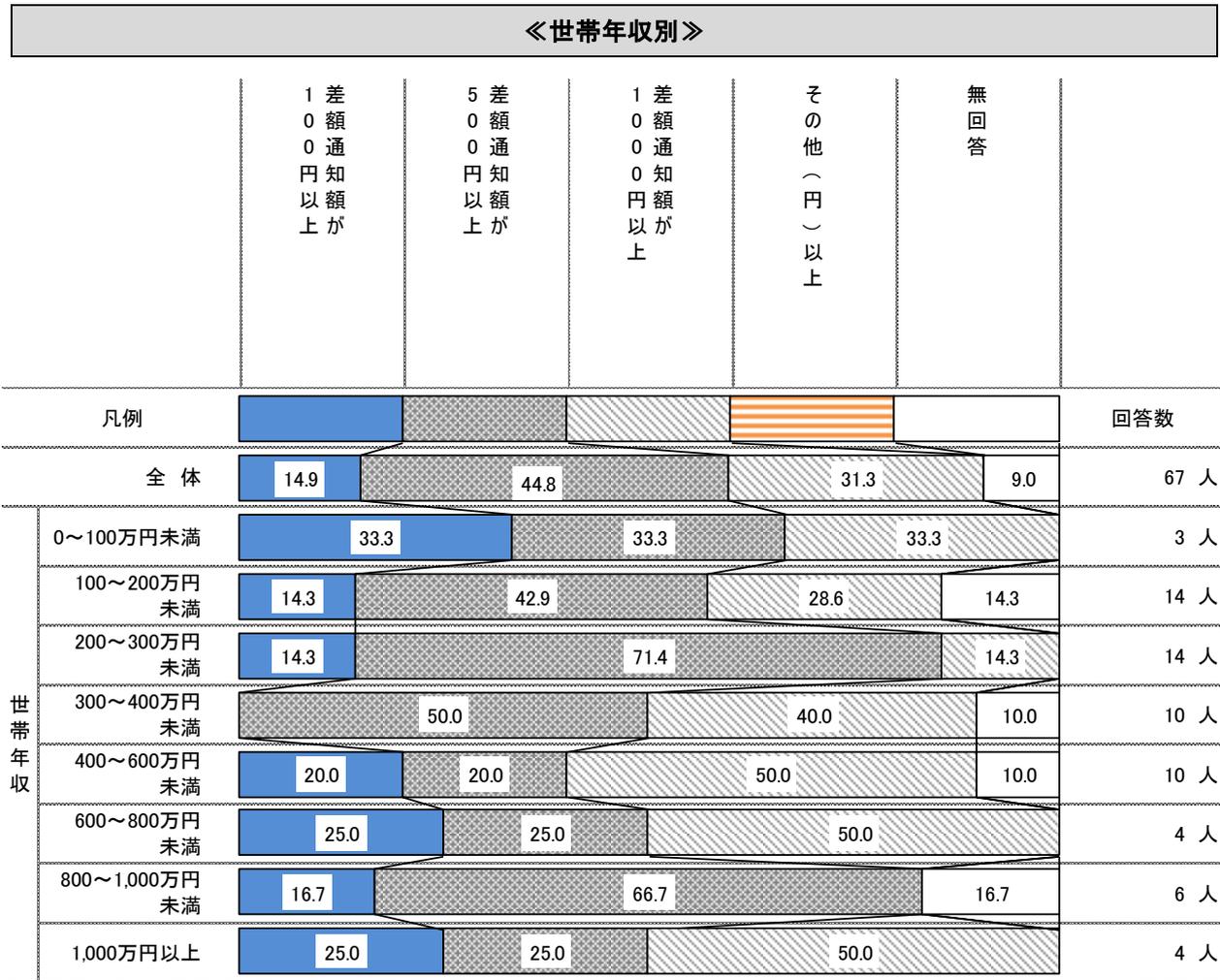
40歳代、60歳代では「差額通知額が100円以上」の割合がそのほかの年代に比べ高くなっている。



グラフ単位: (%)

【世帯年収別】

いずれも「差額通知額が500円以上」の割合が高い傾向になっている。



グラフ単位：(%)

## 5. 地域地域で安心して住み続けられる県づくりについて

### (1) 住み慣れた地域で安全安心に生活するためにより重要と考えるものについて

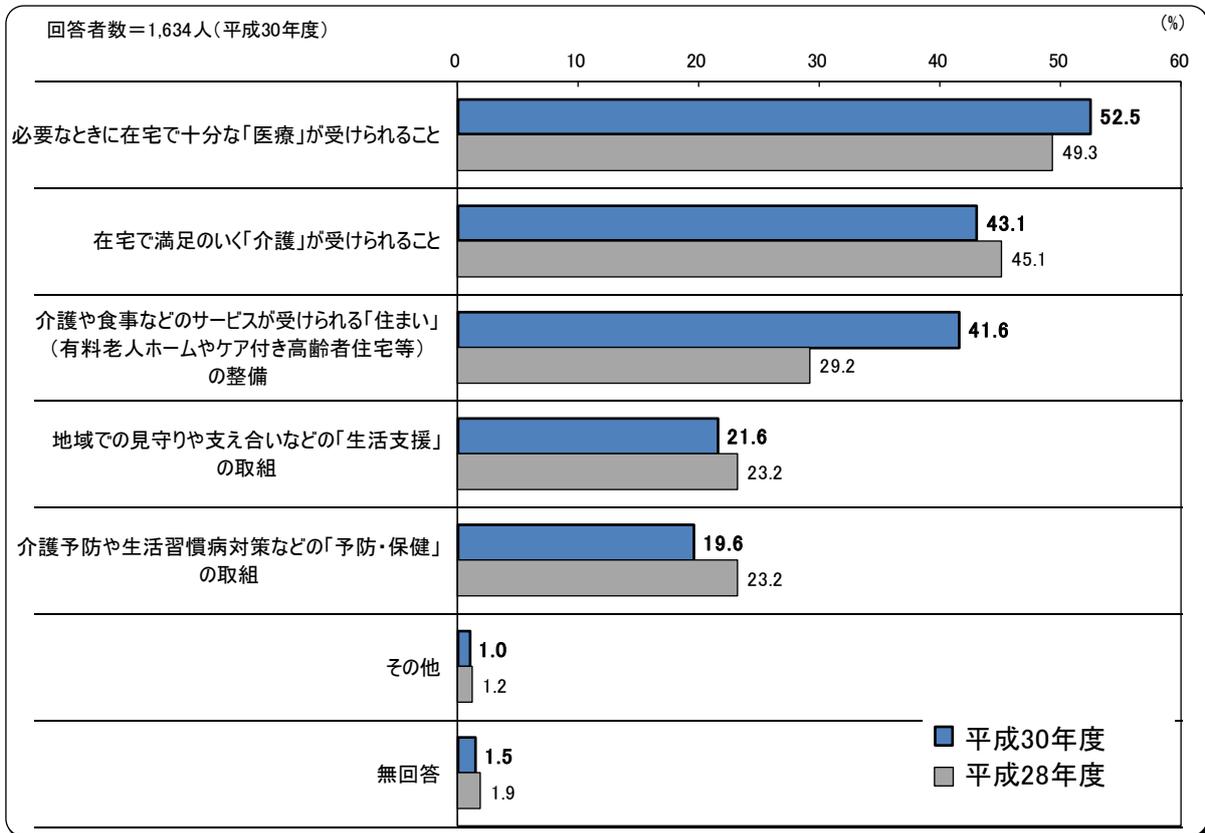
問 20 あなたや家族の方が、住み慣れた地域や住まいで安全安心に生活するために、より重要と考えるものは何ですか。（2つまで○印）

【総合】 「必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられること」が52.5%と1位になっている。

次いで「在宅で満足のいく「介護」が受けられること」が43.1%、「介護や食事などのサービスが受けられる「住まい」（有料老人ホームやケア付き高齢者住宅等）の整備」が41.6%と続いている。

#### 【過去の調査との比較】

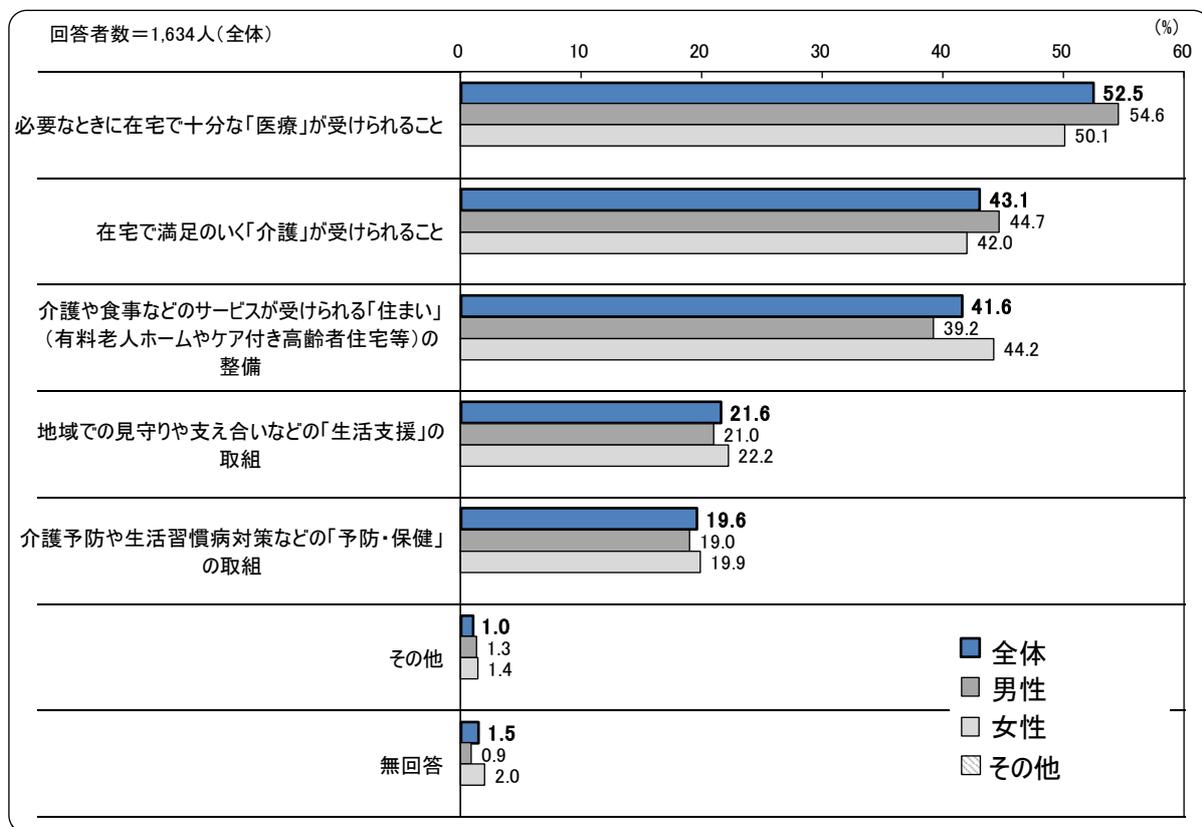
今年度も、28年度と同じく「必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられること」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

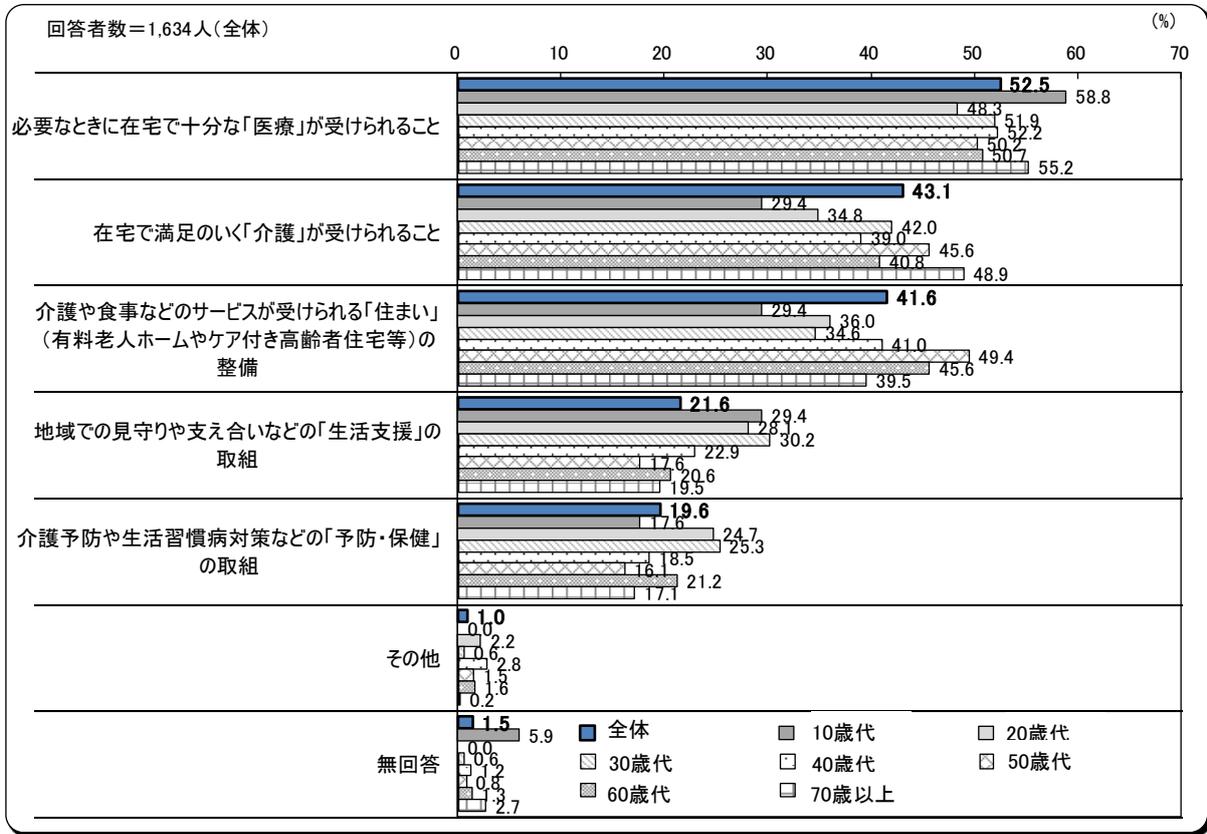
《性別》



【年代別】

いずれも「必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられること」の割合が4割を超えて高くなっている。

《年代別》



【お住まいの場所別】

安芸広域圏、嶺北広域圏、高吾北広域圏を除くすべてのお住まいの場所で「必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられること」が1位になっている。

《お住まいの場所別》

		全体	必要なときに在宅で十分な「医療」が受けられること	在宅で満足のいく「介護」が受けられること	介護予防や生活習慣病対策などの「予防・保健」の取組	地域での見守りや支え合いなどの「生活支援」の取組	介護や食事などのサービスが受けられる「住まい」(有料老人ホームやケア付き高齢者住宅等)の整備	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)									
全体		1,634 100.0	858 52.5	704 43.1	320 19.6	353 21.6	679 41.6	17 1.0	25 1.5
お 住 ま い の 場 所	高知市	714	51.3	41.9	20.4	20.2	43.8	1.5	1.5
	安芸広域圏	107	46.7	41.1	18.7	25.2	49.5	-	-
	南国・香美広域圏	237	56.5	42.6	20.3	21.5	37.6	2.1	0.4
	嶺北広域圏	28	39.3	28.6	21.4	28.6	53.6	-	3.6
	仁淀川広域圏	118	54.2	50.0	20.3	22.9	33.9	1.7	0.8
	高吾北広域圏	51	49.0	51.0	25.5	21.6	41.2	-	-
	高幡広域圏	125	57.6	42.4	14.4	21.6	37.6	-	2.4
	幡多広域圏	181	50.3	46.4	16.6	23.8	43.6	1.7	2.2

(2)長期療養、介護が必要になった場合の過ごし方について

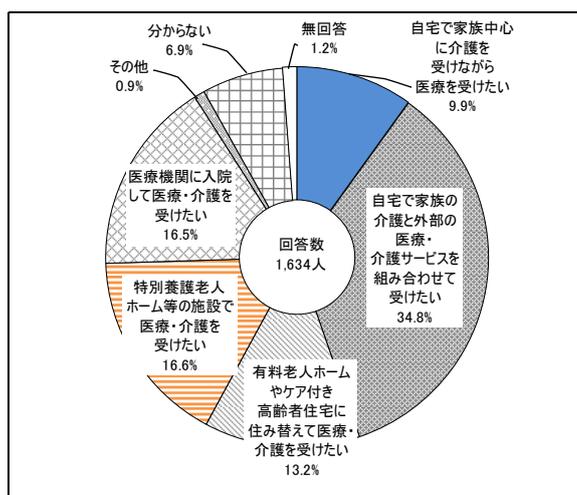
問 21 あなたや家族の方が長期療養や介護が必要となった場合、どう過ごしたいですか。

(1つだけ○印)

【総合】 「自宅で家族の介護と外部の医療・介護サービスを組み合わせたい」が34.8%と1位になっている。

次いで「特別養護老人ホーム等の施設で医療・介護を受けたい」が16.6%、「医療機関に入院して医療・介護を受けたい」が16.5%と続いている。

＜総合＞

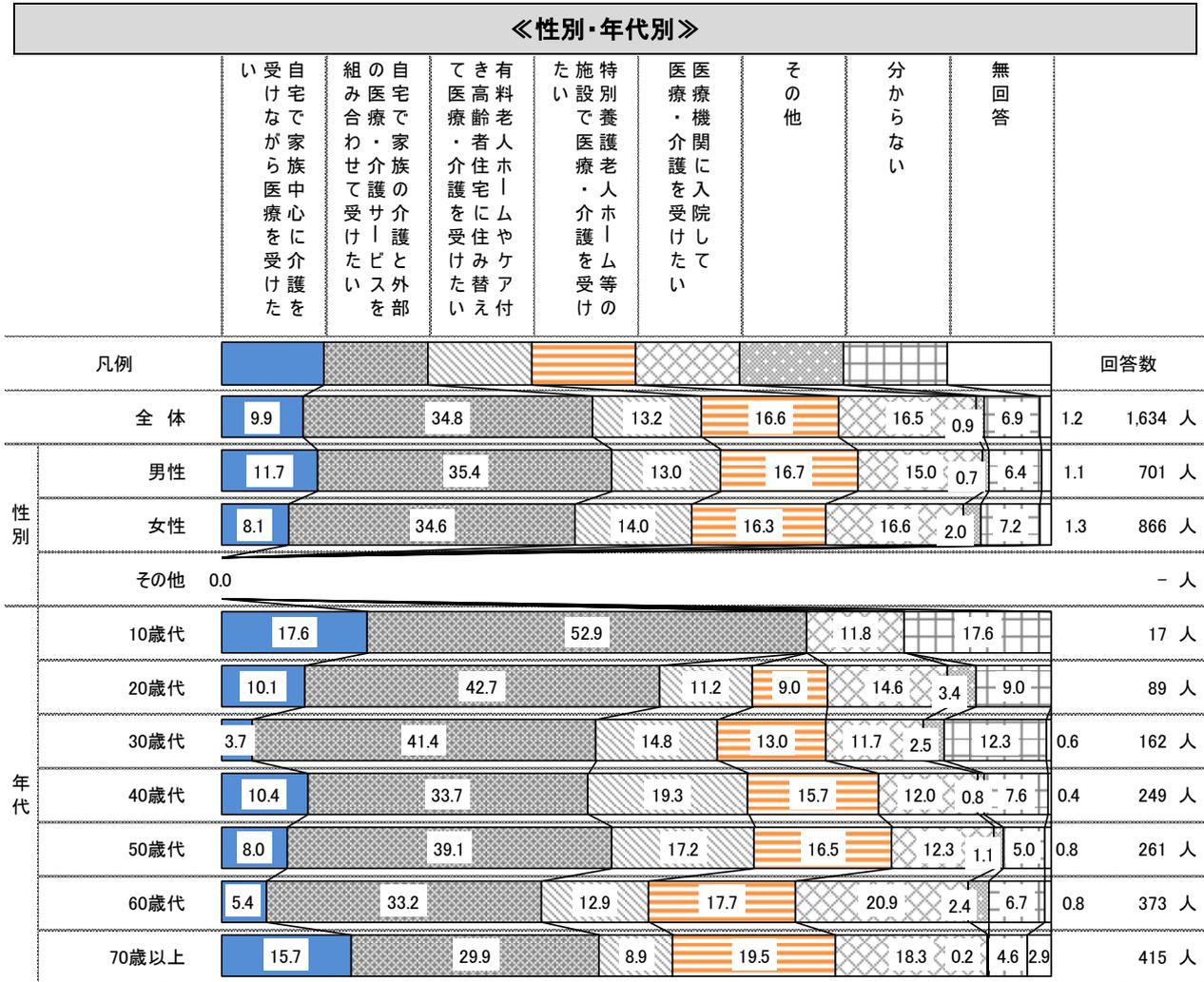


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

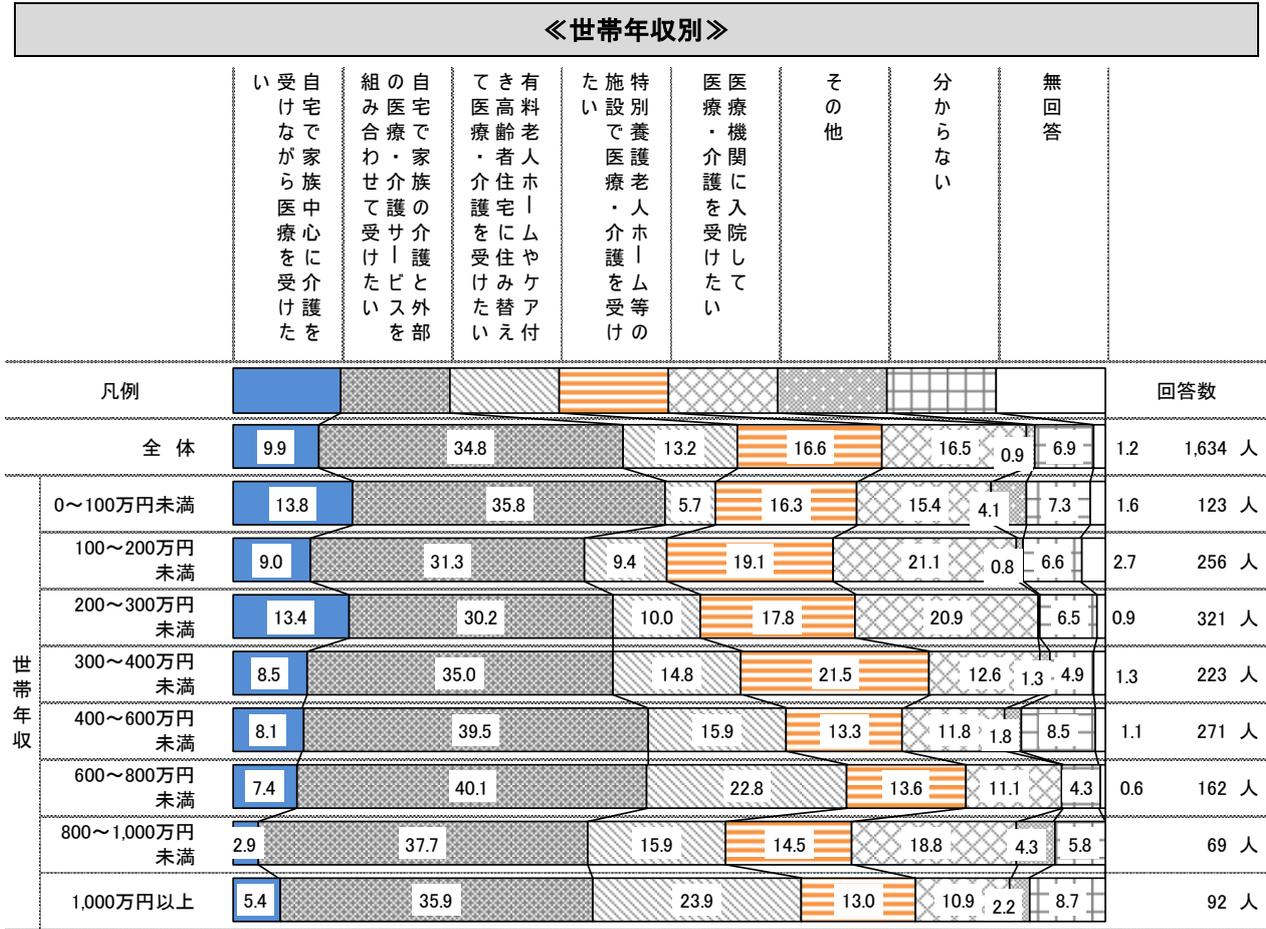
【年代別】

いずれも「自宅で家族の介護と外部の医療・介護サービスを組み合わせて受ける」の割合が高い傾向になっている。



【世帯年収別】

いずれも「自宅で家族の介護と外部の医療・介護サービスを組み合わせて受ける」が1位になっている。



(3) 医療に関する情報について

問 22 あなたは医療に関する情報をどの媒体を活用して周知すればいいと思いますか。  
(2つまで○印)

【総合】 「テレビ」が64.3%と1位になっている。

次いで「広報誌（県・市町村）」が47.1%、「新聞」が31.0%と続いている。

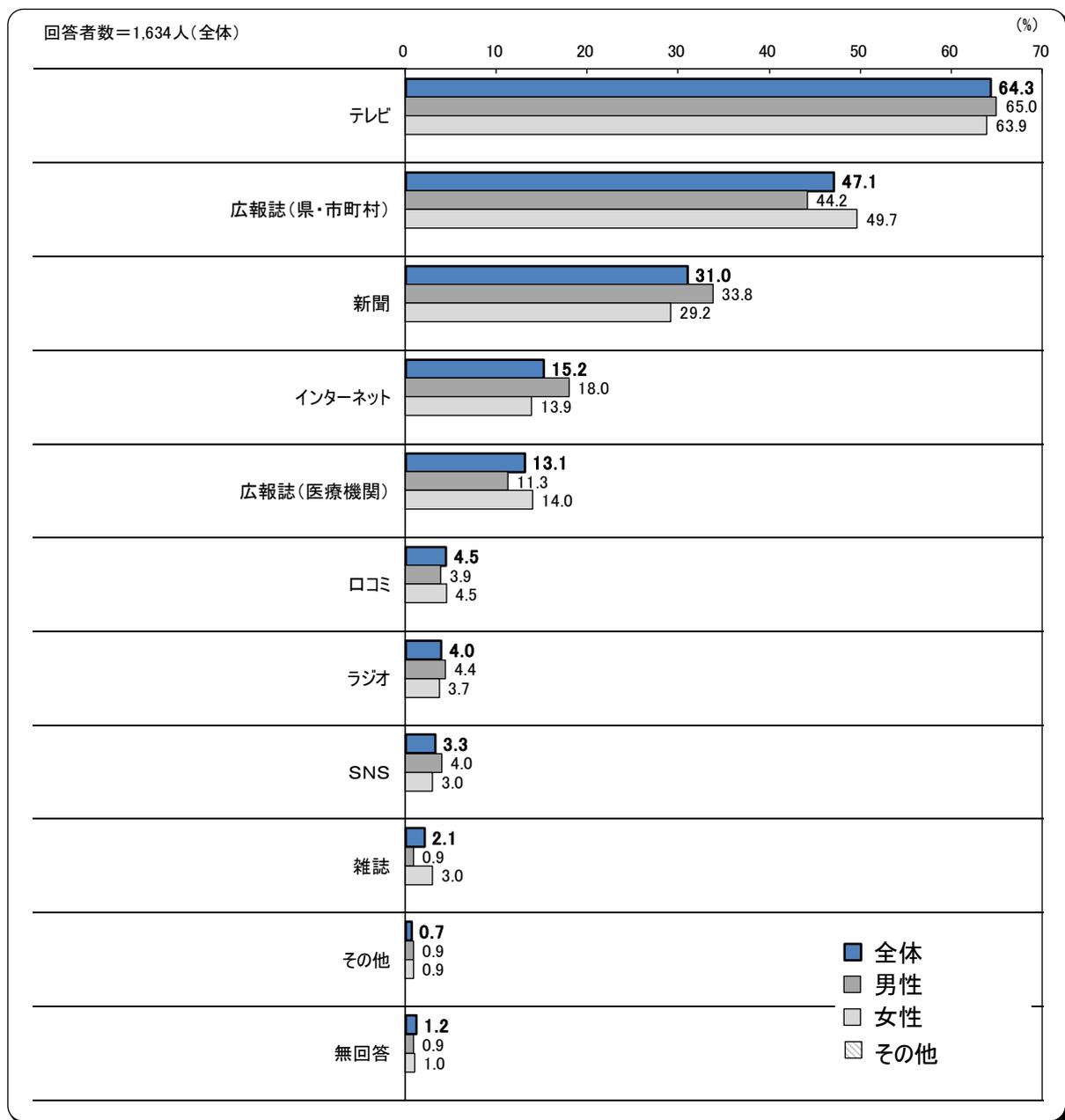
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,634 人
テレビ	64.3	1,051 人
広報誌(県・市町村)	47.1	769 人
新聞	31.0	506 人
インターネット	15.2	249 人
広報誌(医療機関)	13.1	214 人
口コミ	4.5	73 人
ラジオ	4.0	65 人
SNS	3.3	54 人
雑誌	2.1	34 人
その他	0.7	12 人
無回答	1.2	19 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

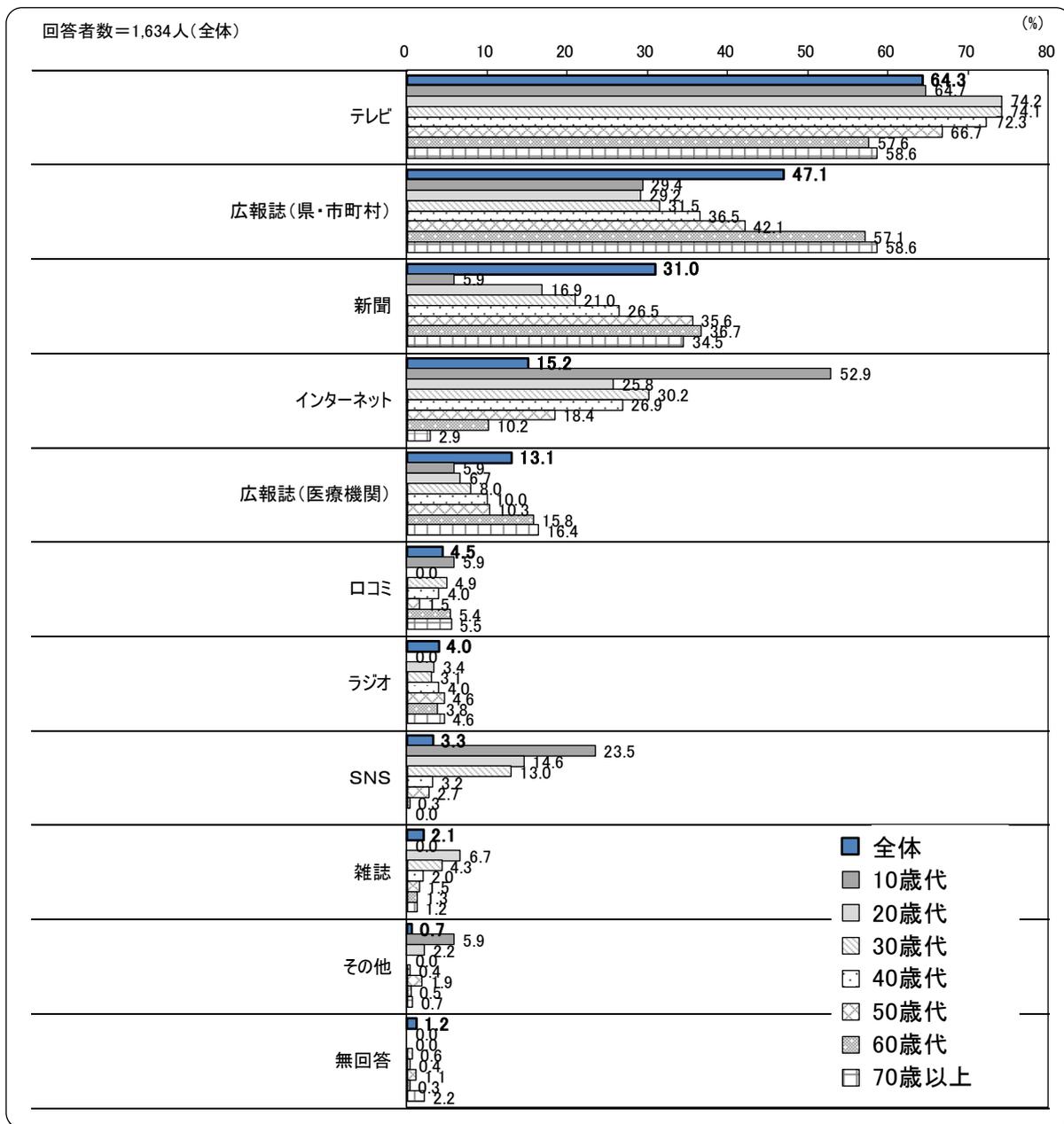
《性別》



【年代別】

いずれも「テレビ」が1位になっており、70歳以上では「広報誌（県・市町村）」も同率で1位になっている。

《年代別》

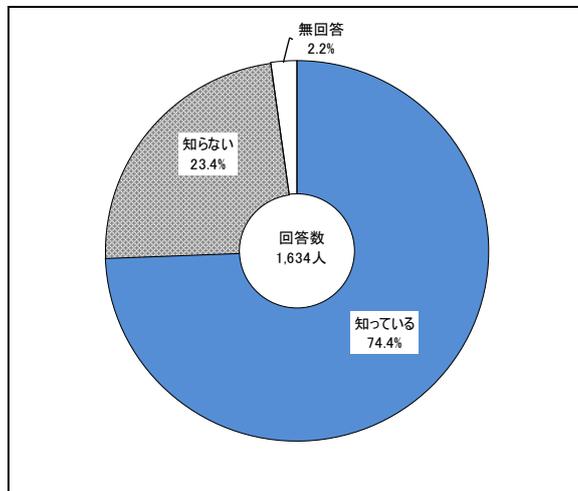


(4) 在宅医療の認知度について

問23 あなたは「在宅医療」について知っていましたか。(1つだけ○印)

【総合】 「知っている」が74.4%、「知らない」が23.4%となっている。

《総合》

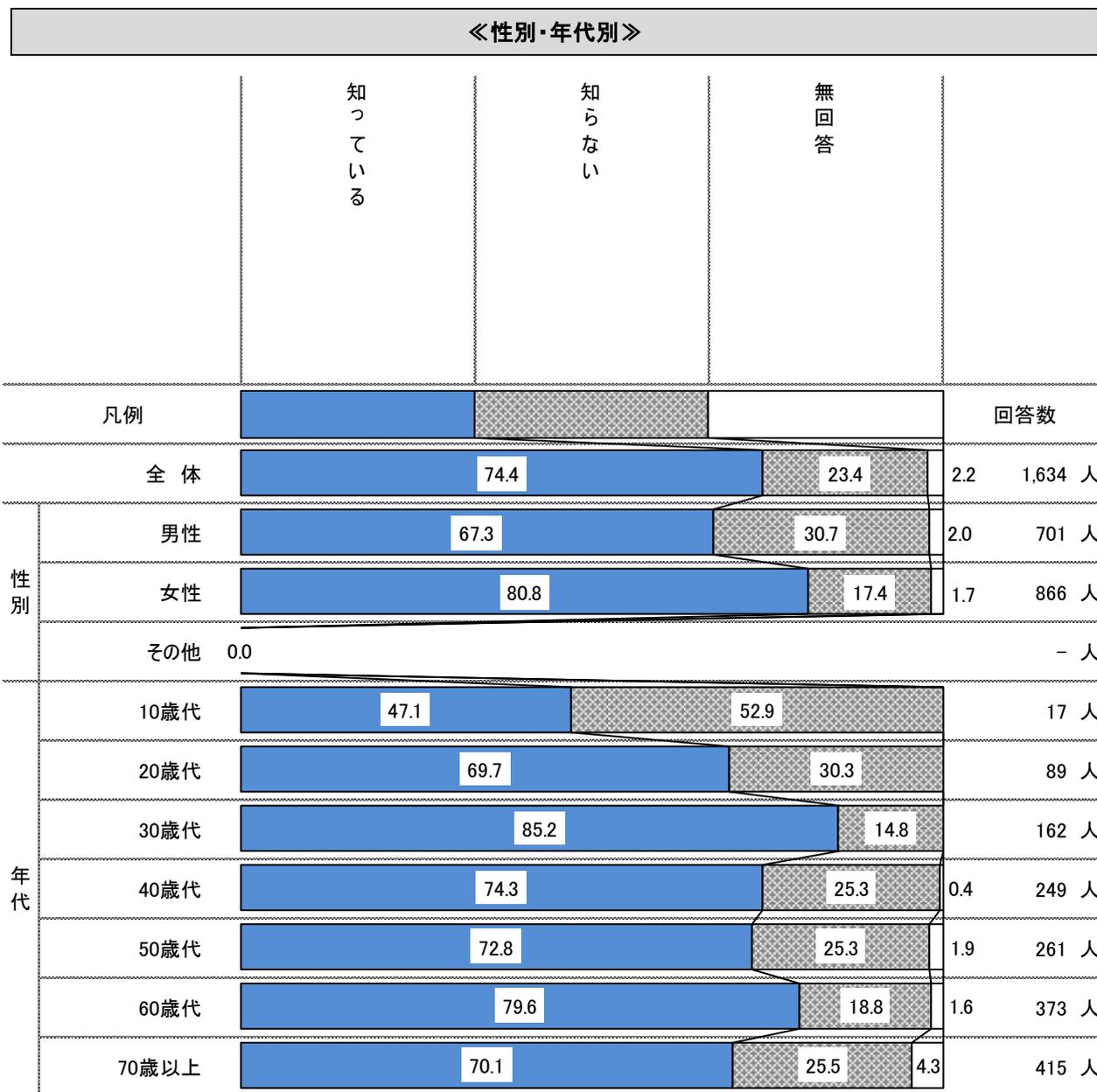


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

【年代別】

いずれも「知っている」の割合が4割を超えており、30歳代では8割を超えている。



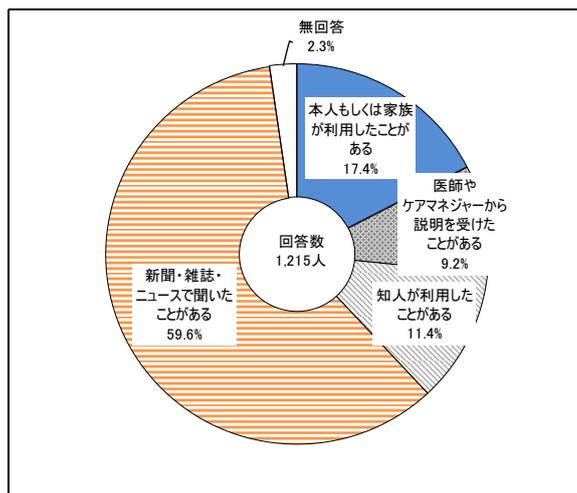
グラフ単位：(%)

(5) 在宅医療を知ったきっかけについて

副問1 (問23で「1」を選んだ方のみお答えください。)  
どのように知りましたか。(1つだけ○印)

【総合】 「新聞・雑誌・ニュースで聞いたことがある」が59.6%と1位になっている。次いで「本人もしくは家族が利用したことがある」が17.4%、「知人が利用したことがある」が11.4%と続いている。

＜総合＞

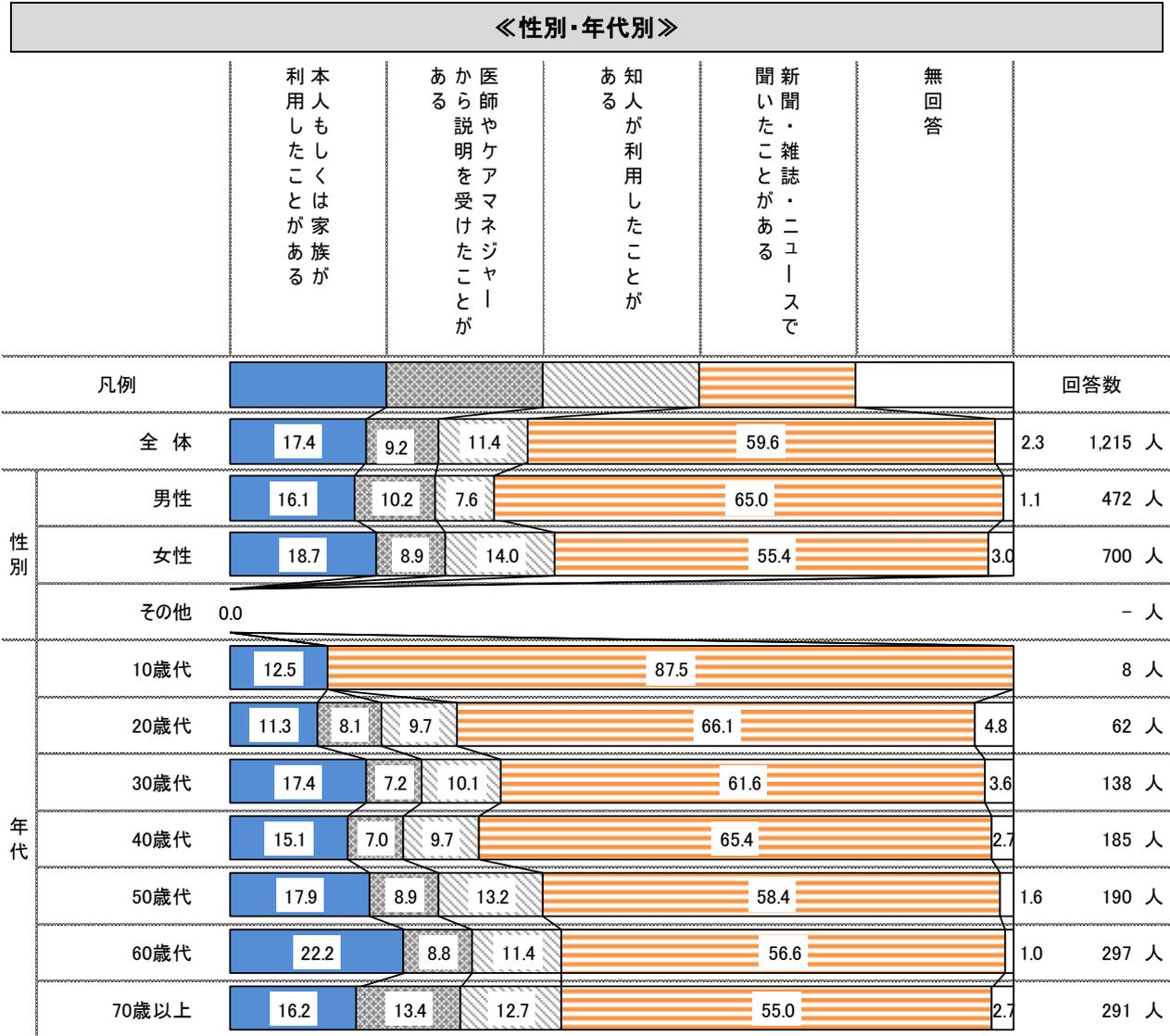


【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

【年代別】

いずれも「新聞・雑誌・ニュースで聞いたことがある」が半数を超えて1位になっている。



グラフ単位: (%)

(6) 在宅医療についてどのように思うかについて

問 24 あなたは在宅医療についてどのように思いますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「療養できる部屋、風呂やトイレなど住宅環境の整備が必要である」が52.4%と1位になっている。

次いで「家族に負担や迷惑がかかる」が50.5%、「自宅でも必要な医療を受けられる」が38.1%と続いている。

《総合》

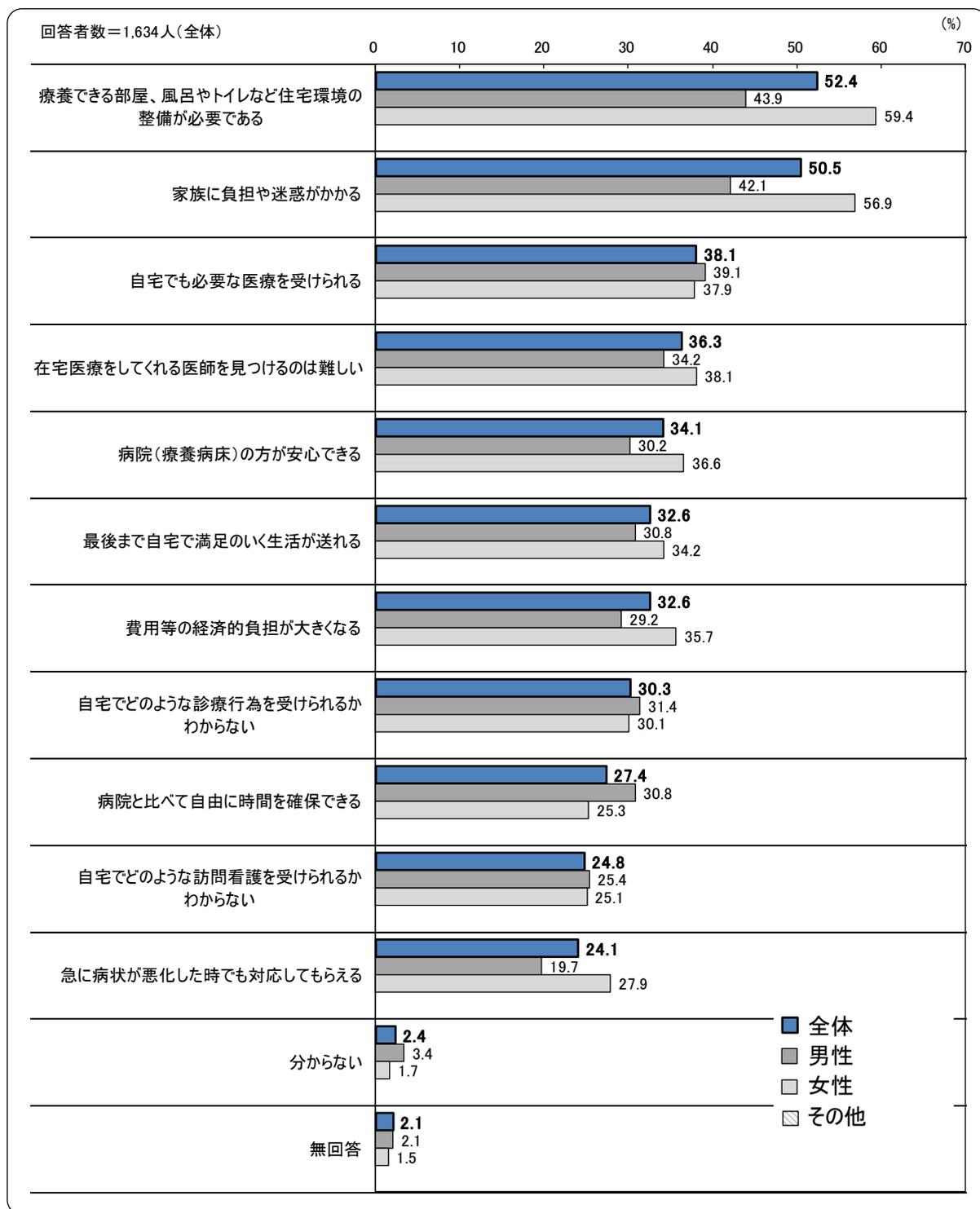
	回答数
全体	100.0 1,634 人
療養できる部屋、風呂やトイレなど住宅環境の整備が必要である	52.4 857 人
家族に負担や迷惑がかかる	50.5 825 人
自宅でも必要な医療を受けられる	38.1 622 人
在宅医療をしてくれる医師を見つけるのは難しい	36.3 593 人
病院(療養病床)の方が安心できる	34.1 557 人
最後まで自宅で満足のいく生活が送れる	32.6 532 人
費用等の経済的負担が大きくなる	32.6 532 人
自宅でどのような診療行為を受けられるかわからない	30.3 495 人
病院と比べて自由に時間を確保できる	27.4 448 人
自宅でどのような訪問看護を受けられるかわからない	24.8 406 人
急に病状が悪化した時でも対応してもらえる	24.1 393 人
分からない	2.4 40 人
無回答	2.1 34 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

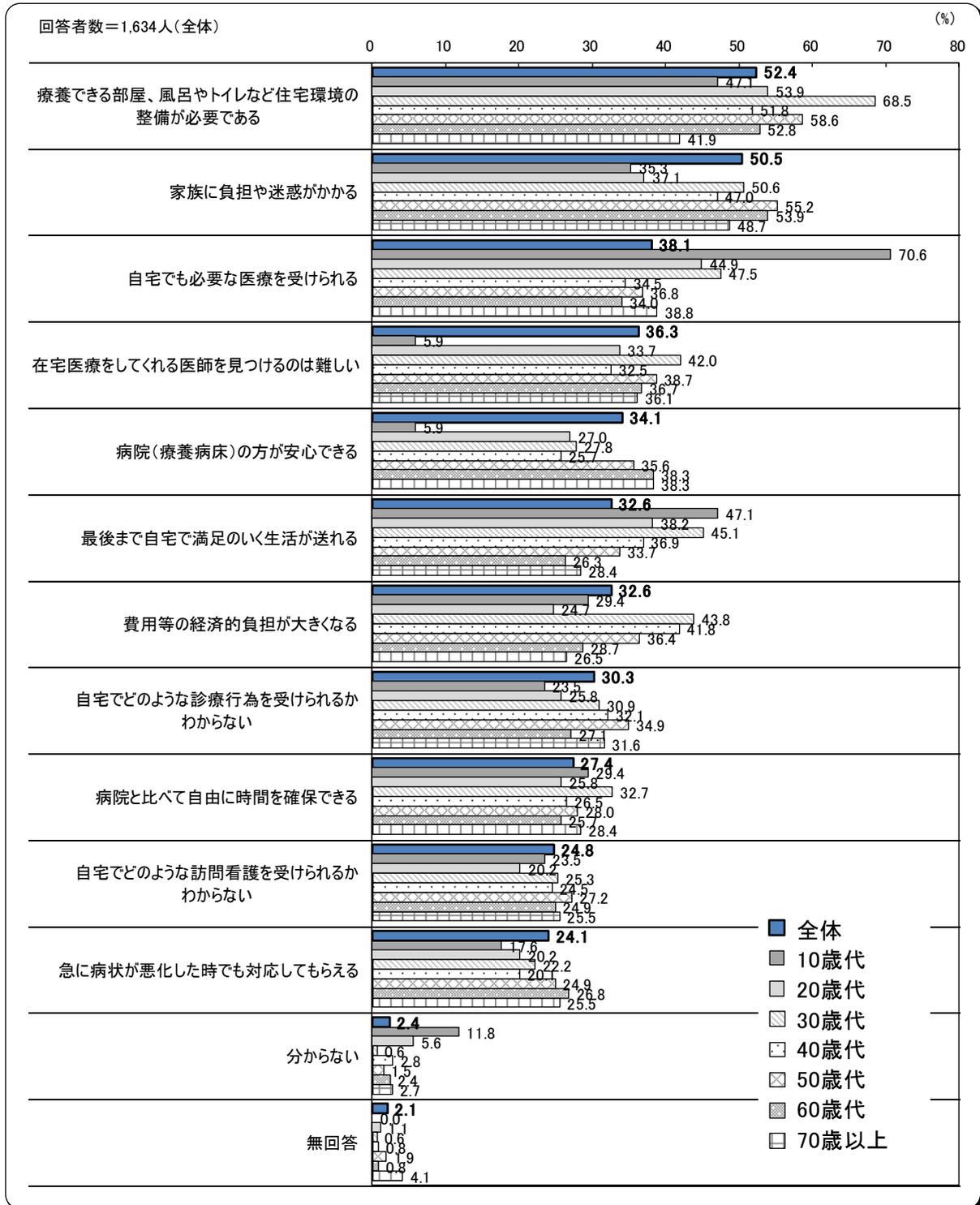
《性別》



【年代別】

10歳代では「自宅でも必要な医療を受けられる」が、60歳代、70歳以上では「家族に負担や迷惑がかかる」が、そのほかの年代では「療養できる部屋、風呂やトイレなど住宅環境の整備が必要である」が1位になっている。

《年代別》



【職業別】

ほとんどの職業で「総合」と同じ傾向になっているが、自由業、学生では「自宅でも必要な医療を受けられる」が、漁業、商工サービス業自営、無職では「家族に負担や迷惑がかかる」が1位となっている。

《職業別》

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)	全体	自宅でも必要な医療を受けられる	急に病状が悪化した時でも対応してもらえる	病院と比べて自由に時間を確保できる	最後まで自宅で満足のいく生活が送れる	自宅でのような診療行為を受けられるかわからない	自宅でのような訪問看護を受けられるかわからない	在宅医療をしてくれる医師を見つけるのは難しい	家族に負担や迷惑がかかる	費用等の経済的負担が大きくなる	療養できる部屋、風呂やトイレなど自宅環境の整備が必要である	病院（療養病床）の方が安心できる	分からない	無回答	
	全体	1,634 100.0	622 38.1	393 24.1	448 27.4	532 32.6	495 30.3	406 24.8	593 36.3	825 50.5	532 32.6	857 52.4	557 34.1	40 2.4	34 2.1
職業	農林業	85	36.5	27.1	31.8	24.7	28.2	24.7	30.6	36.5	25.9	37.6	27.1	4.7	2.4
	漁業	10	40.0	10.0	30.0	10.0	30.0	10.0	50.0	60.0	50.0	50.0	30.0	-	-
	商工サービス業自営	128	35.9	22.7	31.3	34.4	25.0	20.3	30.5	52.3	32.0	43.8	31.3	1.6	1.6
	事務職	160	32.5	21.3	22.5	40.6	29.4	21.9	39.4	58.8	34.4	71.3	41.3	0.6	1.3
	技術職	189	42.3	24.3	32.8	45.0	29.6	21.2	31.7	49.2	35.4	61.4	29.1	0.5	-
	労務職	165	38.2	22.4	26.7	27.9	37.6	30.3	39.4	47.3	35.8	49.7	29.1	4.2	0.6
	管理職	67	41.8	16.4	26.9	40.3	37.3	28.4	40.3	55.2	32.8	64.2	35.8	-	1.5
	自由業	26	65.4	46.2	42.3	57.7	23.1	19.2	34.6	42.3	23.1	50.0	26.9	-	-
	主婦・主夫	174	36.2	28.2	21.3	28.2	29.9	27.6	43.7	50.0	31.0	55.2	39.1	3.4	-
	学生	23	69.6	21.7	26.1	43.5	21.7	17.4	13.0	34.8	34.8	52.2	13.0	13.0	-
	無職	380	38.7	26.6	27.9	27.4	30.3	26.1	37.4	51.6	29.5	42.6	39.7	1.8	3.9
その他	147	34.0	21.1	27.2	28.6	33.3	29.9	34.0	49.0	40.8	57.1	26.5	5.4	2.7	

(7) これまでに在宅医療を選択したことがあるかについて

問25 これまでにあなたもしくはあなたの周りの方が在宅医療を選択したことがありますか。  
(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「検討したことも選択したこともない」が62.1%と1位になっている。  
次いで「家族が選択した」が14.2%、「友人・知人が選択した」が9.2%と続いている。

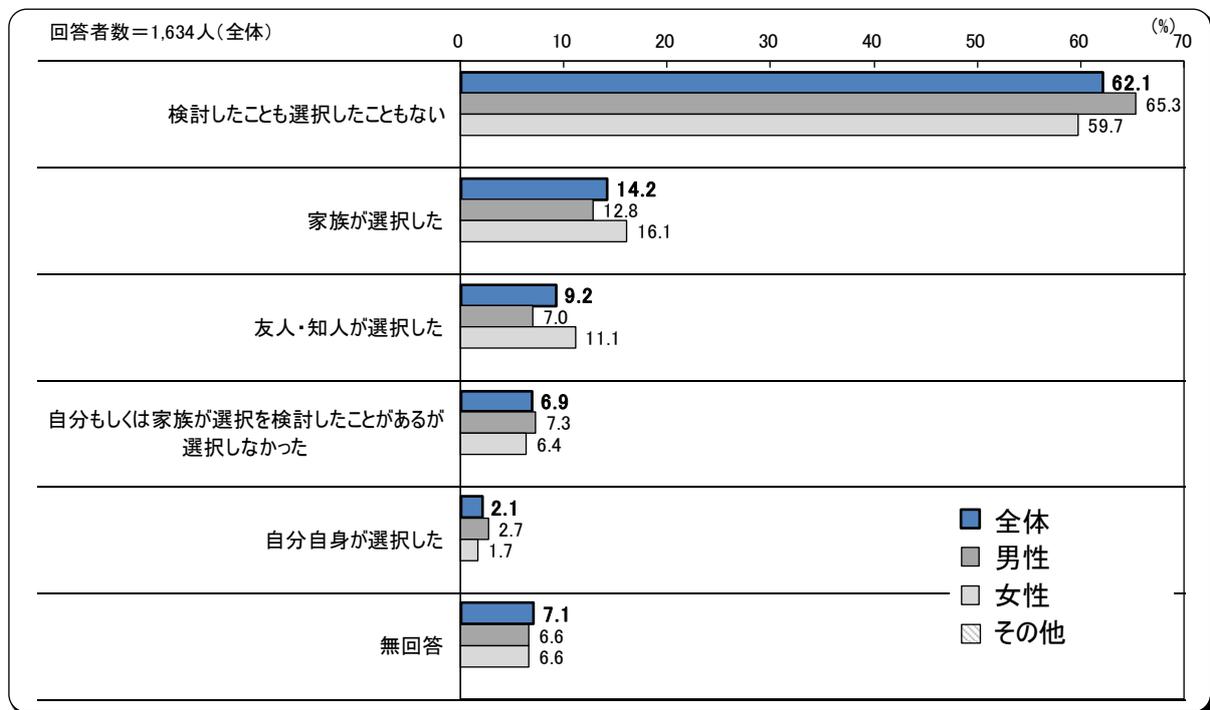
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,634 人
検討したことも選択したこともない	62.1	1,015 人
家族が選択した	14.2	232 人
友人・知人が選択した	9.2	150 人
自分もしくは家族が選択を検討したことがあるが 選択しなかった	6.9	113 人
自分自身が選択した	2.1	35 人
無回答	7.1	116 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

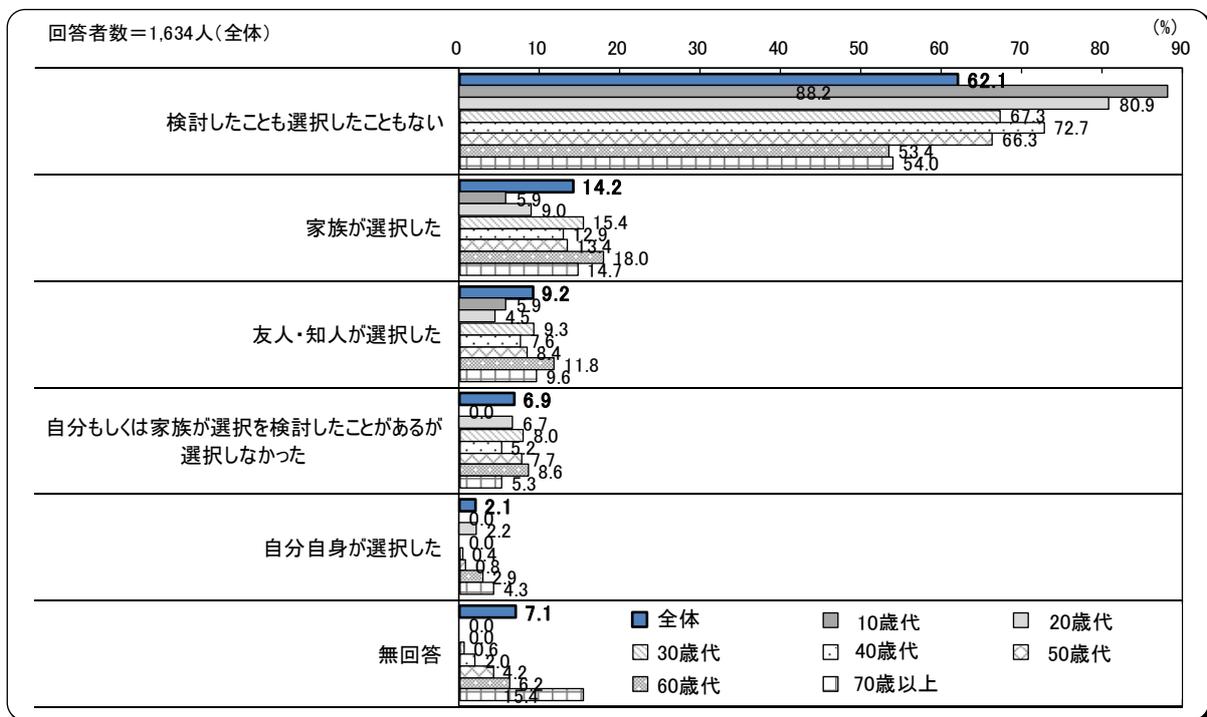
《性別》



【年代別】

いずれも「検討したことも選択したこともない」の割合が半数を超えて高くなっている。

《年代別》



(8) 在宅医療を選択した理由について

副問1 (問25で「1」、「2」を回答した方にお聞きします。)

在宅医療を選択した理由は何ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「患者本人が希望した」が54.4%と1位になっている。

次いで「介護・医療関係者から在宅医療を勧められた」が30.1%、「在宅医療について、気軽に相談できる市町村や地域包括支援センター(ケアマネジャー等)があった」が27.0%と続いている。

《総合》

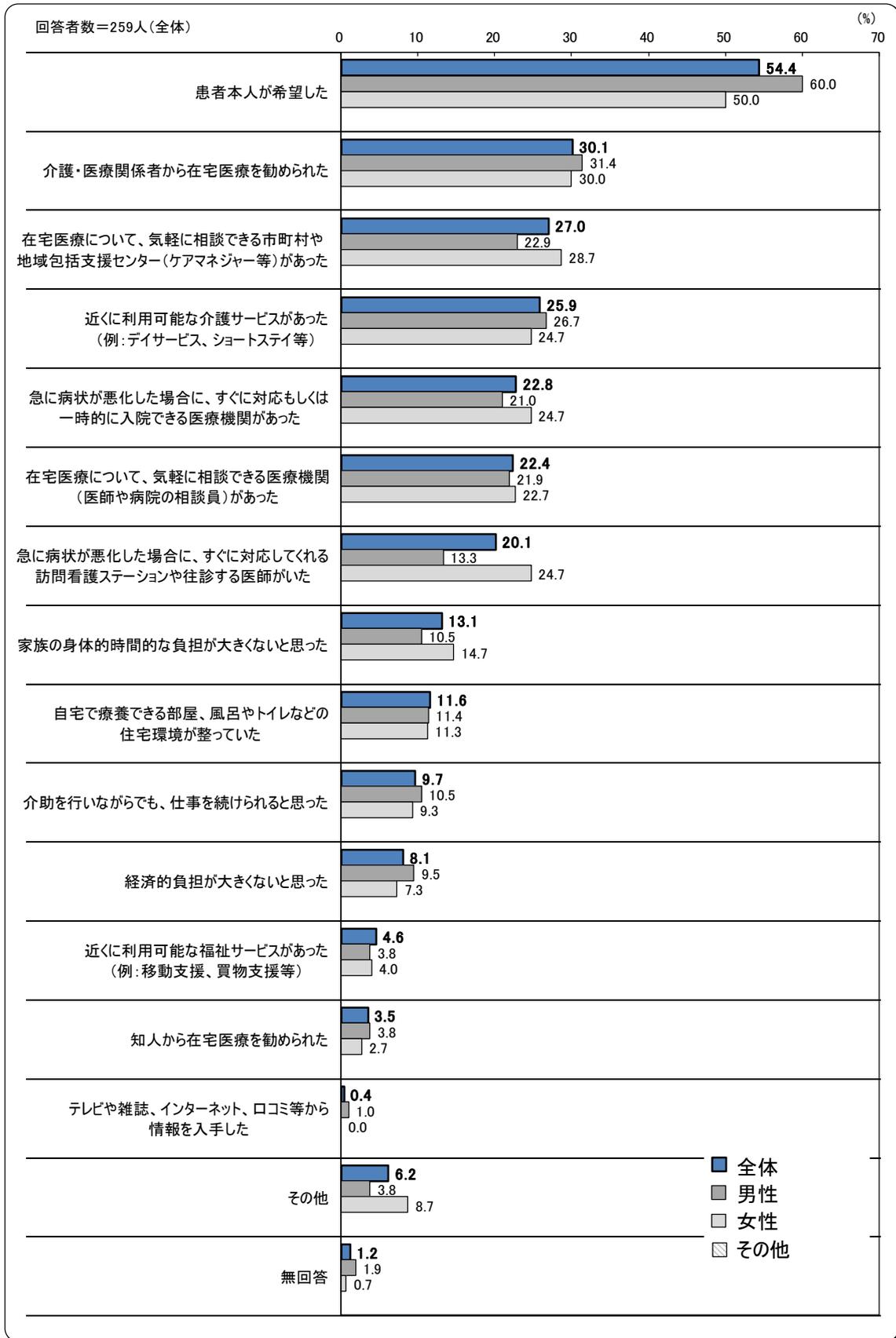
	回答数
全体	259 人
患者本人が希望した	141 人
介護・医療関係者から在宅医療を勧められた	78 人
在宅医療について、気軽に相談できる市町村や地域包括支援センター(ケアマネジャー等)があった	70 人
近くに利用可能な介護サービスがあった(例:デイサービス、ショートステイ等)	67 人
急に病状が悪化した場合に、すぐに対応もしくは一時的に入院できる医療機関があった	59 人
在宅医療について、気軽に相談できる医療機関(医師や病院の相談員)があった	58 人
急に病状が悪化した場合に、すぐに対応してくれる訪問看護ステーションや往診する医師がいた	52 人
家族の身体的時間的な負担が大きくないと思った	34 人
自宅で療養できる部屋、風呂やトイレなどの住宅環境が整っていた	30 人
介助を行いながらも、仕事を続けられると思った	25 人
経済的負担が大きくないと思った	21 人
近くに利用可能な福祉サービスがあった(例:移動支援、買物支援等)	12 人
知人から在宅医療を勧められた	9 人
テレビや雑誌、インターネット、口コミ等から情報を入手した	1 人
その他	16 人
無回答	3 人

グラフ単位:(%)

【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ傾向になっている。

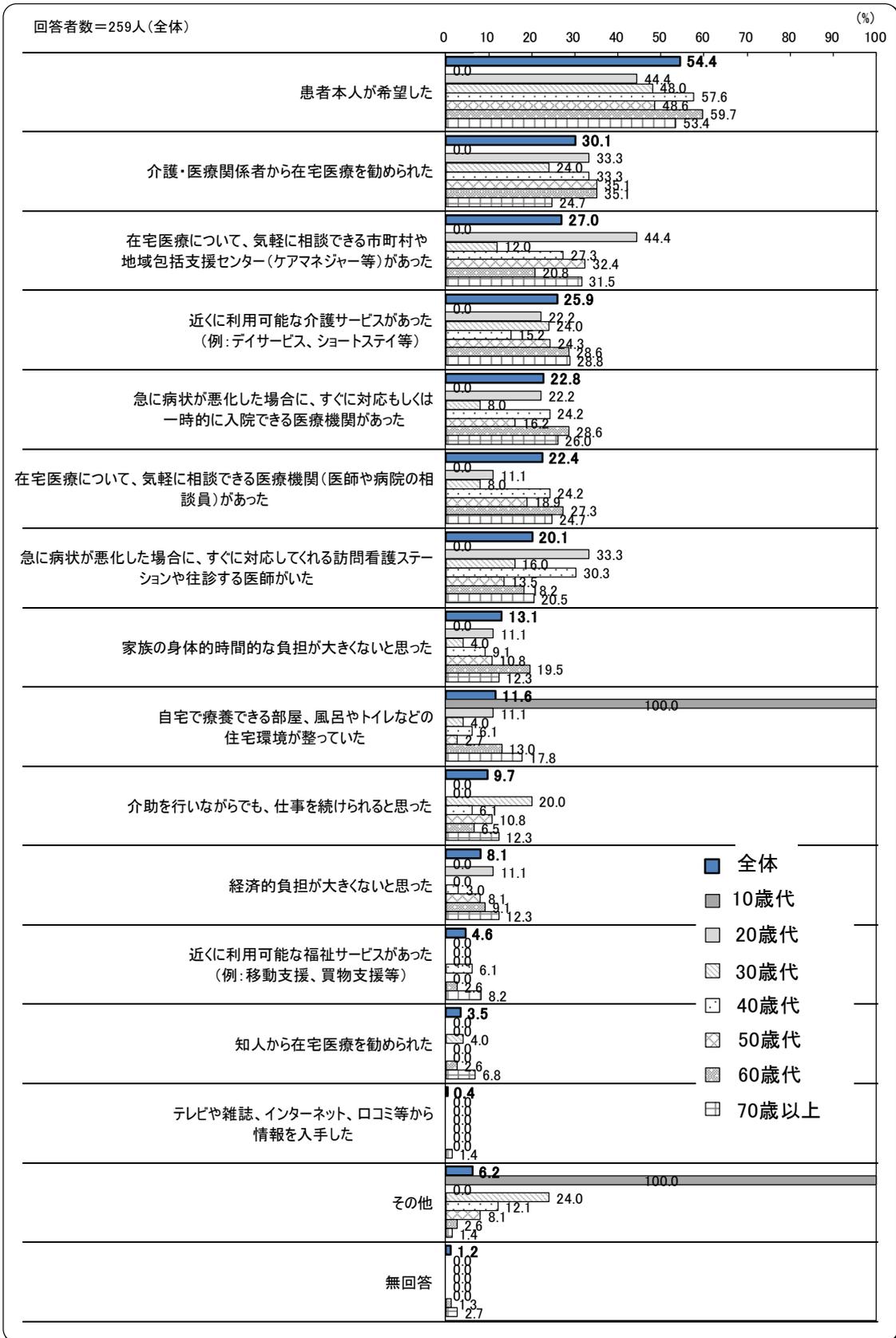
◀性別▶



【年代別】

「患者本人が希望した」が、10歳代を除いて1位になっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「患者本人が希望した」の割合が高い傾向になっている。

《職業別》

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)	全体	患者本人が希望した	介護・医療関係者から在宅医療を勧められた	知人から在宅医療を勧められた	テレビや雑誌、インターネット、口コミ等から情報を入手した	在宅医療について、気軽に相談できる市町村や地域包括支援センター(ケアマネジャー等)があった	在宅医療について、気軽に相談できる医療機関(医師や病院の相談員)があった	在宅医療について、気軽に相談できる医師がいた	急に病状が悪化した場合に、すぐに対応する医師がいた	急に病状が悪化した場合に、すぐに対応する医師がいた	急に病状が悪化した場合に、すぐに対応する医師がいた	近くに利用可能な福祉サービスがあった(例:移動支援、買物支援等)	近くに利用可能な福祉サービスがあった(例:移動支援、買物支援等)	家族の身体的・時間的な負担が大きくなかった	経済的負担が大きくないと思った	自宅で療養できる部屋、風呂やトイレなどの住宅環境が整っていた	介護を行いながらも、仕事を続けられると思った	その他	無回答
	全体	259 100.0	141 54.4	78 30.1	9 3.5	1 0.4	70 27.0	58 22.4	52 20.1	59 22.8	67 25.9	12 4.6	34 13.1	21 8.1	30 11.6	25 9.7	16 6.2	3 1.2	
職業	農林業	18 55.6	38.9	11.1	-	16.7	44.4	27.8	27.8	22.2	-	11.1	11.1	16.7	5.6	-	-	5.6	
	漁業	3 33.3	-	-	-	66.7	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	商工サービス業自営	22 68.2	22.7	-	-	27.3	22.7	13.6	27.3	13.6	4.5	13.6	4.5	18.2	18.2	-	-	-	
	事務職	34 44.1	32.4	-	-	17.6	26.5	29.4	23.5	17.6	2.9	17.6	5.9	8.8	17.6	20.6	-	-	
	技術職	32 53.1	34.4	-	-	25.0	18.8	25.0	15.6	28.1	3.1	3.1	3.1	6.3	9.4	9.4	-	-	
	労務職	17 64.7	17.6	5.9	-	41.2	23.5	17.6	17.6	35.3	5.9	23.5	5.9	11.8	-	-	-	-	
	管理職	8 50.0	25.0	-	-	25.0	12.5	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	12.5	
	自由業	5 80.0	60.0	-	-	20.0	20.0	-	40.0	40.0	-	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	-	
	主婦・主夫	21 47.6	38.1	4.8	-	23.8	23.8	19.0	19.0	23.8	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	4.8	-	-	
	学生	2 50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
	無職	70 52.9	27.1	5.7	-	32.9	18.6	21.4	27.1	31.4	5.7	15.7	11.4	11.4	7.1	2.9	2.9	-	
	その他	22 54.5	40.9	-	-	4.5	18.2	18.2	9.1	18.2	4.5	13.6	18.2	9.1	18.2	9.1	-	-	

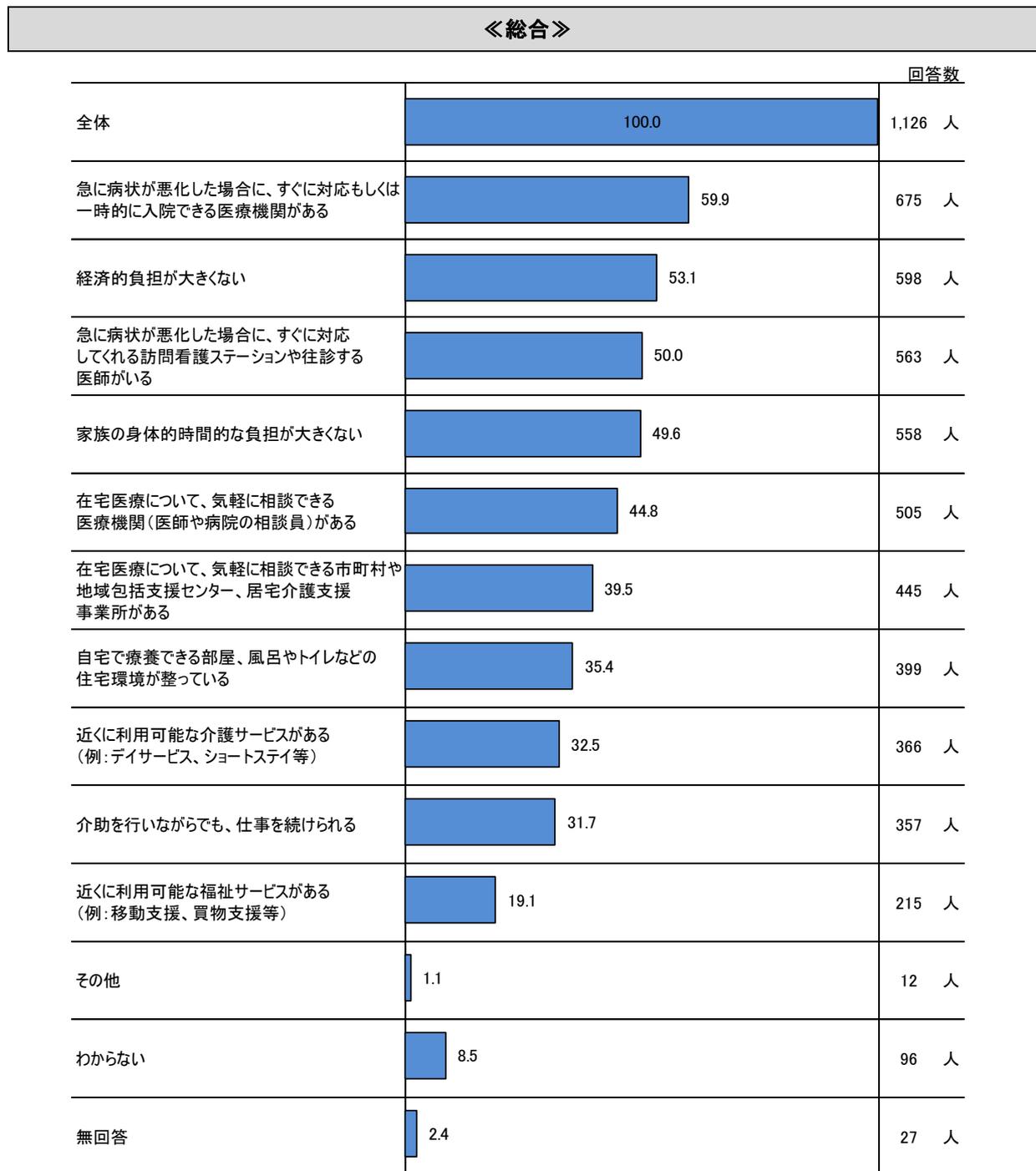
**(9) 長期療養が必要になった場合、どのような条件や環境が整えば、在宅医療を選択するかについて**

副問2 (問25で「4」、「5」を選んだ方にお聞きします。)

あなたや家族の方が長期療養が必要になった場合、どのような条件や環境が整えば、在宅医療を選択しますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「急に病状が悪化した場合に、すぐに対応もしくは一時的に入院できる医療機関がある」が59.9%と1位になっている。

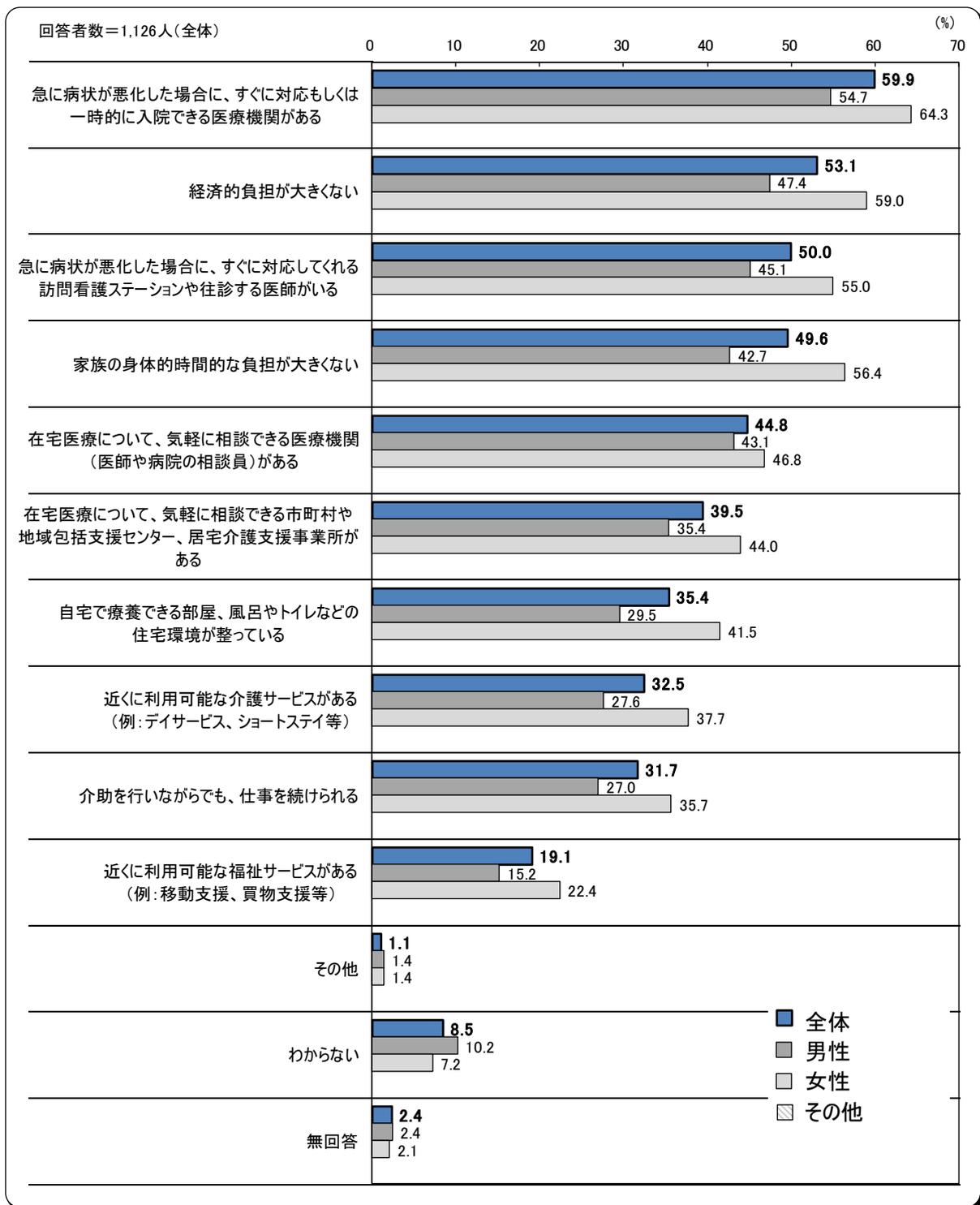
次いで「経済的負担が大きくない」が53.1%、「急に病状が悪化した場合に、すぐに対応してくれる訪問看護ステーションや往診する医師がいる」が50.0%と続いている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

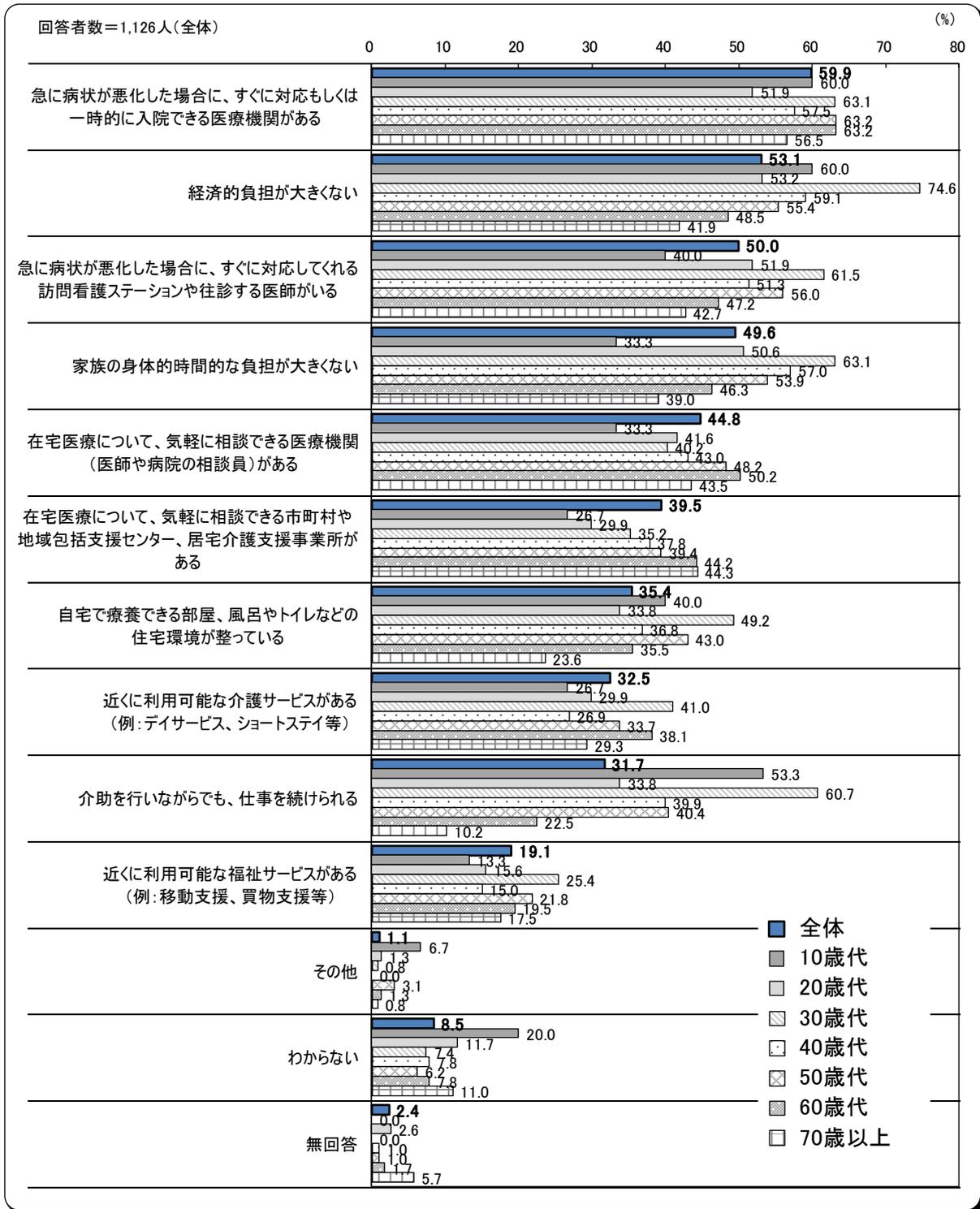
◀性別▶



【年代別】

10歳代から40歳代では「経済的負担が大きくない」が、50歳代から70歳以上では「急に病状が悪化した場合に、すぐに対応もしくは一時的に入院できる医療機関がある」が、10歳代では「急に病状が悪化した場合に、すぐに対応もしくは一時的に入院できる医療機関がある」も同率で1位になっている。

《年代別》





(10)ご近所との関係性について

問 26 あなたは現在、ご近所（向こう3軒両隣など）の方とどのような関係ですか。

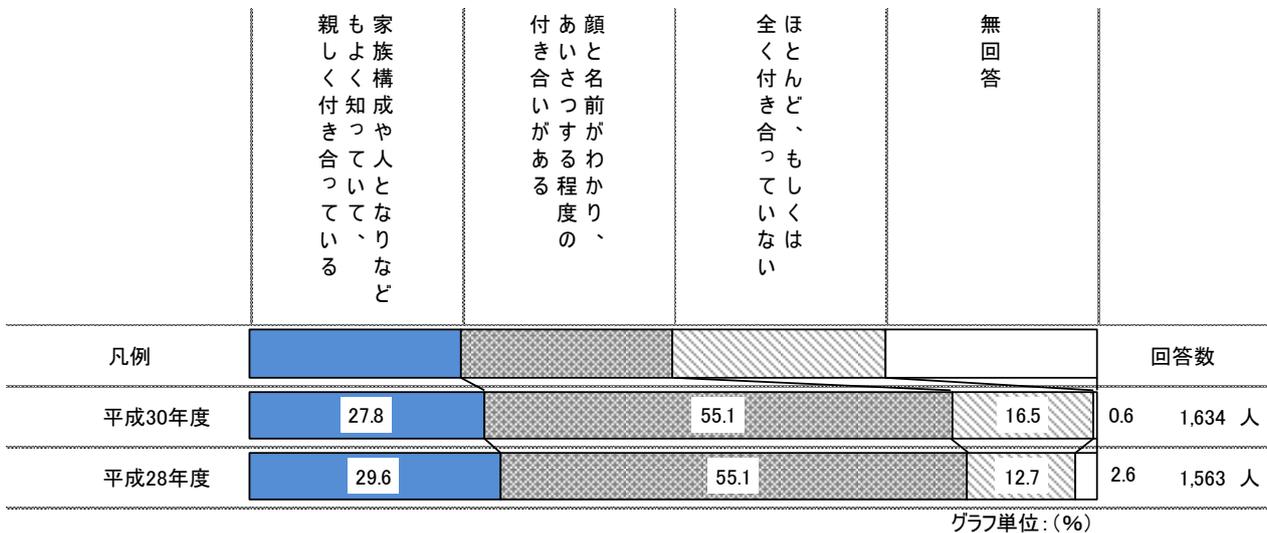
(1つだけ○印)

【総合】 「顔と名前がわかり、あいさつする程度の付き合いがある」が55.1%と1位になっている。

次いで「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」が27.8%、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」が16.5%となっている。

【過去の調査との比較】

今年度も、28年度と同じく「顔と名前がわかり、あいさつする程度の付き合いがある」が1位になっている。

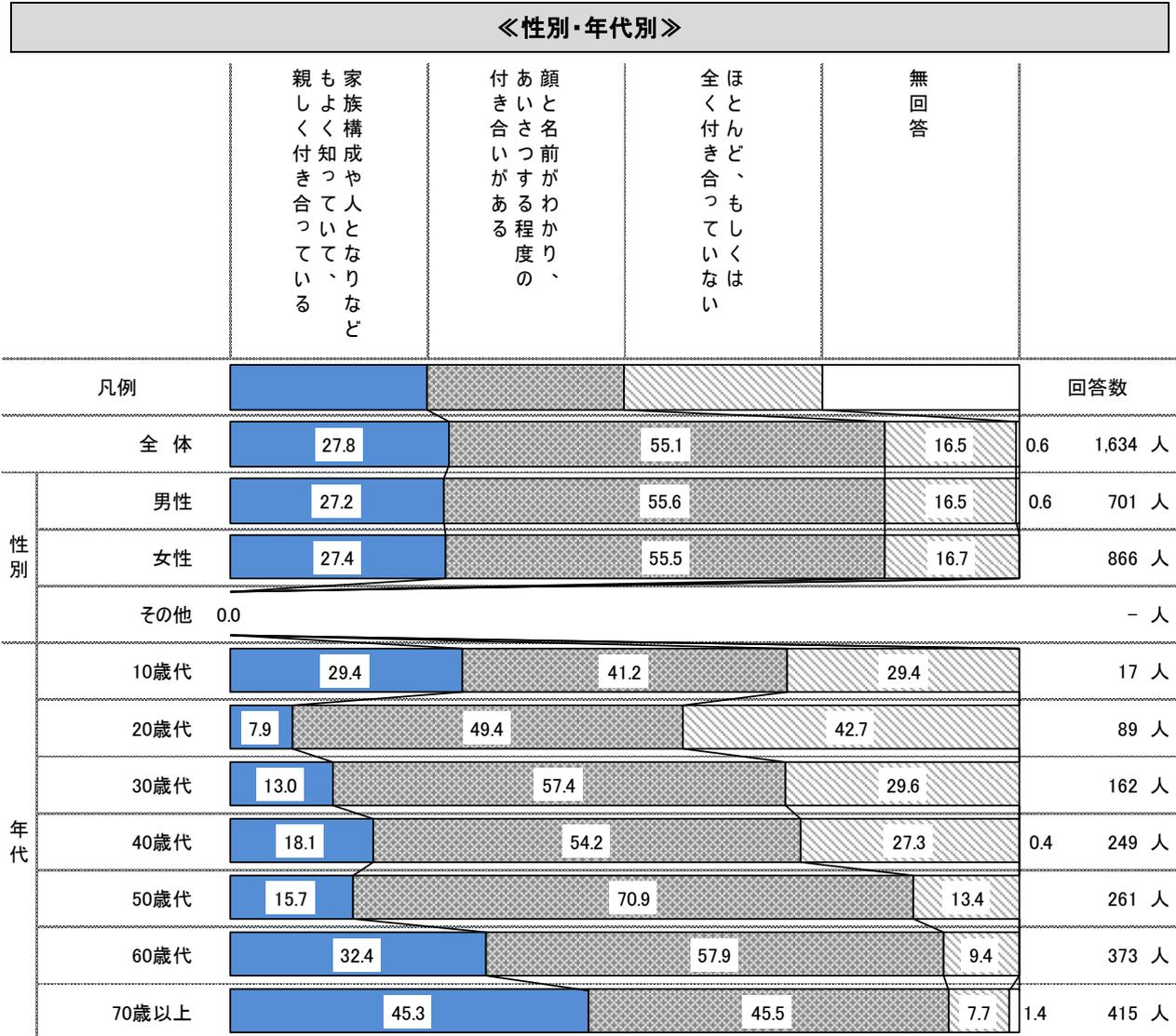


【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ結果になっている。

【年代別】

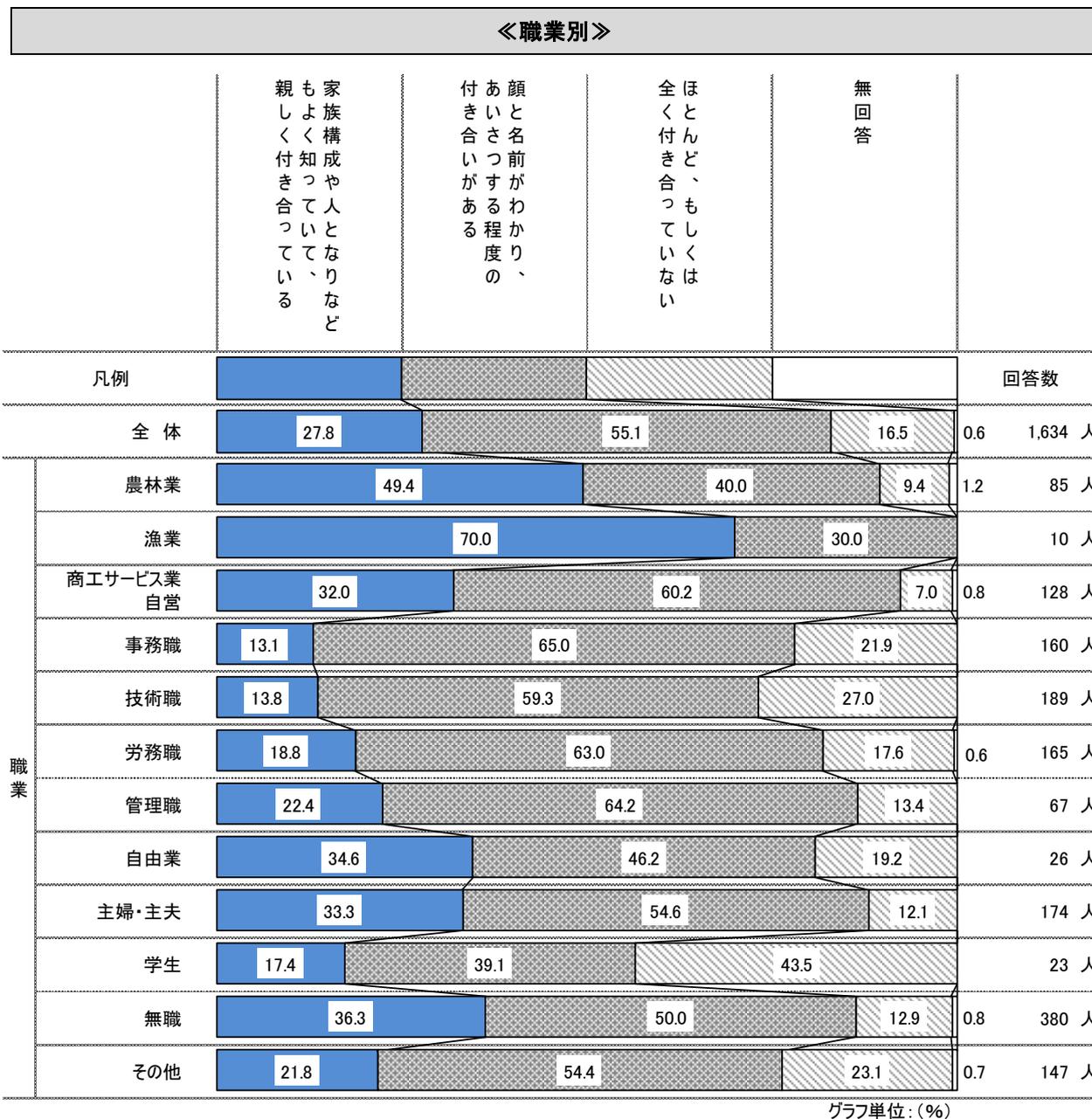
いずれも「顔と名前がわかり、あいさつする程度の付き合いがある」が1位になっている。



グラフ単位：(%)

【職業別】

農林業、漁業では「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」が、学生では「ほとんど、もしくは全く付き合いがない」が、そのほかの職業では「顔と名前がわかり、あいさつする程度の付き合いがある」が1位になっている。



(11)地域での支え合いの力について

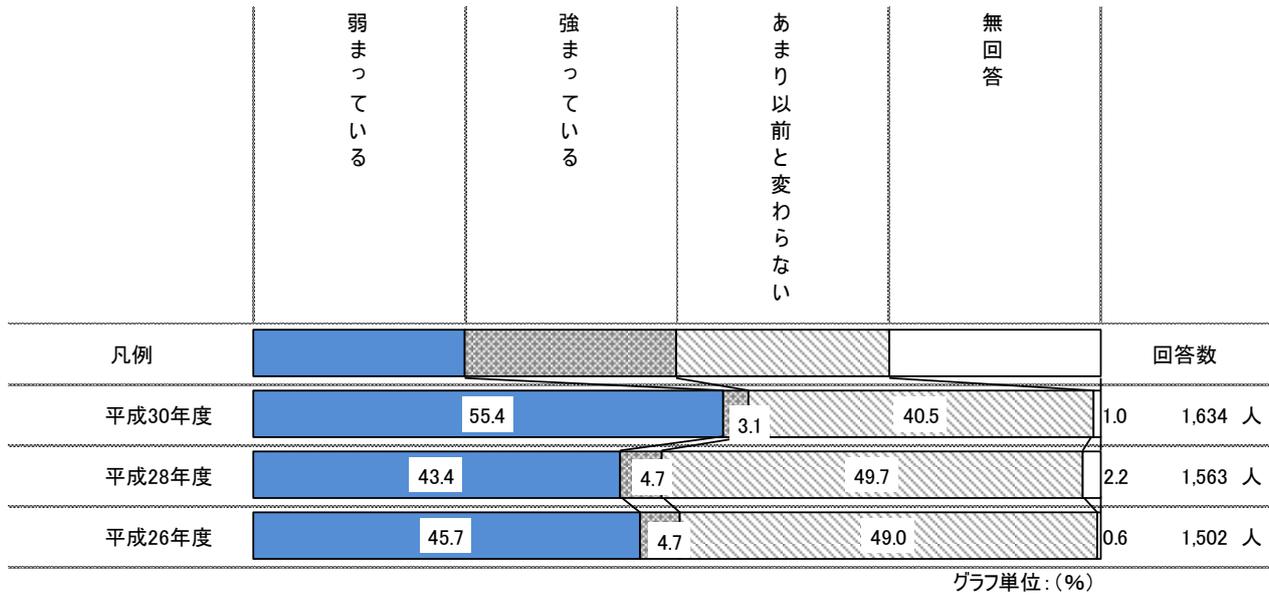
問 27 地域での支え合いの力は、以前と比べてどうなっていると感じますか。(1つだけ○印)

【総合】 「弱まっている」が55.4%と1位になっている。

次いで「あまり以前と変わらない」が40.5%、「強まっている」が3.1%となっている。

【過去の調査との比較】

「弱まっている」を経年比較すると、28年度より12ポイント増加しており「弱まっている」と感じている人が多くなっている。

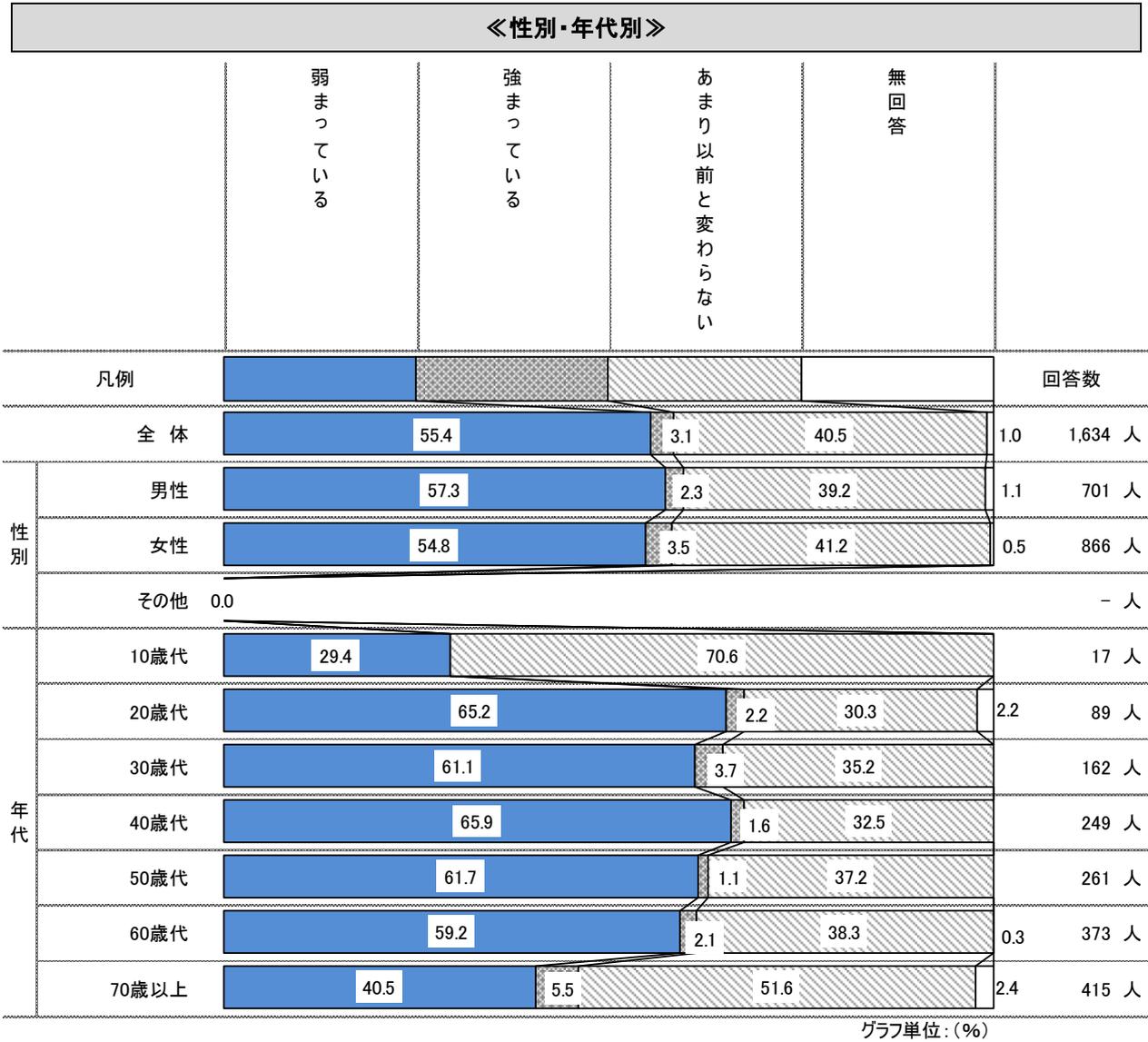


【性別】

男女とも「総合」とほぼ同じ結果になっている。

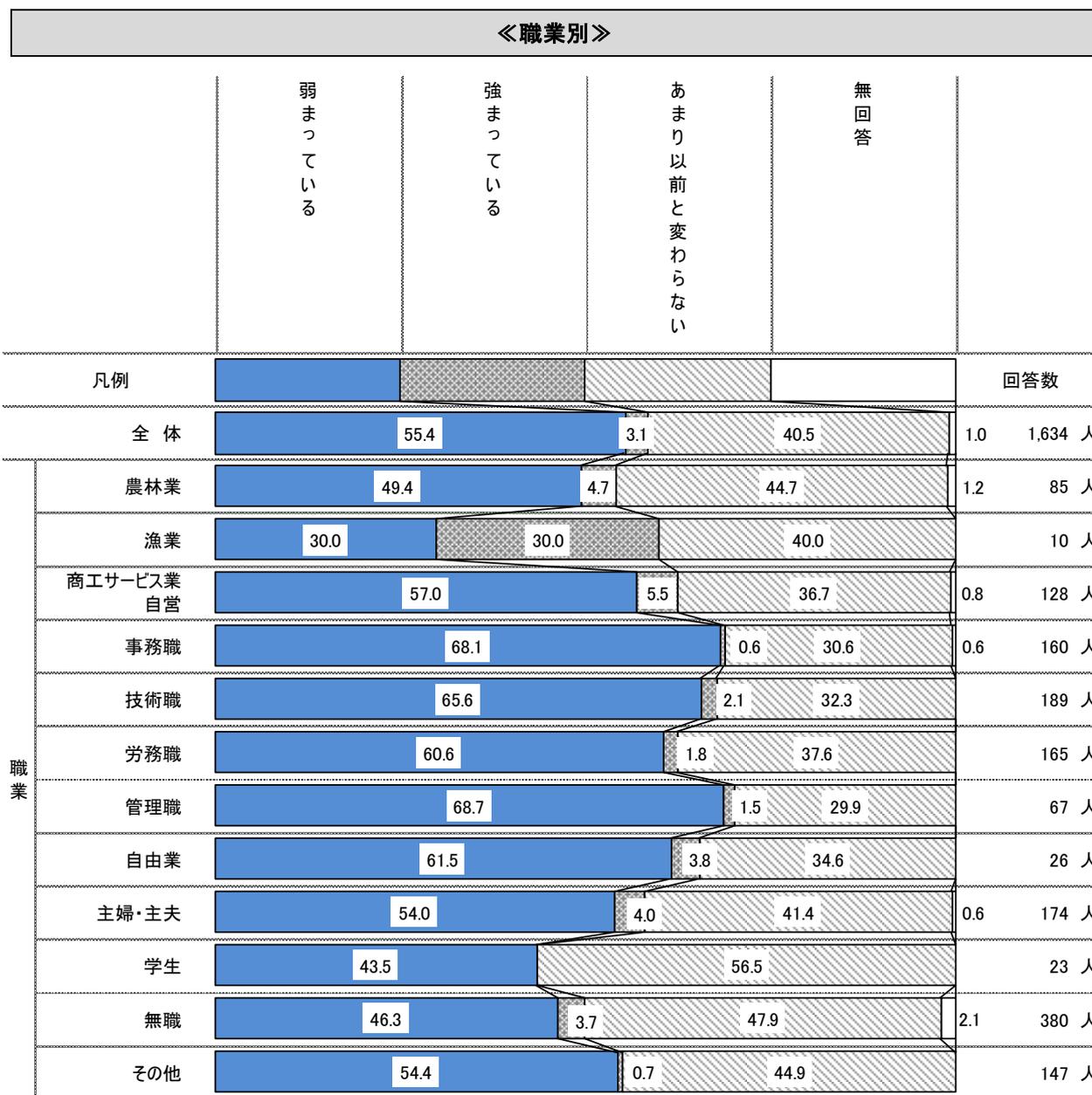
【年代別】

10歳代、70歳以上では「あまり以前と変わらない」が、そのほかの年代では「弱まっている」が1位になっている。



【職業別】

漁業、学生、無職を除くすべての職業で「弱まっている」が1位になっている。



グラフ単位：(%)

(12) 困りごとを解決していこうとする場合、家族や親せき以外に相談できる人がいるかについて

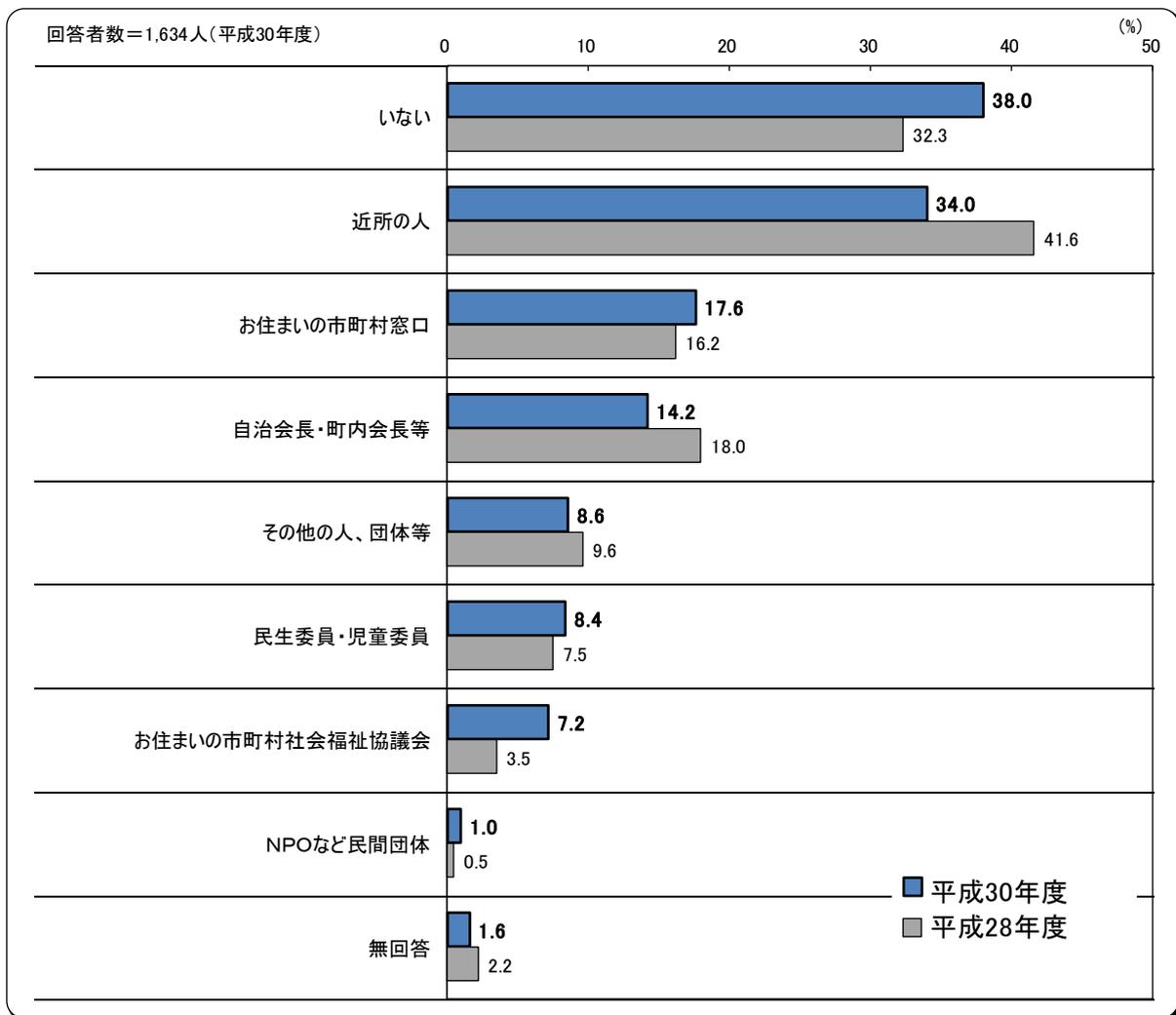
問 28 日常生活や地域での困りごとを解決していこうとする場合、家族や親せき以外に相談できる人がいますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「いない」が38.0%と1位になっている。

次いで「近所の人」が34.0%、「お住まいの市町村窓口」が17.6%と続いている。

【過去の調査との比較】

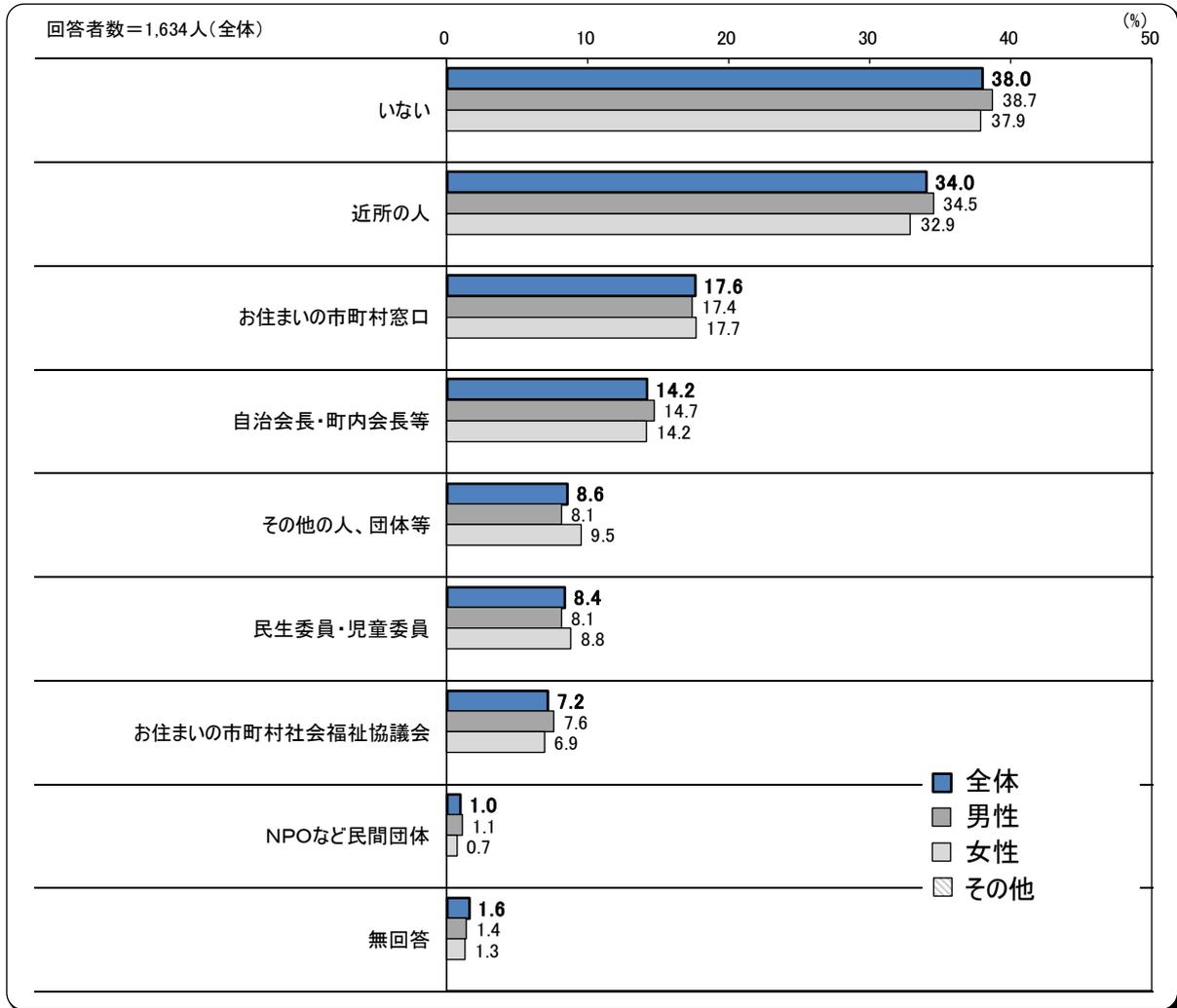
28年度、2位であった「いない」が5.7ポイント増加して今年度は1位になっており、28年度、1位であった「近所の人」が7.6ポイント減少して今年度では2位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

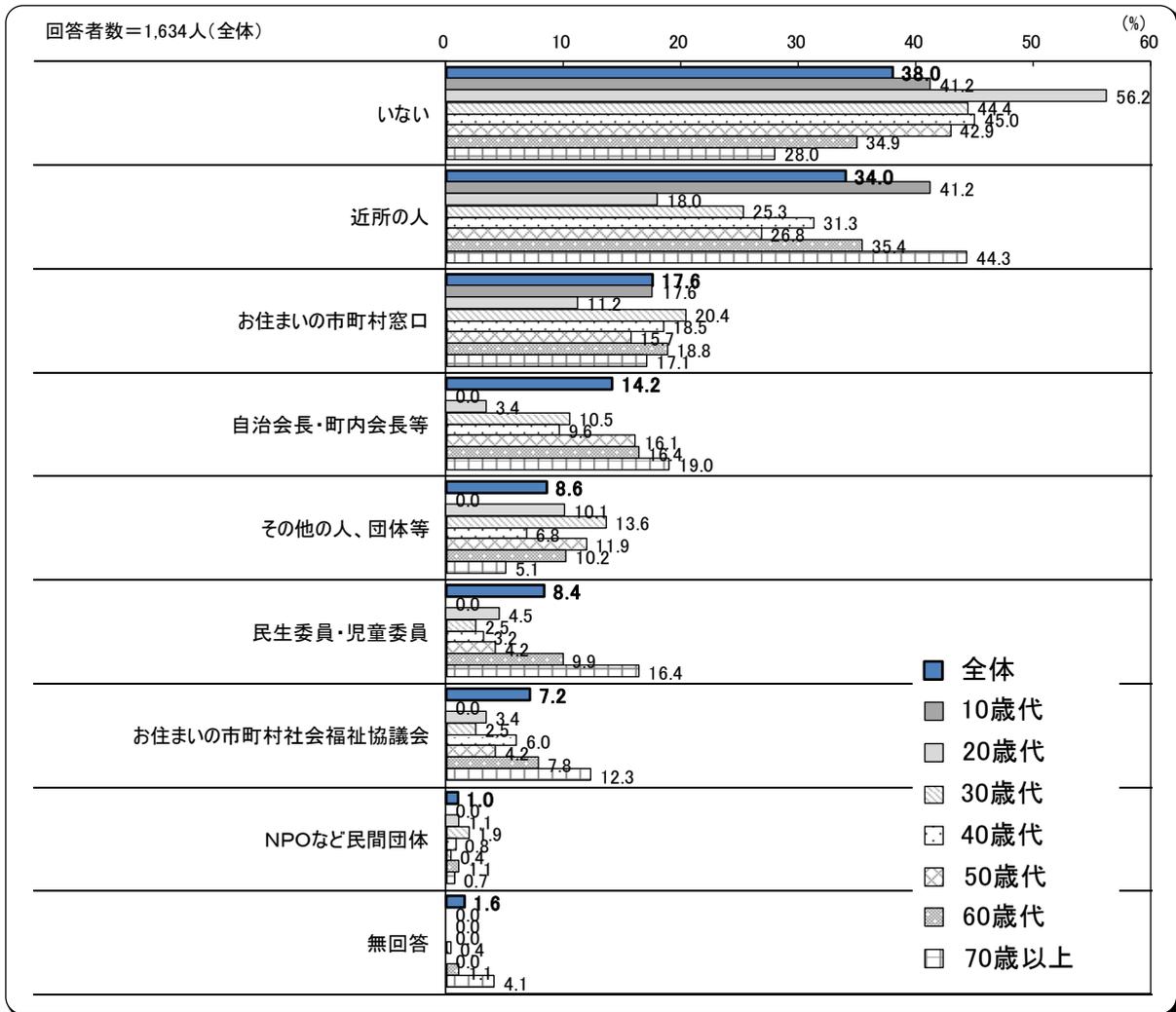
◀性別▶



【年代別】

10歳代、60歳代、70歳以上では「近所の人」が、そのほかの年代では「いない」が1位になっている。10歳代では同率で「いない」も1位になっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「近所の人」もしくは「いない」の割合が高い傾向になっている。

【お住まいの場所別】

いずれも「近所の人」もしくは「いない」の割合が高い傾向になっている。

＜職業別・お住まいの場所別＞

		全体	近所の人	自治会長・町内会長等	民生委員・児童委員	お住まいの市町村窓口	お住まいの市町村社会福祉協議会	NPOなど民間団体	その他の人、団体等	いない	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体		1,634 100.0	555 34.0	232 14.2	138 8.4	287 17.6	118 7.2	16 1.0	141 8.6	621 38.0	26 1.6
職業	農林業	85	45.9	14.1	12.9	20.0	15.3	-	3.5	32.9	2.4
	漁業	10	50.0	-	10.0	10.0	20.0	-	-	30.0	10.0
	商工サービス業自営	128	38.3	17.2	8.6	18.8	6.3	2.3	7.0	33.6	1.6
	事務職	160	26.3	13.8	3.1	19.4	4.4	0.6	12.5	40.0	-
	技術職	189	25.9	12.7	2.1	21.2	5.3	1.1	13.2	40.7	0.5
	労務職	165	33.9	12.1	9.7	17.6	4.8	0.6	7.3	41.8	-
	管理職	67	32.8	11.9	1.5	14.9	1.5	1.5	19.4	40.3	1.5
	自由業	26	30.8	23.1	7.7	7.7	11.5	3.8	15.4	38.5	-
	主婦・主夫	174	39.7	16.1	8.6	13.8	8.0	1.1	8.6	35.1	1.1
	学生	23	39.1	-	4.3	13.0	-	-	-	47.8	-
	無職	380	36.3	16.3	15.3	16.3	9.2	0.5	6.3	36.1	2.6
その他	147	23.8	13.6	3.4	20.4	6.8	0.7	8.8	45.6	0.7	
お住まいの場所	高知市	714	28.7	14.1	7.3	14.0	4.2	1.1	10.1	42.4	1.8
	安芸広域圏	107	40.2	15.0	9.3	12.1	9.3	-	8.4	36.4	-
	南国・香美広域圏	237	33.8	11.8	8.0	17.7	5.5	-	9.7	38.0	0.8
	嶺北広域圏	28	50.0	28.6	35.7	32.1	32.1	-	7.1	25.0	-
	仁淀川広域圏	118	38.1	21.2	4.2	28.0	5.1	-	8.5	37.3	-
	高吾北広域圏	51	37.3	13.7	2.0	27.5	21.6	2.0	9.8	27.5	-
	高幡広域圏	125	41.6	6.4	11.2	21.6	12.0	2.4	3.2	32.0	2.4
	幡多広域圏	181	37.0	18.2	12.2	19.9	9.9	0.6	7.2	33.1	1.7

(13)住民同士の支え合いによるサービス・支援について

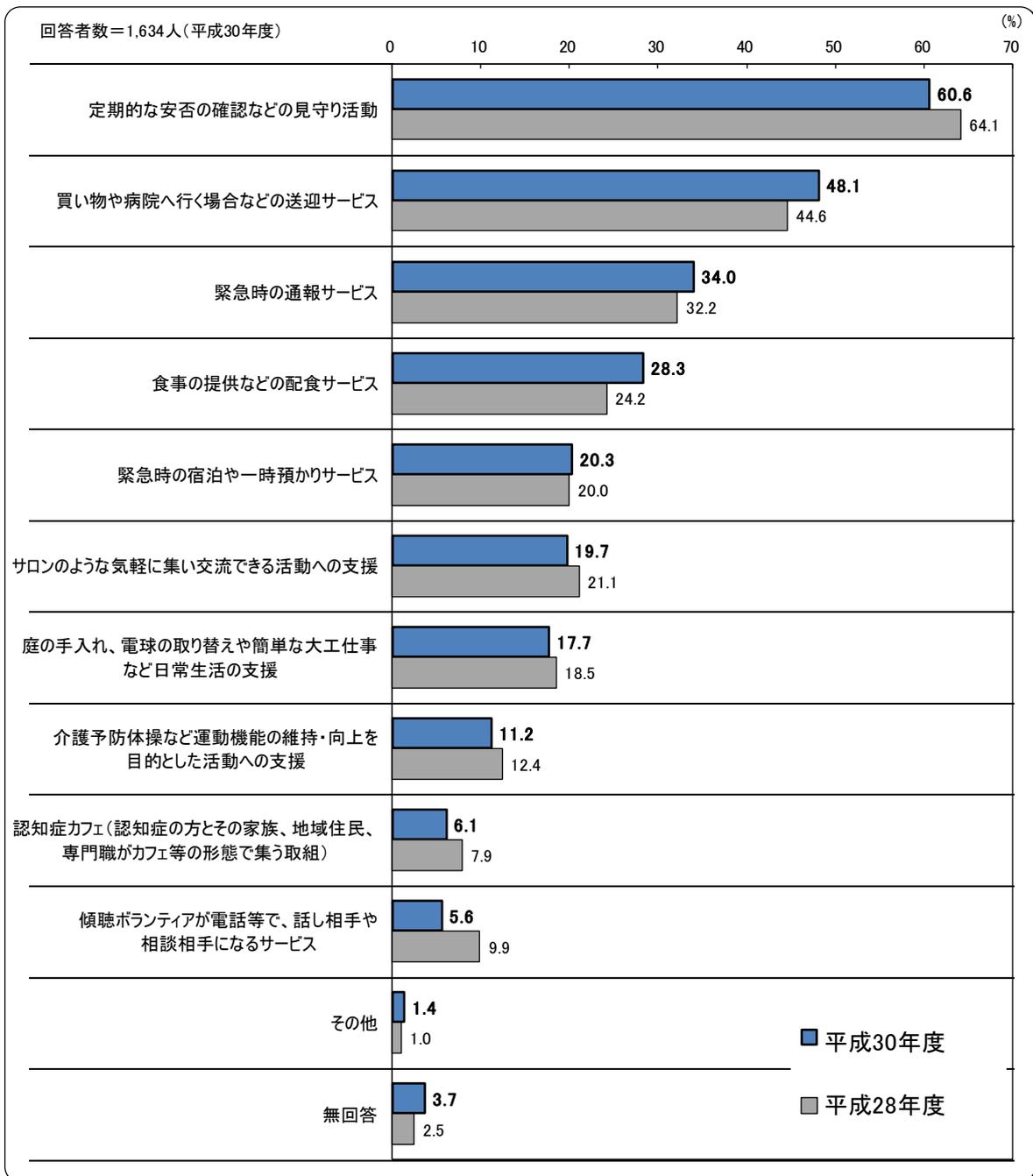
問 29 高齢者、障害のある方、病気の方等が地域で日常生活を送るうえで、どのような住民同士の支え合いによるサービス・支援が必要と思いますか。(3つまで○印)

【総合】 「定期的な安否の確認などの見守り活動」が60.6%と1位になっている。

次いで「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が48.1%、「緊急時の通報サービス」が34.0%と続いている。

【過去の調査との比較】

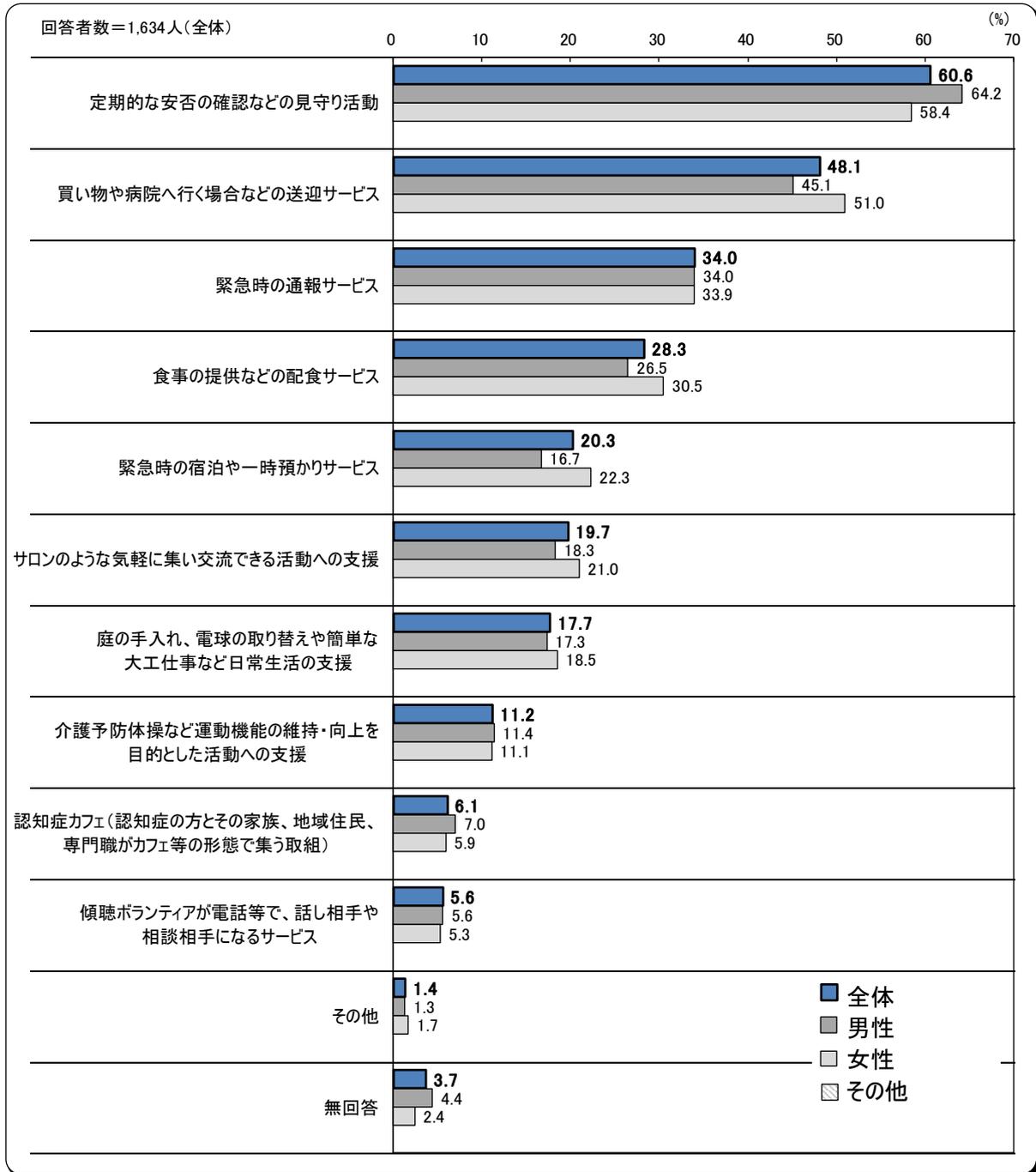
今年度も、28年度と同じく「定期的な安否の確認などの見守り活動」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

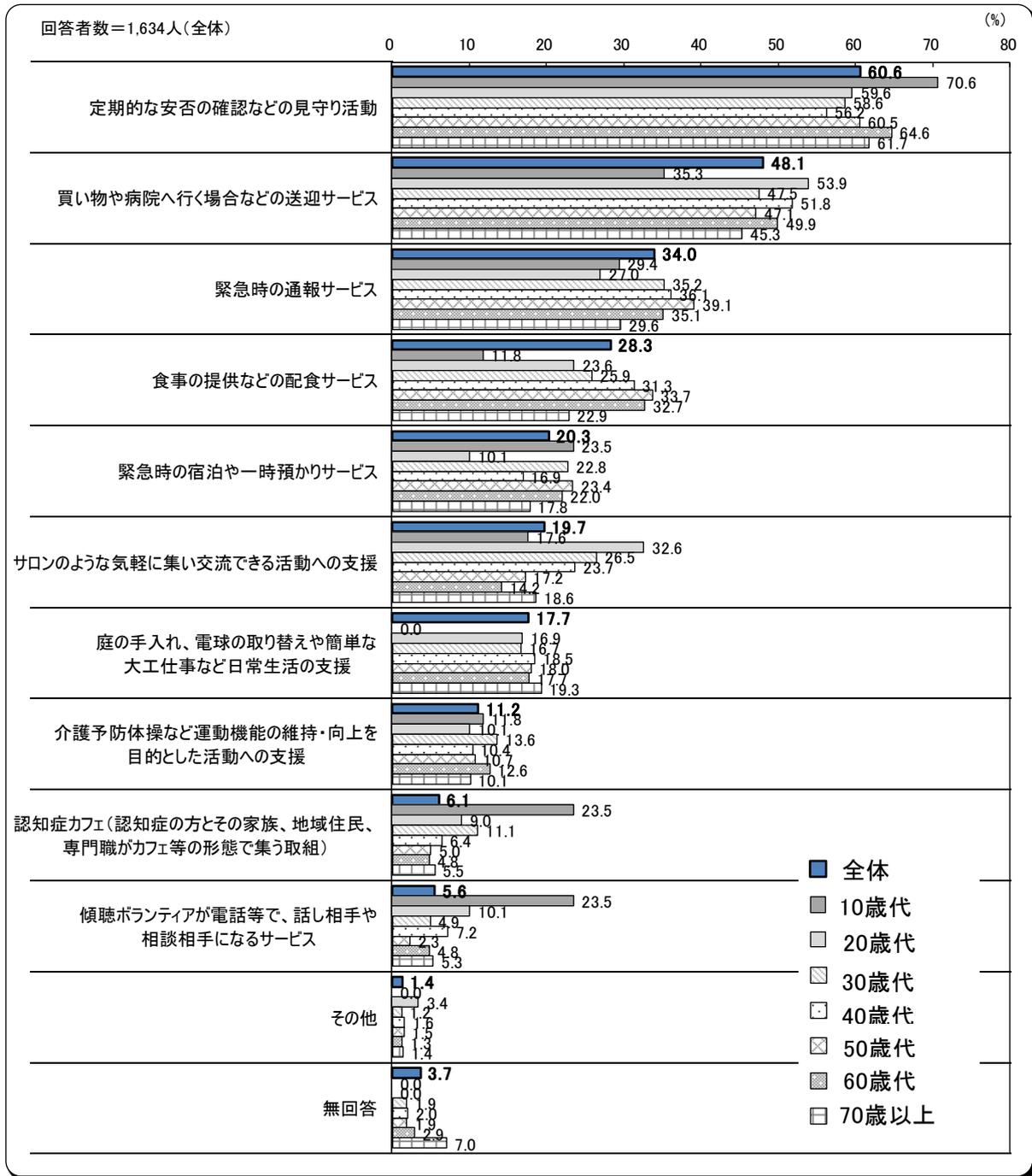
◀性別▶



【年代別】

いずれも「定期的な安否の確認などの見守り活動」が半数を超えて1位になっている。

《年代別》



【職業別】

自由業では「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が、そのほかの職業では「定期的な安否の確認などの見守り活動」が1位になっている。漁業では同率で「買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス」が1位になっている。

《職業別》

	全体	定期的な安否の確認などの見守り活動	食事の提供などの配食サービス	買い物や病院へ行く場合などの送迎サービス	緊急時の宿泊や一時預かりサービス	庭の手入れ、電球の取り替えや簡単な大工仕事など日常生活の支援	傾聴ボランティアが電話等で、話し相手や相談相手になるサービス	介護予防体操など運動機能の維持・向上を目的とした活動への支援	サロンのような気軽に集い交流できる活動への支援	認知症カフェ（認知症の方とその家族、地域住民、専門職がカフェ等の形態で集う取組）	緊急時の通報サービス	その他	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)													
全体	1,634 100.0	990 60.6	463 28.3	786 48.1	332 20.3	289 17.7	92 5.6	183 11.2	322 19.7	100 6.1	556 34.0	23 1.4	61 3.7
職業	農林業	85 61.2	25.9	54.1	18.8	16.5	3.5	15.3	18.8	4.7	25.9	-	5.9
	漁業	10 60.0	30.0	60.0	40.0	10.0	-	10.0	10.0	10.0	20.0	-	10.0
	商工サービス業自営	128 68.0	28.9	46.1	14.1	18.8	3.1	7.8	23.4	5.5	32.8	2.3	2.3
	事務職	160 56.3	31.9	48.8	18.1	21.3	4.4	11.3	26.9	8.1	35.6	2.5	0.6
	技術職	189 64.0	32.8	47.1	23.8	15.9	8.5	11.1	20.1	7.9	39.2	0.5	1.1
	労務職	165 66.7	27.3	50.3	20.6	13.3	3.6	12.1	18.8	9.7	37.6	0.6	1.8
	管理職	67 59.7	32.8	40.3	26.9	16.4	9.0	9.0	16.4	6.0	37.3	3.0	-
	自由業	26 50.0	42.3	57.7	15.4	23.1	-	11.5	19.2	11.5	26.9	7.7	-
	主婦・主夫	174 55.2	25.9	52.9	27.0	13.8	4.6	13.8	20.7	5.2	39.1	0.6	1.7
	学生	23 69.6	21.7	34.8	26.1	4.3	17.4	17.4	26.1	21.7	21.7	-	-
	無職	380 60.8	24.7	47.1	16.3	21.8	5.8	10.0	17.4	4.5	30.5	1.6	7.6
	その他	147 58.5	34.0	48.3	17.0	20.4	6.1	11.6	17.7	4.1	30.6	2.7	2.7

(14)子育て支援についてどのような住民同士の支え合いによるサービス・支援が必要かについて

問 30 子育て支援についてどのような住民同士の支え合いによるサービス・支援が必要と思いますか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「親子が気軽に集い交流のできる場所の提供」が67.7%と1位になっている。

次いで「子育て相談（ご近所の先輩ママへの相談など）」が35.9%、「子ども食堂（食事を通じた子どもや保護者の居場所づくり）」が34.4%と続いている。

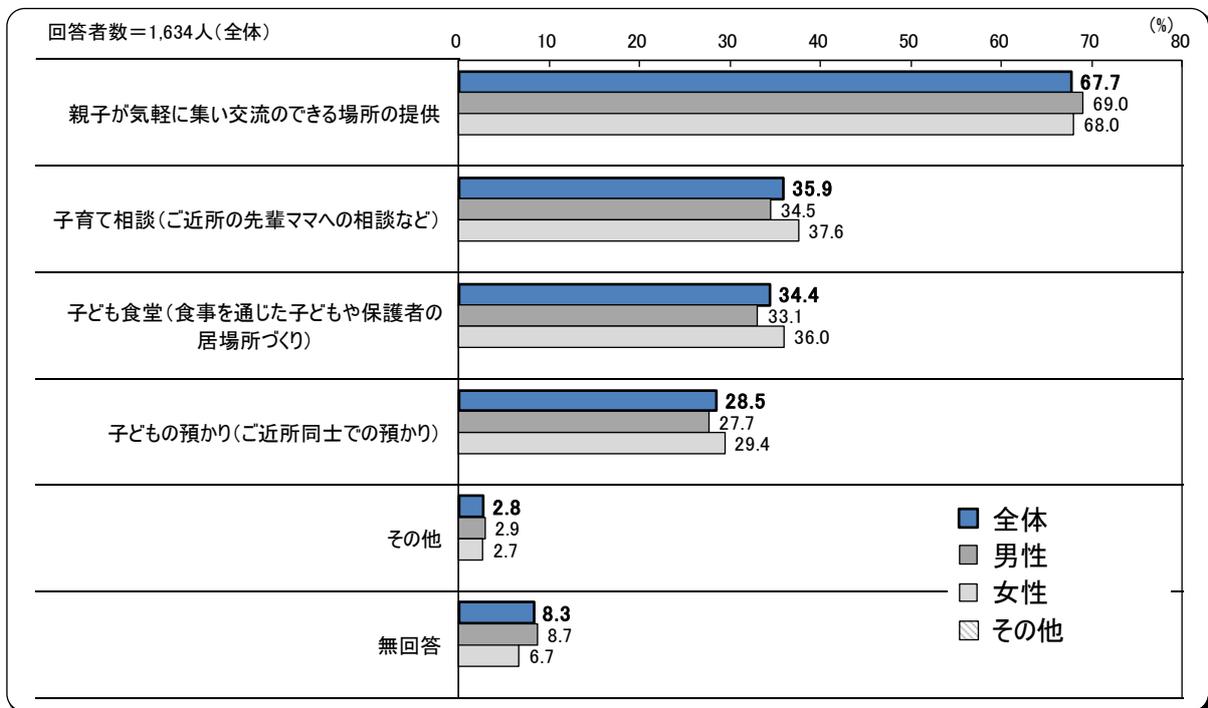
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,634 人
親子が気軽に集い交流のできる場所の提供	67.7	1,106 人
子育て相談(ご近所の先輩ママへの相談など)	35.9	586 人
子ども食堂(食事を通じた子どもや保護者の居場所づくり)	34.4	562 人
子どもの預かり(ご近所同士での預かり)	28.5	466 人
その他	2.8	46 人
無回答	8.3	136 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

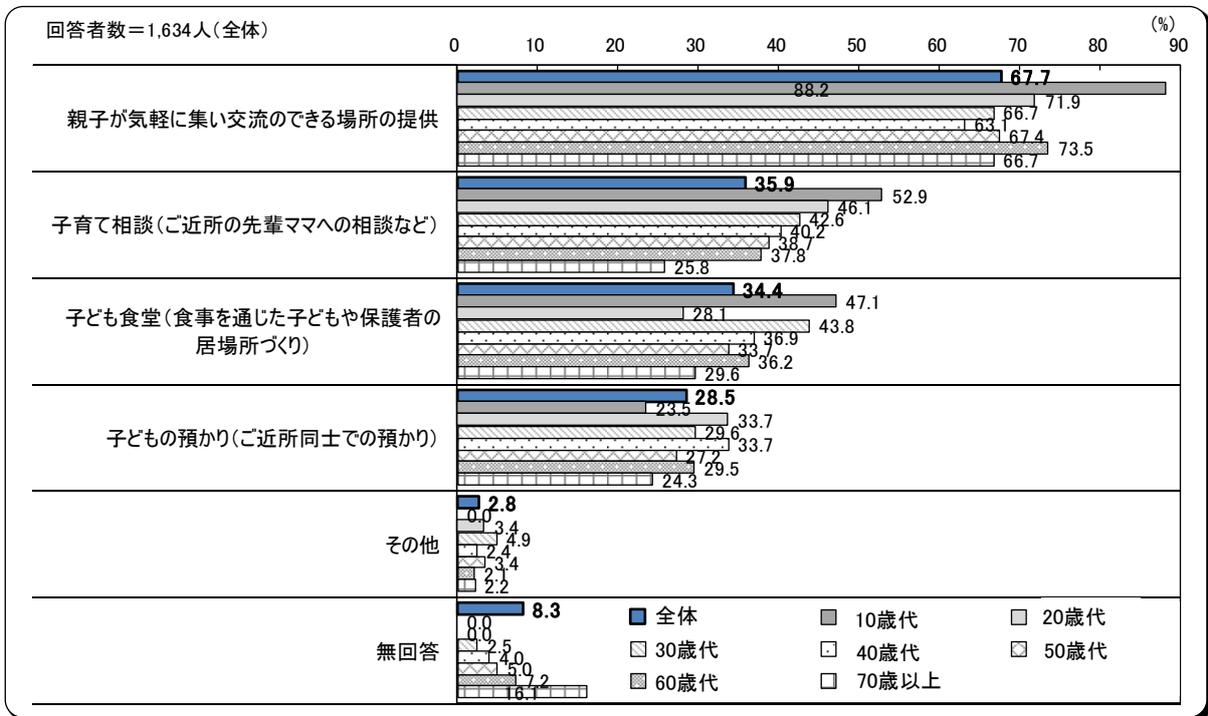
《性別》



【年代別】

いずれも「親子が気軽に集い交流のできる場所の提供」が6割を超えて1位になっている。

《年代別》



【子どもの状況別】

いずれも「親子が気軽に集い交流のできる場所の提供」が6割を超えて1位になっている。

《子どもの状況別》

		全体	親子が気軽に集い交流のできる場所の提供	子どもの預かり（ご近所同士での預かりなど）	子育て相談（ご近所の先輩ママへの相談など）	子ども食堂（食事を通じた子どもや保護者の居場所づくり）	その他	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)								
全体		1,634 100.0	1,106 67.7	466 28.5	586 35.9	562 34.4	46 2.8	136 8.3
子どもの状況	就学前の子どもがいる	119	67.2	26.9	36.1	42.0	7.6	4.2
	小・中学生の子どもがいる	174	64.9	30.5	37.9	42.5	2.9	5.2
	高校生の子どもがいる	107	60.7	36.4	33.6	33.6	1.9	7.5
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	103	60.2	30.1	32.0	38.8	1.9	3.9
	子どもは成人している又は独立している	842	71.1	28.9	34.6	34.2	1.9	8.3
	子どもはいない	380	68.4	27.9	41.8	32.9	3.4	5.8

(15)地域の活動への参加について

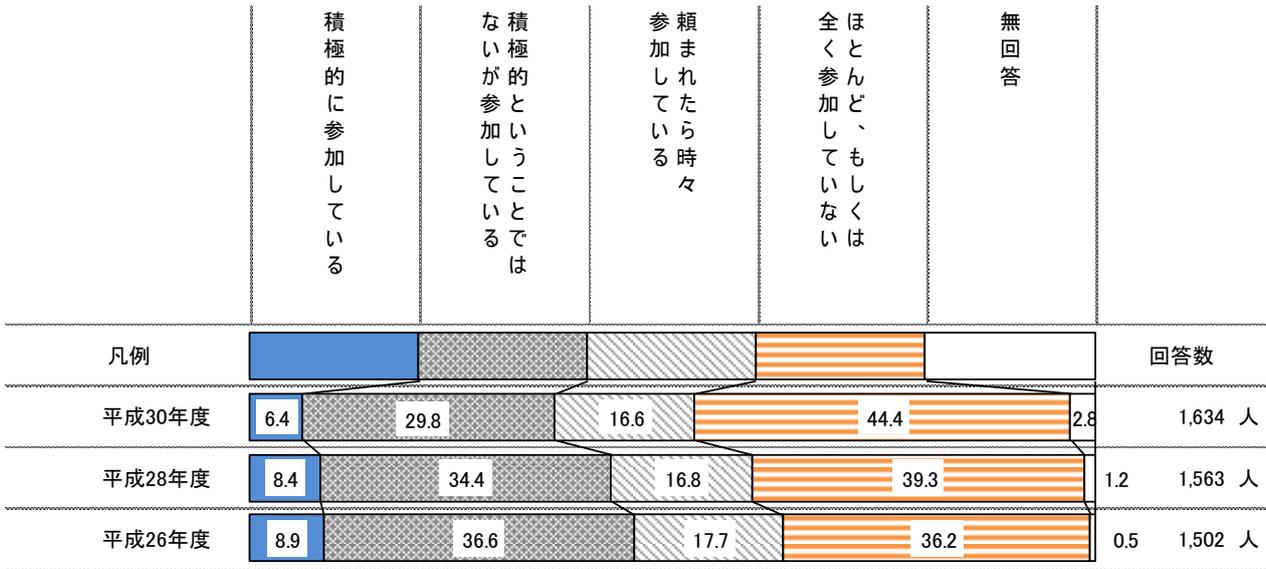
問 31 あなたは現在、地域の活動に参加していますか。(1つだけ○印)

【総合】 「ほとんど、もしくは全く参加していない」が44.4%と1位になっている。

次いで「積極的ということではないが参加している」が29.8%、「頼まれたら時々参加している」が16.6%と続いている。

【過去の調査との比較】

今年度も、28年度と同じく「ほとんど、もしくは全く参加していない」が1位になっている。



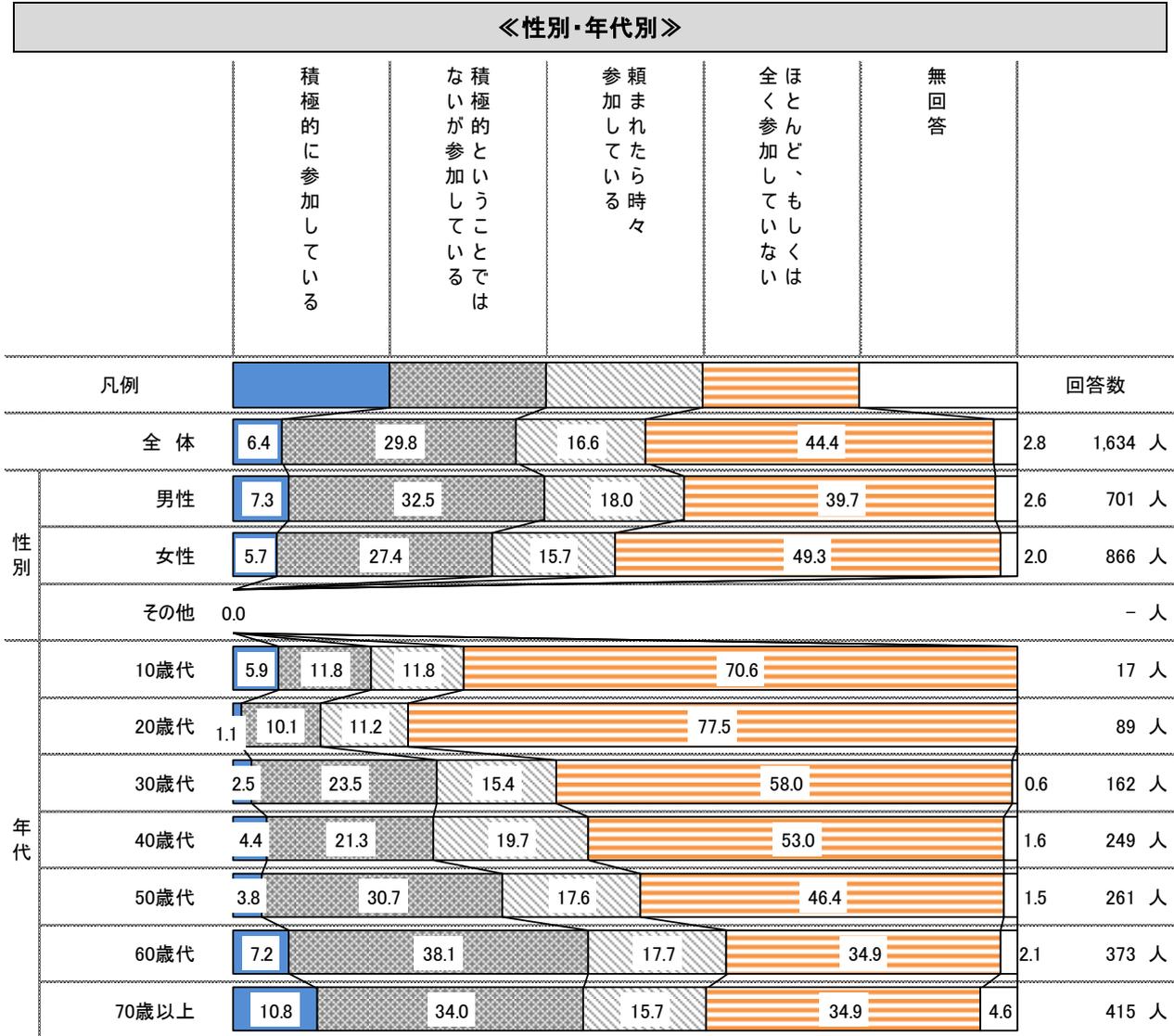
グラフ単位:(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ結果になっている。

【年代別】

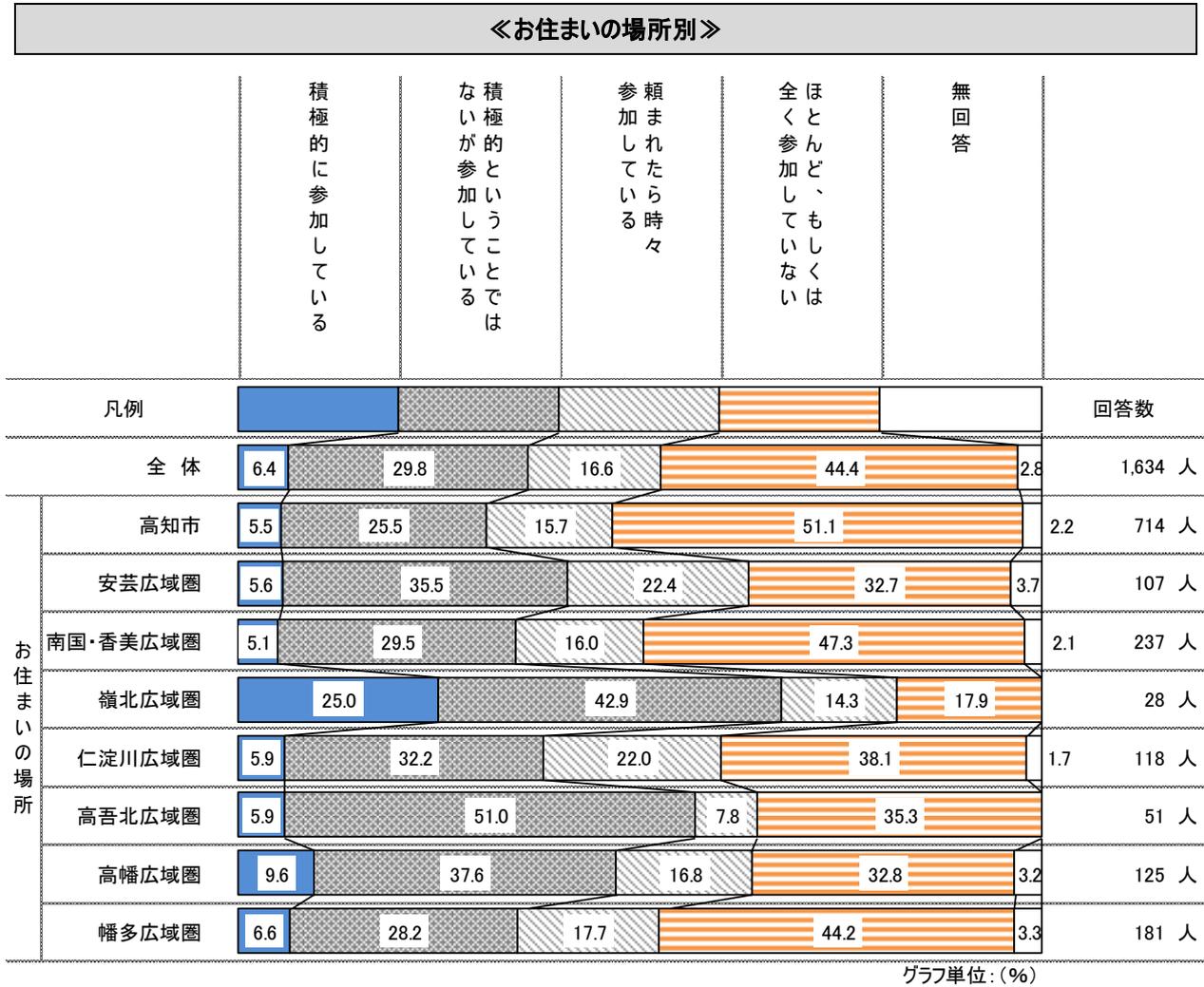
年代があがるにつれて「積極的ということではないが参加している」の割合が高くなる傾向になっている。



グラフ単位: (%)

【お住まいの場所別】

高知市、南国・香美広域圏、仁淀川広域圏、幡多広域圏では「ほとんど、もしくは全く参加していない」が、そのほかのお住まいの場所では「積極的ということではないが参加している」が1位になっている。



## 6. 人口減少社会を踏まえた女性の活躍促進について

### (1) 女性にとって高知県は働きやすいかについて

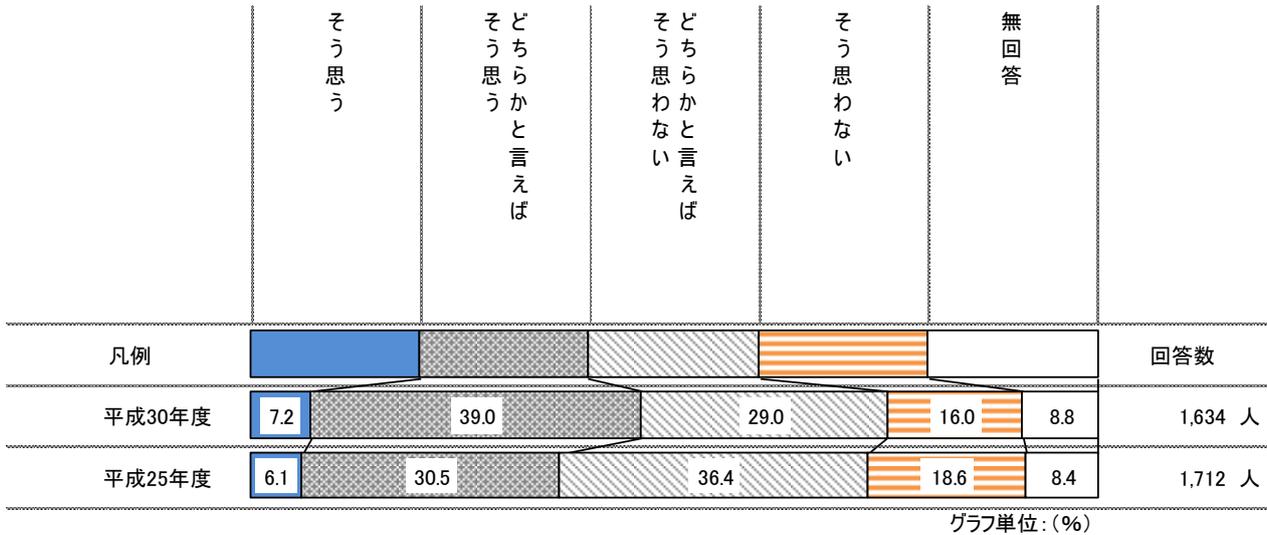
問 32 女性にとって、高知県は、働きやすい県だと思いますか。（1つだけ○印）

【総合】 「どちらかと言えばそう思う」が39.0%と1位になっている。

次いで「どちらかと言えばそう思わない」が29.0%、「そう思わない」が16.0%と続いている。

#### 【過去の調査との比較】

「どちらかと言えばそう思う」が今年度では25年度に比べ8.5ポイント増加している。

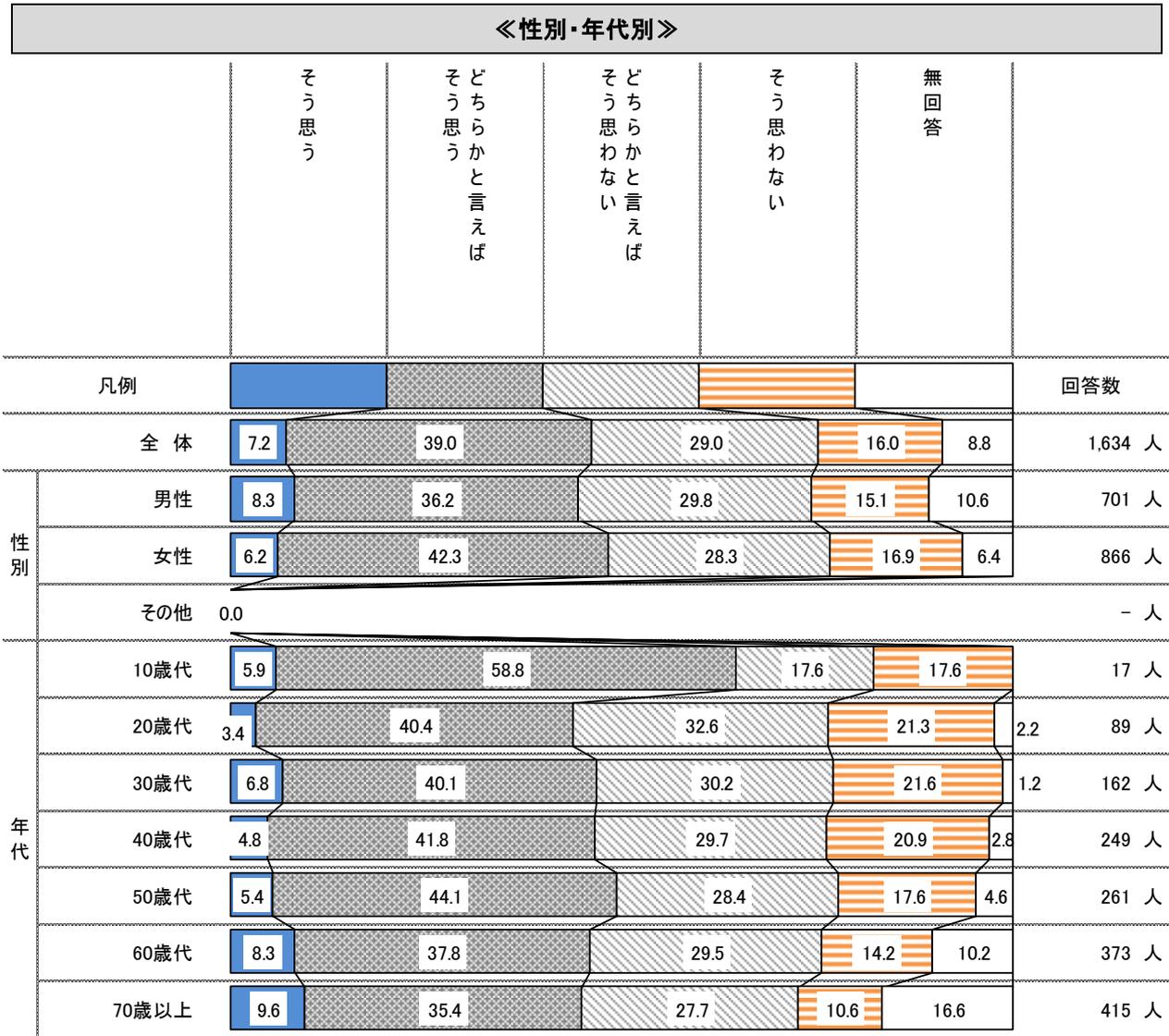


【性別】

男女とも「総合」と同じ結果となっている。

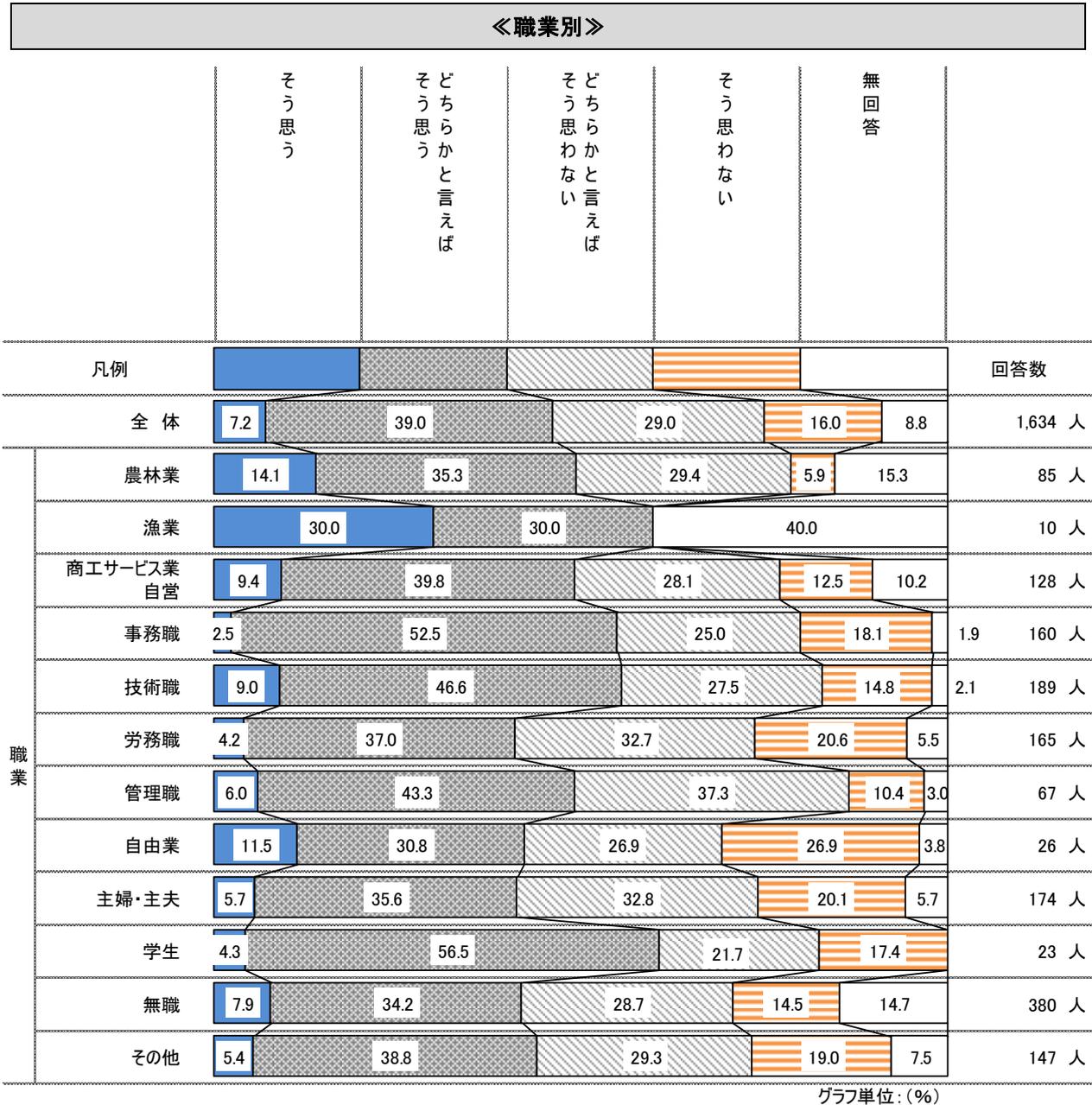
【年代別】

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた【そう思う】は、10歳代が最も多く、20歳代が最も低くなっている。「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】は、20歳代が最も多く、10歳代が最も低くなっている。



【職業別】

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた【そう思う】は、学生が最も多く、労務職が最も低くなっている。「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた【そう思わない】は、自由業が最も多く、農林業が最も低くなっている。



(2) そう思った理由について

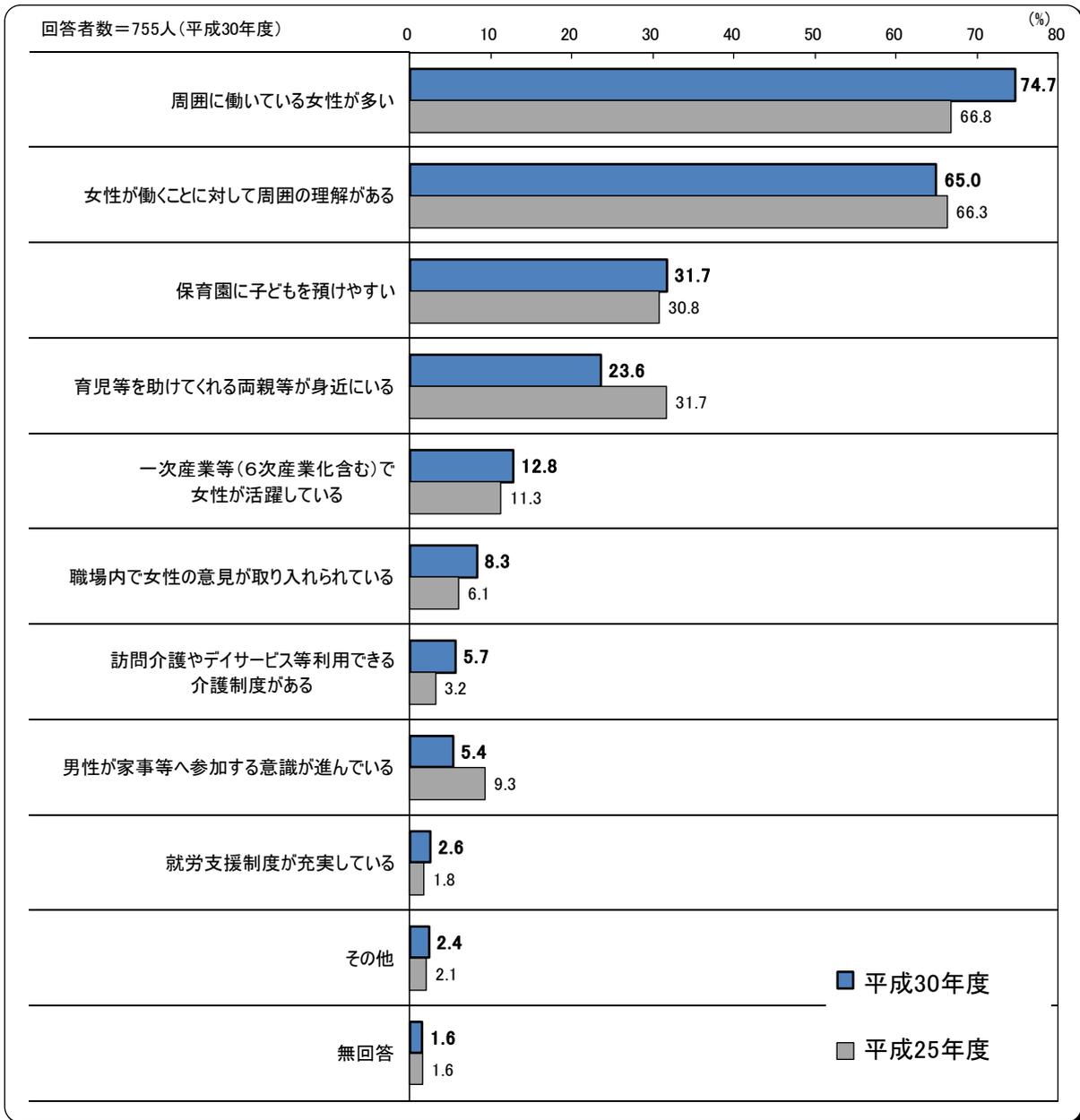
副問1 (問32で「1・2」を選んだ方のみお答えください。)  
 選んだ理由は何ですか。(3つまで○印)

【総合】 「周囲に働いている女性が多い」が74.7%と1位になっている。

次いで「女性が働くことに対して周囲の理解がある」が65.0%、「保育園に子どもを預けやすい」が31.7%と続いている。

【過去の調査との比較】

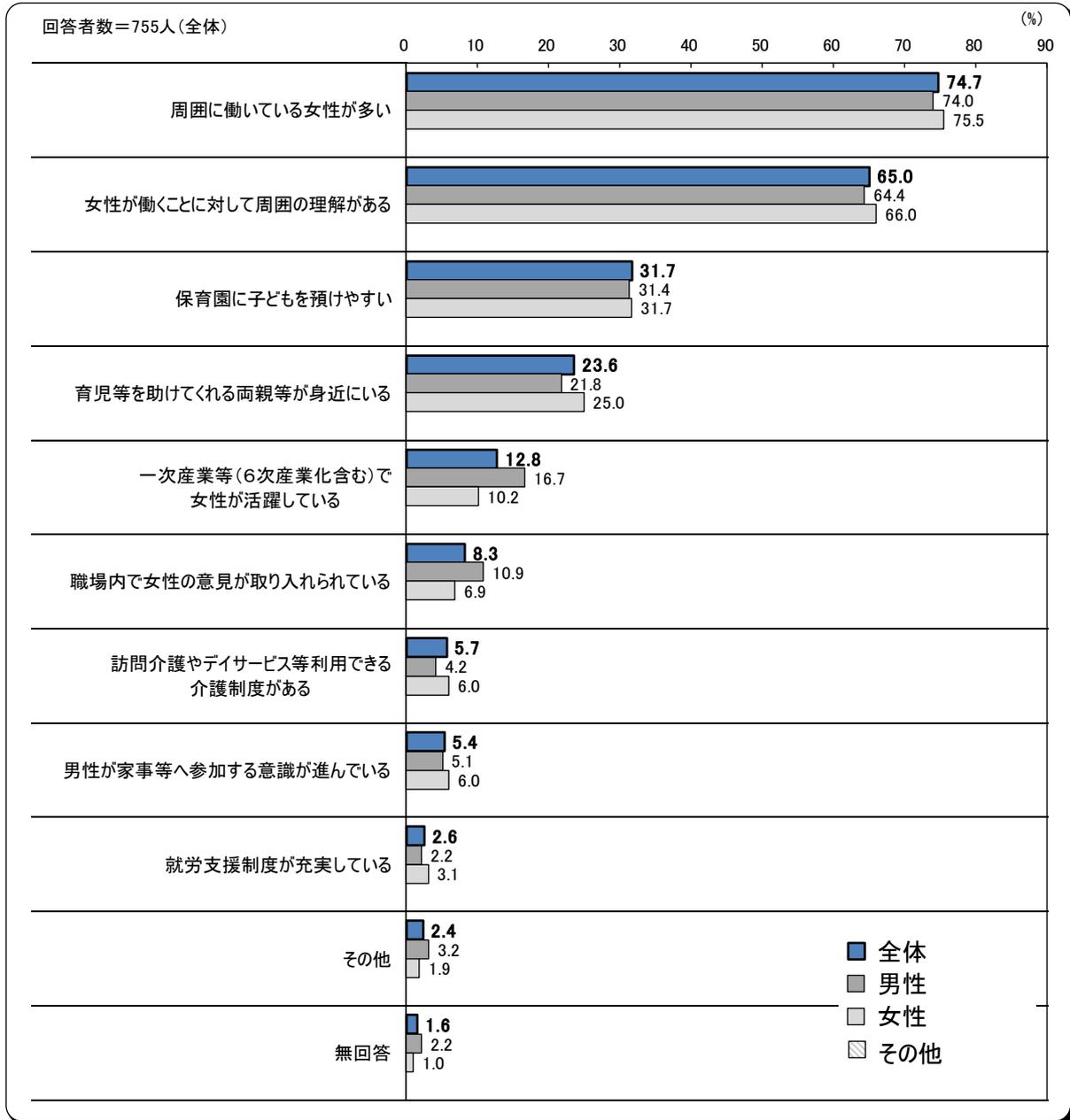
今年度も、25年度と同じく「周囲に働いている女性が多い」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

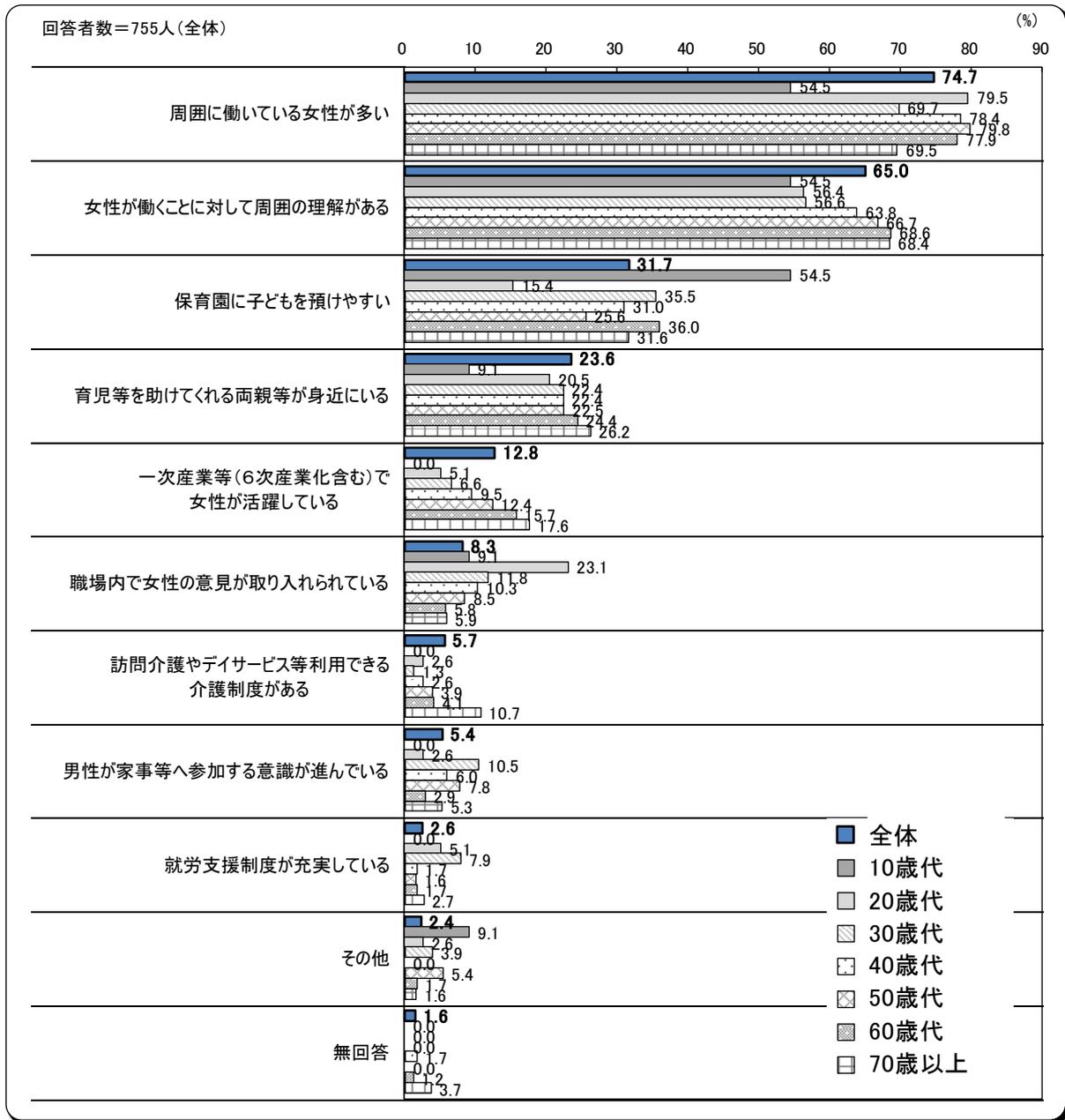
《性別》



【年代別】

いずれも「周囲に働いている女性が多い」の割合が半数を超えて高くなっている。

《年代別》



【職業別】

いずれも「周囲に働いている女性が多い」の割合が高い傾向になっている。

【子どもの状況別】

いずれも「周囲に働いている女性が多い」が1位になっている。

【お住まいの場所別】

嶺北広域圏、高吾北広域圏では「女性が働くことに対して周囲の理解がある」の割合が高い傾向になっている。

《職業別・子どもの状況別・お住まいの場所別》

	全体	ある女性が働くことに対して周囲の理解がある	一次産業等（6次産業化含む）で女性が活躍している	保育園に子どもを預けやすい	就労支援制度が充実している	周囲に働いている女性が多い	職場内で女性の意見が取り入れられている	育児等を助けてくれる両親等が身近にいる	訪問介護やデイサービス等利用できる	男性が家事等へ参加する意識が進んでいる	その他	無回答	
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)													
全体	755 100.0	491 65.0	97 12.8	239 31.7	20 2.6	564 74.7	63 8.3	178 23.6	43 5.7	41 5.4	18 2.4	12 1.6	
職業	農林業	42	59.5	38.1	23.8	2.4	64.3	9.5	38.1	9.5	4.8	-	2.4
	漁業	6	33.3	16.7	50.0	-	33.3	-	-	33.3	-	-	16.7
	商工サービス業自営	63	77.8	15.9	33.3	1.6	77.8	7.9	19.0	1.6	7.9	1.6	-
	事務職	88	67.0	6.8	21.6	1.1	78.4	10.2	26.1	5.7	5.7	1.1	-
	技術職	105	60.0	8.6	32.4	1.9	75.2	14.3	19.0	2.9	4.8	2.9	-
	労務職	68	67.6	14.7	26.5	1.5	77.9	7.4	19.1	1.5	5.9	1.5	2.9
	管理職	33	60.6	6.1	33.3	9.1	66.7	18.2	18.2	3.0	6.1	6.1	-
	自由業	11	81.8	9.1	27.3	-	81.8	18.2	18.2	-	-	9.1	-
	主婦・主夫	72	65.3	6.9	40.3	1.4	77.8	-	27.8	6.9	4.2	2.8	1.4
	学生	14	50.0	-	42.9	-	71.4	21.4	14.3	-	-	7.1	-
無職	160	68.1	16.9	31.9	4.4	73.8	5.0	28.8	8.1	6.3	2.5	3.8	
その他	65	60.0	9.2	35.4	4.6	78.5	9.2	18.5	4.6	7.7	3.1	-	
子どもの状況	就学前の子どもがいる	53	58.5	7.5	54.7	3.8	66.0	3.8	34.0	1.9	13.2	3.8	-
	小・中学生の子どもがいる	85	63.5	9.4	43.5	4.7	78.8	11.8	25.9	1.2	7.1	-	1.2
	高校生の子どもがいる	52	57.7	11.5	38.5	7.7	75.0	11.5	25.0	3.8	3.8	-	1.9
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	51	66.7	9.8	27.5	5.9	78.4	5.9	21.6	2.0	-	3.9	-
	子どもは成人している又は独立している	391	67.0	15.9	33.2	2.0	72.4	6.9	27.6	6.6	5.4	2.0	1.8
	子どもはいない	181	65.2	10.5	18.8	3.3	79.6	13.3	12.2	5.0	3.9	3.9	1.1
お住まいの場所	高知市	334	67.7	9.6	25.4	3.3	77.5	10.2	22.2	4.2	5.1	2.4	1.5
	安芸広域圏	49	65.3	24.5	30.6	4.1	69.4	4.1	24.5	8.2	2.0	2.0	2.0
	南国・香美広域圏	106	63.2	17.0	24.5	0.9	81.1	7.5	24.5	3.8	7.5	3.8	1.9
	嶺北広域圏	16	87.5	18.8	43.8	6.3	37.5	12.5	25.0	18.8	6.3	-	-
	仁淀川広域圏	61	59.0	9.8	39.3	1.6	77.0	8.2	24.6	3.3	9.8	4.9	-
	高吾北広域圏	28	67.9	7.1	57.1	3.6	67.9	-	35.7	10.7	3.6	3.6	-
	高幡広域圏	54	55.6	18.5	44.4	3.7	68.5	14.8	22.2	5.6	1.9	-	3.7
	幡多広域圏	79	63.3	13.9	40.5	1.3	73.4	3.8	24.1	5.1	7.6	1.3	1.3

### (3) 女性が働くにあたっての課題について

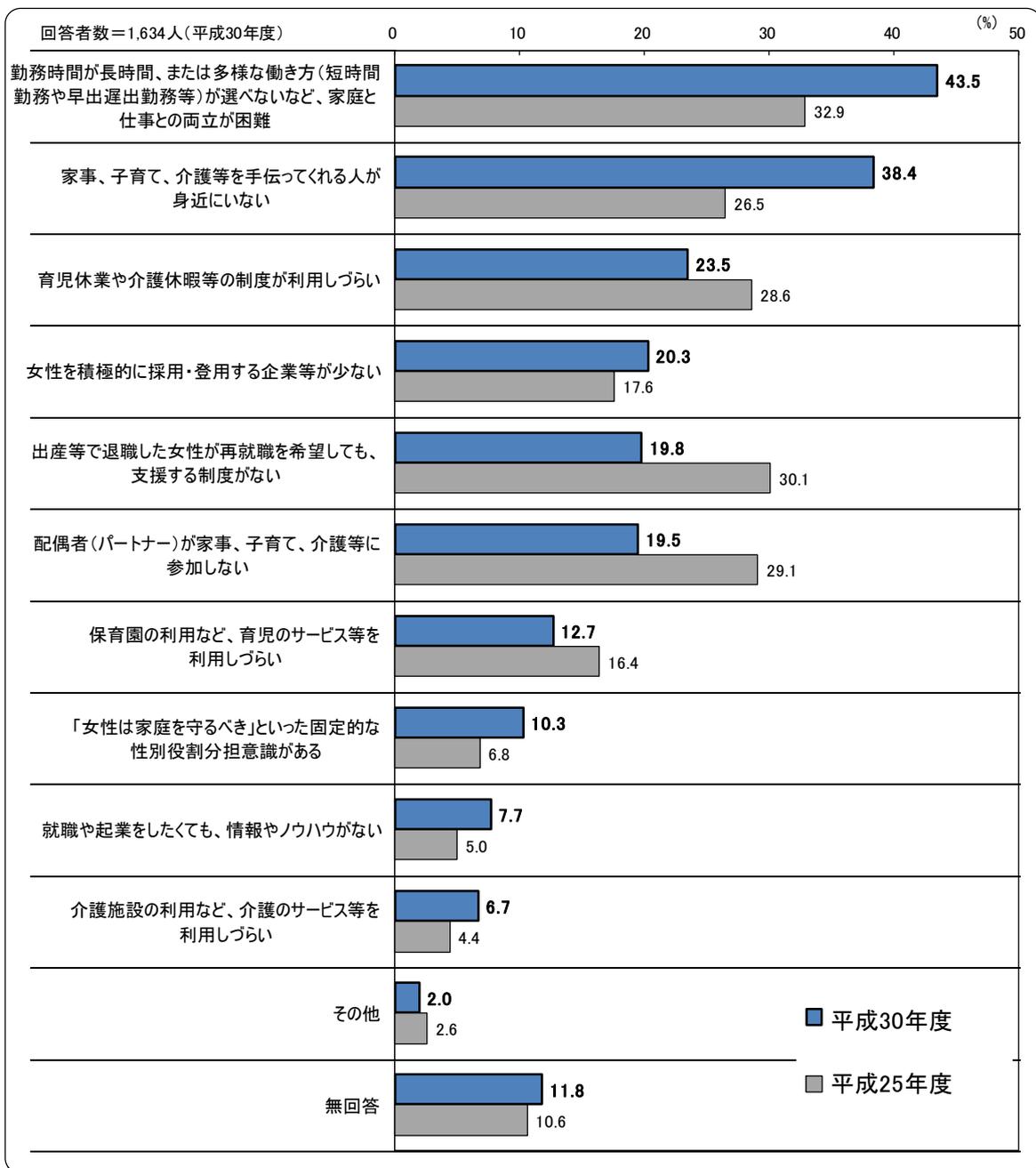
問 33 女性が働くにあたって、どのような課題があると思いますか。(3つまで○印)

【総合】 「勤務時間が長時間、または多様な働き方(短時間勤務や早出遅出勤務等)が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」が43.5%と1位になっている。

次いで「家事、子育て、介護を手伝ってくれる人が身近にいない」が38.4%、「育児休業や介護休暇等の制度が利用しづらい」が23.5%と続いている。

#### 【過去の調査との比較】

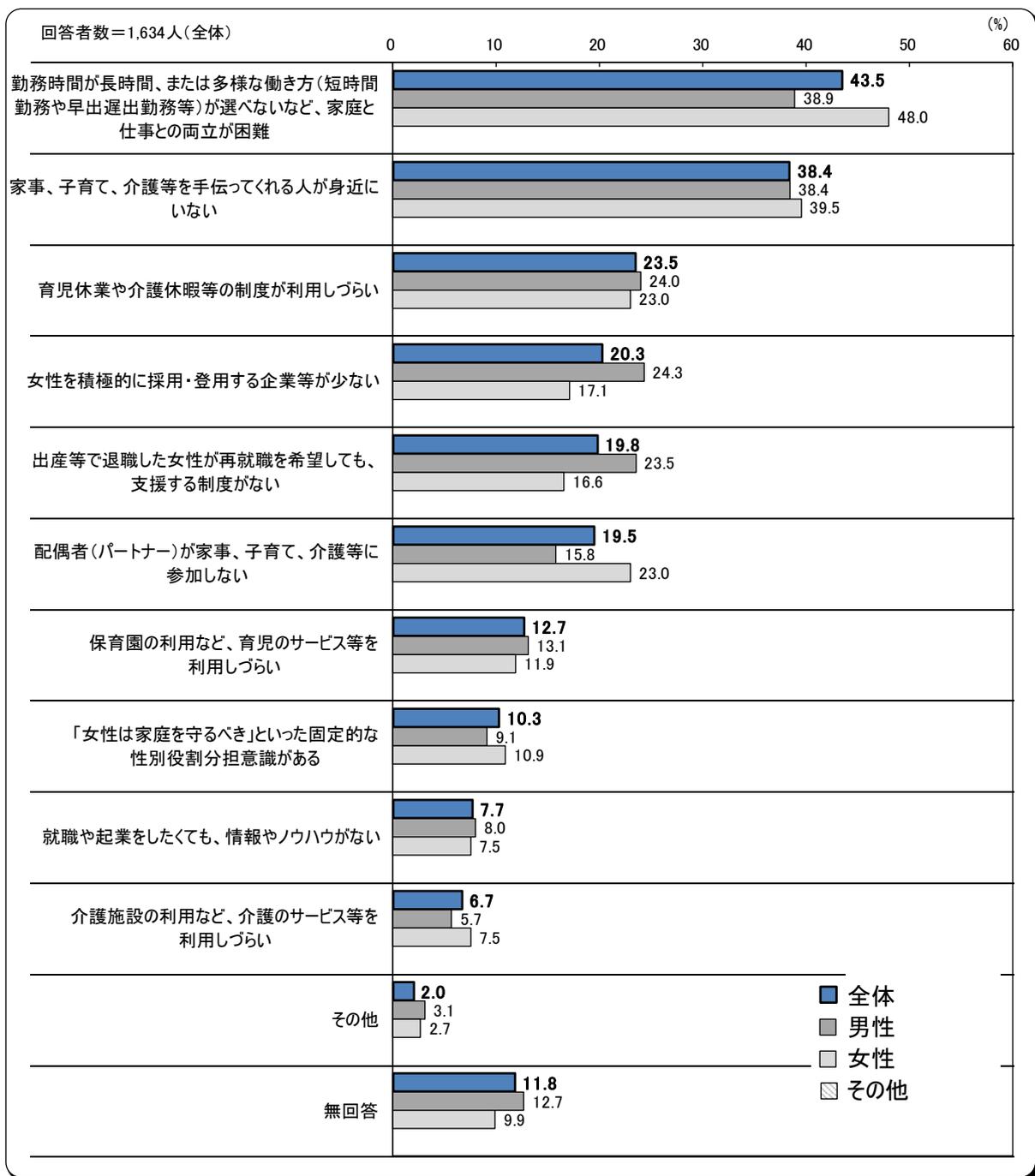
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も、25年度と同じく「勤務時間が長時間、または多様な働き方(短時間勤務や早出遅出勤務等)が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

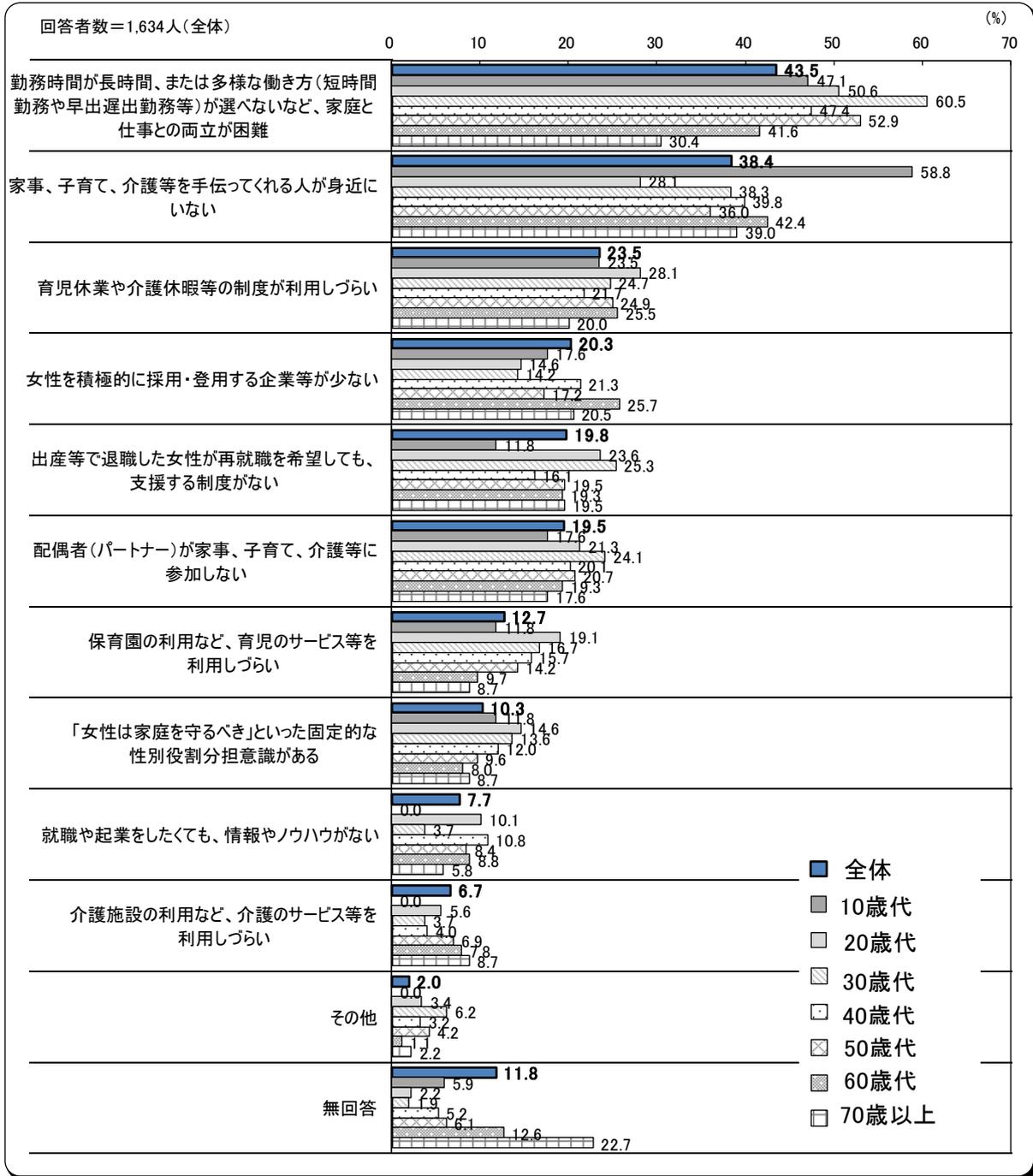
◀性別▶



【年代別】

いずれも「勤務時間が長時間、または多様な働き方（短時間勤務や早出遅出勤務等）が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」の割合が高くなっている。

《年代別》



【婚姻状況別】

未婚、既婚では「勤務時間が長時間、または多様な働き方（短時間勤務や早出遅出勤務等）が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」が、その他では「家事、子育て、介護等を手伝ってくれる人が身近にいない」が1位になっている。

【子どもの状況別】

子どもは成人している又は独立しているを除くすべての子どもの状況で「勤務時間が長時間、または多様な働き方（短時間勤務や早出遅出勤務等）が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」が1位になっている。

【お住まいの場所別】

安芸広域圏を除くすべてのお住まいの場所で「勤務時間が長時間、または多様な働き方（短時間勤務や早出遅出勤務等）が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難」が1位になっている。

《婚姻状況別・子どもの状況別・お住まいの場所別》

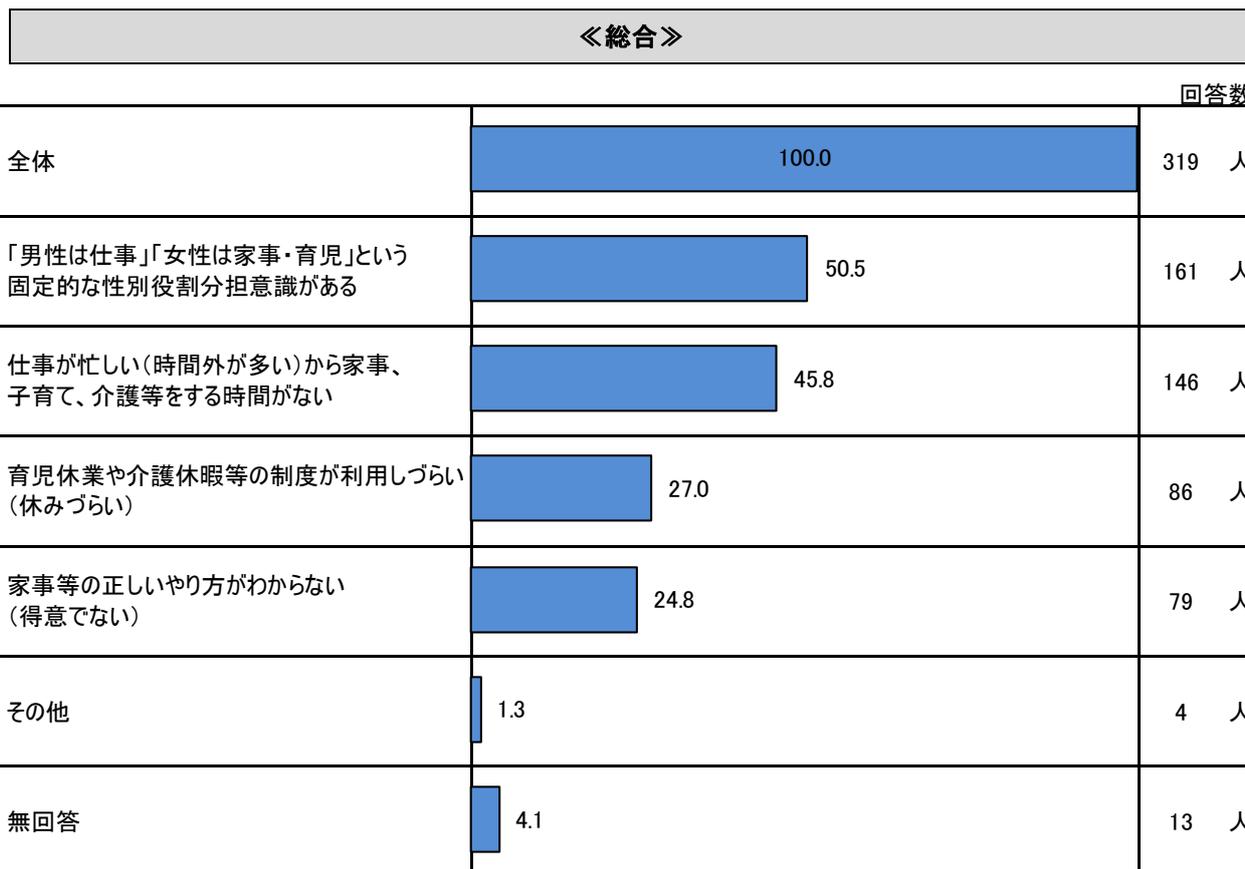
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)		全体	配、介護等に参加しない	家事、子育て、介護等を手伝ってくれる人が身近にいない	保育園の利用など、育児のサービス等を利用しづらい	介護施設の利用など、介護のサービス等を利用しづらい	女性が積極的に採用・登用する企業等が少ない	育児休業や介護休暇等の制度が利用しづらい	勤務時間が長時間、または多様な働き方（短時間勤務や早出遅出勤務等）が選べないなど、家庭と仕事との両立が困難	就職や起業をしたくても、情報やノウハウがない	「女性は家庭を守るべき」といった固定的な性別役割分担意識がある	出産等で退職した女性が再就職を希望しても、支援する制度がない	その他	無回答
全体	1,634 100.0	319 19.5	628 38.4	207 12.7	109 6.7	332 20.3	384 23.5	711 43.5	126 7.7	168 10.3	324 19.8	32 2.0	192 11.8	
婚姻状況	未婚	290	15.9	36.9	17.2	6.2	21.7	26.2	46.6	8.3	13.1	19.3	3.1	8.3
	既婚	1,015	22.3	39.4	11.9	6.3	20.6	24.6	45.1	7.8	10.0	20.6	2.5	9.7
	その他	249	15.3	40.6	9.2	8.0	18.1	16.1	37.3	6.4	7.2	16.9	4.0	18.9
子どもの状況	就学前の子どもがいる	119	26.9	27.7	17.6	0.8	13.4	22.7	55.5	5.9	11.8	28.6	5.9	7.6
	小・中学生の子どもがいる	174	23.6	37.9	10.9	4.6	19.0	23.6	55.7	7.5	13.8	18.4	2.9	5.7
	高校生の子どもがいる	107	23.4	34.6	17.8	8.4	20.6	19.6	44.9	10.3	15.9	16.8	2.8	7.5
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	103	26.2	36.9	16.5	1.9	18.4	19.4	42.7	8.7	13.6	16.5	5.8	8.7
	子どもは成人している又は独立している	842	19.2	41.8	10.0	7.8	21.1	23.9	39.9	7.6	9.0	20.3	2.1	13.5
お住まいの場所	子どもはいない	380	15.8	39.2	16.3	6.6	21.3	24.7	48.9	8.9	10.3	18.4	3.7	7.1
	高知市	714	21.4	41.2	13.9	5.6	19.0	23.7	43.7	6.9	10.1	19.2	3.2	9.8
	安芸広域圏	107	18.7	37.4	15.9	15.9	16.8	20.6	34.6	8.4	11.2	18.7	2.8	13.1
	南国・香美広域圏	237	17.7	38.8	13.5	6.8	21.9	23.6	48.1	8.0	9.7	22.4	2.1	9.3
	嶺北広域圏	28	32.1	28.6	14.3	3.6	14.3	28.6	39.3	7.1	3.6	21.4	-	17.9
	仁淀川広域圏	118	17.8	33.9	12.7	3.4	26.3	21.2	47.5	9.3	13.6	19.5	4.2	10.2
	高吾北広域圏	51	13.7	47.1	5.9	7.8	15.7	27.5	56.9	9.8	11.8	25.5	2.0	9.8
高幡広域圏	125	20.8	36.0	8.8	4.8	21.6	23.2	40.8	7.2	12.0	16.8	1.6	14.4	
幡多広域圏	181	17.1	36.5	7.2	8.8	21.5	24.3	42.0	8.3	7.2	19.3	3.3	15.5	

(4)選んだ理由について

副問1 (問33で「1」を選んだ方のみお答えください。  
選んだ理由は何ですか。(2つまで○印)

【総合】 「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」が50.5%と1位になっている。

次いで「仕事が忙しい(時間外が多い)から家事、子育て、介護等をする時間がない」が45.8%、「育児休業や介護休暇等の制度が利用しづらい(休みづらい)」が27.0%と続いている。

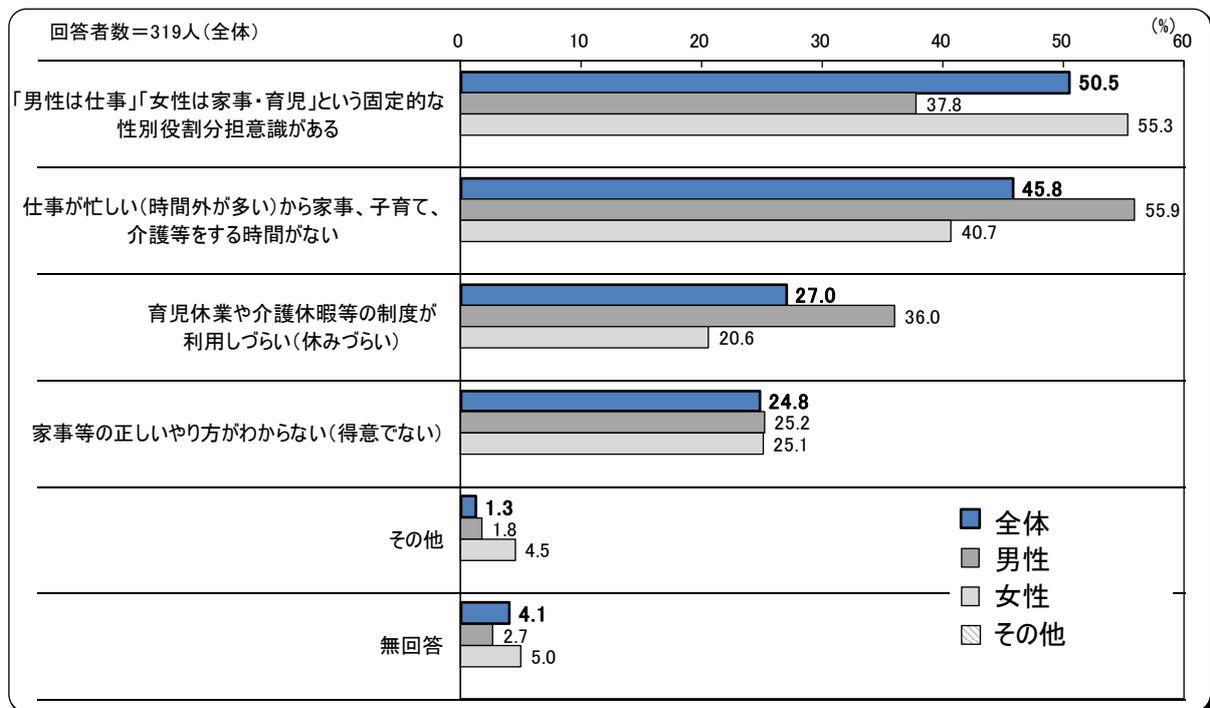


グラフ単位:(%)

【性別】

男性では「仕事が忙しい（時間外が多い）から家事、子育て、介護等をする時間がない」が、女性では「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」が1位になっている。

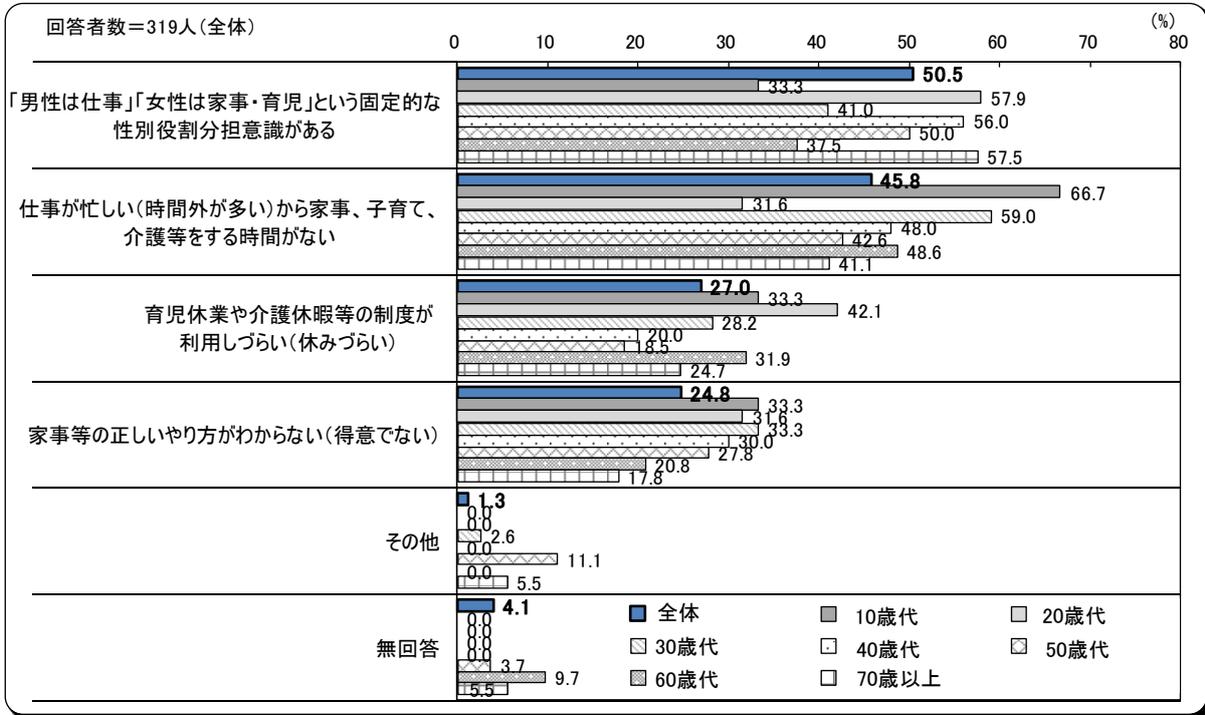
◀性別▶



【年代別】

いずれも「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」、「仕事が忙しい(時間外が多い)から家事、子育て、介護等をする時間がない」の割合が高くなっている。

《年代別》



【婚姻状況別】

未婚、既婚では「仕事が忙しい（時間外が多い）から家事、子育て、介護等をする時間がない」が、その他では「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」が1位になっている。

【子どもの状況別】

小・中学生の子どもがいる、子どもはいないを除くすべての子どもの状況で「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」が1位になっている。

【お住まいの場所別】

いずれも「男性は仕事」「女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識がある」の割合が高い傾向になっている。

＜婚姻状況・子どもの状況別・お住まいの場所別＞

		全体	仕事、子育て、介護等を外が多時間にならない家	育児休業や介護休暇等の制度が利用し	「男性は仕事」「女性別役割分担意識が育児あ	家事等の正しいやり方がわからない（得意でない）	その他	無回答
【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)								
全体		319 100.0	146 45.8	86 27.0	161 50.5	79 24.8	4 1.3	13 4.1
婚姻状況	未婚	46	56.5	30.4	52.2	32.6	-	-
	既婚	226	48.2	24.8	45.6	25.2	2.7	4.9
	その他	38	21.1	28.9	65.8	15.8	13.2	5.3
子どもの状況	就学前の子どもがいる	32	50.0	28.1	53.1	28.1	3.1	-
	小・中学生の子どもがいる	41	58.5	26.8	43.9	29.3	2.4	2.4
	高校生の子がいる	25	24.0	20.0	60.0	24.0	4.0	4.0
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	27	44.4	29.6	59.3	29.6	-	-
	子どもは成人している又は独立している	162	44.4	27.2	46.9	19.8	4.9	5.6
	子どもはいない	60	51.7	20.0	50.0	33.3	1.7	3.3
お住まいの場所	高知市	153	45.1	28.8	43.1	28.1	3.9	3.9
	安芸広域圏	20	45.0	20.0	60.0	25.0	-	10.0
	南国・香美広域圏	42	54.8	19.0	50.0	26.2	7.1	2.4
	嶺北広域圏	9	33.3	55.6	55.6	11.1	11.1	-
	仁淀川広域圏	21	57.1	28.6	61.9	23.8	-	-
	高吾北広域圏	7	42.9	42.9	42.9	28.6	-	-
	高幡広域圏	26	38.5	19.2	53.8	19.2	3.8	3.8
	幡多広域圏	31	45.2	16.1	54.8	19.4	-	9.7

(5) 女性が地域で生き生きと働くために行政が取り組むべき施策について

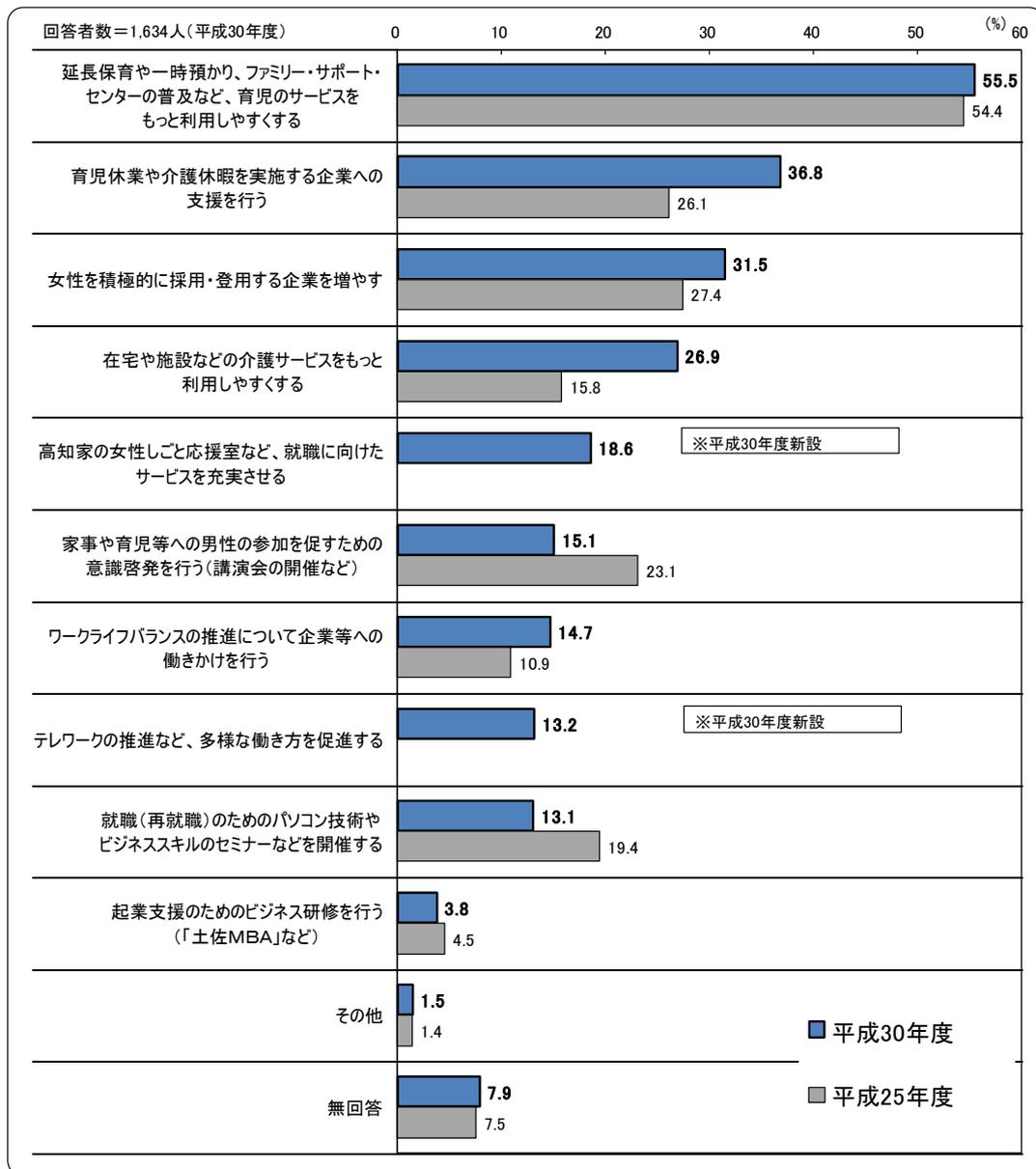
問34 女性が地域で生き生きと働くため、行政が取り組んだら良いと思うものはどれですか。  
(3つまで○印)

【総合】 「延長保育や一時預かり、ファミリー・サポート・センターの普及など、育児のサービスをもっと利用しやすくする」が55.5%と1位になっている。

次いで「育児休業や介護休暇を実施する企業への支援を行う」が36.8%、「女性を積極的に採用・登用する企業を増やす」が31.5%と続いている。

【過去の調査との比較】

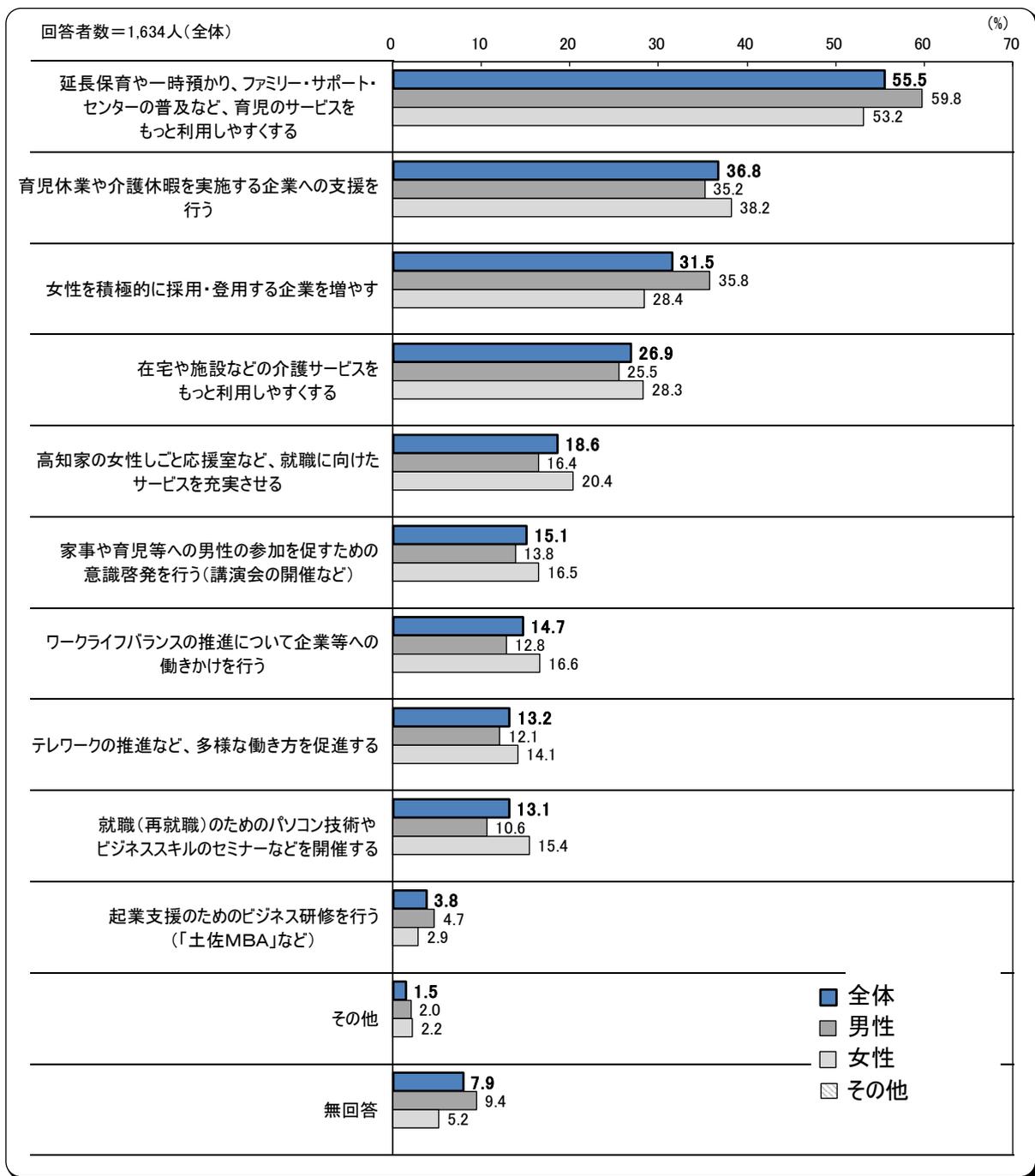
選択肢の一部が変更されたため単純な比較はできないが、今年度も、25年度と同じく「延長保育や一時預かり、ファミリー・サポート・センターの普及など、育児のサービスをもっと利用しやすくする」が1位になっている。



【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

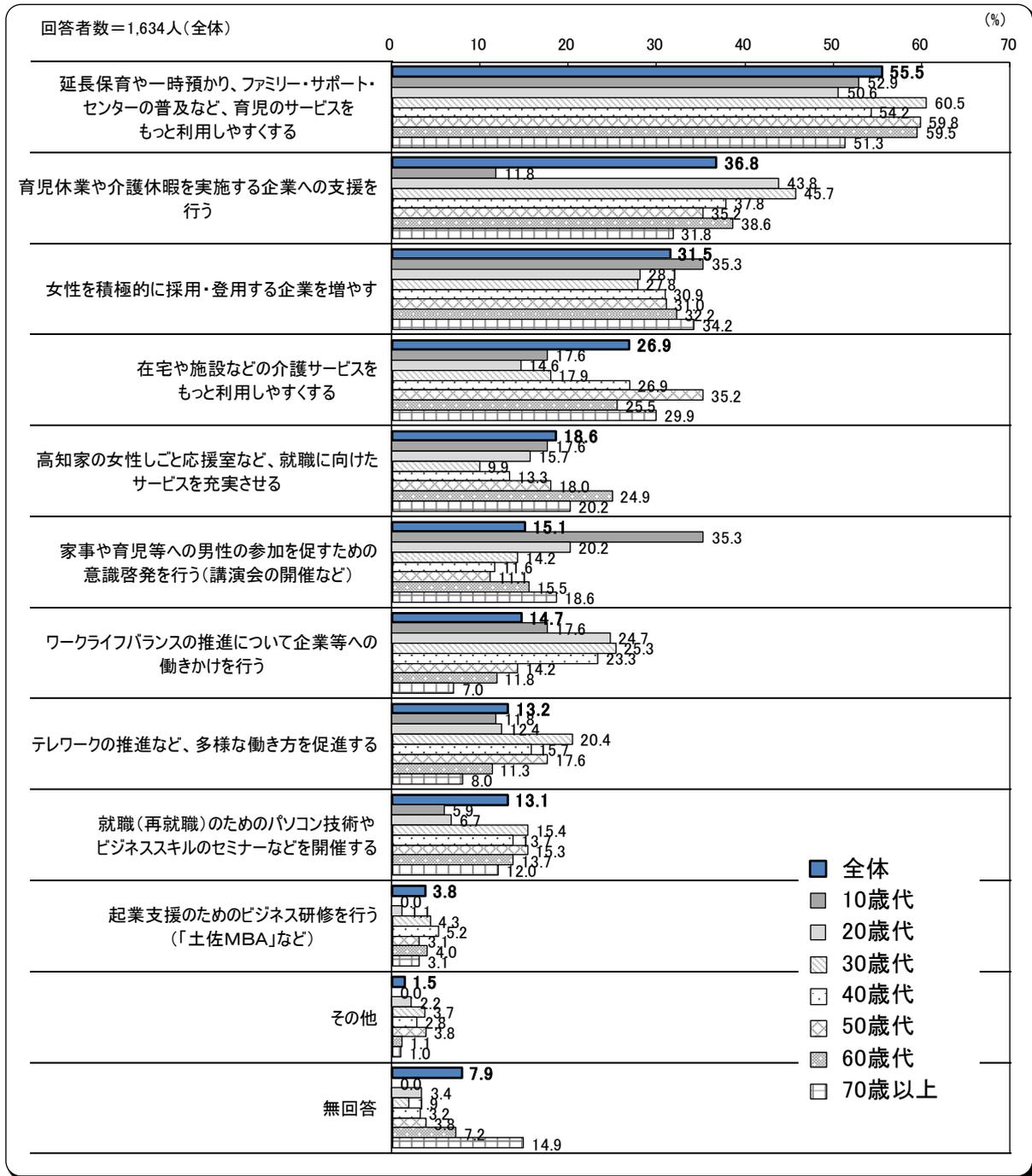
《性別》



【年代別】

いずれも「延長保育や一時預かり、ファミリー・サポート・センターの普及など、育児のサービスをもっと利用しやすくする」が半数を超えて1位になっている。

《年代別》



【お住まいの場所別】

嶺北広域圏を除くすべてのお住まいの場所で「延長保育や一時預かり、ファミリー・サポート・センターの普及など、育児のサービスをもっと利用しやすくする」が半数を超えて1位になっている。

＜お住まいの場所別＞

【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)	全体	延長保育や一時預かり、ファミリー・サポート・センターの普及など、育児のサービスをもっと利用しやすくする	家事や育児等への男性の参加を促すなどの意識啓発を行う(講演会の開催など)	在宅や施設などの介護サービスをもっと利用しやすくする	増やす	女性の積極的に採用・登用する企業を増やす	育児休業や介護休暇を実施する企業への支援を行う	ワークライフバランスの推進について企業等への働きかけを行う	テレワークの推進など、多様な働き方を促進する	高知家の女性しごと応援室など、就職に向けたサービスを充実させる	起業支援のためのビジネス研修を行う(「土佐MBA」など)	就職(再就職)のためのパソコンやビジネススキルのセミナーなどを開催する	その他	無回答
	1,634	15.1	55.5	26.9	31.5	36.8	14.7	13.2	18.6	3.8	13.1	1.5	7.9	
全体	714	14.4	57.3	25.4	30.3	38.5	16.2	14.3	20.7	3.4	13.6	1.8	6.9	
お住まいの場所	高知市	107	19.6	56.1	33.6	30.8	33.6	12.1	7.5	19.6	1.9	12.1	2.8	6.5
	安芸広域圏	237	16.0	61.6	27.0	31.6	35.4	16.0	13.5	12.7	4.2	12.2	2.5	4.6
	南国・香美広域圏	28	32.1	39.3	28.6	17.9	42.9	3.6	7.1	14.3	7.1	21.4	3.6	10.7
	仁淀川広域圏	118	11.9	55.9	24.6	32.2	39.8	20.3	16.1	20.3	3.4	11.0	1.7	8.5
	高吾北広域圏	51	19.6	58.8	25.5	31.4	41.2	13.7	19.6	11.8	7.8	13.7	2.0	3.9
	高幡広域圏	125	16.8	51.2	27.2	39.2	34.4	9.6	13.6	18.4	2.4	8.8	2.4	8.8
	幡多広域圏	181	12.7	50.8	30.9	34.3	33.1	12.2	8.3	18.8	3.9	16.6	1.7	9.9

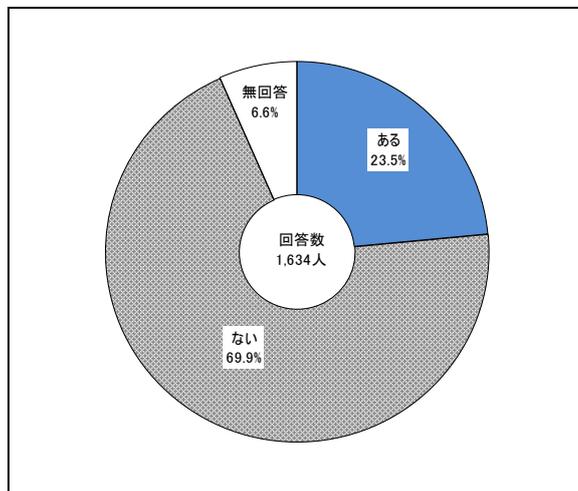
## 7. いじめ防止対策について

### (1) いじめにあったことがあるかについて

問 36 あなたもしくは家族が学校でいじめにあったことはありますか。(1つだけ○印)

【総合】 「ある」が23.5%、「ない」が69.9%となっている。

#### 《総合》

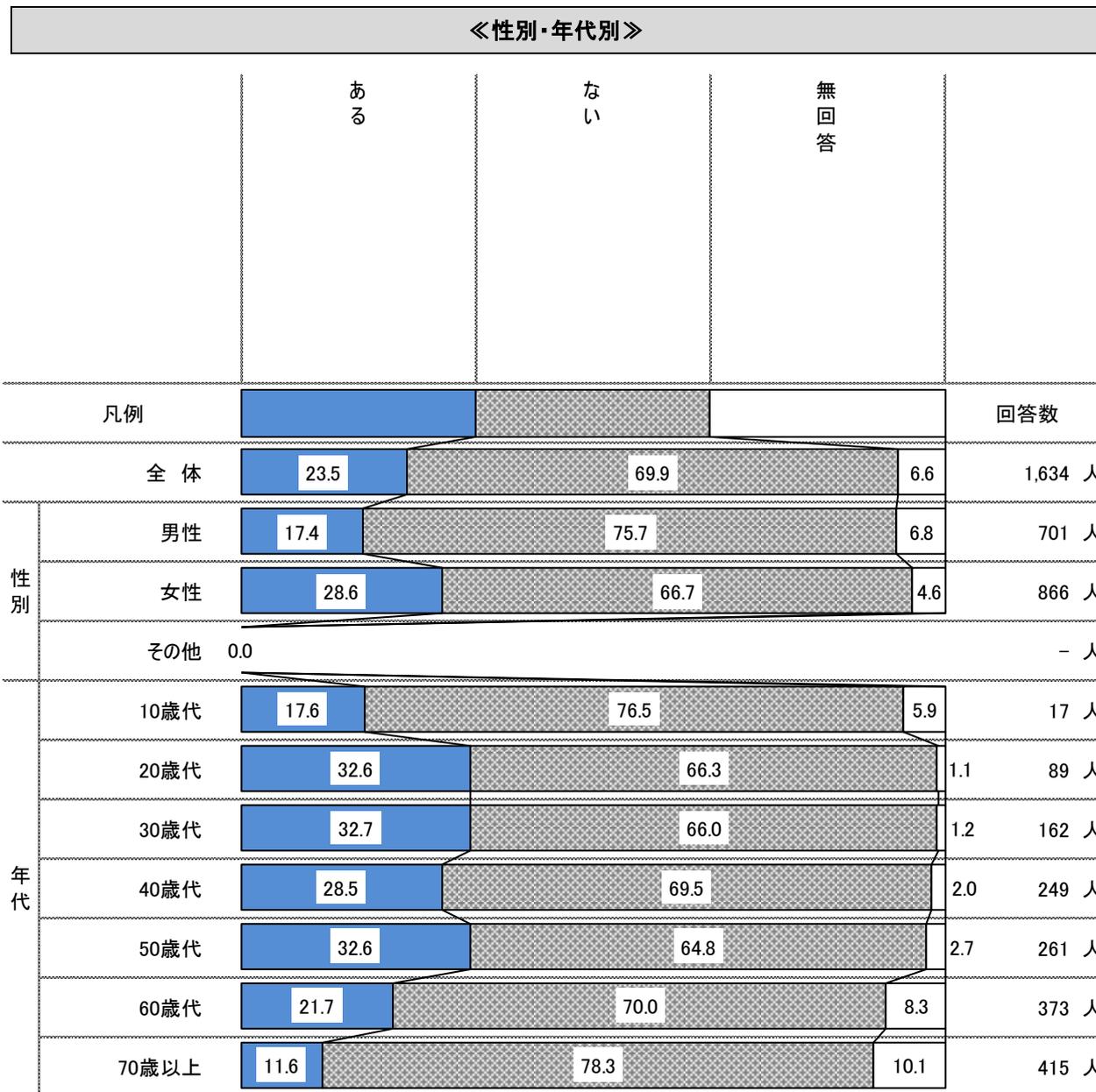


【性別】

男女とも「ない」が6割を超えている。

【年代別】

いずれも「ない」が6割を超えている。



グラフ単位：(%)

(7)いじめを早期に発見し、早期に対応するうえで、力を入れていくべき取り組みについて

問37 いじめを早期に発見し、早期に対応するうえで、力を入れていくべき取り組みは何だと思えますか。(2つまで○印)

【総合】 「子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上」が45.0%と1位になっている。

次いで「学校や家庭において、子どもたちが自分も周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育」が44.1%、「いじめに対して、学校がチームで組織的に対応する体制の充実」が19.5%と続いている。

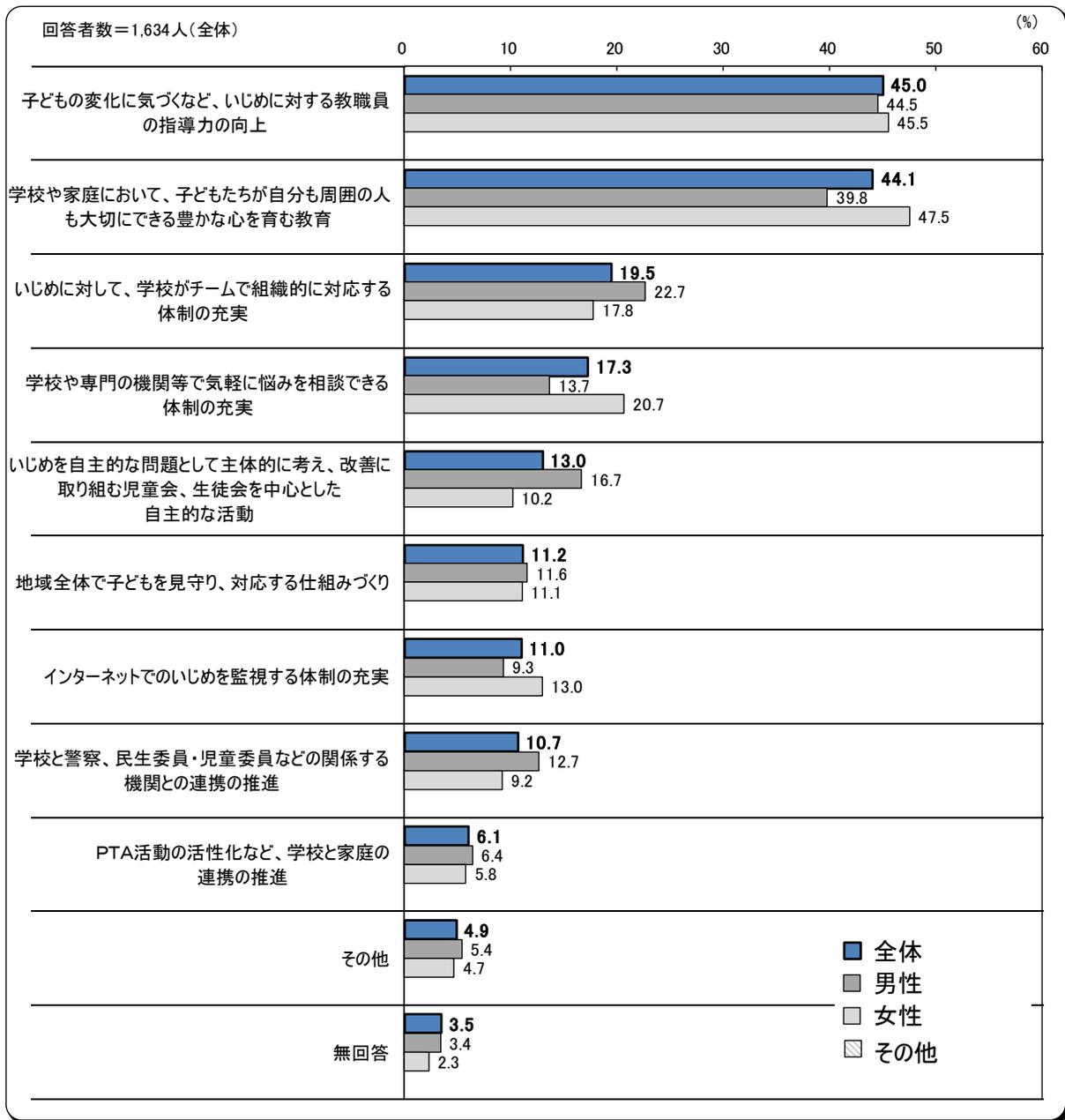
《総合》		
		回答数
全体	100.0	1,634 人
子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上	45.0	735 人
学校や家庭において、子どもたちが自分も周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育	44.1	721 人
いじめに対して、学校がチームで組織的に対応する体制の充実	19.5	319 人
学校や専門の機関等で気軽に悩みを相談できる体制の充実	17.3	283 人
いじめを自主的な問題として主体的に考え、改善に取り組む児童会、生徒会を中心とした自主的な活動	13.0	213 人
地域全体で子どもを見守り、対応する仕組みづくり	11.2	183 人
インターネットでのいじめを監視する体制の充実	11.0	180 人
学校と警察、民生委員・児童委員などの関係する機関との連携の推進	10.7	175 人
PTA活動の活性化など、学校と家庭の連携の推進	6.1	99 人
その他	4.9	80 人
無回答	3.5	58 人

グラフ単位：(%)

【性別】

男性では「子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上」が、女性では「学校や家庭において、子どもたちが自分も周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育」が1位になっている。

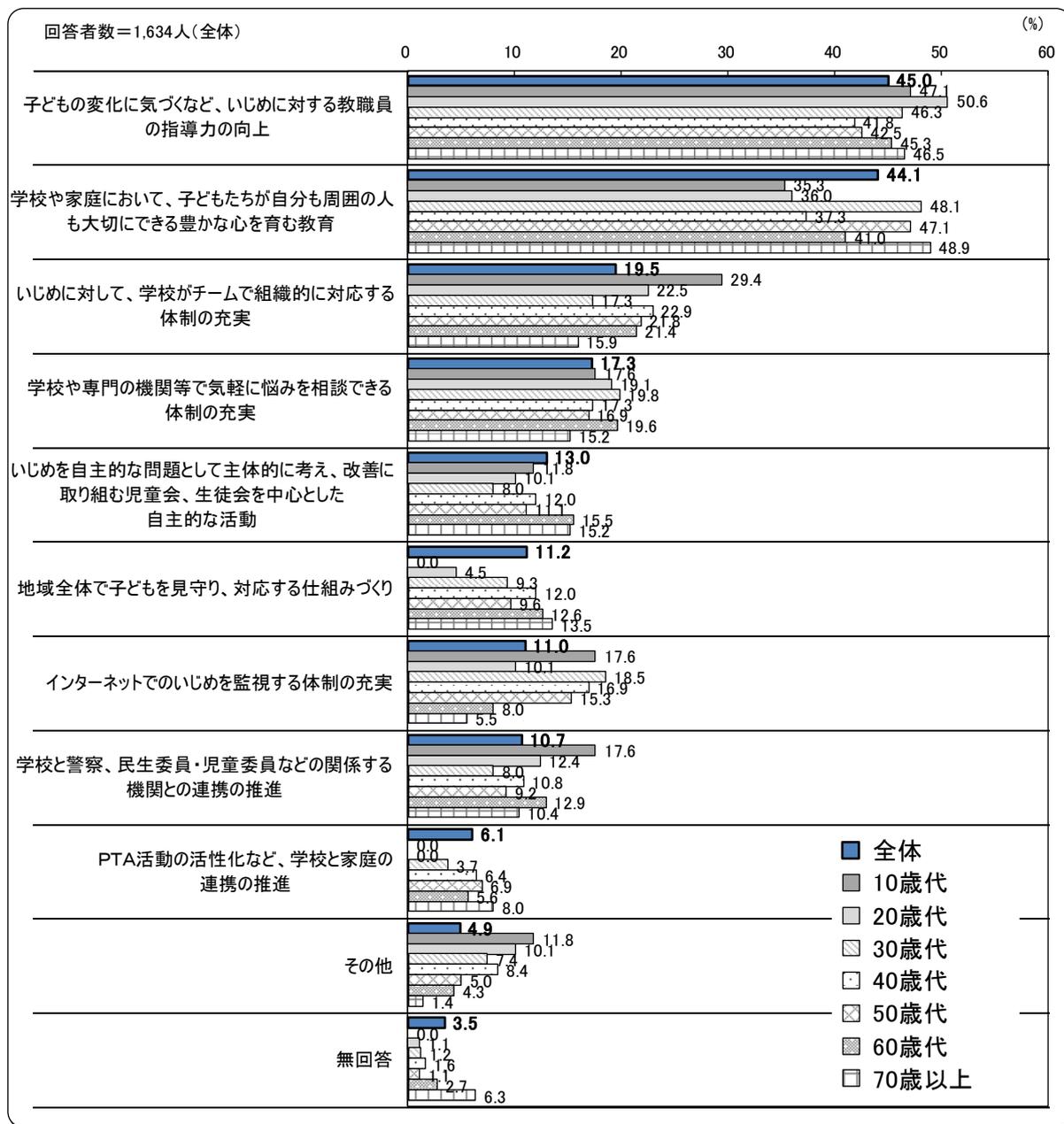
《性別》



【年代別】

10歳代、20歳代、40歳代、60歳代では「子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上」が、そのほかの年代では「学校や家庭において、子どもたちが自分も周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育」が1位になっている。

《年代別》



【子どもの状況別】

いずれも「学校や家庭において、子どもたちが自分も周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育」、「子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上」の割合が高い傾向になっている。

《子どもの状況別》

【表の見方】 上段＝回答数(人) 下段＝比率(%)		全体	を育む教育	学校や家庭においても周囲の人も大切にできる豊かな心を育む教育	自主的な活動	いじめを自主的な問題として主体的に考え、改善に取り組む児童会、生徒会を中心とした	子どもの変化に気づくなど、いじめに対する教職員の指導力の向上	いじめに対して、学校がチームで組織的に対応する体制の充実	P T A 活動の活性化など、学校と家庭の連携の推進	学校と警察、民生委員・児童委員などの関係する機関との連携の推進	地域全体で子どもを見守り、対応する仕組みづくり	インターネットでのいじめを監視する体制の充実	学校や専門の機関等で気軽に悩みを相談できる体制の充実	その他	無回答
		全体	1,634 100.0	721 44.1	213 13.0	735 45.0	319 19.5	99 6.1	175 10.7	183 11.2	180 11.0	283 17.3	80 4.9	58 3.5	
子どもの状況	就学前の子どもがいる	119	47.1	8.4	40.3	16.0	4.2	10.1	10.9	17.6	21.0	7.6	0.8		
	小・中学生の子どもがいる	174	40.2	10.9	48.9	26.4	6.3	8.0	11.5	15.5	12.1	6.3	1.7		
	高校生の子どもがいる	107	31.8	15.0	44.9	21.5	9.3	5.6	8.4	20.6	16.8	8.4	1.9		
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	103	43.7	13.6	32.0	28.2	1.0	7.8	7.8	18.4	16.5	6.8	2.9		
	子どもは成人している又は独立している	842	47.1	14.5	46.3	19.1	7.2	10.3	12.1	9.4	16.4	3.4	2.9		
子どもはいない	380	38.9	12.1	43.2	19.7	4.2	13.7	10.8	10.3	20.5	7.9	2.9			

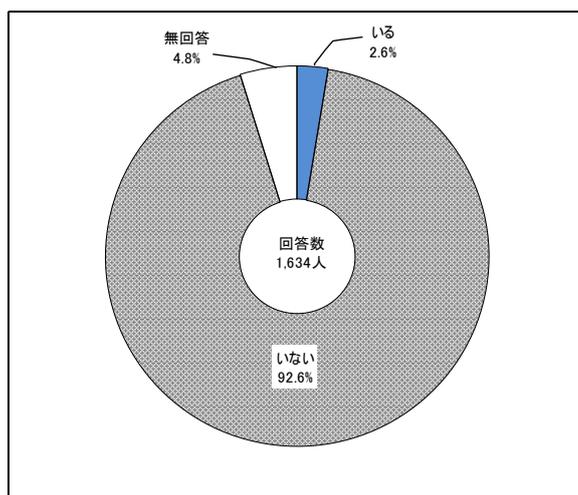
## 8. 夜間中学について

### (1) 周りに夜間中学に興味がある方や通ってみたい方がいるかについて

問38 あなたご自身や親族、友人などのうち、夜間中学に興味のある方や通ってみたい方はいませんか。(1つだけ○印)

【総合】 「いる」が2.6%となっている。

#### 《総合》

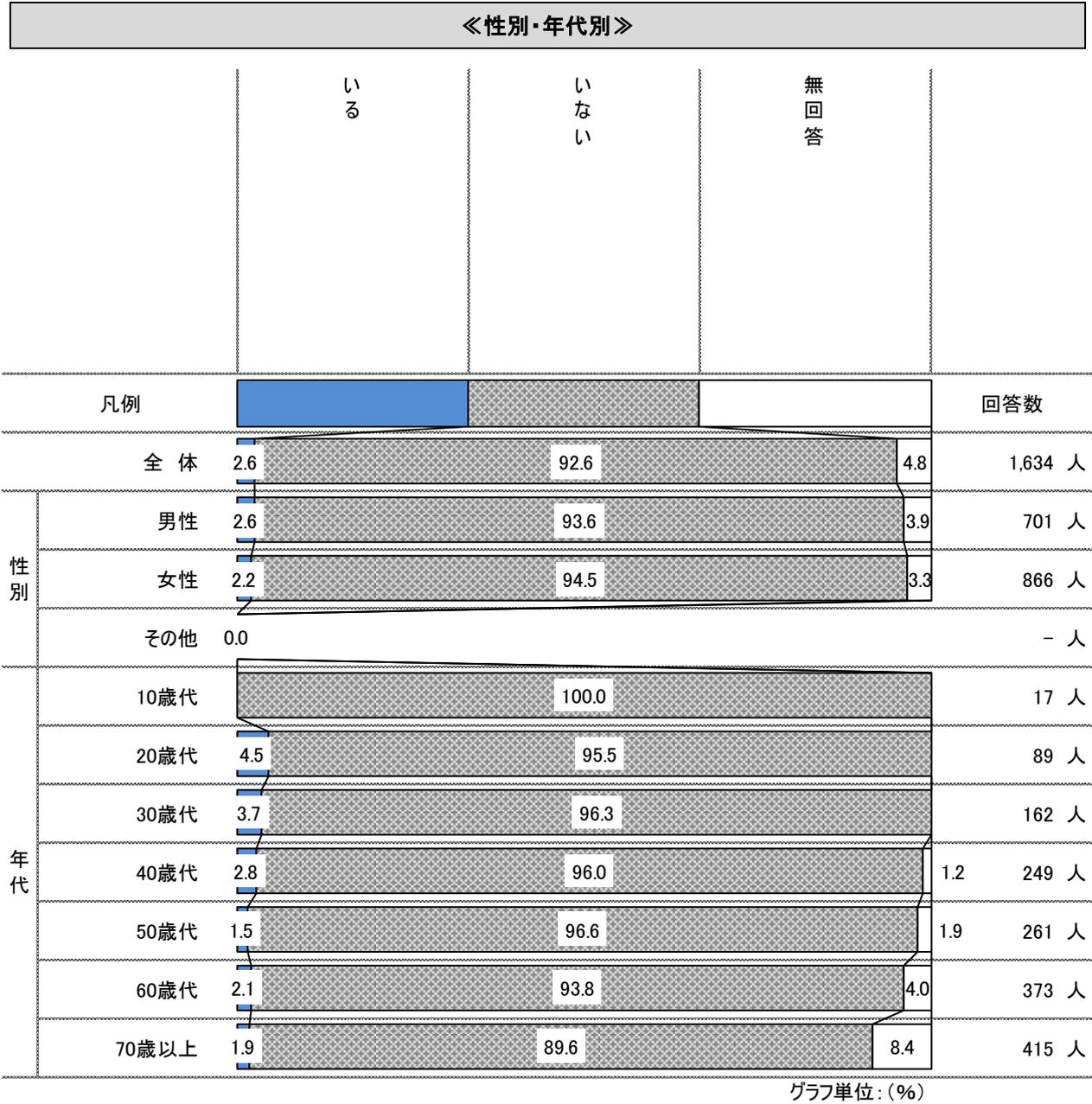


【性別】

男女とも「いる」が2%程度となっている。

【年代別】

20歳代の4.5%が「いる」と回答している。



【お住まいの場所別】

高知市にお住まいの3.2%が「いる」と回答している。



グラフ単位：(%)

**(2)夜間中学に興味、通ってみたい方との続柄について**

副問1 (問38で「1」を選んだ方のみお答えください。  
それは誰ですか。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「あなた自身(ご本人)」が59.5%と1位になっている。  
次いで「その他の親族」が21.4%、「友人」が19.0%と続いている。

《総合》

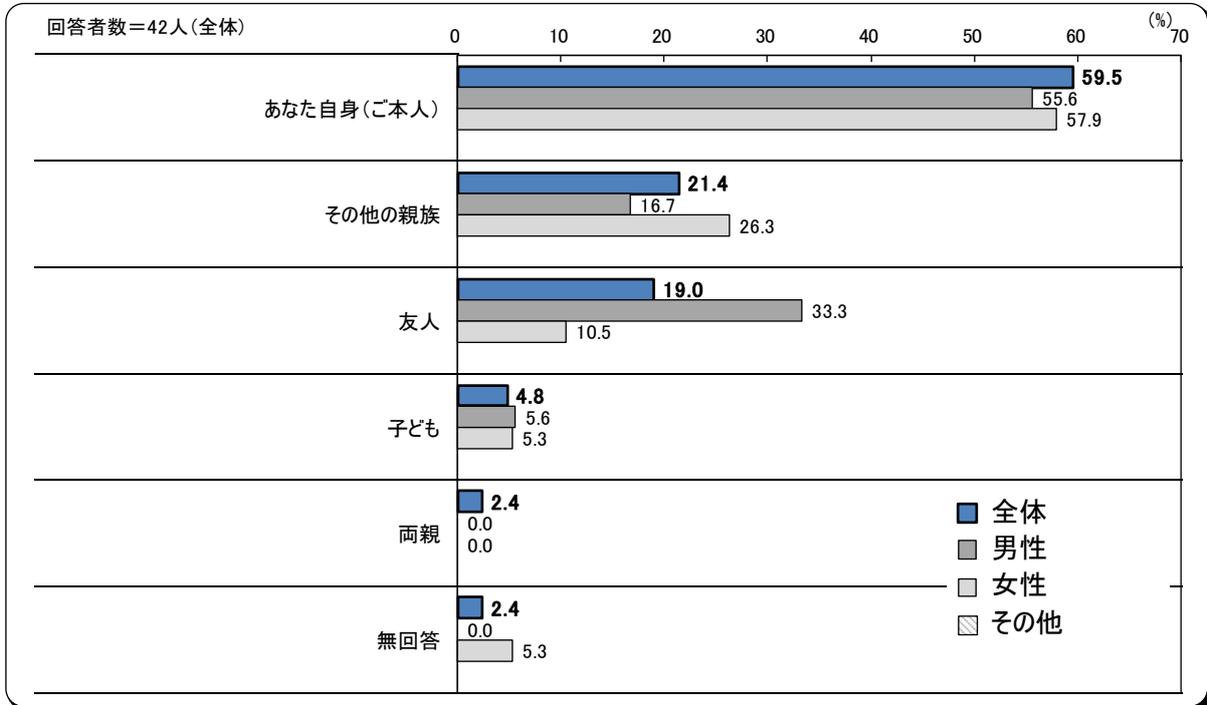
		回答数
全体	100.0	42 人
あなた自身(ご本人)	59.5	25 人
その他の親族	21.4	9 人
友人	19.0	8 人
子ども	4.8	2 人
両親	2.4	1 人
無回答	2.4	1 人

グラフ単位:(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

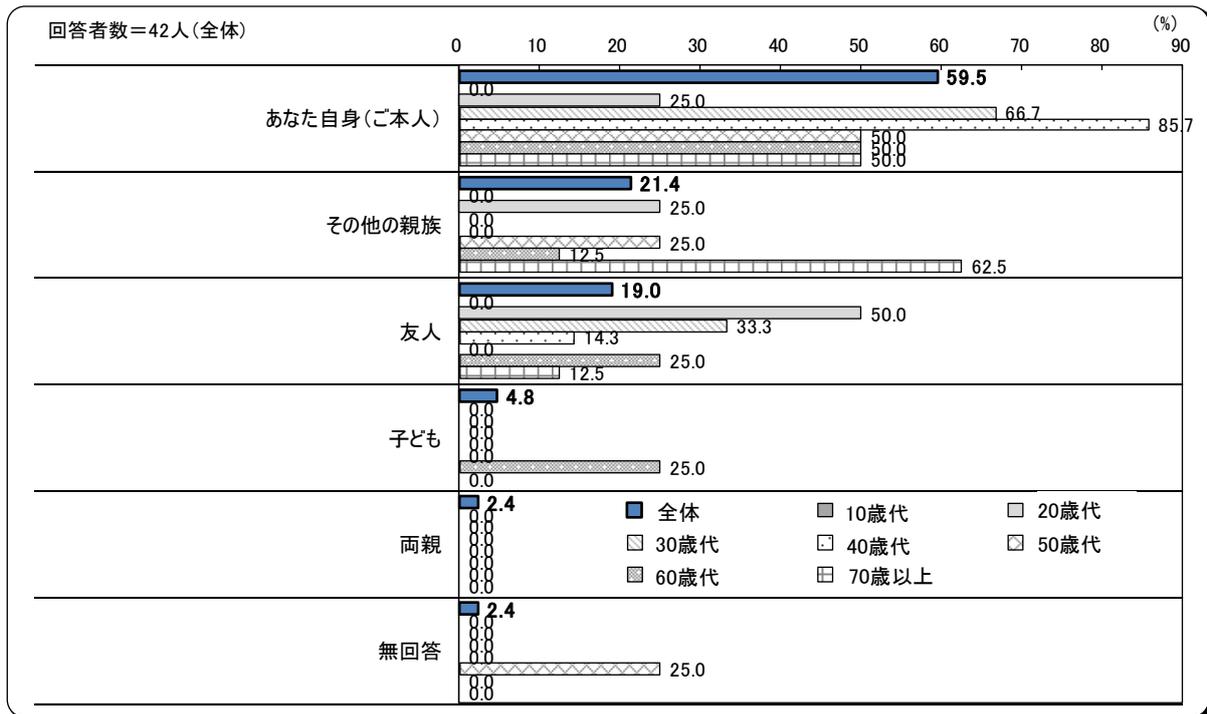
《性別》



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「あなた自身(ご本人)」の割合が高くなっている。

《年代別》



【お住まいの場所別】

嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏を除くすべてのお住まいの場所で「あなた自身（ご本人）」の割合が高くなっている。

《お住まいの場所別》

		全体	あなた自身 （ご本人）	子ども	両親	その他の親族	友人	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)								
全体		42 100.0	25 59.5	2 4.8	1 2.4	9 21.4	8 19.0	1 2.4
お 住 ま い の 場 所	高知市	23	52.2	8.7	-	17.4	26.1	4.3
	安芸広域圏	3	66.7	-	-	66.7	-	-
	南国・香美広域圏	5	40.0	-	-	20.0	40.0	-
	嶺北広域圏	-	-	-	-	-	-	-
	仁淀川広域圏	-	-	-	-	-	-	-
	高吾北広域圏	-	-	-	-	-	-	-
	高幡広域圏	1	100.0	-	-	-	-	-
	幡多広域圏	3	100.0	-	-	-	-	-

### (3) 夜間中学に通わせたい人の年齢について

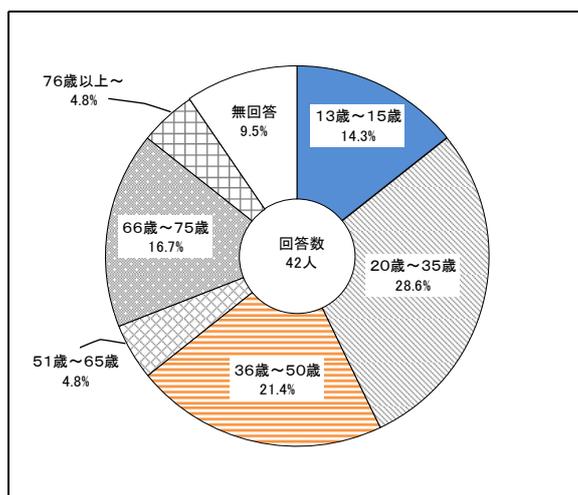
副問2 (問38で「1」を選んだ方のみお答えください。)

夜間中学に通わせたい人の年齢を教えてください。(1つだけ○印)

【総合】 「20歳～35歳」が28.6%と1位になっている。

次いで「36歳～50歳」が21.4%、「66歳～75歳」が16.7%と続いている。

#### 《総合》



【クロス分析】

「通わせたい人の年齢」が13歳～15歳では「家庭の都合や金銭的な理由により中学校に行くことができなかった」、「不登校等の理由により中学校からほとんど学校に行くことができなかった」の回答が、20歳～35歳、36歳～50歳では「不登校等の理由により中学校からほとんど学校に行くことができなかった」の回答が、51歳～65歳では「その他」の回答が、66歳～75歳では「家庭の都合や金銭的な理由により中学校に行くことができなかった」の回答が、76歳以上～では「戦後の混乱期で小学校に行くことができなかった」、「家庭の都合や金銭的な理由により小学校に行くことができなかった」の回答があがっている。

《問38副問2×問38副問3のクロス分析》

		全体	戦後の混乱期で小学校に行くことができなかった	戦後の混乱期で中学校に行くことができなかった	家庭の都合や金銭的な理由により小学校に行くことができなかった	家庭の都合や金銭的な理由により中学校に行くことができなかった	病气やけがのため、小学校に行くことができなかった	病气やけがのため、中学校に行くことができなかった	不登校等の理由により小学校からほとんど学校に行くことができなかった	不登校等の理由により中学校からほとんど学校に行くことができなかった	外国籍で、日本の中学校にあたる教育を受けていない	外国籍で、日本語での読み書き、話すことができない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)														
全体		42 100.0	2 4.8	-	3 7.1	5 11.9	-	2 4.8	6 14.3	13 31.0	-	1 2.4	9 21.4	9 21.4
問38副問2	13歳～15歳	6	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	-	16.7	16.7
	16歳～19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20歳～35歳	12	-	-	16.7	8.3	-	16.7	25.0	50.0	-	-	8.3	16.7
	36歳～50歳	9	-	-	-	-	-	-	33.3	44.4	-	-	33.3	-
	51歳～65歳	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	66歳～75歳	7	14.3	-	-	28.6	-	-	-	-	-	-	28.6	28.6
76歳以上～	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	

(4)通いたい、通わせたい理由について

副問3 (問38で「1」を選んだ方のみお答えください。  
なぜ通いたい、通わせたいと思いますか。(いくつでも○印)

【総合】「不登校等の理由により中学校からほとんど学校に行くことができなかった」が31.0%と1位になっている。

次いで「その他」が21.4%、「不登校等の理由により小学校からほとんど学校に行くことができなかった」が14.3%と続いている。

《総合》		回答数
全体	100.0	42 人
不登校等の理由により中学校からほとんど学校に行くことができなかった	31.0	13 人
不登校等の理由により小学校からほとんど学校に行くことができなかった	14.3	6 人
家庭の都合や金銭的な理由により中学校に行くことができなかった	11.9	5 人
家庭の都合や金銭的な理由により小学校に行くことができなかった	7.1	3 人
戦後の混乱期で小学校に行くことができなかった	4.8	2 人
病気やけがのため、中学校に行くことができなかった	4.8	2 人
外国籍で、日本語での読み書き、話すことができない	2.4	1 人
戦後の混乱期で中学校に行くことができなかった	0.0	- 人
病気やけがのため、小学校に行くことができなかった	0.0	- 人
外国籍で、日本の中学校にあたる教育を受けていない	0.0	- 人
その他	21.4	9 人
無回答	21.4	9 人

グラフ単位：(%)

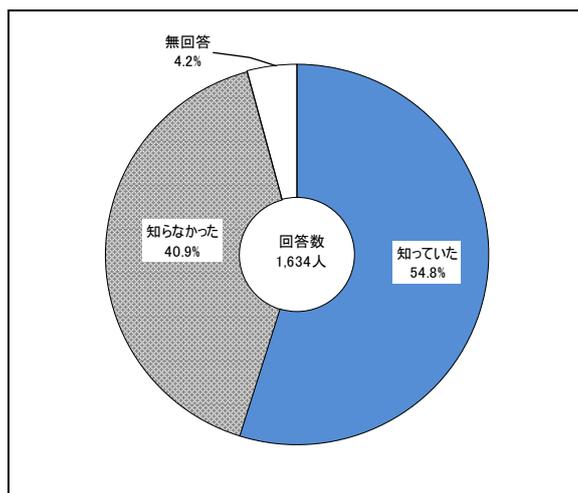
## 9. 動物(犬猫)の愛護及び管理について

### (1)「動物の愛護及び管理に関する法律」の認知度について

問 39 「動物の愛護及び管理に関する法律」では、すべての人が、人と動物が共生する社会を目指し、虐待や遺棄の防止だけでなく、動物を適正に取り扱うよう定められていることを知っていましたか。(1つだけ○印)

【総合】 「知っていた」が54.8%、「知らなかった」が40.9%となっている。

#### 《総合》

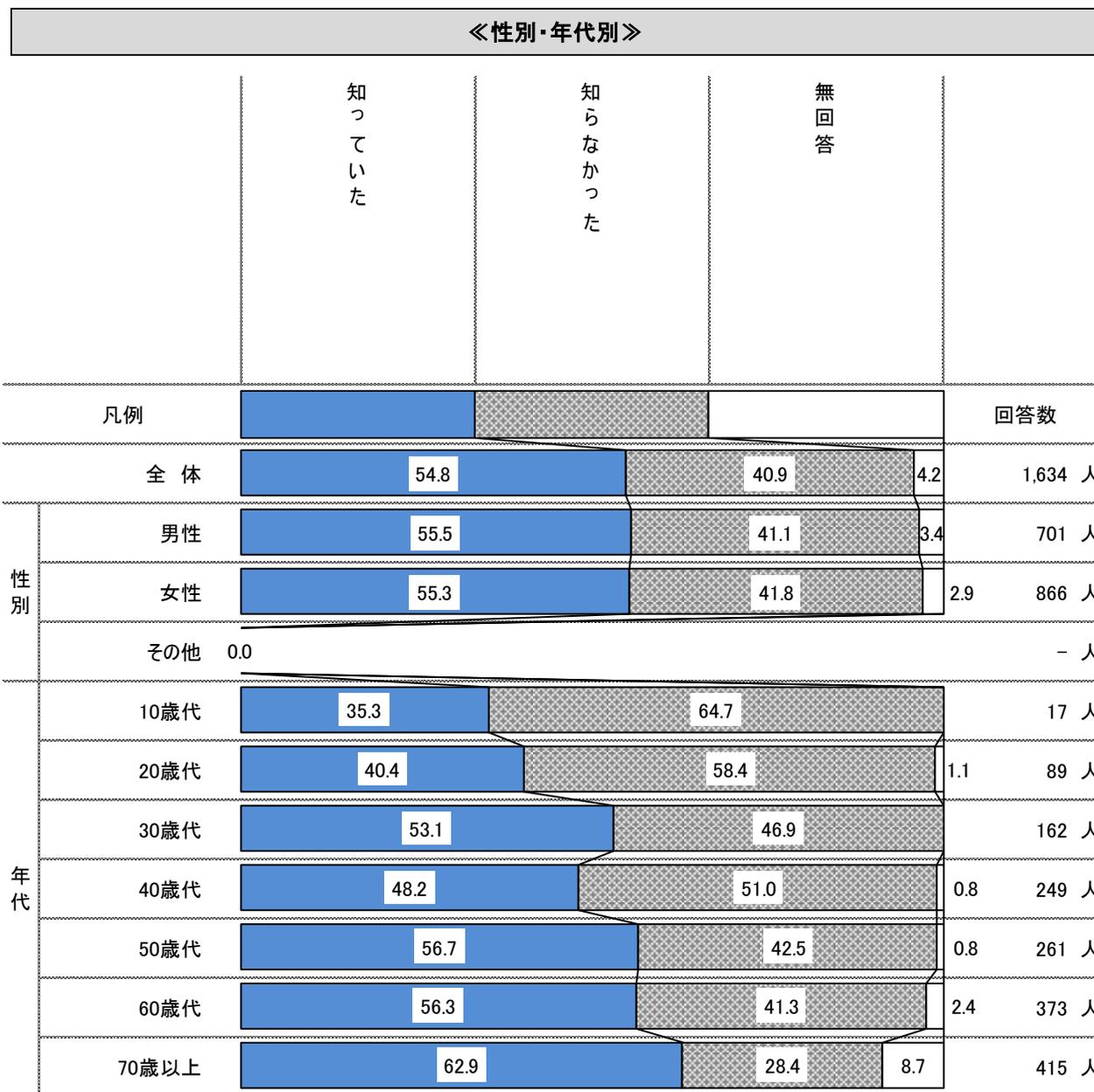


【性別】

男女とも「知っていた」が半数を超えている。

【年代別】

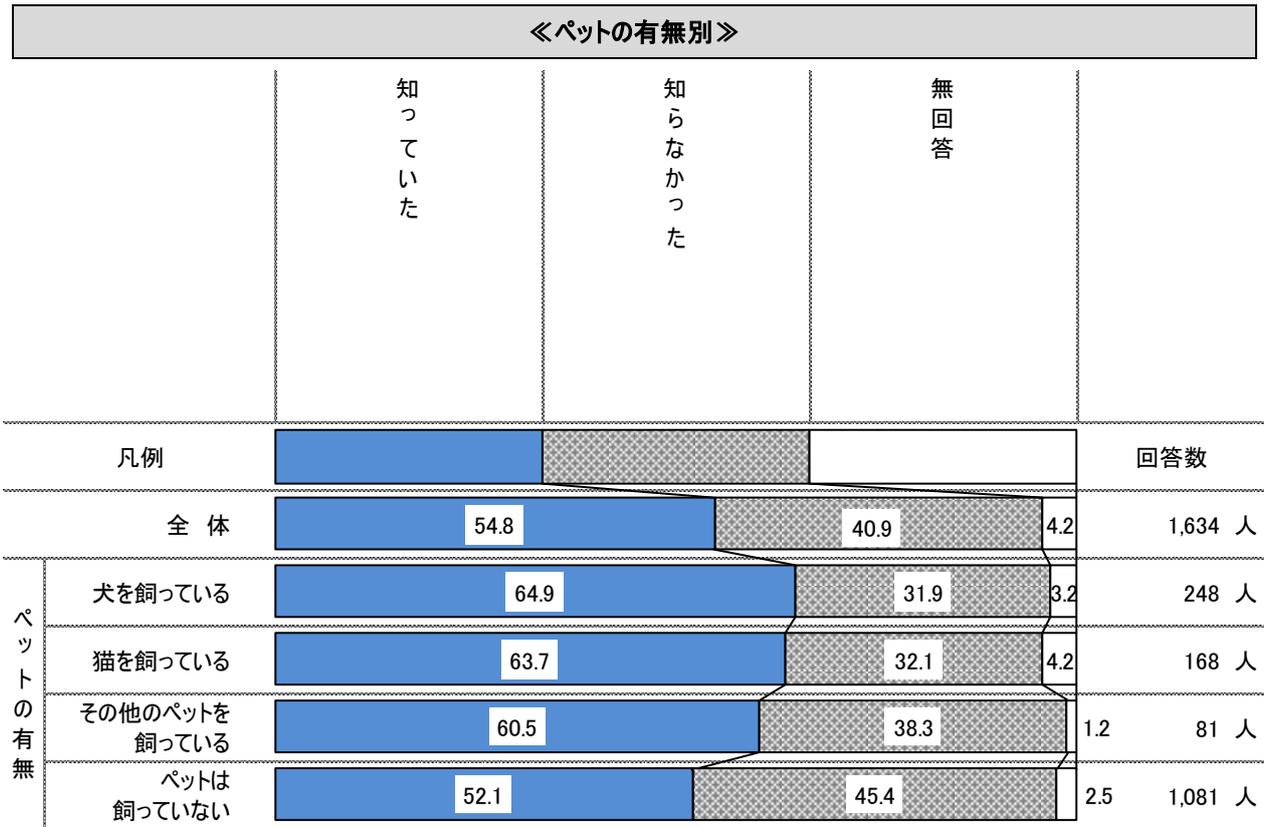
年代があがるにつれて「知っていた」の割合が高くなる傾向になっている。



グラフ単位：(%)

【ペットの有無別】

いずれも「知っていた」が半数を超えている。



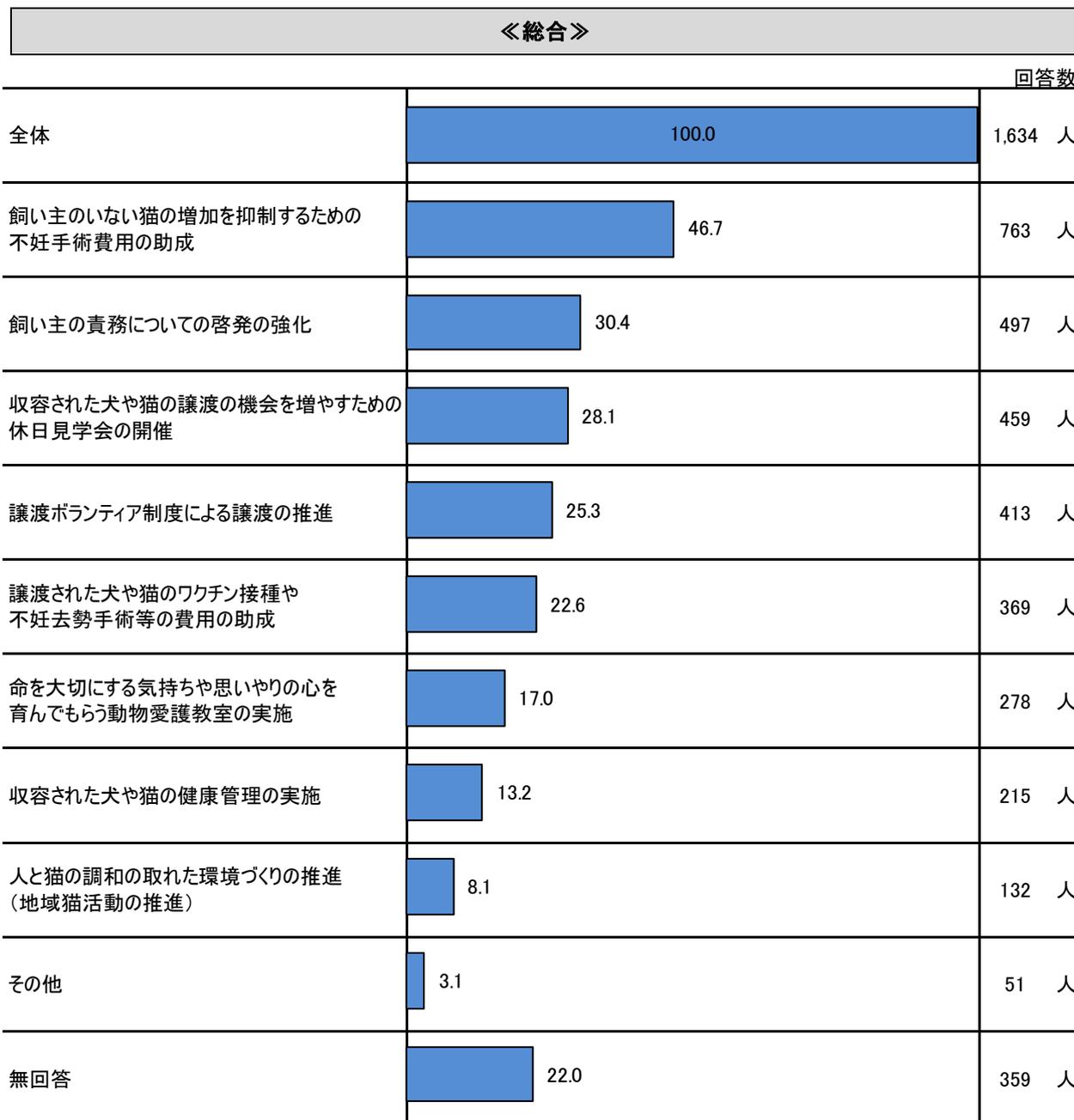
グラフ単位：(%)

(2)「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいて県が行っている施策の認知度について

問 40 「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいて県が行っている施策のうち、知っていたものをお答えください。(当てはまるものすべてに○印)

【総合】 「飼い主のいない猫の増加を抑制するための不妊手術費用の助成」が46.7%と1位になっている。

次いで「飼い主の責務についての啓発の強化」が30.4%、「収容された犬や猫の譲渡の機会を増やすための休日見学会の開催」が28.1%と続いている。

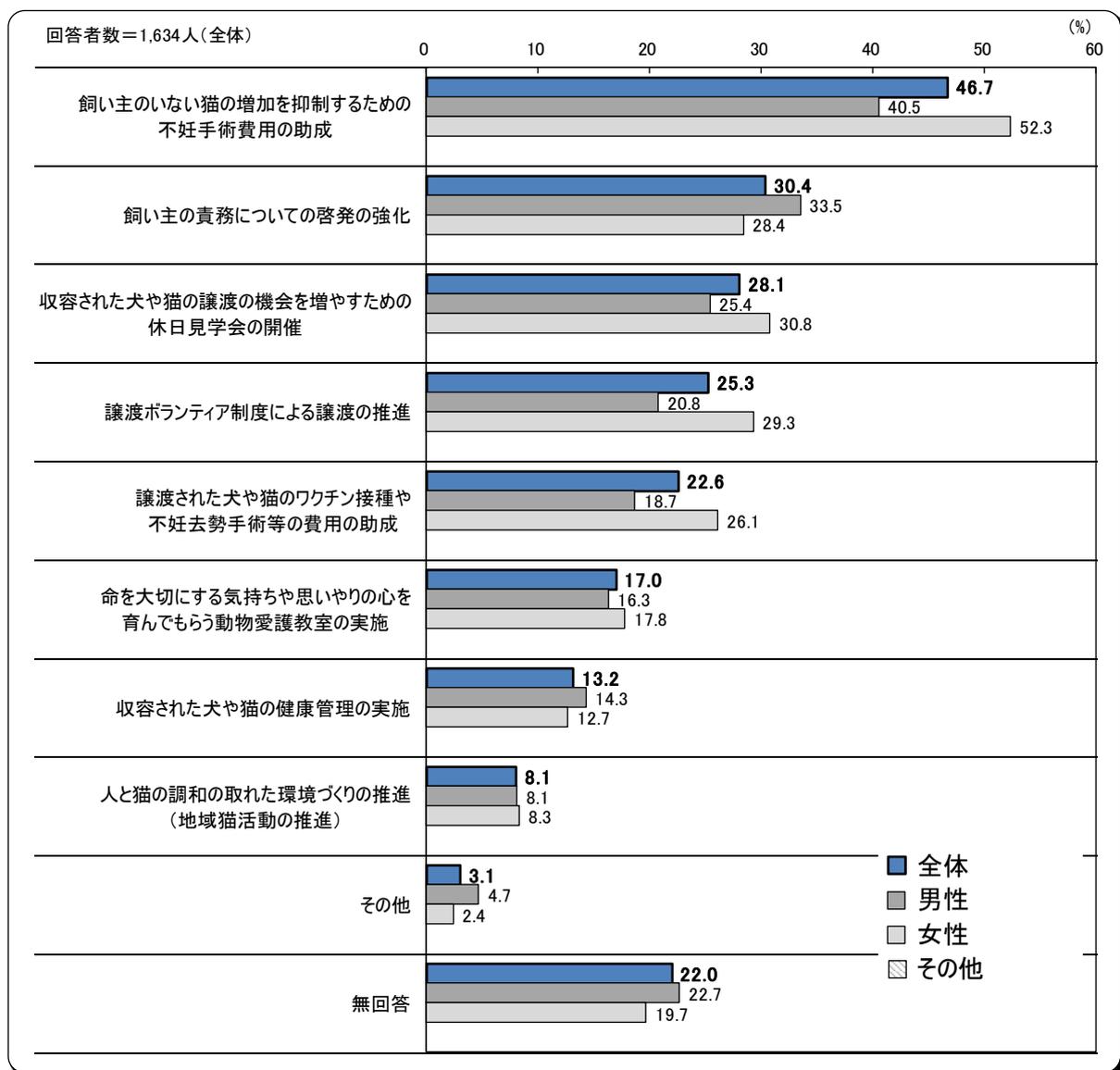


グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

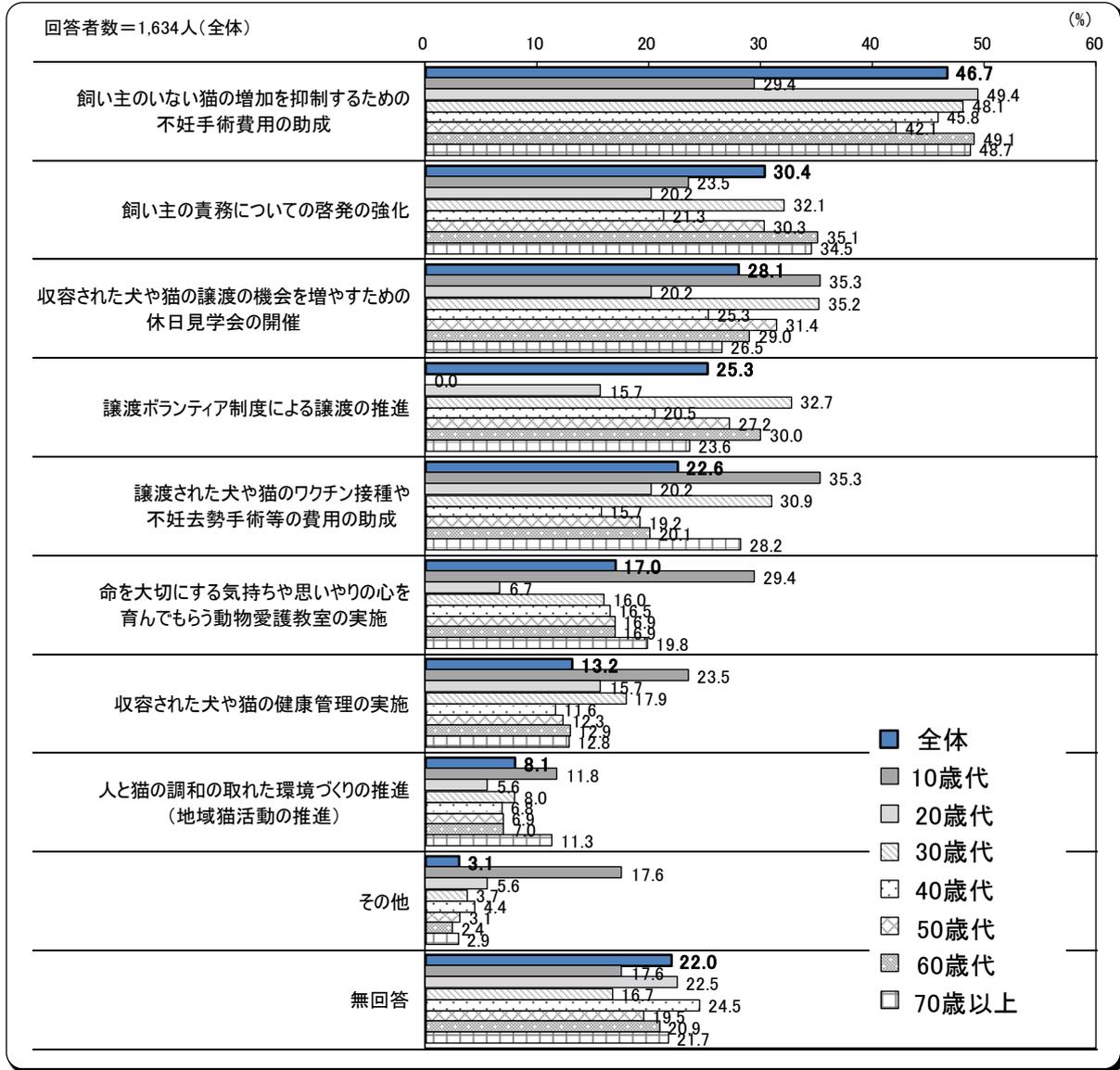
《性別》



【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「飼い主のいない猫の増加を抑制するための不妊手術費用の助成」が1位になっている。

《年代別》



【ペットの有無別】

いずれも「飼い主のいない猫の増加を抑制するための不妊手術費用の助成」が1位になっている。

《ペットの有無別》

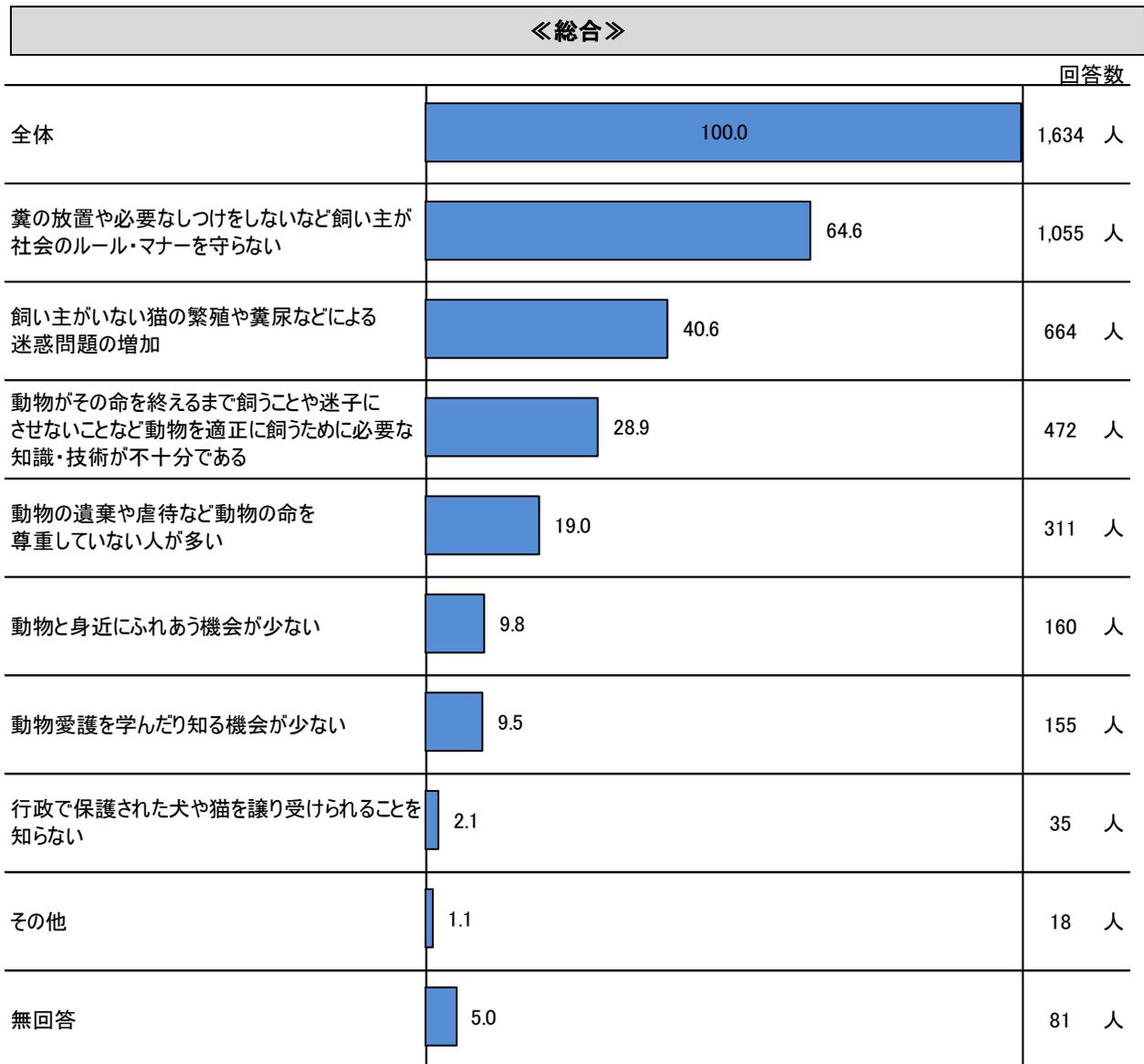
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)	全体	飼い主のいない猫の増加を抑制するための不妊手術費用の助成	飼い主の責務についての啓発の強化	命を大切に動物愛護教室の実施を育んでもらう動物愛護教室の実施	人と猫の調和の取れた環境づくりの推進（地域猫活動の推進）	収容された犬や猫の健康管理の実施	収容された犬や猫の譲渡の機会を増やすための休日見学会の開催	譲渡された犬や猫のワクチン接種や不妊手術等の費用の助成	譲渡ボランティア制度による譲渡の推進	その他	無回答	
	全体	1,634 100.0	763 46.7	497 30.4	278 17.0	132 8.1	215 13.2	459 28.1	369 22.6	413 25.3	51 3.1	359 22.0
ペットの有無別の	犬を飼っている	248	54.4	33.9	22.2	10.5	16.9	38.7	27.4	35.9	2.0	17.7
	猫を飼っている	168	67.3	26.8	17.9	17.3	10.1	31.0	30.4	31.0	3.6	14.9
	その他のペットを飼っている	81	40.7	28.4	14.8	4.9	8.6	32.1	16.0	37.0	4.9	21.0
	ペットは飼っていない	1,081	43.2	30.6	15.7	6.8	13.4	26.1	20.8	21.6	3.7	22.5

(3) 動物が好きな人や苦手な人が一緒に暮らしていくうえで支障となることについて

問 41 地域には、動物を飼っている人や飼っていない人、動物が好きな人や苦手な人も一緒に暮らしています。その中で、人と動物が一緒に生活していくために支障となることは何だと思えますか。(当てはまるもの2つに○印)

【総合】 「糞の放置や必要なしつけをしないなど飼い主が社会のルール・マナーを守らない」が64.6%と1位になっている。

次いで「飼い主がいない猫の繁殖や糞尿などによる迷惑問題の増加」が40.6%、「動物がその命を終えるまで飼うことや迷子にさせないことなど動物を適正に飼うために必要な知識・技術が不十分である」が28.9%と続いている。

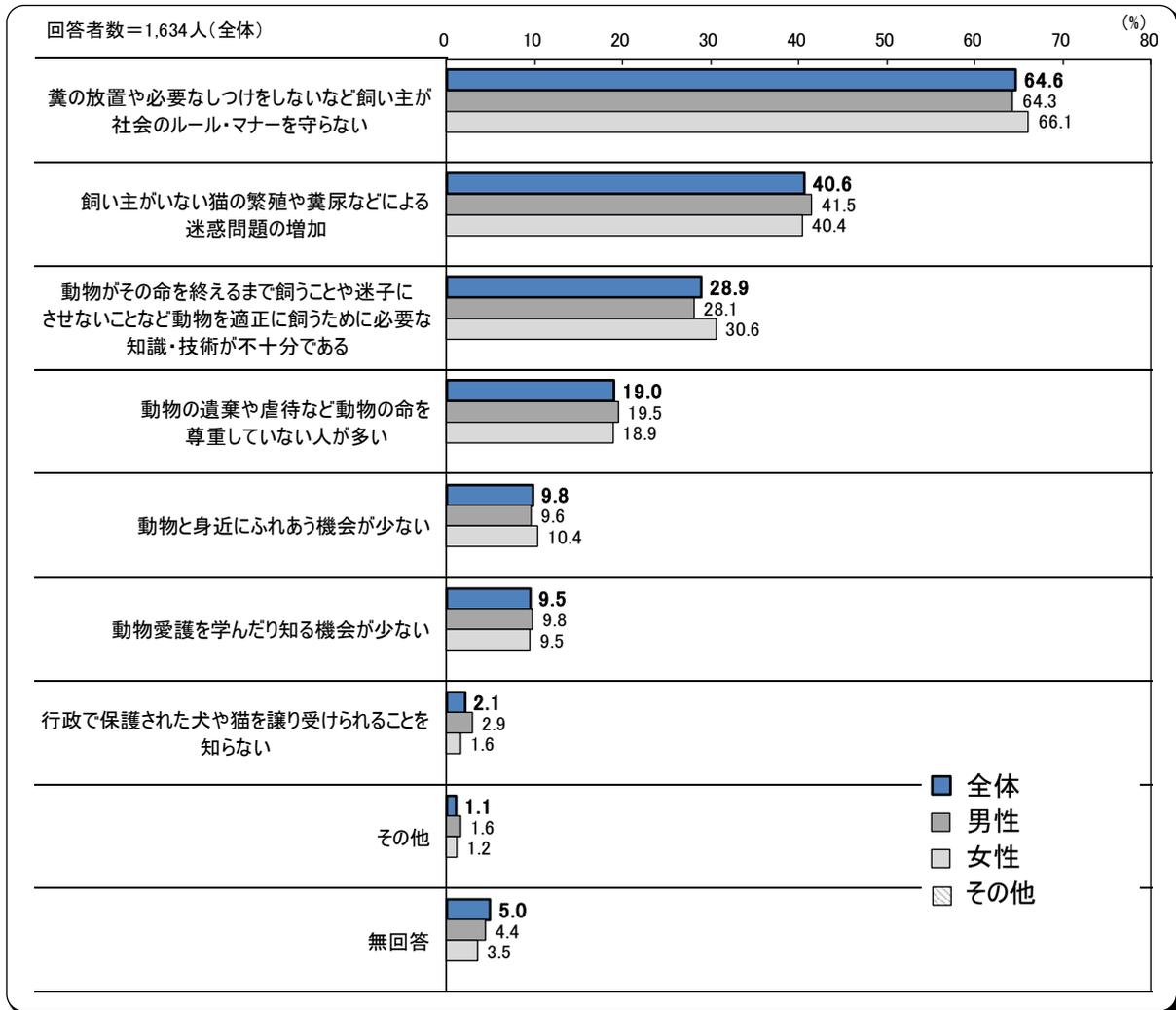


グラフ単位：(%)

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

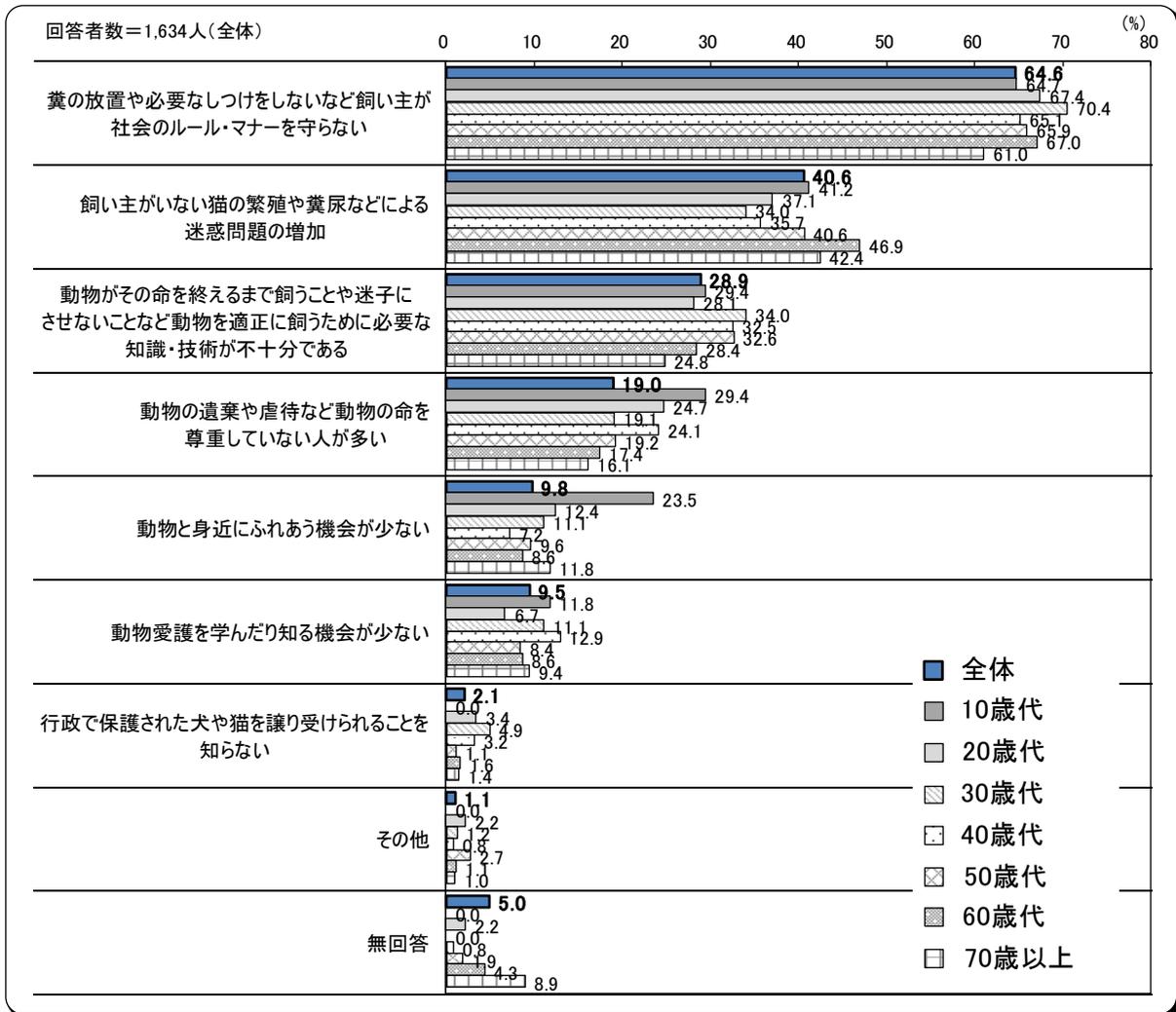
《性別》



【年代別】

いずれも「糞の放置や必要なしつけをしないなど飼い主が社会のルール・マナーを守らない」が6割を超えて1位になっている。

《年代別》



【ペットの有無別】

いずれも「糞の放置や必要なしつけをしないなど飼い主が社会のルール・マナーを守らない」が半数を超えて1位になっている。

《ペットの有無別》

		全体	動物の遺棄や虐待など動物の命を尊重してない人が多い	動物と身近にふれあう機会が少ない	糞の放置や必要なしつけをしないなど飼い主が社会のルール・マナーを守らない	飼い主がいない猫の繁殖や糞尿などによる迷惑問題の増加	動物がその命を終えるまで飼うことや迷子にさせないことなど動物を適正に飼うために必要な知識・技術が不十分である	動物愛護を学んだり知る機会が少ない	行政で保護された犬や猫を譲り受けられないことを知らない	その他	無回答
【表の見方】 上段=回答数(人) 下段=比率(%)											
全体		1,634 100.0	311 19.0	160 9.8	1,055 64.6	664 40.6	472 28.9	155 9.5	35 2.1	18 1.1	81 5.0
ペットの有無	犬を飼っている	248	23.8	10.1	58.5	43.1	27.4	12.1	2.4	2.0	3.2
	猫を飼っている	168	34.5	11.9	51.8	32.1	35.7	10.7	3.6	-	4.2
	その他のペットを飼っている	81	18.5	9.9	63.0	48.1	27.2	14.8	2.5	4.9	2.5
	ペットは飼っていない	1,081	16.6	10.0	68.9	41.4	29.6	8.6	1.9	1.2	3.3

**(4) 災害時にペットの犬や猫と同行避難する場合又は同行避難してきた犬もしくは猫が避難所にいる場合、不安なことについて**

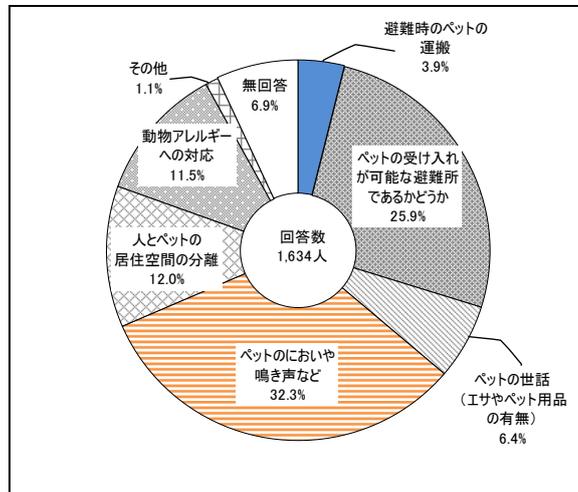
問 42 東日本大震災では、ペットが自宅に取り残されたり、飼い主とはぐれたペットが放浪する例が多数生じました。このため、県では、ペットと一緒に避難することを推奨し、避難所（別室）で共同生活を送ることができるように対策を進めています。災害時にペットの犬や猫と同行避難する場合又は同行避難してきた犬もしくは猫が避難所にいる場合、不安なことは何ですか。

(1つだけ○印)

**【総合】** 「ペットのにおいや鳴き声など」が 32.3%と1位になっている。

次いで「ペットの受け入れが可能な避難所であるかどうか」が 25.9%、「人とペットの居住空間の分離」が 12.0%と続いている。

**＜総合＞**

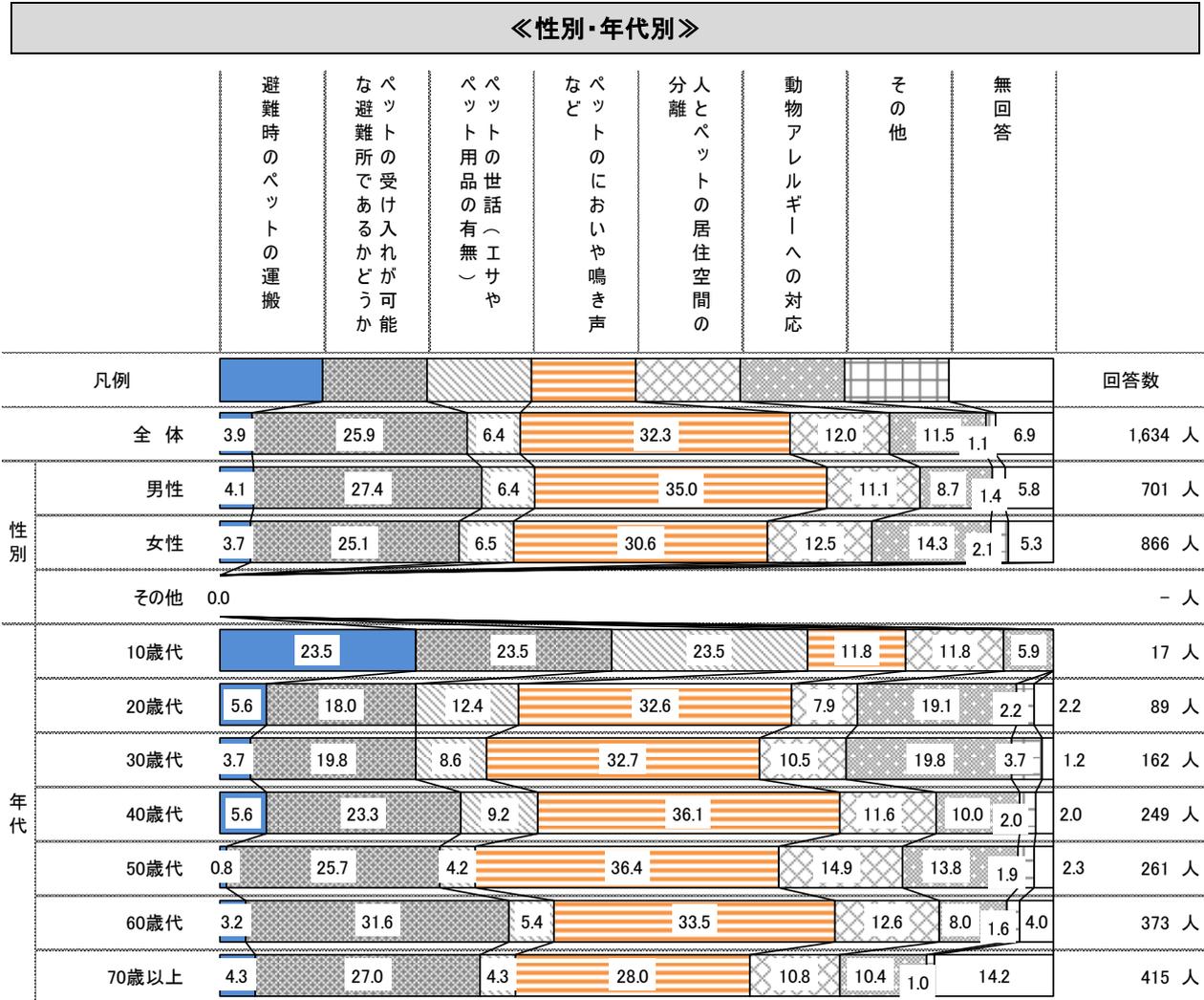


【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向になっている。

【年代別】

10歳代を除くすべての年代で「ペットのにおいや鳴き声など」が1位になっている。



グラフ単位: (%)

【ペットの有無別】

犬、猫を飼っているでは「ペットの受け入れが可能な避難所であるかどうか」が、その他のペットを飼っている、ペットは飼っていないでは「ペットのにおいや鳴き声など」が1位になっている。

